

マレーシア国全人教育推進プロジェクト (MAKMur)

業務完了報告書 (第1期)

2023年6月

特定非営利活動法人アジア科学教育経済発展機構

国立大学法人筑波大学

目次	
表紙.....	1
目次.....	i
付属資料（成果物）リスト.....	iv
図表写真リスト.....	viii
略語表.....	ix
地図.....	x
1. 要約	1
2. プロジェクトの概要	4
2.1 プロジェクトの背景.....	4
2.2 プロジェクトの概要.....	4
2.3 プロジェクトの管理.....	6
2.3.1 合同調整委員会（JCC）.....	6
2.3.2 作業スケジュールの遅延とプロジェクト期間の延長の必要性.....	6
2.4 投入実績.....	7
2.4.1 投入の概要.....	7
2.3.2 要員配置.....	10
2.4.3 ローカルスタッフ.....	12
3. プロジェクトの成果	13
3.1 期待される成果の定義.....	13
3.2 成果の達成状況.....	15
3.3 具体的成果.....	16
成果1：MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットが開発される.....	16
成果2：MAKMur 実施ツールキットが開発される.....	17
成果3：パイロット地域以外への展開に向け教育省の準備が整う.....	18
プロジェクト目標：子どもの全人的な発達を促進するための実践が特定され、全国普及のための準備が整う.....	18
上位目標：マレーシア全国の小学校・幼稚園で子どもの非認知能力の強化に向けた実践が普及する.....	19
4. 活動実績	20
4.1 成果1の活動実績.....	20
[活動 1-1] マレーシアの教育・学校制度について、教育省の関連プログラムを含めて情報を収集する。.....	20
[活動 1-2] ベースライン調査を実施する。.....	23
[活動 1-3] 学校・DEO および教育省州教育局（Jabatan Pendidikan Negeri [State Education Departments]；以下「SED」）・教育省向けの MAKMur キャパシティビルディング・ツールキッ	

トをドラフトする。.....	25
[活動 1-4] TOT を実施する。.....	28
[活動 1-5] ツールキットについて、教員研修を実施する。.....	29
[活動 1-6] 教育省が選定した学校で、ツールキットを使用した MAKMur の実践を試行する。	33
[活動 1-7] ツールキットの評価と最終化を行う。.....	33
4.2 成果 2 の活動実績	35
[活動 2-1] 教育省向けの MAKMur 実施ツールキットをドラフトする。.....	35
4.3 成果 3 の活動実績	36
[活動 3-5] アドボカシーイベント（メディア広報、カンファレンスなど）を実施する。.....	36
5. 課題と対応策.....	38
5.1 ツールキットについて	38
[解決途上]	38
[今後の課題]	38
[対応策]	38
5.2 調査について.....	38
[今後の課題]	38
[対応策]	39
5.3 研修・サポートシステム.....	39
[解決途上]	39
[今後の課題]	39
[対応策]	39
5.4 カリキュラムについて	40
[解決途上]	40
[今後の課題]	40
[対応策]	41
5.5 学校風土について	41
[今後の課題]	41
[対応策]	41
5.6 特別支援教育について	42
[今後の課題]	42
[対応策]	42
5.7 保護者と地域コミュニティの関与.....	42
[今後の課題]	42
[対応策]	42
5.8 長引いた学校閉鎖	43
[解決途上]	43

5.9	マレーシア政府側政策変更.....	43
	[解決途上]	43
6.	第2期の活動計画	44
6.1	成果1の活動計画	45
	[活動1-2] ベースライン調査を実施する。	45
6.2	成果2の活動計画	47
	[活動2-2] TOTを実施する。	47
	[活動2-3] SEDおよびDEOの職員を含む教育省職員に対する研修を実施する。	47
	[活動2-4] MAKMurの実践をパイロット地域内の非パイロット校を対象に展開する。	47
	[活動2-5] ツールキットの評価と最終化を行う。	47
6.3	成果3の活動計画	48
	[活動3-1] 活動1と2の結果を確認し、MAKMurの継続的展開に必要な制度上の調整事項を 特定する。	48
	[活動3-2] 教育省にMAKMur担当部署を設置する。	48
	[活動3-3] パイロット地域以外へのMAKMurの普及計画を策定する。	48
	[活動3-4] 普及計画に基づき、予算を確保する。	48

付属資料（成果物）リスト

付属資料 番号	成果物タイトル	趣旨・目的	対応活動	実施日
1	2021年の校長インタビュー	日本側の長期専門家による MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットとベースライン・エンドライン調査の計画に必要な基本情報を収集するため	活動 1-1	09/2021
2	MAKMur パイロット校の幼稚園教員との座談会報告書	日本側の就学前教育専門家による小学校と幼稚園の全人教育に関する状況や最新動向について意見交換をするため	活動 1-1	06~07/2022
3	2022年8月 MAKMur パイロット校視察報告書	日本側の全人教育専門家による授業観察、学校視察、学校監督者や小学校の教員との討論のため	活動 1-1	08/2022
4J	ベースライン・エンドライン調査中間結果報告書（フェーズ1）	MAKMur の有効性を示すエビデンス、啓蒙活動やアドボカシー活動のための資料、教育環境改善のための情報およびツールキット開発のための情報を収集するため	活動 1-2	05~06/2022
5	中間調査計画書（案）	ベースライン調査結果と比較しながら、児童、教員、保護者への MAKMur 活動の影響を明らかにするための計画書	活動 1-2	03/2023
6	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットプロトタイプ版	児童の全人的能力を高めるための活動「計画、実行、振り返り」を行うにあたっての教員用ガイド	活動 1-3	03/2022
7	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1	同上	活動 1-3	07/2022
8	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 2	同上	活動 1-3	02/2023
9	TOT 記録	開発されたキャパシティビルディング・ツールキットに基づき、	活動 1-4	04/2022

		MAKMur の計画、実行、振り返りの方法についてトレーナーの能力を高める研修		
10	教員研修記録	キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 に基づき、MAKMur 活動の計画能力を高める教員研修	活動 1-5	07~08/2022
11	2023 年 5 月「遊びを通じた学び」ワークショップ計画書	幼稚園における MAKMur 活動を具体的に組み立てるための教員研修	活動 1-5	04/2023
12	2023 年 5 月「MAKMur 活動に特別支援教育を取り入れる可能性について」ワークショップ計画書	MAKMur にインクルーシブ教育の要素を取り入れ、より充実した活動を実現していくための学校管理者研修	活動 1-5	04/2023
13	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 による MAKMur 実践の試行報告書	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 および試行実施の効果について教員のフィードバックと洞察を収集したもの	活動 1-6	08~10/2022
14	JSKL 教員研修アタッチメントプログラム記録	パイロット校の教員、校長、IPG の講師、教育省のスタッフによる日本式全人教育の実践を視察	活動 2-1	10~11/2022
15	本邦研修報告書	教育省と DEO の職員およびパイロット校の教員が参加した日本側の専門家や教授による講義やワークショップと学校視察	活動 2-1	10~11/2022
16	MAKMur アクションプラン 2022-2025	本邦研修中に作成された MAKMur の全国的な実施に向けた拡大戦略、およびそのためのキャパシティビルディングとアドボカシーに関する組織的枠組み	活動 2-1	11/2022
17	MAKMur 実施ツールキット Ver. 1 (案)	DEO、SIP+、SISC+の担当者、教育省 MAKMur チーム、日本側の専門家が参加したワークショップでドラフトされた DEO 担当者用ガイド	活動 2-1	3/2023

18	全人教育フォーラム記録 (CD-R 収録)	本邦研修や JSKL でのアタッチメントプログラムを通じて得た日本式全人教育の情報を教育省の担当部署と 3 つのパイロット地区の教員で共有するためのウェビナー	活動 3-5	3/2023
19	SEAMEO-筑波大学シンポジウム (発表記録)	「東南アジア教育大臣機構 (SEAMEO) で行ったマレーシアにおける全人教育の意義についての発表およびパネル討論	活動 3-5	2/2022 2/2023
20	JICA 四国 (発表記録)	MAKMur の背景と概要についてオンラインを通じて日本の参加者に説明	活動 3-5	8/2022
21	JICA 教育協力ウィーク 2022 (発表記録)	「第 2 回教育協力ウィーク」の一環として MAKMur の背景や概要をオンライン上で紹介、パネルディスカッション	活動 3-5	9/2022
22	JICA 見える化サイト (掲載記事)	プロジェクト概要を JICA の HP に記載	活動 3-5	9/2022
23	JICA プロジェクトニュース (掲載記事)	2022 年 9 月より隔月でプロジェクトに関するニュースを JICA の HP で発信 (2023 年 5 月までの HP 掲載済分のみ)	活動 3-5	9/2022~
24	JCC 議事録	2/2022 議事録 3/2023 議事録 (教育省確認中)	プロジェクト管理	2/2022 3/2023
25	Learning Walk 記録	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 2 を使用した活動に対するフィードバックを得る目的で実施した学校視察記録	活動 1-3	4~5/2023
26	2023 年 5 月「遊びを通じた学び」ワークショップ記録	12 に同じ	活動 1-5	5/2023
27	2023 年 5 月「MAKMur 活動に特別支援教育を取り入れる可能性について」ワークショップ記録	13 に同じ	活動 1-5	5/2023

28	広報用ビデオ（CD-R 収録）	パイロット校の MAKMur 活動の様子を撮影した MAKMur の広報用のビデオ	活動 3-5	5/2023
----	-----------------	---	--------	--------

図表写真リスト

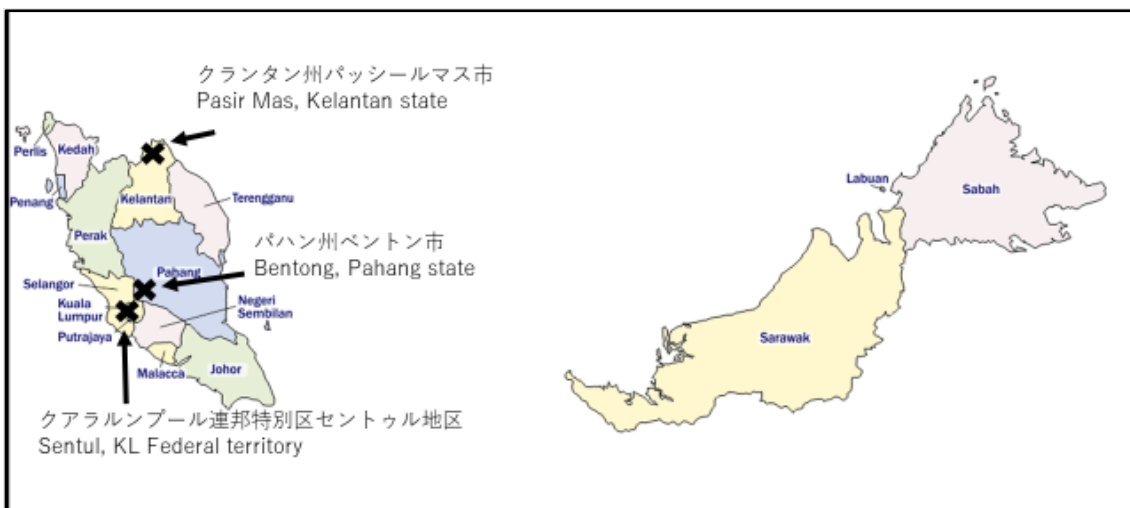
表 1	プロジェクトの概略.....	4
表 2	投入の概要（2023年6月完了時点）.....	8
表 3	教育省 MAKMur チーム（2023年5月31日現在）.....	9
表 4	日本側専門家（第1期）.....	10
表 5	現地コンサルタント・スタッフ.....	12
表 6	パイロット校 15 校一覧.....	13
表 7	パイロット校訪問.....	20
表 8	2022年4月パイロット校訪問.....	21
表 9	幼稚園教員との座談会.....	22
表 10	地区別 MAKMur ベースライン調査対象の小学校一覧.....	24
表 11	キャパシティビルディング・ツールキット.....	25
表 12	教員研修の日程と会場.....	29
表 13	中間調査の目標.....	46
表 14	ベースライン調査と中間調査との間で採用した調査方法の違いのまとめ.....	46
表 15	2022年の基礎調査および2023年の中間調査の対象校.....	48
図 1	JCC 組織図.....	6
図 2	ツールキットの効果測定概念図.....	17
写真 1	パイロット校での普段の活動.....	21
写真 2	訪問したパイロット校の様子.....	22
写真 3	2022年6月と7月に行った幼稚園教員との座談会.....	22
写真 4	2022年7月に開催されたツールキット Ver. 1 のワークショップ.....	27
写真 5	2022年4月に DoubleTree by Hilton で開催された TOT.....	29
写真 6	教員研修.....	31
写真 7	「遊びを通じた学び」ワークショップ.....	32
写真 8	特別支援教育ワークショップ.....	33
写真 9	2023年3月にマラッカの Hatten Hotel で開催されたワークショップ.....	36

略語表

3M	Membaca, Menulis dan Mengira [reading, writing and arithmetic skills]	読み、書き、算術
COVID-19	COronaVirus Infectious Disease, emerged in 2019	新型コロナウイルス感染症
DEO	Pejabat Pendidikan Daerah [District Education Office]	教育省地区事務局
EPRD	Educational Planning and Research Division	教育計画研究局
IAB	Institut Aminuddin Baki [Educational Management Institute under Ministry of Education]	教育省管轄の教育管理研究所
IPG	Institut Pendidikan Guru [Institute of Teacher Education]	教員養成機関
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
JSKL	The Japanese School of Kuala Lumpur	クアラルンプール日本人会日本人学校
MAKMur	Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid [Fostering Students' Positive Values]	マレーシア国全人教育推進プロジェクト
MAKMur Team of MoE	MAKMur Project Technical Team of MoE	教育省 MAKMur プロジェクト技術チーム
MEB	Malaysia Education Blueprint	マレーシア教育セクター計画文書
MoE	Ministry of Education Malaysia	マレーシア教育省
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PdP	Pengajaran dan Pembelajaran [Teaching and Learning]	教科の授業
PO	Plan of Operation	活動計画表
R/D	Record of Discussions	技術協力プロジェクト合意文書
RPH	Rancangan Pengajaran Harian [Daily Lesson Plan]	日ごとのレッスンプラン
SEAMEO	Southeast Asian Ministers of Education organization	東南アジア教育大臣機構
SED	Jabatan Pendidikan Negeri [State Education Departments]	教育省州教育局
SIP+	School Improvement Partners	学校改善パートナー
SISC+	School Improvement Specialist Coaches	学校改善専門家コーチ

SJKC	Sekolah Jenis Kebangsaan Cina [Chinese National Type School]	中華系国民型学校
SJKT	Sekolah Jenis Kebangsaan Tamil [Tamil National Type School]	インド系国民型学校
SK	Sekolah Kebangsaan [National School]	国民学校
SOP	Standard Operating Procedure	標準業務手順
TOT	Training of Trainers	指導者研修

地図



1. 要約

マレーシア国全人教育推進プロジェクト（Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (Fostering Students' Positive Values)：以下「MAKMur」）に係る業務実施契約は、2期で構成され、2021年8月から2023年6月までの第1期契約に続き、第2期契約が開始される。本報告書は、本プロジェクトの第1期の業務完了状況を報告する。第1期終了時点の状況は、ツールキット、研修、調査等の活動が概ね順調に進んでおり、多様な活動例が盛り込まれた「キャパシティビルディング・ツールキット」Ver. 2はグラフィックデザインも含めて完成し、広報用ビデオも作成された。また、パイロット校において、いわゆる特別活動だけでなく普通の授業をより児童中心に変える試みが始まった。活動が進むにつれ MAKMur 活動の効果が子供の変化として見られつつあり、たとえば、MAKMur 導入前と比べて、児童が自主的に挨拶をするようになり、協力して掃除をするといった行動変容が出始めている。なお、作成済の「実施ツールキット」のドラフト版は今後半年ほどをかけて初版となる。同キット完成次第、MAKMur プロジェクトを推進するための2つの重要なツールが揃うこととなり、2023年度末にはパイロット校以外への拡大の準備が整うと言える。

プロジェクトと進捗の概要は以下の通りである。

調和と均衡のとれた社会の実現を目指すマレーシアの国家教育理念に基づくマレーシア政府からの要請を踏まえ、マレーシア教育省（Ministry of Education Malaysia：以下「教育省」）と国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：以下「JICA」）が2021年末に「MAKMur プロジェクト」にかかる技術協力プロジェクト合意文書（Record of Discussions：以下「R/D」）に署名した。本プロジェクトでは、児童が多様で均衡ある社会の構築に貢献できる個人に成長するために、ポジティブな行動を促進し児童の素質や能力を高める学校風土の構築を目指す。

2021年6月、JICAは日本側専門家チームを結成した。教育省 MAKMur プロジェクト技術チーム（MAKMur Project Technical Team of MoE：以下「教育省 MAKMur チーム」）¹をサポートし、プロジェクト目標である「子どもの全人的発達を強化する実践を特定し、全国的に拡大する準備が整う」を達成することを主な役割としている。

2021年8月、新型コロナウイルス感染症（以下「COVID-19」）が拡大する中、専門家チームと教育省 MAKMur チームとの初めてのオンライン会議が開かれた。その後、オンラインでの打ち合わせを繰り返した。教育省側のニーズをよく聞きとり内容に取り入れるため、率直かつ広範囲に議論を重ね、その後のプロジェクト活動の基点となるコンセプトが明確にされた。ただし、この時点では、マレーシアの学校が閉鎖されており、閉鎖期間の予見が困難であったため、キャパシティビルディング・ツールキットの試作時点では、非対面でできる活動も検討した。このためツールキットの作成に時間を要することになった²。一方、教育省との対話を繰り返しマレーシア側のニーズを汲みながら時間をかけてツールキットの準備を進めたため、学校現場における MAKMur 活動の定着がスムーズに進むこ

¹ MAKMur 実践のために教育省内に設置された部署横断的な委員会。

² 結局、2022年5月からは対面授業や活動が完全に開始されたため、最終的には、MAKMur 活動として非対面型を当面採用しないこととなった。一方、学校の再開時点では、児童の学力をフォローアップするリカバリープランが始まり、MAKMur の現場への導入が待たされることになった。

とになったと言える。

MAKMur はどのようなものであるべきかという議論が結実し、日本式全人教育をマレーシアの文脈に合わせて適応させるプロセス、つまり、日本で実践されている全人教育をマレーシア社会の文脈や文化に合わせてデザインし、創造的にローカライズする取り組みと整理された。このプロセスは、思考、感情、行動の3つの要素の組み合わせを通じて、子どもが生涯を通じ成長するための土台を強化すると期待される。

この基本コンセプトのもと、日本の学校で長い歴史を持つ特別活動の背景を踏まえて、MAKMur の3つの原則「体験を通じた学び、自発的な活動、機会均等」が設定された。また、この原則が実践に移されていることを確認するため、すべての MAKMur 活動は、3つの基準「失敗に価値をおくこと、児童が主体、すべての児童への機会提供」を満たすことを要請している。

この基礎の上に、MAKMur プロジェクトを推進するための2つの重要なツールが作成された。「キャパシティビルディング・ツールキット」と「実施ツールキット」である。前者は、教師が MAKMur 活動を行うためのガイドであり、2022年6月に Ver. 1 が作成され³、その後、ユーザーであるパイロット校の教員からのフィードバックを踏まえて改訂された。後者は、学校での MAKMur 活動を拡大するための、主に教育省地区事務局 (Pejabat Pendidikan Daerah [District Education Office]: 以下「DEO」) の職員向けのガイドであり、2023年3月のワークショップを通じて起草された。⁴

また、ベースライン調査が2022年5・6月に実施された。プロジェクトの進捗や成果を測るために元となるデータ収集をその目的とし、あとに続く中間調査、エンドライン調査等の一連の調査と合わせて、MAKMur の有効性を示すエビデンス、啓発活動やアドボカシー活動のための資料、教育環境改善のための情報およびツールキット開発に資することが期待される。COVID-19 の状況下で一定の制約はあったが、いくつかの重要な示唆も得ることができ、キャパシティビルディング・ツールキットの改訂に活用された。

研修については、COVID-19 による制約が徐々に緩和され、対面でのプロジェクト活動が可能となり、2022年4月に指導者研修 (Training of Trainers : 以下「TOT」)、2022年7・8月に各パイロット地域での教員研修、2022年10・11月に本邦研修が実施された。また、2022年9月から11月にかけて、クアラルンプール日本人会日本人学校 (The Japanese School of Kuala Lumpur : 以下「JSKL」) で計5回からなるアタッチメントプログラムを実施した。

これらを通じて、教員養成機関 (Institut Pendidikan Guru [Institute of Teacher Education] : 以下「IPG」) 教員、DEO 職員やパイロット校の MAKMur コーディネーター等は、特別活動の様子だけでなく、日本の学校において全人教育がどのように実現されているか、すなわち、全人的教育の要素が教科の授業 (Pengajaran dan Pembelajaran [Teaching and learning] : 以下「教科の授業」) を含めたあらゆる活動ひとつひとつに組み込まれていることを把握することができた。

拡大に向けてのアドボカシー活動としては、まず、本邦研修を通じてアクションプランが作成された。これは、マレーシアでの全人教育推進に向けて取られるべき個々のアクションとその前提となる

³ Ver. 1 の元となるプロトタイプ版は2022年3月に出来上がった。R/D の想定では2021年5月にドラフト版の完成が予定されていた。

⁴ R/D の想定では2022年3月にドラフト版の完成が予定されていた。

拡大計画の基本を含む。2023年3月20日にはウェビナー「全人教育フォーラム」が開催され、本邦研修やJSKLでのアタッチメントプログラムで得た日本式全人教育に関する情報が教育省の多くの部署と3つのパイロット地域の教員の間で共有された。なお、本プロジェクトの重要な受益者である保護者や地域コミュニティと情報を共有するために、3つのパイロット地区それぞれで「全人教育フェア」が開催される予定であったが、気温が高く、学校での屋外活動が制限されたため、9月以降に延期された。

これらの活動を通じて第1期終了までに、成果1「MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットが開発される」が達成されたと言える⁵。また、成果2「MAKMur 実施ツールキットが開発される」については、ドラフトが作成された。成果3「パイロット地域以外への展開に向け教育省の準備が整う」については、パイロット地域以外への普及計画概要が決まり、アドボカシーイベントが始まった。

他方、R/D 記載の当初のスケジュールと比較して、プロジェクトの種々の活動が、主に COVID-19 の影響を原因として、約8ヶ月から1年遅れている。実際、R/D では2022年末に想定されていた中間調査が第1期終了時点で未実施であり、パネルデータにより MAKMur 活動の効果を統計的に示すに至っていない。また、R/D ではパイロット校以外への MAKMur 活動の普及を2023年より始めることとしていたが、これも未実施である。こうした状況を踏まえ、2023年3月7日開催の合同調整委員会（Joint Coordination Committee：以下「JCC」）において、第2期のプロジェクト期間を2023年7月から2026年3月まで延長する修正（当初の期間：2023年7月～2025年6月）が提案された⁶。

⁵ 第2期においてもマイナーな修正は想定される。

⁶ JCC 後の延長に係る検討の結果、2025年12月まで延長された。

2. プロジェクトの概要

2.1 プロジェクトの背景⁷

グローバル化した世界における現在と将来の課題に対応するため、現代の子どもたちは、社会の発展に貢献できるグローバル市民となるための適切な普遍的価値と非認知スキルを身につける必要がある。

マレーシア教育省（Ministry of Education Malaysia：以下「教育省」）は、常に全人的な教育の重要性を強調してきた。教育に関する政策立案の基礎であり、それ自体が価値の育成を中心に据えた教育システムを推進する「国家教育理念」では、教育システムに価値を組み込むことの重要性が明確に規定されている。一方、マレーシア教育セクター計画文書（Malaysia Education Blueprint：以下「MEB」）2013-2025 は、知識、思考力、リーダーシップ、バイリンガル能力、倫理と精神性、国民意識の 6 つの重要な属性を子どもたちに身につけさせることを目標としている。

教育省は、価値観の内面化により子どもたちの全人的な発達の機会を提供するために、カリキュラムの改革や、子どもの認知的・非認知的発達に焦点を当てた教科の授業（Pengajaran dan Pembelajaran [Teaching and learning]：以下「教科の授業」）活動を促進するさまざまなプログラムやイニシアティブを実践中である。さらに全人的教育の発展を促進するために、教育省は日本の教育システムから学ぶべき重要な教訓があると認識している。

教育省の代表団は 2019 年 5 月に日本を訪問し、「特別活動」または「特活」として知られる特別な活動を通じた日本の全人的教育アプローチをマレーシアの文脈に基づいてローカライズすることによってマレーシアの教育目標の実現に向けて貢献する可能性があることを認識した。

そこで、マレーシア政府は本事業を提案し、日本政府に本事業を実施するための支援を要請した。

2.2 プロジェクトの概要

2020 年 12 月 24 日の技術協力プロジェクト合意文書（Record of Discussions：以下「R/D」）で規定されたプロジェクトの概略を表 1 に示す。

表 1 プロジェクトの概略

国名	マレーシア
プロジェクト名	マレーシア国全人教育推進プロジェクト（MAKMur）（以下「プロジェクト」）
プロジェクト期間	2021 年 8 月 ⁸ から 2025 年 6 月（47 カ月） 第 1 期：2021 年 8 月から 2023 年 6 月 第 2 期：2023 年 7 月から 2025 年 6 月 ⁹

⁷ 本節は 2020 年 12 月 24 日の Record of Discussions からの引用である。

⁸ 2.3.2「作業スケジュールの遅延とプロジェクト期間の延長の必要性」に詳述する。教育省 MAKMur チーム・日本人専門家間の第 1 回会合（オンライン）をプロジェクト開始の基点とした。

⁹ 2023 年 6 月 9 日に署名された R/D 変更により、協力期間が 2025 年 12 月（53 カ月）まで延長された。詳細は、2.3.2「作業スケジュールの遅延とプロジェクト期間延長の必要性」を参照。

実施機関	マレーシア教育省教育計画研究局	
上位目標	マレーシア全国の小学校・幼稚園で、子どもの非認知能力の強化に向けた実践が普及する。	
プロジェクト目標	子どもの全人的な発達を促進するための実践が特定され、全国普及のための準備が整う。	
期待される成果	成果 1:	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット (Capacity Building Toolkit) が開発される
	成果 2:	MAKMur 実施ツールキット (Implementation Toolkit) が開発される
	成果 3:	パイロット地域以外への展開に向け教育省の準備が整う
活動	成果 1 のための活動	
	1-1	教育省のプログラムも含め、マレーシアの教育・学校システム、ソフトスキルの涵養にかかる実践に関する情報を収集する。
	1-2	ベースライン調査を実施する。
	1-3	学校や教育省地区事務局 (Pejabat Pendidikan Daerah [District Education Office] : 以下「DEO」)、教育省州教育局 (Jabatan Pendidikan Negeri [State Education Departments] : 以下「SED」)、教育省向けの MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットをドラフトする。
	1-4	指導者研修 (Training of Trainers : 以下「TOT」) を実施する。
	1-5	ツールキットについて教員を研修する。
	1-6	パイロット校にてツールキットを参照した MAKMur 実践を試行する。
	1-7	ツールキットの評価と最終化を行う。
	成果 2 のための活動	
	2-1	教育省向けの MAKMur 実施ツールキットをドラフトする。
	2-2	TOT を実施する。
	2-3	教育省 (DEO、SED 含む) 職員への研修を実施する。
	2-4	対象地域内の非パイロット校を対象に、ツールキットを参照した MAKMur の実践普及を試行する。
	2-5	ツールキットの評価と最終化を行う。
	成果 3 のための活動	
	3-1	MAKMur の継続的展開に必要な制度上の調整事項を特定する。
	3-2	教育省に MAKMur 担当部署を設置する。
	3-3	パイロット地域以外への MAKMur の普及計画を策定する。
	3-4	普及計画に基づき、予算を確保する
	3-5	アドボカシーイベント (メディア広報、カンファレンスなど) を実施する。
対象地域	クアラルンプール連邦特別区セントウル地区、パハン州ベントン市、クランタン州パッシールマス市 (Sentul, Kuala Lumpur; Bentong, Pahang; Pasir	

	Mas, Kelantan)
受益者	<ul style="list-style-type: none"> ➤ マレーシアの小学校、幼稚園の子ども ➤ マレーシアの小学校、幼稚園の校長および教員 ➤ DEO、SED および教育省 ➤ 保護者や地域コミュニティ

2.3 プロジェクトの管理

2.3.1 合同調整委員会 (JCC)

附属資料 24 [JCC 議事録]

本プロジェクトにおける合同調整委員会 (Joint Coordination Committee : 以下「JCC」) の組織図を以下に示す。

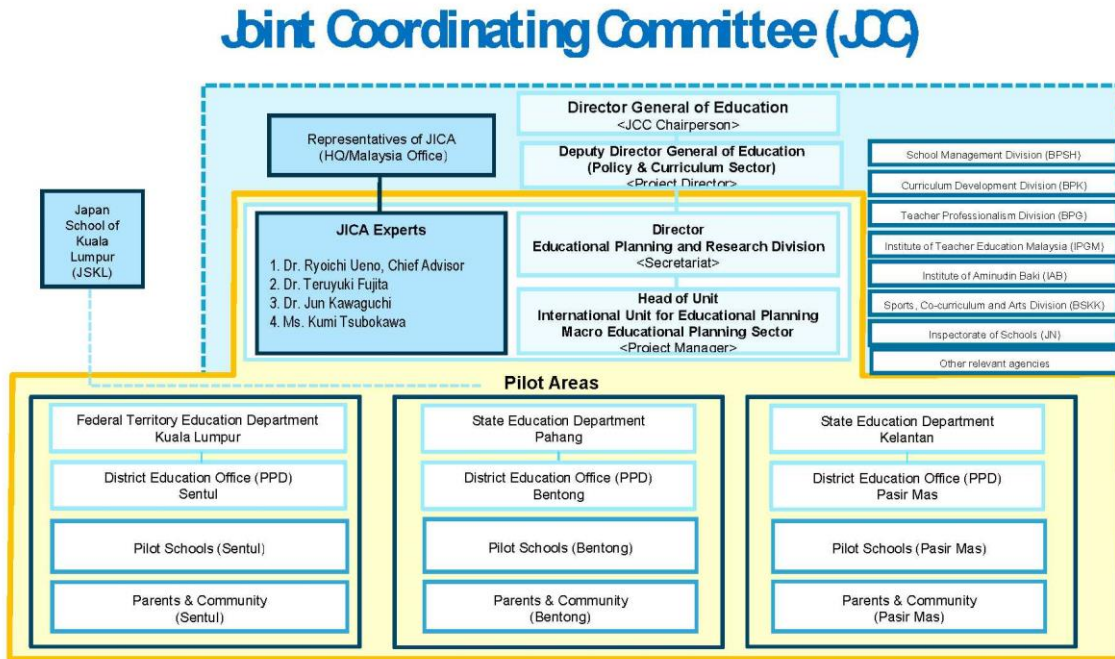


図 1 JCC 組織図

2022年2月21日と2023年3月7日にJCC会議が開催された。主な議題は、プロジェクトの進捗状況、達成状況、計画であった (附属資料 24 を参照)。

2.3.2 作業スケジュールの遅延とプロジェクト期間の延長の必要性

2020年12月24日に署名された教育省とJICAとの間の技術協力プロジェクト合意文書 (Record of Discussions : 以下「R/D」) では、プロジェクトの期間は2021年4月に開始し、2025年3月に終了することになっている。しかし、実際にはJICAとNPO法人アジアシード、筑波大学による共同企業体との契約は2021年6月に開始された。教育省 MAKMur チームとJICA、そして日本側の専門家チームとの間で、技術協力のスタートとなる第1回会合を開催できたのは、2021年8月2日だった。その

後、教育省側のニーズを十分に聞き取るにあたっては、COVID-19の影響で遠隔でのやり取りに頼らざるを得ず、相当の時間を要した。いずれにせよ、オンラインによる打ち合わせを繰り返すなかで率直かつ広範囲に議論を重ねた結果、その後のプロジェクト活動の基点となるコンセプトが明確にされた。ただし、この時点では、マレーシアでは学校が閉鎖されており、閉鎖期間の予見が困難であったため、キャパシティビルディング・ツールキットの試作時点では、非対面で実施可能な活動も検討した。また、活動の実現可能性を探るため、パイロット校 15 校とのオンライン会議を開き、授業の様子やネット環境の情報収集を行った（付属資料 1 を参照）。このためツールキットの作成に時間を要することになった。一方、教育省との対話を繰り返し、マレーシア側のニーズを汲みながら時間をかけてツールキットの準備を進めたことにより、最終的には学校現場における MAKMur 活動の定着がスムーズに進むことになったと言える。また、この時期に TOT をオンラインで進めるべく研修事前学習用ビデオ作成（マレー語吹き替え付き）とともにベースライン調査の準備・調整をした。COVID-19 の感染拡大により、マレーシア側、日本側ともに手続きに時間がかかり、JICA の長期専門家がマレーシアへの渡航承認を受けたのは 2021 年 11 月末で、マレーシアには 2021 年 12 月 23 日に到着、検疫期間を経て 2022 年 1 月からマレーシアで活動できるようになった。また、本来 1 月から始まるマレーシアの新学期は 2022 年度は 3 月末に後ろ倒しとなっただけでなく、4 月末までは、学校での活動はすべて COVID-19 に関する標準業務手順（Standard Operating Procedure : 以下「SOP」）のもとに管理された。（結局のところ、2022 年 5 月からは対面授業や活動が完全に開始されたため、最終的には、MAKMur 活動として非対面型を当面採用しないこととなった。一方、学校の再開時点では、児童の学力をフォローアップするリカバリープランが始まり、MAKMur の現場への導入が待たされることになった。ベースライン調査の実施時期にも影響が出た。）さらに、第 1 期の途中で、教育省が「Sekolaku Sejahtera」という、MAKMur プロジェクトとコンセプトが似ている新政策を打ち出した。この新政策と MAKMur との両立の調整に時間がかかり、これも TOT の開始時期が遅れる原因となった。

主な活動について R/D と比較すると、キャパシティビルディング・ツールキットのドラフト（プロトタイプ版）作成で 10 ヶ月、TOT で 10 ヶ月、教員研修で 1 年、活動の開始で 1 年、ベースライン調査で 1 年 2 ヶ月ほどの遅れが発生した。

このような COVID-19 および教育省の新たな政策による影響や予測不能な事態を受け、プロジェクトの目標達成に不可欠な活動計画すべてをフォローするために、2025 年 12 月までの期間延長が検討されている。

2.4 投入実績

2.4.1 投入の概要

以下の表は、2023 年 6 月完了時点の投入の概要である。2.3.2 作業スケジュールの遅延とプロジェクト期間の延長の必要性に記載の通り、全般的に遅れが見られた。

表 2 投入の概要 (2023年6月完了時点)

日本側	マレーシア側
<p>1. 専門家の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> 実績 37.10 人月 (見積 37.10 人月) * *一部日本からの遠隔関与 <p>2. 経費の負担</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年4月のTOT (集中研修) /IPG 講師の宿泊費・交通費・DSA 手当 2022年4月にTOT (集中研修) /MAKMur コーディネーター、教員、地区職員の宿泊費 2022年7月に MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver.1 をまとめるためのワークショップ開催費 2022年7月から8月にかけて Pasir Mas、Sentul、Bentong で実施された教員研修費 2022年9月から11月にかけて JSKL で実施された研修プログラム (5回) 実施費 ベースライン調査アンケート用紙の印刷・製本・配送費 現地傭人の臨時採用：プロジェクトの実施補助のため ウェブカメラ等機材費 動画等制作費 印刷費等雑費・諸経費 <p>3. 本邦研修 (別契約として投入)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年10月から11月にかけて実施された本邦研修費 	<p>1. 教育省 MAKMur チームメンバーの配置</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトディレクター プロジェクトマネージャー プロジェクトチームメンバー <p>2. 経費の負担</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年4月にTOT (集中研修) /MAKMur コーディネーター、教員、地区職員の交通費 MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットと MAKMur 実施ツールキットにかかる印刷・製本・配送：教育省によるプロトタイプ の作成費

2023年6月現在、主に教育省教育計画研究局(Educational Planning and Research Division:以下「EPRD」) 所属の職員と各地区からの DEO 職員が MAKMur プロジェクトの運営に携わっている。今後、教育省 および、教員養成機関 (Institut Pendidikan Guru [Institute of Teacher Education] : 以下「IPG」)、教育省管 轄の教育管理研究所 (Institut Aminuddin Baki [Educational Management Institute under Ministry of Education] : 以下「IAB」¹⁰) から横断的にメンバーがチームに加わる予定である。

なお、就学前教育については、第1期では遊びを通した学び導入が開始された。今後の本格的普及 に向けて、遊びを通した学びをスムーズに実施できるよう教室環境の改善等が必要となる。本格的に 導入して活動を定着させるため、教育省 MAKMur チームに就学前教育を専門的に担当するメンバー

¹⁰ 学校監督責任にあたる人材を育成する、マレーシアの主要な教育管理機関である。

の追加を、日本側専門家からの指摘に基づき JICA より教育省に申し入れた。

2025 年のプロジェクト終了に向け、MAKMur 活動（普及活動含む）をマレーシア側関係者のみで実施できる体制構築を検討しておく必要がある。具体的には、学校現場や DEO からのフィードバックを収集し、そのフィードバックに基づいてキャパシティビルディング・ツールキットあるいは実施ツールキットを改訂し、普及と同時に実施改善を自律的に進める改善サイクルが必要となる。2024 年末までに、そのとりまとめを担う人材育成と配置を、普及プランの作成と並行してすすめる必要がある。

表 3 教育省 MAKMur チーム（2023 年 5 月 31 日現在）

Dr. Nor Hisham Bin Ismail	MAKMur プロジェクトマネージャー、教育省教育計画研究局長補佐 (前任者 Ms. Noor Hayati Binti Uteh の退職 (2022 年 3 月) にともない任命)
Aniqah Husda Binti Abdul Latif	教育省教育計画研究局長補佐 (2022 年 6 月よりチームに参加)
Dr. Nurharani Binti Selamat	教育省教育計画研究局主任 (2022 年 2 月よりチームに参加)
Risharry Bin Mohd Ramli	教育省教育計画研究局主任
Ahmad Zaki Bin Hussain	ベントン市教育省地区事務局次長
Rofii Bin Hussein	セントウル地区教育省地区事務局次長
Hasbullah Bin Che Cob	パッシールマス市教育省地区事務局次長
Mohd Harith Bin Mohd Rahim Mohd Noor	教育省学校マネジメント局主任
Dr. Syamsina Zahurin Binti Shamsuddin	IPG (教員養成機関) 主任 (前任者 Dr. Hajah Salma Binti Kassim から交代し、2023 年 3 月より参加)
任命予定	教育省カリキュラム開発局主任
任命予定	教育省スポーツ、教科外活動、アート局
任命予定	教育省教職員能力開発局主任
任命予定	IAB (教育管理研究所) 主任
任命予定	教育省学校検査局主任
任命予定	教育省教育資源技術局主任

以下の6名は、MAKMurプロジェクトにおける日本側専門家である。

表 4 日本側専門家（第1期）

氏名	職位、所属
上野亮一	業務主任者/全人教育 1、アジアシード
藤田晃之	全人教育 2-1、筑波大学
川口純	全人教育 2-2、筑波大学
坪川紅美	就学前教育、アジアシード
ヌル ヒダヤ ビンティ モハマド	全人教育 3、アジアシード
坂口千恵	全人教育 4、アジアシード

2.3.2 要員配置

日本側のスタッフ配置は以下の通りである。

要 員 配 置

マレーシア国全人教育推進プロジェクト(第1期)

1. 現地業務

Table with columns for staff name, role, plan/actual, and months (6-12 for 2021, 1-6 for 2022, 1-6 for 2023). Includes a summary table for '現地業務小計' at the bottom right.

*全人教育3 (ヌル ヒダヤ) : 2022年8月の航空券は自社負担。

2. 国内業務

Detailed monthly activity log for domestic staff with columns for dates and days of the week, including a summary table for '国内業務小計'.

凡例: 業務従事実績 (black bar), 業務従事計画(当初) (orange bar), 業務従事計画(変更後の計画) (red bar), 業務従事計画(2022年7月変更後の計画) (green bar), 業務従事計画(2022年11月変更後の計画) (blue bar)

Summary table for '国内業務小計' showing '計画' (340 days, 17.00) and '実績' (340 days, 17.00), plus a final '合計' row.

2.4.3 ローカルスタッフ

本プロジェクトでは、以下の現地コンサルタント・スタッフを起用している。

表 5 現地コンサルタント・スタッフ

氏名	期間	業務内容
Muhamad Aiman Bin Ismail	2022年4月～2023年6月	現地コンサルタント
Nur Husna Binti Md Hanipah	2022年5月～2022年7月	ベースライン調査
Atiqah Binti Alias	2022年5月	ベースライン調査準備
Alina Amir	2023年3月～2023年6月	ツールキット補助含むアドボカシー活動材料
Nazme Nazim Mohd Salleh	2023年3月～2023年6月	グラフィックデザイン

3. プロジェクトの成果

3.1 期待される成果の定義

本プロジェクトは、「学級会」など日本の全人教育の実践を各校の状況や校風に合わせて取り入れ、作り変えることで、マレーシアにおける全人教育のさらなる発展の促進を目指している。本プロジェクトの目的は、児童の認知・非認知能力を高める効果的な方法を特定し、最終的にこれらの方法をマレーシア全土に展開し、調和のとれた個人を育成するための環境を整えることにある。これらの目的を達成するため、以下を期待される成果として定める。

成果 1:	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットが開発される
成果 2:	MAKMur 実施ツールキットが開発される
成果 3:	パイロット地域以外への展開に向け教育省の準備が整う

ここでいう「パイロット地域」とは、フィージビリティ・スタディのための地域である。マレーシア教育省 (Ministry of Education Malaysia: 以下「教育省」) は Kuala Lumpur の Sentul、Pahang の Bentong、Kelantan の Pasir Mas をパイロット地域に設定し、3 地区の幼稚園併設の小学校 15 校を初の試みとして「パイロット校」に選定した。

表 6 パイロット校 15 校一覧

学校名	地区
SK ¹¹ Intan Baiduri	Sentul, Kuala Lumpur
SK Sentul Utama	
SK Seri Nilam	
SK Seri Murni	
SK Batu Muda	
SK Lebu	Bentong, Pahang
SK Felda Lurah Bilut	
SK Sungai Marong	
SK Sungai Dua	
SK Sri Layang	Pasir Mas, Kelantan
SK Lati	
SK Lemal	
SK Sultan Ibrahim (1)	
SK Baroh Pial	
SK Banggol Petai	

¹¹ 国民学校 (Sekolah Kebangsaan (National School) : 以下「SK」)

成果1の「MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット」は小学校と小学校教員向けの全人教育活動の組み立てと実施方法に関する参考資料である。一方、「MAKMur 実施ツールキット」は主に教育省地区事務局（Pejabat Pendidikan Daerah [District Education Office]：以下「DEO」）職員と学校監督者向けで、教員支援と活動モニタリングの方法に関する参考資料である。成果1と成果2を適切に組み合わせることで、成果3が実現できると期待される。

2021年6月から7月にかけて、事務的な調整を経て、2021年8月2日に日本側の専門家チームは教育省と最初の会議を実施した。実質、その日がプロジェクトの初日となった。初日から2022年末までは、COVID-19の制約により、教育省 MAKMur プロジェクト技術チーム（MAKMur Project Technical Team of MoE：以下「教育省 MAKMur チーム」）とのコンサルティングセッションはオンラインに制限されたが、ツールキットのコンセプトについて話し合いを進めた。教育省側のニーズをよく聞きとり内容に取り入れるため、率直かつ広範囲に議論を重ね、その後のプロジェクト活動の基点となるコンセプトが明確にされた。ただし、この時点では、マレーシアの学校が閉鎖されており、閉鎖期間の予見が困難であったため、キャパシティビルディング・ツールキットの試作時点では、非対面でできる活動も検討した。また、活動の実現可能性をさぐるため、2021年9月にパイロット校15校とのオンライン会議を開き、授業の様子やネット環境の情報収集を行った（付属資料1を参照）。このためツールキットの作成に時間を要した。一方、教育省との対話を繰り返し、マレーシア側のニーズを汲みながら時間をかけてツールキットの準備を進めたため、最終的には学校現場への MAKMur 活動の定着がスムーズに進むことになったと言える。また、この時期に、調査計画の調整や、TOT をオンラインで進めるべく研修事前学習用ビデオ作成（マレー語吹き替え付き）を行うなどの準備も行った。2021年12月末に JICA 長期専門家のマレーシア訪問が許可されたため、教育省 MAKMur チームと対面で協力し、活動準備を加速した。また、2022年5月9日から20日にかけて、田中専門員による JICA 本部運営指導調査が行われ、日本側専門家チームと教育省に対して有益な助言がなされた。

第1期の前半において、チーム間の継続的な議論が MAKMur の原則と MAKMur の活動基準の確立につながった。これにより、次のように、MAKMur のコンセプトを明確・簡潔に表現することができ、ステークホルダーの MAKMur に係る理解が促進された。また、ツールキット、特にキャパシティビルディング・ツールキットを理解しやすいものにでき、活動を組み立てやすくした。これに伴い、MAKMur 活動の学校現場への導入がスムーズに進むこととなった。

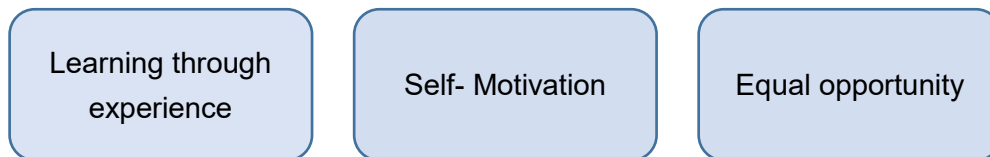
MAKMur の原則：

- 体験を通じた学び
- 自発的な活動
- 機会均等

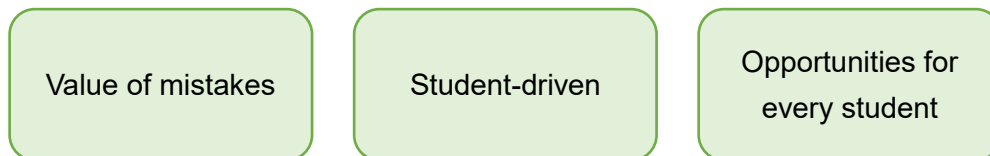
MAKMur の活動基準：

- 失敗に価値をおくこと
- 児童が主体
- すべての児童への機会提供

MAKMur の原則



MAKMur の活動基準



これらの原則と基準は、マレーシアの全人教育を実現するための指針として、より具体的にツールキットの作成方法、教員研修方法を検討するにあたり主軸が明確化する等様々な面で役割を果たしている。

これらの原則と基準に基づいて、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットが開発され、教員研修と指導者研修（Training of Trainers：以下「TOT」）が実施された。その後、パイロット校でツールキットを使った MAKMur 活動の試行と教員からのフィードバックを得るためのセッションが行われた。また、MAKMur 実施ツールキットも開発された。同ツールキットの作成には、教育省 MAKMur チームと日本側の専門家チームだけでなく、DEO の教職員も参加した。なお、試行実施前にベースライン調査を実施しており、MAKMur の普及に有益な示唆を得た。

3.2 成果の達成状況

期待された成果に対する達成状況を下表にまとめる。

成果	活動の概要	達成状況	該当箇所
成果1 全人的発達を高めるための MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット (Capacity Building Tool Kit)が開発される	1-1 教育省のプログラムも含め、マレーシアの教育・学校システム、ソフトスキルの涵養にかかる実践に関する情報を収集する。	達成	4-1[活動 1-1] 5-4
	1-2 ベースライン調査を実施する。	達成・一部持ち越し	4-1[活動 1-2] 5-2/5-8 6-1[活動 1-2]
	1-3 学校や DEO、SED、教育省向けの MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットをドラフトする。	達成	4-1[活動 1-3] 5-1
	1-4 TOT（指導者研修）を実施する。	達成	4-1[活動 1-4] 5-3
	1-5 ツールキットについて教員を研修する。	達成・継続	4-1[活動 1-5] 5-3

	1-6 パイロット校にてツールキットを参照した MAKMur 実践を試行する。	達成・継続	4-1[活動 1-6] 5-4/5-5/5-6
	1-7 ツールキットの評価と最終化を行う。	達成・継続	4-1[活動 1-7] 5-1
成果 2 MAKMur 実施 ツールキット (Implementation Tool Kit)が開発 され、パイロ ット地域で普 及する	2-1 教育省向けの MAKMur 実施ツールキットをドラフトする。	達成・継続	4-2[活動 2-1]
	2-2 TOT を実施する。	第 2 期に持ち越し	6-2[活動 2-2]
	2-3 教育省(DEO、SED 含む)職員への研修を実施する。	第 2 期に持ち越し	6-2[活動 2-3]
	2-4 対象地域内の非パイロット校を対象に、ツールキットを参照した MAKMur の実践普及を試行する。	第 2 期に持ち越し	6-2[活動 2-4]
	2-5 ツールキットの評価と最終化を行う。	計画通り第 2 期に実施	6-2[活動 2-5]
成果 3 パイロット地 域以外への展 開に向け教育 省の準備が整 う	3-1 MAKMur の継続的展開に必要な制度上の調整事項を特定する。	計画通り第 2 期に実施	6-3[活動 3-1]
	3-2 教育省に MAKMur 担当部署を設置する。	計画通り第 2 期に実施	6-3[活動 3-2]
	3-3 パイロット地域以外への MAKMur の普及計画を策定する。	計画通り第 2 期に実施	6-3[活動 3-3]
	3-4 普及計画に基づき、予算を確保する。	計画通り第 2 期に実施	6-3[活動 3-4]
	3-5 アドボカシーイベント（メディア広報、カンファレンスなど）を実施する。	達成・継続	4-3[活動 3-5]

3.3 具体的成果

成果 1 : MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットが開発される

(指標 1-1) 開発したツールキットを使用することでパイロット校 15 校の児童の非認知能力が向上する

MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットは、児童の全人的能力を高めるための活動「計画、実行、振り返り」を行うにあたっての教員用ガイドである。各教育活動をどのように計画・実施するかの出発点として、MAKMur の原則と MAKMur の活動基準を示している。これまで、3 段階の開発を行った。すなわち、プロトタイプ版、ツールキットを試行した教員やコーディネーターからのフィードバック（付属資料 13 [MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 による MAKMur 実践の試行報告書]）をもとにした Ver. 1、Ver. 2 を開発した。フィードバックから得られた

意見は、ある意味で主観的ではあるが、専門的な見解として、全人教育アプローチの質を考えるうえで重要である。

他方、ツールキットの有効性は、より客観的・定量的にツールキットの使用と児童の能力・スキルの成長との間の因果関係をもとに判断されるべきである。パイロット校（介入群）と非パイロット校（対照群）の能力・スキルの伸びを評価し、その差が有意であれば、ツールキットの使用と子どもの能力・スキルの発達との因果関係を示すことになる（図 2 を参照）。つまり、ツールキットの効果を一定程度客観的に証明することができる。

2022 年 6 月に児童の能力・スキルなどを評価するベースライン調査を実施した（付属資料 4J [ベースライン・エンドライン調査中間結果報告書（フェーズ 1）] を参照）。2023 年後半に中間調査を実施し、児童の能力・スキル、態度等の変化をモニターしてツールキットの有用性を検証する計画である（付属資料 5 [中間調査計画書（案）] を参照）。

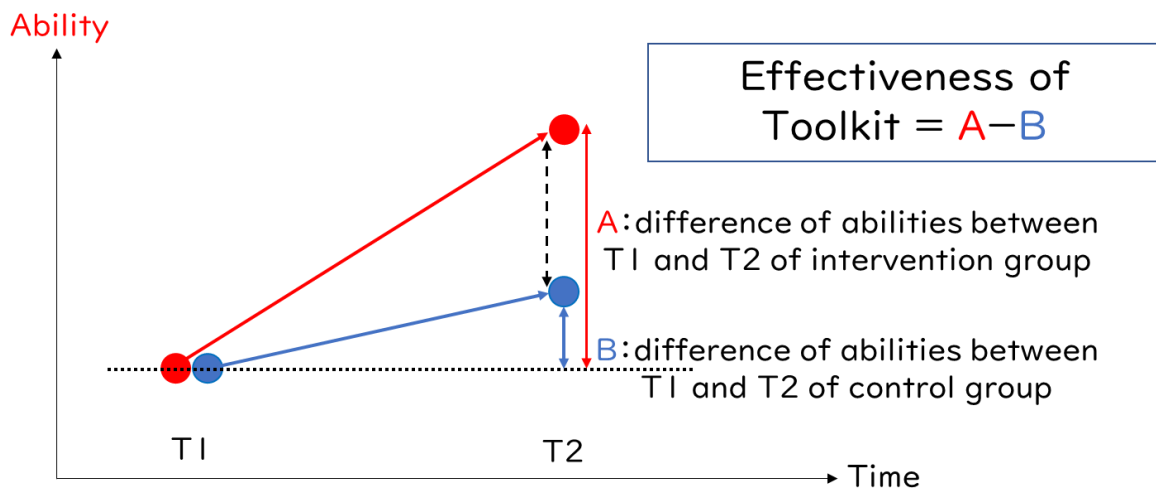


図 2 ツールキットの効果測定概念図

成果 2 : MAKMur 実施ツールキットが開発される

(指標 2-1) MAKMur 実施ツールキットを使用し、MAKMur の実践をパイロット校 15 校以外に拡大する

(指標 2-2) パイロット地区の XX 校の児童の非認知能力が強化される

指標 2-1 については、前述の通り、2023 年 3 月 15 日から 17 日まで実施ツールキットワークショップが開催され、MAKMur 実施ツールキットの Ver. 1 が起草された（付属資料 17 [MAKMur 実施ツールキット Ver. 1（案）を参照]、実施ツールキットワークショップ）。この実施ツールキットは、教育省地区事務局（Pejabat Pendidikan Daerah [District Education Office]：以下「DEO」）担当者が地区内の学校に MAKMur を展開する際の手引きとして期待されている。ワークショップには、DEO、学校改善パートナー（School Improvement Partners：以下「SIP+」）、学校改善専門家コーチ（School Improvement Specialist Coaches：以下「SISC+」）の担当者、教育省 MAKMur チーム、日本の専門家ら 20 名が参加し、支援・モニタリングシステムの利用方法、そのための組織体制などの内容について議論した。

このツールキットは、ツールキット研修後、2024年に普及のためのトライアルとして使用が予定されている。なお、中華系国民型学校（Sekolah Jenis Kebangsaan Cina [Chinese National Type School]：以下「SJKC」）とインド系国民型学校（Sekolah Jenis Kebangsaan Tamil [Tamil National Type School]：以下「SJKT」）の一部はパイロット拡大に参加する予定である。

指標 2-2 について、教育省 MAKMur チームは、2022年の研修で作成されたアクションプラン（付属資料 16 [MAKMur アクションプラン 2022-2025] を参照）に基づき、2024年のパイロット拡大期間を経て、2025年度からパイロット地区の全学校に MAKMur 活動を導入することを想定している。2024年と 2025年に実施される一連の調査では、児童の非認知能力・スキルの変化に関する定量的・定性的データをもって、MAKMur 活動の有効性を明らかにすることが期待される。

成果 3：パイロット地域以外への展開に向け教育省の準備が整う

(指標 3-1) MAKMur の担当部署が設置される

(指標 3-2) MAKMur の普及計画が策定される

(指標 3-3) MAKMur 活動についてのステークホルダーからの理解が得られる

指標 3-1 については、MAKMur 実施ツールキットの組織構成に担当部署が明記されている一方、任命はまだ先となる。

指標 3-2 については、2022年本邦研修で作成したアクションプランに拡大の概要と必要なアクションを記載した（付属資料 16 を参照）。

指標 3-3 については、2023年3月から6月にかけて、各地区でいくつかの大規模なイベントが計画された。パイロット地区の全教員を対象としたオンラインフォーラム「全人教育フォーラム」が2023年3月20日に開催されたのに続き、「全人教育フェア」が MAKMur を保護者やコミュニティに紹介する目的で、5月23日には Sentul、5月24日には Bentong、6月には Pasir Mas で開催される予定であったが、熱波の影響に鑑み教育省が児童の屋外活動に制限を加えたため、9月以降に延期された。

プロジェクト目標：子どもの全人的な発達を促進するための実践が特定され、全国普及のための準備が整う

(指標 1) 活動をパイロット地区外に普及する教育省の準備が完了する

プロジェクト目標の達成に向けて、マレーシアの子どもたちの全人的な発達を高めるための教員向けガイドブック「MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット」、マレーシア全州の地区で MAKMur を展開する DEO 担当者向け「MAKMur 実施ツールキット」を開発するとともに、クアラルンプール日本人会日本人学校（The Japanese School of Kuala Lumpur：以下「JSKL」）教員研修や本邦教員研修を実施した。

ステークホルダーと議論を重ねるなか、どの活動が効果的かを特定するのではなく、これまで学校で行われてきた子どもの全人的成長にかかる既存の活動を、MAKMur の原則や基準に沿った学級会などの新しい活動に統合する戦略を採った。ある活動がパイロットケースで一定の効果を示したとしても、文化の違いから他校に適用できるとは言えないためである。児童の全人的な成長を目指す柔軟

なアプローチは、マレーシアという多文化が共存する環境下で、各校の実情に合わせて活動を調整し、アレンジすることが十分に可能だと考えられる。

上位目標：マレーシア全国の小学校・幼稚園で子どもの非認知能力の強化に向けた実践が普及する

(指標1) 2028年までに教育省はパイロット地区以外のXX校にMAKMurの実践を導入する

MAKMurの実践をマレーシア全体の学校に導入するためには、文化の多様性、多文化主義を考慮し、既存の活動と新しい活動の導入を調和させた全人教育推進の指針を確立することが肝要である。たとえば、MAKMurをSJKC、SJKT、そして先住少数民族のための学校に導入するにあたり、マレーシアで長い歴史を持つ舎監制度である「Pengawas」¹²を尊重し、文化の多様性も考慮しなければならない¹³。また、多忙な教員にとってすぐ手が届くサポート体制も必要だ。上述の通り、第1期においては、MAKMurキャパシティビルディング・ツールキットを開発するにあたり、教員がそれぞれの校風に合わせて活動をアレンジするためのガイドとなることを目指した。第2期では、オンラインプラットフォームのコンテンツを開発し、それをを用いて、情報・知見共有、キャパシティビルディング、研修、モニタリングを行い、効率的かつ効果的な普及を図る計画である。また、同プラットフォームの使用・活用方法についてはMAKMur実施ツールキットに盛り込む予定である。これらの戦略がマレーシア全国展開に貢献するものと想定される。

¹² マレーシアの「Pengawas」（英語：Prefects）は、品行方正で学業成績が良く、教科外活動（co-curricular activities）での実績があり、強いリーダーシップを発揮できる児童から選ばれるグループである。通常、舎監は教員によって選ばれるが、自発的にこの役職を引き受ける児童もいる。マレーシアでは1970年から制服が義務化され、全校生徒の制服として統一されたが、それぞれの舎監グループは特別な制服を持っており、他の生徒とは一線を画している。

¹³ BentongにあるSK Sungai Duaは、先住民のための学校である。、このような学校でMAKMurの活動を実施した経験も一定程度ある。

4. 活動実績

4.1 成果1の活動実績

[活動 1-1] マレーシアの教育・学校制度について、教育省の関連プログラムを含めて情報を収集する。

付属資料1 [2021年の校長インタビュー]

付属資料2 [MAKMur パイロット校の幼稚園教員との座談会報告書]

付属資料3 [2022年8月 MAKMur パイロット校視察報告書]

JICAの長期専門家がマレーシアに到着する前に、2021年8月から教育省 MAKMur チームとオンラインコンサルティングを行い、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットとベースライン・エンドライン調査の計画を立てるために必要な基本情報を収集した。また、パイロット校の実情を把握するため、2021年9月23日にパイロット校15校の校長とオンラインインタビューを行い、インターネット環境やMAKMurの活動と調査を実施するうえで予測される課題について情報を収集した(付属資料1を参照)。

2022年1月、パイロット校の朝7時頃の登校から午後1時頃の帰宅までの普段の活動を観察することを目的として以下の学校への訪問を実施した。これらの訪問は、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットの改善と実現に向けた有益な情報を提供してくれた。

表 7 パイロット校訪問

訪問日	学校名	地区
2022年1月19日	SK Intan Baiduri	Sentul, Kuala Lumpur
2022年1月21日	SK Sentul Utama	
2022年1月20日	SK Batu Muda	
2022年1月11日	SK Lebu	Bentong, Pahang
2022年1月12日	SK Sungai Dua	
2022年1月24日	SK Lemal	Pasir Mas, Kelantan
2022年1月23日	SK Sultan Ibrahim (1)	
2022年1月25日	SK Baroh Pial	

		
幼稚園クラス (SK Intan Baiduri, Sentul)	子どもたちが学校に到着した様子 (SK Lebu, Bentong)	子どもたちが食堂で朝食を購入している様子 (SK Lemal, Pasir Mas)

		Mas) 
幼稚園の朝食 (SK Sentul Utama, Sentul)	幼稚園児が手を洗っている様子 (SK Sungai Dua, Bentong)	子どもが世話をしている植物 (SK Baroh Pial, Pasir Mas)

	
小学校の体育授業 (SK Batu Muda, Sentul)	親が子どもを迎えに行く様子 (SK Sultan Ibrahim (1), Pasir Mas)

写真 1 パイロット校での普段の活動

同ツールキットが特別支援教育に適用される可能性、および就学前の自由遊び教育を促進する可能性を検討するため、準備により多くの情報が必要であった。そこで、まずは特別支援教育のモデル校である SK Sungai Marong と SK Sentul Utama への訪問を実施した。

表 8 2022年4月パイロット校訪問

訪問日	学校名	地区
2022年4月18日	SK Sungai Marong SK Lebu SK Sungai Dua	Bentong
2022年4月20日	SK Intan Baiduri SK Sentul Utama	Sentul

		
SK Sungai Marong, Bentong	SK Lebu, Bentong	SK Sungai Dua, Bentong



写真 2 訪問したパイロット校の様子

訪問後、教育省 MAKMur チームと日本側の専門家との間で、プロジェクト期間中に特別な教育的支援を必要とする子どもを MAKMur 活動にどのように取り込むかについて議論を行った。

2022年5月からは COVID-19 に関する SOP が緩和されたため、教員との直接面談が問題なく実施できるようになり、小学校と幼稚園の全人教育に関する補足情報を得るためのインタビューや座談会を計画した。¹⁴

まず、各パイロット地区の教員との座談会を実施し、以下のような情報を収集することができた。

- 指導案作成の負担が大きいため、教材準備の時間があまり取れないこと
- 保護者・小学校側からの文字指導へのプレッシャーが大きいこと
- 教科指導を基本に置いているが、教師の指導方法を柔軟に変化することができる Learning Activity の時間があること

表 9 幼稚園教員との座談会

訪問日	時間	地区	場所
2022年6月29日	14:30~16:00	Bentong	DEO
2022年6月30日	14:30~16:00	Sentul	DEO
2022年7月4日	14:30~16:00	Pasir Mas	DEO

パイロット校の幼稚園教員の代表者、坪川紅美氏（就学前教育専門家）、教育省職員数名、長期専門家が参加し、全人教育に関する状況や最新動向について意見交換を行った。その後、MAKMur を強化するための提案を含む報告書を教育省に提出した（付属資料 2 を参照）。



写真 3 2022年6月と7月に行った幼稚園教員との座談会

¹⁴ 本来はベースライン調査を通して全人教育の現状に関する情報収集を検討していた。しかし、調査の教育省への申請に至る時点では、SOPにより調査員の学校への立ち入りが禁止されていた。このため、パイロット地域の一部でインターネット環境を考慮し、ベースライン調査でのインタビューは見送ることになった。

その後、2022年8月8日から10日にかけて、日本側の専門家チームがSK Lemal (Pasir Mas)、SK Batu Muda (Sentul)、SK Sungai Marong (Bentong) を訪問し、授業観察、学校視察、学校監督者や小学校の教員との討論を実施した。

今回の訪問は、日本側の全人教育の専門家である筑波大学の藤田晃之氏が引率した。藤田氏は、文部科学省において5年間、生徒指導の専門官を兼務されていた。筑波大学研究員の森本美緒氏、静岡県聖隷浜松病院ひばり保育園副園長の坪川氏、アジアシードのコンサルタント上野亮一氏、アジアシードのコンサルタントMuhamad Aiman Bin Ismail氏が藤田氏に同行、学校訪問をサポートした（付属資料3を参照）。

【活動 1-2】 ベースライン調査を実施する。

付属資料 4J [ベースライン・エンドライン調査中間結果報告書（フェーズ1）]

プロジェクトの成果を達成するため、本案件ではベースライン調査（2022年実施）、中間調査（2023年実施予定）、エンドライン調査（2024年実施予定）およびフォローアップ調査（2025年実施予定）を実施する。この一連の調査を通じて下記の(1)～(4)を実行することにより、MAKMurの有効性を示すエビデンス、啓蒙活動やアドボカシー活動のための資料、教育環境改善のための情報およびツールキット開発のための情報を収集する。

調査目的

- (1) パイロット校と非パイロット校の児童の認知・非認知能力の変化を調査・比較することにより、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットの有効性を検証する。
- (2) 子どもの認知・非認知能力と保護者の子どもへの関わり方・態度との関係を調査する。
- (3) 教科の授業（Pengajaran dan Pembelajaran [Teaching and Learning]：以下「教科の授業」）スタイルと児童の活動への関与や認知・非認知能力との関連性を明らかにする。
- (4) MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットによる児童の様々な活動への参加と成果を評価し、ツールキットを改善する。

2022年、(1)、(2)、(3)に関連する定量的なデータを収集するため、以下のように「ベースライン調査」を実施した。同調査は「パイロット校」として選ばれた3地区（Sentul、Bentong、Pasir Mas）の幼稚園併設の小学校15校に対するMAKMur実践前の調査である。また、比較のため、非パイロット校6校（Sentul、Bentong、Pasir Masから各2校）も調査対象とした。

ベースライン調査実施期間

2022年5月30日～2022年6月24日

当初計画では2022年1月から実施予定であったが、本来1月から始まるマレーシアの新学期は2022年度は3月末に後ろ倒しとなっただけでなく、4月末までは、学校での活動はすべてCOVID-19に関するSOPのもとに管理されたことにより調査開始が遅延した。

対象小学校一覧

表 10 地区別 MAKMur ベースライン調査対象の小学校一覧

地区	Sentul	Bentong	Pasir Mas
パイロット校 (介入群)	SK Sentul Utama*	SK Lebu	SK Lati*
	SK Seri Nilam*	SK Felda Lurah Bilut	SK Sultan Ibrahim (1)*
	SK Seri Murni*	SK Sungai Marong*	SK Baroh Pial
	SK Batu Muda*	SK Sungai Dua	SK Lemal*
	SK Intan Baiduri*	SK Sri Layang	SK Banggol Petai
非パイロット校 (対照群)	SK Segambut Makmur*	SK Janda Baik	SK Sri Kiambang*
	SK Kiaramas*	SK Tuanku Fatimah	SK Gelang Mas

注.*の学校は、アンケートにオンラインで回答している。

調査方法

調査方法は、アンケートと実験の2種類を採用した。当初インタビュー調査も予定していたが、申請時に SOP による調査員の学校への立ち入りが禁止されたため、パイロット地域の一部でインターネット環境を考慮し、インタビュー調査を省略した。

アンケートでは、児童の能力（主に非認知能力）、家庭での時間管理、保護者の子育てスタイルや家庭環境、学校の教科の授業スタイルについて、オンラインとオフラインの両方で情報を収集した。12校は Google フォームを使ってオンラインで、残りの9校はオフラインでアンケートを実施した（表10を参照）。オフライン、つまり紙のアンケートは、特に地方でインターネットへのアクセスが限られている学校に対応するために使用された。5つのアンケートを通じ、以下の評価が観測された。

- (a) 児童の評価：1年生から5年生までを対象に、「自尊心・自己肯定感」「寛容性・寛大性」「柔軟性」「協調性」「コミュニケーション」「挑戦意欲」「計画性」「創造性」「リーダーシップ」「思考力」「やる気」の11項目について、4段階のリッカート尺度で保護者とクラス担任から評価を受けた。4年生と5年生も、保護者や担任の先生と同じ質問で自己評価を行った。
- (b) 保護者の評価：保護者は、家庭での子育てスタイルや子どもとの関わり方について、4段階のリッカート尺度で自己評価を行った。
- (c) 児童の時間管理：幼稚園および小学校1年生から5年生までの児童の保護者が、児童の学校生活以外の家庭での過ごし方について回答した。
- (d) 家庭環境：幼稚園および小学校1年生から5年生までの対象児童の家庭環境を尋ねた。
- (e) 学校の教科の授業スタイル：各学校長は、学校での教科の授業スタイルに関する質問に回答した。

アンケート調査のほか、各校の幼稚園、1年生、2年生、3年生を対象に数概念の獲得レベルを測る実験を実施した。

調査結果

上記の調査目的のうち、(2) 児童の認知・非認知能力と保護者の児童への関わり方・態度との関係については、収集したデータを分析した結果、保護者の子どもに対する関わり方や態度は、子どもの能力と正の相関があること、特に以下の保護者の関わり方や態度との相関が明らかにな

った。

- 子どもの興味・関心を尊重する。
- 行動や経験について子どもと一緒に振り返る。

上記の結果は啓蒙活動やアドボカシー活動のための資料作成にあたり有益である。また、振り返りの重要性は、(3) 指導・学習スタイルと児童の活動への関与および認知・非認知能力との関連性にも関連しているが、望ましい教科の授業スタイルについても示唆を与えてくれる。

総じて、児童の非認知能力や学校の教科の授業スタイルに対する評価点が高く、今後、定量的なデータのみで改善を測ることに一定の困難（天井効果）を示唆する一方、MAKMur の理念や基準に基づいた活動の可能性を示している。今回のベースライン調査を通じて得られたその他の主な結果は以下の通りである。

- 総じて女子児童の非認知能力は男子児童よりも高い。
- 非認知能力についてパイロット校の教員は非パイロット校の教員よりも高く評価する傾向がある。
- 認知能力との関連においては、児童の数の概念の学習プロセスは就学前の時期に加速される。

ベースライン調査で収集されたデータは、一連の調査の出発点である。今後、中期調査、エンドライン調査、フォローアップ調査を通じて、このベースライン調査の知見を集約していく。

〔活動 1-3〕 学校・DEO および教育省州教育局（Jabatan Pendidikan Negeri [State Education Departments] : 以下「SED」）・教育省向けの MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットをドラフトする。

付属資料 6 [MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットプロトタイプ版]

付属資料 7 [MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1]

付属資料 8 [MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 2]

付属資料 13 [MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 による MAKMur 実践の試行報告書]

付属資料 25 [Learning Walk 記録]

表 11 キャパシティビルディング・ツールキット

	プロトタイプ	Ver. 1	Ver. 2
時期	2022 年 3 月	2022 年 7 月	2023 年 2 月
ページ数	58	17	**
言語	英語	マレー語	マレー語
活動タイプ	<ul style="list-style-type: none">➢ クラスレベル➢ 学校レベル➢ 家庭➢ 地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none">➢ クラスレベル (学級会)	<ul style="list-style-type: none">➢ クラスレベル➢ 学校レベル (学校行事)➢ 教科外活動 (co-curricular activities)➢ 教科の授業

(1) プロトタイプから Ver. 1 へ

TOT の前に作成された 58 ページのプロトタイプは、TOT で参加者からのフィードバックを得るために使用された。参加者からのコメントでは、ツールキットの簡略化の要望が目立った。また、田中専門員はじめ JICA アドバイザリーチームからも、主要な MAKMur の原則や活動基準（どの活動を MAKMur と呼べるか）などを明確化することが重要であるとの指摘があった。プロトタイプから Ver. 1 への改訂にあたり、教育省 MAKMur チームと日本側の専門家が議論した結果、ページ数を 25 ページ程度に減らすとともに、コンセプトや基準を以下のように明示することになった。

MAKMur の原則：

(1) 体験を通じた学び

児童は、友だちとの活動を共に体験する機会を与えられ、その繰り返しにより、子ども自身のスキルや能力を高めていく。

(2) 自発的な活動

MAKMur 活動すべてにおいて、子ども自ら考えることが前提となる。自ら考えることで、グループ内で議論された問題を解決したり、活動を実行することにより意欲的になれる。

(3) 機会均等

すべての児童に MAKMur 活動に参加する機会が与えられる。このような機会を通じて、すべての児童が同じような経験をし、互いに助け合いながら自分自身のスキルや能力を向上させることは非常に重要である。

MAKMur の活動基準：

(1) 失敗に価値をおくこと

子ども主導の活動を実施する過程では、失敗が起こる可能性がある。また、期待通りの結果が得られない場合、教員は子どもの努力を褒めることが薦められる。どの子どもにも得意なスキルがあり、教員はその多様性を信じ、称賛することが重要である。さらに重要なのは、児童が失敗を経験し、その学びから自分自身のスキルや能力を向上させることを学ぶことである。

(2) 児童が主体

MAKMur のすべての活動を通じて、子どもが自発的に行動できるように促す必要がある。教員からの必要最低限の指導に加え、自分自身のモチベーションを持つことは、子どもの目標達成に役立ち、同時により積極的な行動へと改善される。

(3) すべての児童への機会提供

子どもが主体的に計画し実施する活動には、全員が参加できるような配慮が必要である。子ども一人一人が自分自身の能力を高め、同時に失敗から学ぶことができるように、すべての子どもが参加する機会を与える必要がある。

また、後述の [活動 1-6] で述べるように、学級会の実施可能性を予見し、すべてのパイロット校で学級会を実施することを想定し、学級会の詳細を追加した。

Ver. 1 のドラフトは、6 月 15 日にツールキットのパネルメンバー（TOT 参加者の一部で構成）に提示し、コメントを得た。

2022年7月6日、7日に Cyberjaya, Selangor の Cyberview Resort & Spa で、教員養成機関 (Institut Pendidikan Guru (Institute of Teacher Education) : 以下「IPG」) 講師、各地区のパイロット校教員、教育省 MAKMur チームのメンバー等からなる約 20 名が参加するツールキット Ver. 1 ワークショップが開催された。パネルメンバーからのコメントをもとに、グループワークやディスカッションを行い、ドラフトの内容を吟味してマレー語に書き直した。その結果、2022年7月にマレー語の Ver. 1 が完成した (付属資料 7 を参照)。



写真 4 2022年7月に開催されたツールキット Ver. 1 のワークショップ

(2) Ver. 2 へのアップグレード

[活動 1-6]で後述するように、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 はパイロット校の教員による評価を受け、日本側の専門家からツールキットの改善に関する指導的な提案を受けた。実際、2022年8月15日から10月4日にかけてのオンラインアンケート、及び2022年11月7日と14日には、各パイロット校の代表者が成果を発表する「フィードバック&振り返り報告会」を実施した。教員からのフィードバックとしては、MAKMur が、子どもの自信と幸福感と高め、社会性や対人スキルを向上させる等の子どもの変化や、教員が児童からより多くの協力を得るといった教員と子どもの関係についてのフィードバックを得た。「担任と子どもを導くために、キャパシティビルディング・ツールキットに詳細な手順を追加する」、「教科の教員など、より多くの教員を参加させる」などの提案もあった。フィードバックとディスカッションに基づき、日本側の専門家チームは教育省 MAKMur チームに対し、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットの改善について以下のように提言した。(詳細は、付属資料 13 [MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 による MAKMur 実践の試行報告書] も参照)。

(1) MAKMur の原則と価値観を、教科の授業、学校行事、教科外活動など、既存の学校の実践や活動に組み込むこと。

(2) ディスカッションや教科の授業の最後に「内省」の時間を設け、児童が仲間と意見やアイデアを出し合った後、どうすれば問題を克服し、個人として改善できるかを自分自身で考え、振り返ることができるようにする。

この提言に基づき、教育省 MAKMur チームは日本側の専門家チームとともに MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 2 のドラフトを作成した。2023年2月7日から9日にかけて Mardhiyyah Hotel & Suites で行われた MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 2 のワークショップでは、パイロット校の教員がより学校現場で使いやすいようにドラフトを修正し最終確認を行った。ワークショップでは、ツールキットのグラフィックデザインやオンライン教員研修シス

テムについても参加者間で議論された。

2023年4月から5月にかけて MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 2 を使用した活動の実施状況を観察し、さらなる改訂に利用することを目的に、日本人専門家が対象校を訪問し活動の様子を観察（Learning Walk）し、学校ごとのレポートを作成した（付属資料 25 を参照）。レポートの内容は、それぞれの活動の特色（強み）や改善のための助言等である。なお、一部の学校では特別支援学級においてすでに MAKMur 活動が試みられている。

〔活動 1-4〕 TOT を実施する。

付属資料 9 [TOT 記録]

2022年4月11日から14日にかけて、DoubleTree by Hilton（クアラルンプール市内のホテル）で TOT を実施した。参加者は MAKMur コーディネーター、学校改善パートナー（School Improvement Partners：以下「SIP+」）、学校改善専門家コーチ（School Improvement Specialist Coaches：以下「SISC+」、IPG の講師、DEO を含む教育省の職員で構成された 54 名（うち男性 30 名女性 24 名）であった。日本側の専門家 2 名とアジアシードのコンサルタント 1 名は現地参加、日本側の専門家 2 名、筑波大学の研究員 1 名、JICA のアドバイザー数名がオンライン参加した。

参加者の目標と期待される成果は以下のように設定された。

目標：

開発されたツールキットに基づき、MAKMur の計画、実行、振り返りの方法についてトレーナーの能力を高める。

期待される成果：

- (1) 特活と MAKMur の概念を説明する。
- (2) ツールキットを参照しながら、MAKMur の活動を計画する方法を説明する。

参加者は、プロトタイプ版の MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットを使って計画を立てるグループワークを行い、その計画を発表した。一方、日本側の専門家らによる質疑応答は、TOT 前に参加者全員に送付された専門家作成のビデオコンテンツをもとに、日本の全人教育、就学前教育、特別支援教育について行われた。

講義と活動はすべて英語で行われる予定だったが、参加者全員が新しいコンセプトを明確に理解し、自分の考えを簡単に表現できるように、コンサルタントの助言を得て、コース内の使用言語をマレー語に変更した。

積極的な参加および使用言語を臨機応変に変更するなどしたことが功を奏し、全体として成果が見られ、目標が達成された。

	
参加者の発表	ディスカッション
	
日本の専門家らによる質疑応答	参加者の集合写真

写真 5 2022年4月に DoubleTree by Hilton で開催された TOT

〔活動 1-5〕 ツールキットについて、教員研修を実施する。

付属資料 10 [教員研修記録]

付属資料 11 [2023年5月「遊びを通じた学び」ワークショップ計画書]

付属資料 12 [2023年5月「MAKMur 活動に特別支援教育を取り入れる可能性について」ワークショップ計画書]

付属資料 26 [2023年5月「遊びを通じた学び」ワークショップ記録]

付属資料 27 [2023年5月「MAKMur 活動に特別支援教育を取り入れる可能性について」ワークショップ記録]

キャパシティビルディング・ツールキット Ver.1 に基づき、MAKMur の活動を計画する能力を高めるため、MAKMur パイロット校 15 校のクラス担任を中心に、全クラス担任を対象とした 3 日間の研修が、それぞれのパイロット地区で以下の日程と会場で実施された（付属資料 10 を参照）。

表 12 教員研修の日程と会場

地区	Sentul	Bentong	PasirMas
日程	2022年8月2日～4日	2022年8月16日～18日	2022年7月26日～28日
会場	Dewan Kolej Tingkatan Enam Desa Mahkota	DEO Bentong	Dewan Wawasan, SK Sultan Ibrahim (1) , Pasir Mas
参加人数	143名 (男性47名・女性96名)	103名 (男性22名・女性81名)	249名 (男性80名・女性169名)
時間	2:30 PM - 4:00 PM (毎日)		

これらの教員研修では、教育省 MAKMur チームと日本側の専門家チームが講師を務めた。また、各パイロット校の MAKMur コーディネーターや、IPG 講師がグループ活動を支援した。

この3日間の研修の目的は以下の通りである。

- MAKMur パイロット校 15 校の全教員に MAKMur を紹介すること
- 3つのパイロット地区の MAKMur パイロット校 15 校の全教員に、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットについて説明すること
- 「Perbincangan Kelas (学級会)」を紹介し、教員に知ってもらうこと

研修初日には、日本における全人教育の実践と MAKMur が紹介された。また、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 がパイロット地域の全教員に配布された。初日に、PasirMas 地区では 204 名のクラス担任が出席したのに対し、Sentul 地区では 202 名、Bentong 地区では 103 名のクラス担任が出席した。2日目と3日目には、全教員が参加する模擬学級会が行われ、より試行に重点を置いた研修が行われた。

MAKMur パイロット校 15 校のクラス担任は、研修と試行を終えた後、以下のことをアウトカムとして設定した。

- (1) MAKMur について説明することができる。
- (2) 教員がツールキットを参照しながら、MAKMur の活動を計画することができる。
- (3) クラス担任がツールキットを使って自分の活動を振り返ることができる。



PasirMas 地区での教員研修の様子



Sentul 地区での教員研修の様子



Bentong 地区での教員研修の様子

写真 6 教員研修

教員研修では、参加者のクラスや学校の状況に合わせて、ツールキットを参考に学級会を含む 6 週間の活動計画を立案することとした。

2023 年 5 月、MAKMur パイロット 3 地区で「遊びを通した学び」ワークショップが実施され、坪川専門家が指導を行った（付属資料 11、付属資料 26 を参照）。日程等は以下の通りである。

日程	地区	参加人数
5 月 9 日～11 日	Bentong	35 人
5 月 16 日～18 日	Sentul	31 人
5 月 22 日～24 日	Pasir Mas	35 人

パイロット校だけでなく、今後普及していくことになる非パイロット校（中華系インド系の国民型学校を含む）の幼稚園と低学年担任の教員が日本の幼稚園で日常的にある集団ゲームやお店屋さんごっこ等をしながら、遊びのなかにある学びの意味を考えるという内容であった。幼稚園の教員を養成する IPG の教員や DEO の幼稚園教育行政官も参加した。

ワークショップは、各日 2 時間半から 3 時間の設定で講義と実践が行われた。1 日目には、「遊びを通して学ぶ」、2 日目に「論理的思考の芽生え」、3 日目に「統合的活動の教育的意義」の講義に続いて、教員が 5 歳の子どもになりきり、集団ゲーム、模擬学級会、算数コーナーでの遊びなどを体験した。これらは、それぞれパイロット地区の実情に合わせて既存のリソースを使用したもので、教員らに好評であった。昨年秋に本邦研修に参加した MAKMur コーディネーターらがファシリテーターとして活躍した。2 日目及び 3 日目には、パイロット校の教員はワークショップで実践したことを実際に自分のクラスに試し、翌日の振り返りセッションで試した手ごたえを発表、有意義なディスカッションとなった。参加者からは、すぐにでも自分の教室で使いたい等の声上がり、一部学校では本ワークショップの学びを生かした取り組みが行われ始めている。

		
ワークショップ一日目 (マレーシアの伝統工芸であるバティックを使用した集団ゲームの一つ)	ワークショップ二日目 (算数コーナーでの遊びの一つであるピックアップスティックのゲームの様子)	ワークショップ三日目 (お店ごっこの準備の様子)

写真 7 「遊びを通した学び」ワークショップ

また、2023年5月7日から9日にかけて、特別支援教育ワークショップが、川口専門家が講師となり MAKMur パイロット3地区で実施された（付属資料12、付属資料27を参照）。

日程	地区	参加人数
5月7日	クランタン州 Pasir Mas	37
5月8日	パハン州 Bentong	32
5月9日	クアラルンプール Sentul	34

この3日間のワークショップの目的は以下の通りである。

- 各地区で MAKMur プロジェクトを試験的に拡大するための準備として、各パイロット地区の DEO メンバーおよび非パイロット校に MAKMur を紹介する。
- 特別な支援を必要としない児童が参加する活動に、特別な支援を必要とする児童を参加させることの重要性を強調する。
- マレーシアの特別支援教育に MAKMur を取り入れる方法についての議論を開始する。

それぞれの地区の DEO 職員と、非パイロット校（Pasir Mas5校、Bentong7校、Sentul16校）の校長からなる合計 86名の参加があり、活発な議論が行われた。本ワークショップを踏まえ、既に一部のパイロット校ではインクルーシブな MAKMur 活動の実施が検討されている。



写真 8 特別支援教育ワークショップ

〔活動 1-6〕 教育省が選定した学校で、ツールキットを使用した MAKMur の実践を試行する。

〔活動 1-7〕 ツールキットの評価と最終化を行う。

付属資料 13 [MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 による MAKMur 実践の試行報告書]

(1) MAKMur の実践をプロトタイプで試行し、評価する。

TOT(2022 年 4 月 11 日～14 日)終了後、参加者は 2022 年 4 月末までに、TOT で計画された MAKMur 活動の試行を実施すべく、各学校にてキャパシティビルディング・ツールキットのプロトタイプを用いて MAKMur 活動を試行した。また、2022 年 5 月 10 日から 12 日にかけて、フォローアップ研修として、試行の振り返りがオンラインで行われた。なお、Bentong の学校では学級会の導入に挑戦したところ、高度な取り組みであるものの、パイロット校で学級会を実施できることが確認された。

(2) Ver. 1 による MAKMur 実践の試行と評価

各パイロット地区ごとにそれぞれ 2022 年 7・8 月中に開催された 3 日間の教員研修の後、3 つのパイロット地区の全 15 校は、各地区の校長との合同協議に基づき、4 週間から 6 週間にわたる学級会の試行を実施した。MAKMur パイロット校 15 校の全教員は、以下の (1)、(2)、(3) の目的のため、MAKMur のスパイラルプロセスである「計画、実行、振り返り」に従って、それぞれの学校で決められた時間内に試行することを求められた。

- (1) MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットの使いやすさと有効性を検証すること。
- (2) MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 が理解しやすいかどうかを判断すること。
- (3) MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットの改訂のために、教員からフィードバックや提案を得ること。

次に、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 および試行実施の効果について、2022 年 8 月 15 日から 10 月 4 日にかけてオンラインで実施したアンケートを通じて、全教員からのフィードバックと洞察を収集した (付属資料 13 を参照)。

教員からは、「学級会は、子どもの自信と幸福感を高め、子どもがより楽観的で意欲的な性格になる

ことに役に立つ」、「子どもの社会性や対人スキルを向上させる」、「クラス担任からの最小限の指導があれば子ども自身が学級会を運営できることを示した」、「教員が児童からより多くの協力を得るようになった」、「教員が子どもをよりよく知るようになった」などのポジティブなフィードバックが多くあった。一方、「小学校低学年の子ども、特に1年生と2年生は学級会を行うのが難しいと感じる」、「教室での話し合いを理解し、メモを取り、議論し、合意を得るためには、より多くの時間を必要とする」、「欠席や遅刻の問題で、割り当てられた時間内に学級会を行うことが困難である」等の課題も示された。また、クラス担任からは、「担任と子どもを導くために、キャパシティビルディング・ツールキットに詳細な手順を追加する」、「教科の教員など、より多くの教員を参加させる」などの提案があった。

さらに、2022年11月7日と14日には、各パイロット校の代表者が成果を発表する「フィードバック&振り返り報告会」が開催された。この報告会では、各パイロット校の代表者が、主に自分たちが発見した良かった点、直面した課題、学級会の実施をさらに改善するための提案に焦点を当て、その結果を発表した。

両報告会には、MAKMurパイロット校15校、教育省MAKMurチーム、JICA専門家チームから、それぞれ100名以上の参加者がオンラインで参加した。オンラインアンケートには、参加者から同様のフィードバックがあり、専門家からは以下のような提案があった。

[児童について]

- 初期段階では、学級会のトピックとして、誕生日パーティーの計画、ゲームやスポーツなど、親しみやすく、楽しく、すべての児童が興味を持てるものを選ぶように、クラス担任が児童に提案できる。
- 学級会をスムーズに実施することよりも、児童が「体験を通して学ぶ」ことを重視すること。
- 教員がファシリテーターとして、ある程度児童に介入し、サポートすることが必要である。児童の発達段階が全く異なるため、介入やファシリテーションの量も異なる。
- 受動的であること自体は、必ずしも否定的な特性ではない。人にはそれぞれ長所と短所がある。クラス担任は、児童をさまざまな角度から見て、それぞれの長所を見つけ、それを受け入れ、強調することが重要である。そうすることで、児童が間違いを恐れぬようなクラス環境を作ることができる。
- 学級会を行う方法は数多くある。そのため、マレーシアの教員は、自分の児童に合った方法を試行錯誤することが推奨される。マレーシアの教員は、日本のこれらの例を参考にすることもできるし、必要であれば、より適切で地域の文脈に合ったものに革新することもできる。

[時間について]

- 時間的な制約があることは理解できるが、クラス担任は、時間内に意見を言えなかった児童には、次の学級会で意見を言うように促すことが推奨される。MAKMurの活動は、学級会を含め、繰り返し行われるものである。児童は、発言や意見を述べる機会を多く持つことができる。
- 児童の到着が遅れた場合、教員は次のように対応することが推奨される。
 - 学級会を通じて、児童同士に議論させる。
 - 学級会の終わりや、教科の授業の中で、個人的に自分を振り返る時間を設ける。

[予算について]

- MAKMurの活動の持続性を確保するため、クラス担任は、児童が身の回りにあるものを使っ

て、最小限の予算で済むように指導することが推奨される。

[ご褒美について]

- 児童に報酬を与えるという行為自体は、特に悪いことではない。しかし、応用次第では非常に危険なことである。クラス担任が児童を評価するのではなく、児童自身が児童同士を評価することがより望ましい。たとえば、日本には児童同士がお互いのいいところを見つける「きらきらさがし」という活動がある。

フィードバックとディスカッションに基づき、日本側の専門家チームは教育省 MAKMur チームに対し、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットの改善について以下のように提言した。

- (1) MAKMur の原則と価値観を、教科の授業、学校行事、教科外活動など、既存の学校の実践や活動に組み込むこと。
- (2) ディスカッションや教科の授業の最後に「内省」の時間を設け、児童が仲間と意見やアイデアを出し合った後、どうすれば問題を克服し、個人として改善できるかを自分自身で考え、振り返ることができるようにする。

4.2 成果 2 の活動実績

〔活動 2-1〕 教育省向けの MAKMur 実施ツールキットをドラフトする。

附属資料 14 [JSKL 教員研修アタッチメントプログラム記録]

附属資料 15 [本邦研修報告書]

附属資料 16 [MAKMur アクションプラン 2022 - 2025]

附属資料 17 [MAKMur 実施ツールキット Ver. 1 (案)]

2022 年 8 月にパイロット校で MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットの試行が始まるまでは、学校監督者や DEO レベルでのマネジメントよりも、教員レベルでの MAKMur 活動の実施に力を注いだ。MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットの試行と改訂を続けた後、MAKMur 実施ツールキットの作成に向け、クアラルンプール日本人会日本人学校 (the Japanese School of Kuala Lumpur : 以下「JSKL」) でのアタッチメントプログラム (附属資料 14 を参照) と本邦研修 (附属資料 15 を参照) の 2 種類の活動を活用した情報収集を開始した。

JSKL でのアタッチメントプログラムは、日本式全人教育の実践を視察するために 2022 年 9 月から 11 月にかけて実施され、パイロット校の教員、校長、IPG の講師、教育省のスタッフからなる計 70 名が参加し、5 回のセッションを行った。本邦研修は、2022 年 10 月 20 日から 11 月 2 日にかけて実施された。

本邦研修や JSKL でのアタッチメントプログラムを通じて得た日本式全人教育の情報は、日本の学校がどのように全人教育を実現しているか、つまり、教科の授業を含むすべての活動に全人教育のエッセンスが組み込まれていることを参加者に直感的に理解させるものとなった。

教育省と DEO の職員およびパイロット校の教員からなる 15 名が本邦研修に参加した。研修の冒頭にはワークショップが行われ、研修を通じて作成されるアクションプランのテーマについて話し合われた。研修期間中、15 名のメンバーは、日本側の専門家や教授による講義やワークショップに参加したほか、2 つの小学校を訪問し、学級会などの活動を視察し、校長先生や教員と質疑応答をした。ま

た、東京おもちゃ美術館を訪問し、おもちゃで遊ぶだけでなく、作ることで育まれるコミュニケーション能力や創造性などについての情報を得た。

このような活動を通じて得られた知見をもとに、MAKMur の全国的な実施に向けた拡大戦略、およびそのためのキャパシティビルディングとアドボカシーに関する組織的枠組みを示すアクションプランが作成され、本邦研修の最終日である 11 月 2 日に JICA に提示された（附属資料 16 を参照）。また、これは MAKMur 実施ツールキットの内容の基礎となった。

2023 年 3 月 15 日から 17 日にかけて開催された実施ツールキット作成ワークショップを通じて、DEO 担当者が地区内の学校に MAKMur を拡大するためのガイドとなる MAKMur 実施ツールキットの Ver. 1 が作成された（附属資料 17 を参照）。ワークショップでは、DEO、SIP+、SISC+の担当者、教育省 MAKMur チーム、日本側の専門家からなる 20 名の参加者が、オンラインプラットフォームの利用・活用、サポートやモニタリングのための組織構造などを含む内容について議論した。もとは、2022 年 10~11 月に実施された本邦研修で普及計画を検討するなかで、全国規模の教員間の情報交換や事例紹介、実施状況把握等を行うシステムを要することがわかってきたが、その後、オンライン化が効率的かつ有効な手段であると認識されるに至った。既に教育省が持つプラットフォームに MAKMur に関するコンテンツを追加する考えである。同プラットフォームの想定詳細については、5.3 の研修・サポートシステムの対応策を参照。なお、MAKMur 実施ツールキット Ver. 1 とオンラインプラットフォームは、2023 年 12 月末に完成する予定である。



写真 9 2023 年 3 月にマラッカの Hatten Hotel で開催されたワークショップ

4.3 成果 3 の活動実績

【活動 3-5】アドボカシーイベント（メディア広報、カンファレンスなど）を実施する。

附属資料 18 [全人教育フォーラム記録 (CD-R 収録)]

附属資料 19 [SEAMEO-筑波大学シンポジウム (発表記録)]

附属資料 20 [JICA 四国 (発表記録)]

附属資料 21 [JICA 教育協力ウィーク 2022 (発表記録)]

附属資料 22 [JICA 見える化サイト (掲載記事)]

附属資料 23 [JICA プロジェクトニュース (掲載記事)]

附属資料 28 [広報ビデオ (CD-R 収録)]

マレーシア国内イベント

- 全人教育フォーラム

2023 年 3 月 20 日に、本邦研修や JSKL でのアタッチメントプログラムを通じて得た日本式全人教

育の情報を教育省の担当部署と3つのパイロット地区の教員で共有するためのウェビナー「全人教育フォーラム」が開催された。これは、MAKMur に対する教員と教育省との相互理解を深めるための内部広報活動として、初の大きなアドボカシーイベントとなった（付属資料 18 を参照）。

- 広報用ビデオ

MAKMur の広報に使用するビデオを作成するため、パイロット校等で映像のプロによる撮影を実施した。（付属資料 28）現在 3 本のビデオ（イベント用、SNS 用、テレビ局用）を作成中であり、教員用も検討している。具体的な展開は第 2 期の活動となる。

日本国内イベント

- JICA 四国センター

2022 年 8 月 23 日に、一連のセミナーにおいて、MAKMur の背景と概要についてオンラインを通じて日本の参加者に説明した（付属資料 20 を参照）。

- JICA 教育協力ウィーク

2022 年 9 月 9 日に、「第 2 回教育協力ウィーク」の一環として行われたセッションで、MAKMur の背景や概要をオンライン上で紹介した後、日本の全人教育の特徴や現地の状況に合わせた体系的な導入方法についてパネルディスカッションが行われた（付属資料 21 を参照）。

- JICA 見える化サイト

- JICA プロジェクトニュース

プロジェクト概要を JICA の HP に記載するとともに、2022 年 9 月より隔月でプロジェクトに関するニュースを同じく JICA の HP で発信した（付属資料 22、付属資料 23 を参照）。

国際イベント

- SEAMEO-筑波大学シンポジウム

2022 年 2 月と 2023 年 2 月に、「東南アジア教育大臣機構（Southeast Asian Ministers of Education organization：以下「SEAMEO」）-筑波大学シンポジウム」の 1 セッションにおいて、マレーシアにおける全人教育の意義についての発表をオンライン上で行い、全人教育の可能性や子どもたちに関する全人教育の方法についてパネルを用いて討論を行った（付属資料 19 を参照）。

5. 課題と対応策

現在まで本プロジェクトを進めるにあたり、その成果達成に向けて直面した、あるいは直面している課題がある。いくつかは解決されつつある一方、第2期にその克服をゆだねるものがある。

5.1 ツールキットについて

【解決途上】

マレーシアでは、教科外活動など非認知的能力・スキルにかかる既存の様々な活動がある。そのため、「MAKMur とは何か」という明確なメッセージを MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットに盛り込み、主なユーザーである教員が、既存の活動と学級会など新たに導入する MAKMur 活動を調和させていくことが不可欠である。MAKMur の原則と MAKMur の活動基準は、そのメッセージに足りうる。この原則と基準のもとで、既存の活動を修正アレンジして良く、まさにそれが我々の目指す全人教育を推進することにつながる。

【今後の課題】

多忙な教員には、わかりやすいスタイルが必須であることがわかった一方、トライアルランでは各活動各段階について詳細な説明を求める声も寄せられた。しかし、長い説明や堅苦しい体裁は、先生方の読む気を削いだり、「新しいレッスンプラン」を強制するような誤解を招きかねない。内容を維持しつつ、極力説明を減らして使いやすいツールキットにすることが、MAKMur の全国展開の鍵のひとつになる。ただし、簡略化と詳細な説明のバランスは重要である。

【対応策】

MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットについては、マレーシアの全人教育にかかる諸活動の間で調和を図る必要があり、MAKMur の原則と MAKMur の活動基準がそのために重要であることは、強調しすぎることはないだろう。ツールキットや研修を通じて、明確なメッセージを発信し続けなければならない。

ある程度段階ごとの詳細な説明も必要だが、それが日ごとのレッスンプラン (Rancangan Pengajaran Harian [Daily Lesson Plan] : 以下「RPH」) のように見えると、新しいシラバスと誤解され、教員の負担が大きくなる。レッスンプランとは見えない体で、適切かつ魅力的なグラフィックデザインを考える必要がある。ツールキットは、内容をよりわかりやすく、シンプルに説明し、ビジュアル化することによって、改善へのプロセスの重要性を強調しながら、教員が負担に感じず、楽しい気持ちで創造性を発揮できるような内容にすることが必要である。

ツールキットには、魅力的なグラフィックデザインとともに、短いビデオを組み込み、MAKMur 活動の例を示す。マレーシアのパイロット校で実際に行われている活動の手短な紹介をすることで、ツールキットを使う人が活動の「計画、実行、振り返り」のサイクルを把握し、自分の学校の実情に合わせて調整できることを目指している。

5.2 調査について

【今後の課題】

本報告書の 3.1.2 で述べたように、ベースライン調査のデータ収集は 5 月末から 2022 年 6 月まで行われたが、データのクリーニングと分析に 2022 年 11 月まで時間を要し、予想より遅れた。これは、

今回の関係者間の役割分担では業務量に偏りが生まれてしまい、結果、教育省 MAKMur チームが担った調査ロジは問題がなかった一方、日本人専門家側が請け負ったデータクリーニングと統計解析に人手が足りなかったことが主因である。第2期での調査に備えて、十分な人的リソースを確保する必要がある。

【対応策】

2024年からの拡大に向けては、MAKMur 活動の有効性を支持する強いエビデンスを示すことが重要である。計画した調査のデータ処理に十分な人材を配置し、結果を迅速にまとめる必要がある。教育省との議論により、データ収集・整理までは教育省による実施が検討されている。

5.3 研修・サポートシステム

【解決途上】

指導者研修（Training of Trainers：以下「TOT」）のセッションで使用する教材は英語で準備されたが、一連のセッションが始まった当初、参加者にとって初めての内容を直感的に理解することが困難なケースが見受けられた。講義の言語をマレー語に変更したところ、参加者が MAKMur をしっかり理解したことがわかった。これは、説明のための母語の重要性を示唆している。こうしたことから、すべての研修でマレー語を使用することに決めた。

しかし、言語を変えたとはいえ、日本式の全人教育の根本的なコンセプトへの理解を得るのは簡単なことではないことが TOT を通じてわかった。たとえば、教育省のメンバーであっても、「クラスや学校は小さなコミュニティとみなすことができる」ということを深いところまで理解するには相当時間を要した。そこで、TOT 後の教員研修では、すぐわかることを優先し、日本の全人教育について簡単な説明を用いることにした。¹⁵

各パイロット地区での教員研修の実施については、内容を簡略化したことが功を奏した。MAKMur が「日本の教育方法をそのまま輸入したものではない」ことを強調するとともに、「MAKMur は、それぞれの学校の実情や慣習に合わせ、子どもが調和のとれた個人として成長するための学びを高めるプロセスである」というメッセージを伝えたことで、教員らの理解を得られたようだ。

【今後の課題】

教育省地区事務局（Pejabat Pendidikan Daerah [District Education Office]：以下「DEO」）の規約上、教員研修の時間を学校の休暇中に設定することはできない。放課後の時間帯に設定しなければならないが、多忙な教員に都合のよい時間を設定するのは容易ではない。そのため、普及期には、集中研修は、MAKMur コーディネーター等それぞれの学校における中核的な教員を対象として、一般の小学校教員に対しては、負担を軽減するため、集中研修とは別の方法を選択したほうがよいと思われる。

【対応策】

小学校・幼稚園共通

たとえば、DEO に所属する学校改善パートナー（School Improvement Partners：以下「SIP+」）や学校改善専門家コーチ（School Improvement Specialist Coaches：以下「SISC+」）等による対面での MAKMur コーディネーターを対象とするワークショップとともに、一般の教員を対象とするオンラインシステ

¹⁵日本の全人教育における深い概念を理解したうえで現地の実情に合わせた実践をするのが好ましいのは言うまでもないが、仮にそのようにしていたら、教員の間に混乱が生じたかもしれない。

ムを使った情報交換やモニタリング等を検討している。特に、他の学校での活動の様子を画像やビデオ等視覚的に理解することは、はじめて MAKMur 活動を考えるうえで大きな参考になる。たとえば、児童の作品展示を MAKMur 活動として取り組むことを検討する場合、一部の学校では教室に大きな掲示板を設置することができない設備環境にあるが、同様の環境にある他の学校での工夫の様子を知ることが大きなヒントとなる。

導入後のサポートについては、MAKMur 活動を深め広げるために、くつろいだ雰囲気の中で教員が実践を共有し、振り返りを行う場所（リアルまたはバーチャル）を提供することが不可欠である。また、研修の内容に関して教員から質問があった場合は、学校内の MAKMur コーディネーターによるフォローアップが必要だ。また、上述のオンラインシステム上で MAKMur 活動にかかわる教員同士の実践や経験、ヒントを共有するピア・ツー・ピアサポートがあるとより実践が促進されるであろう。「消極的な児童の励まし方」「欠席や遅刻への対応」などがその例だ。大規模な展開を円滑に行う必要があるため、オンラインプラットフォーム用コンテンツ作成のプロであるスタッフの採用も検討する。

特に幼稚園に対するサポート

大半の小学校の附属幼稚園は 1~2 クラスのみで、学校内で幼児教育を担当する教員数も少ない。よって、教員間の経験の共有やサポートの機会は限定的と思われる。幼稚園教員の「遊びを通しての学習」についての情報を得るニーズに鑑み、各地区でモデル教員を決めて、同じ地区の教員がその教員のクラス活動を随時参考にできるようにすることが望ましい。

また、MAKMur プロジェクトにおける就学前教育を特に担当するキーパーソンを、省内、たとえば教員養成機関（Institut Pendidikan Guru (Institute of Teacher Education)：以下「IPG」）から選定する必要がある。キーパーソンには、MAKMur の幼稚園活動を円滑に進めるとともに、モデル幼稚園教員の「ヘルプライン」、云わば、タイムリーに相談できる相手になってもらうことが期待される。なお、キーパーソンには、JICA が主催する本邦研修への参加が求められる。

5.4 カリキュラムについて

【解決途上】

すでに小学校や幼稚園の時間割に空きがなく MAKMur 活動を行う時間を確保できないことから、教科の授業（Pengajaran dan Pembelajaran [Teaching and Learning]：以下「教科の授業」）、教科外活動、学校行事など、ほぼすべての時間に MAKMur 活動を取り入れる形で MAKMur キャパシティブルディング・ツールキットを Ver. 2 として改訂した。特筆すべきは、全人教育の要素をすべての時間に組み込むことは、「学校に行くときから学校を出るまで全人的な成長を促す活動を行う」という日本の全人教育にも通じるものであり、教育協力週間 2023 における議論でも指摘されたことである。¹⁶

【今後の課題】

日ごとのレッスンプラン（Rancangan Pengajaran Harian [Daily Lesson Plan]：以下「RPH」）の作成は、特に全教科を一人で教える幼稚園教員にとって負担が大きい。教員らは、日課の概要以外に各教科の詳細な計画まで書くことを要求される。普及活動に伴う負担について、引き続き教員らの声を聴かな

¹⁶日本の全人教育の特徴の一つは、認知能力と非認知能力を相互補完的に発達させることを目的としていることである。

ければならない。

特に就学前教育では、さらにカリキュラムに関して課題がある。「遊びを通じて学ぶ」ことで能力や技能を育みたいという熱意をもつ幼稚園教員らに、読み、書き、算術（Membaca, Menulis dan Mengira [reading, writing and arithmetic skills]:以下「3M」）に対する学校内外の期待がに重くのしかかっている。遊びを通じた学びは、MAKMur の理念の一つである「体験を通じた学び」の実現であり、MAKMur の肝でもあるため、解決策を見出さなければならない。

【対応策】

小学校および幼稚園のレスンプラン作成について、日単位から週単位の作成へ制度変更を検討する。この変更により、教員は、体験を通して学ぶための教育内容を準備し、振り返る時間的余裕が生まれる。特に幼稚園では、日々の生活の場で繰り返し学ぶことができるようなレスンプランの作成が必要である。

5.5 学校風土について

【今後の課題】

マレーシアの学校風土には、MAKMur とは異なる方向の考え方があることがわかった。

教育省によると、マレーシアの学校では、褒賞授与が頻繁に行われている。質の向上を目的とするならば、競争は良いこととされている。しかし、結果を求めることが目的であれば、逆効果になる可能性もあり、危険である。MAKMur の原則で強調されているように、児童のモチベーションは外的要因ではなく、内省的であることが期待される。

また、一部の選ばれた児童が他の児童を監督する権限を持つ舎監制度についても懸念している。このような舎監の強いリーダーシップは、MAKMur の原則である「機会均等」と矛盾する可能性があり、すべての児童にリーダーシップを与えることを目指す MAKMur の懸念となりうる。

教室の環境について触れると、教室の壁には多くの展示物があるが、そのほとんどは教員が準備したものだ。児童の作品を展示することで、児童の自尊心やクラスへの帰属意識を高めることができる。

【対応策】

教育省の期待は、結果を出すことや競争に勝つことよりも、そのプロセスを重視することである。すべてのプロセスを共にし、その成果を共有することは、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットに示された「振り返り」に他ならず、児童がこれからも共によくなっていくとする動機付けとなり、競争から協力へと学校風土が変わることを意味している。

学校風土が協力に変わるという点では、トライアルラン後のフィードバックで一部の教員から MAKMur 活動の実施により同僚性が高まったこと等が指摘された。これは MAKMur の浸透が始まったと見ることもできる（付属資料 13 を参照）。

舎監制度については、既存の舎監制度を尊重したうえで MAKMur を導入する方法を模索することが、合理的な解決策であろう。具体的なアクションとしては、児童や保護者に MAKMur の理念を浸透させる、MAKMur 活動を行ううえでの具体的なルール（例：すべての役割を尊重すべきこと）を設定するなどが挙げられる。

教室の環境については、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver.2 から、パイロット校において、児童が製作したものの展示が始まっている。ただし、学校の設備環境により、教室の中に十分な掲示用のスペースがない場合がある。しかし、そのような場合でも、工夫して掲示してい

る教室もある。このようなグッドプラクティスを共有する仕組みが必要である。

5.6 特別支援教育について

【今後の課題】

MAKMur の全国展開のためには、特別支援教育への MAKMur 活動の実践を検討する必要がある。既に一部パイロット校では特別な支援が必要な児童に対する MAKMur 活動の導入が検討されている。インクルーシブな取り組みについては、2023 年 5 月に教育省地区事務局 (DEO) を対象として川口専門家による特別支援教育ワークショップが実施されたばかりであり、今後の検討が必要とされている。

【対応策】

インクルージョンについては、MAKMur の理念と基準に基づいてどのような活動を導入し、学校に対してどのような支援を行うべきか知見の蓄積が必要である。当然、そのような活動や支援は状況により異なる。上記ワークショップによりその可能性が検討されたばかりであり、第 2 期に実現性を調査して全国展開の計画を立てる必要がある。

5.7 保護者と地域コミュニティの関与

【今後の課題】

MAKMur の全国展開には、MAKMur への理解と保護者や地域コミュニティの関与が不可欠である。事実、第 1 期においては、ベースライン調査の結果、保護者の子どもに対する関わり方や態度が子どもの能力評価、特に「子どもの興味の尊重」、「行動や経験について子どもと一緒に振り返ること」と正の関係があることが判明した。保護者や地域コミュニティに対するアドボカシー活動を始めたばかりだが、これらの事柄を意識すべきだろう。

【対応策】

保護者を含む様々なステークホルダーから MAKMur への賛同を得るためには、広範なアドボカシー活動が不可欠である。たとえば、DEO の支援のもとで全人教育フェアを定期的で開催し、非認知能力の育成に関するセミナーを保護者を対象に実施することを勧めたい。これは、児童の認知能力を高め、調和の取れた個人を育てるのにつながる。特に MAKMur 活動の初期段階では、校長や教員には、児童や保護者に MAKMur の理念をわかりやすく説明し、その後もその重要性や有効性を訴え続けることが期待される。

就学前教育については、読み、書き、算術 (Membaca, Menulis dan Mengira [reading, writing and arithmetic skills] : 以下「3M」) の重視と就学前教育における MAKMur の肝である「遊びを通して学ぶ」アプローチとのバランスを MAKMur 関係者全員で再考することが重要である。

親が MAKMur に参加する方法は 2 つある。ひとつは、学校行事を含む学校生活への参加や、授業でやっていることを子どもと話し合うなど、学校生活を通して伝えられてきた MAKMur のコンセプトを理解することである。2 つ目は、家庭内での関わりであり、たとえば、保護者が家庭で MAKMur の理念に沿った形で子どもの能力や価値観を伸ばすような関わり方をすることである。朝の挨拶活動に保護者が参加する例が一部パイロット校で確認されている他、連絡帳 (communication book) の導入や、児童自身が作成した個人目標に保護者がコメントを入れる、といった取り組みが見られる学校もある。このような家庭を巻き込む活動事例を学校間で共有して広める必要がある。

5.8 長引いた学校閉鎖

[解決途上]

プロジェクト・デザイン・マトリックス (Project Design Matrix : 以下「PDM」) は、プロジェクト実施にあたり「長びいた学校閉鎖」を重要な前提条件としている。実際、マレーシアの学校は 2021 年 10 月、11 月まで閉鎖されており、学校再開後も、学校の活動はあまねく厳しい SOP の下で管理されていた。たとえば、学校に通える児童の人数に制限が加えられた。

実際、プロジェクトが始まった当時の 2021 年 8 月から 9 月頃に掛けては、この閉鎖期間の予見が困難であったため、キャパシティビルディング・ツールキットの試作時点では、通常の対面での MAKMur 活動とともに、非対面でできる活動も検討した。活動の実現可能性を探るため、パイロット校 15 校とのオンライン会議を開き、授業の様子やネット環境の情報収集を行った (付属資料 1 を参照)。また、教育省側のニーズをよく聞きとり内容に取り入れるため、率直かつ広範囲に議論を重ねてプロジェクト活動の基点となるコンセプトを明確にした。このためツールキットの作成に時間を要することになった。一方、教育省との対話を繰り返し、マレーシア側のニーズを汲みながら時間をかけてツールキットの準備を進めたことにより、学校現場への MAKMur 活動の定着がスムーズに進むことになったと言える。また、この時期に TOT をオンラインで進めるべく研修事前学習用ビデオ作成 (マレー語吹き替え付き) とともにベースライン調査の準備・調整をした。

2022 年 5 月からは、この厳しい制限が解除され、対面授業や活動が開始されたため、最終的には、MAKMur 活動として非対面型を当面採用しないこととなった。第 1 期では学校閉鎖によりプロジェクトが停滞したが、第 2 期では MAKMur 活動を円滑に実施できるものと見込まれる。

5.9 マレーシア政府側政策変更

[解決途上]

第 1 期の途中で、教育省が「Sekolahku Sejahtera」という、MAKMur プロジェクトとコンセプトが似ている新政策を打ち出した。MAKMur と新政策の両立の調整に時間がかかり、本プロジェクトの進捗に若干の影響があった。

2022 年末、マレーシア政府および教育大臣の交代に伴い、政策が「7 Teras Utama Tumpuan」(7 つの主要な核心という意味) に変更された。7 Teras Utama Tumpuan の一部は全人教育にかかわるもので、チームは MAKMur がこれと調和するよう留意し、プロジェクト進行に逆効果は見られない。

6. 第2期の活動計画

第2期活動計画の概要を以下に示す。

成果	活動の概要	実施予定
1-2 ベースライン調査を実施する。	計画、実施、分析の支援 <ul style="list-style-type: none"> 中間調査 エンドライン調査 フォローアップ調査 	2023年9月～11月 2024年9月～11月 2025年9月～11月
1-3 学校やDEO、SED、教育省向けのMAKMur キャパシティビルディング・ツールキットをドラフトする。	改訂の支援 <ul style="list-style-type: none"> Ver. 3 最終版 	2023年12月 2024年12月
1-5 ツールキットについて教員を研修する（新規校対象）。	計画・実施の支援	2024年1月～2月
1-6 パイロット校にてツールキットを参照したMAKMur 実践を試行する。	研修指導者やMAKMur チームとともに導入パイロット活動対象校を訪問助言	2023年7月～
1-7 ツールキットの評価と最終化を行う。	最終化のための助言 <ul style="list-style-type: none"> Ver. 3 最終版 	2023年11月～12月 2024年11月～12月
2-1 教育省向けのMAKMur 実施ツールキットをドラフトする。	策定の支援 <ul style="list-style-type: none"> Ver. 1 Ver. 2 	2023年12月 2024年12月
2-2 TOT を実施する。	計画・実施の支援 <ul style="list-style-type: none"> 1回目 	2024年1月
2-3 教育省(DEO、SED 含む)職員への研修を実施する。	計画・実施の支援 1回目	2024年1月
2-4 対象地域内の非パイロット校を対象に、ツールキットを参照したMAKMur の実践普及を試行する。	計画・実施の支援	2024年1月～
2-5 ツールキットの評価と最終化を行う。	最終化のための助言 <ul style="list-style-type: none"> Ver. 1 Ver. 2 	2024年1月～3月 2025年1月～2月
3-1 MAKMur の継続的展開に必要な制度上の調整事項を特定する。	教育省への助言	2023年10月～12月
3-2 教育省にMAKMur 担当部署を設置する。	所管部署の特定や設置の支援	2024年7月～12月
3-3 パイロット地域以外へのMAKMur の普及計画を策定する。	展開地域、目標設定、連携方法、人材の育成・研修方法など	2024年7月～12月

	の助言	
3-4 普及計画に基づき、予算を確保する。	組織・予算・人員・政策面での助言	2023年11月 2024年11月
3-5 アドボカシーイベント（メディア広報、カンファレンスなど）を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 教育関係者や保護者に対する理解醸成・啓発イベントの実施 国際的研究ネットワーク等への参画 本邦研修 JICA ウェブサイトや SNS 等を介した広報 	2023年9月～ 継続 2024年11月 継続～
モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> 合同調整委員会（JCC）の開催支援・報告 モニタリングシート 	2024年2月/2025年2月/2025年11月 半年に1回計5回
報告書	<ul style="list-style-type: none"> ワークプラン 中間調査報告書 パイロット校コントロール校調査報告書 業務完了報告書 	2023年7月～8月 2024年1月 2025年10月～12月 2025年10月～12月

6.1 成果1の活動計画

〔活動 1-2〕 ベースライン調査を実施する。

付属資料 5 [中間調査計画書（案）]

中間調査計画

ベースライン調査に続き、中間調査では、ベースライン調査結果と比較しながら、児童、教員、保護者への MAKMur 活動の影響を明らかにすることを計画している。また、インタビューと授業観察という2つの他の調査方法は、データ収集の補助的な方法として採用された。ただし、教員の負担軽減に向けた新たな方針に基づき¹⁷、教員の負担を最小限に抑えるため、中間調査では数の概念獲得に関する実験を省略し、調査対象から幼稚園児を除外することにした。一方、ベースライン調査では見送ったインタビューと授業観察を実施し、パイロット校と非パイロット校の間の集団としての子どもの力や教員の授業スタイルの違いについてデータ収集する計画である。

中間調査期間

2023年9月（予定）

¹⁷ 新大臣の就任に伴い2023年2月17日に新たな教育方針が発表された。

対象校

対象校は表 10 に掲載

調査方法

中間調査では、現場データの裏付けとして、インタビューと授業観察という 2 つの調査方法を追加し、ベースライン調査の結果との差異を追跡調査する。

具体的には、以下の 5 つの項目を中間調査で調査を行う。

表 13 中間調査の目標

No.	目標	調査対象者・回答者
1	児童の非認知能力の育成度合いを以下の観点から明らかにする。 (1) パイロット校と非パイロット校のベースライン調査と中間調査との相違 (2) 人口統計学的プロフィールによる相違 (男性対女性、都市部対非都市部の学校)	ベースライン調査に参加したパイロット校と非パイロット校の 5～6 年生の児童
		ベースライン調査に参加した 2 年～6 年のクラス担任の教員
		ベースライン調査に参加した小学 2～6 年生の保護者
2	保護者の関わりと児童の非認知能力との関係を明らかにする (目標 1 にて確認)。	ベースライン調査に参加した小学 2～6 年生の保護者
3	各パイロット校における MAKMur に関連する教室内外の活動を明らかにする。	パイロット校の 1～6 年のクラス担任の全教員
4	パイロット校で実施された MAKMur の活動や、その変化や課題について、教員・児童・保護者からさらなる洞察を得ること。	下記のインタビュー (1) MAKMur コーディネーター ¹⁸ (2) 小学校低学年のクラス担任 (3) 小学校高学年のクラス担任 (4) 6 年生の児童 (5) 保護者
5	パイロット校と非パイロット校の間で、児童のクラスでの集団行動や、教員の教科の授業スタイルの違いを明らかにする。	パイロット校・非パイロット校での授業観察

表 14 ベースライン調査と中間調査との間で採用した調査方法の違いのまとめ

調査方法	ベースライン調査	中間調査
児童へのアンケート	○	○
クラス担任へのアンケート	○	○
小学生保護者へのアンケート	○	○
幼稚園児保護者へのアンケート	○	×

¹⁸ 学校単位で MAKMur 活動を分掌する教員のこと、中堅の教員が担当することが多い。

学校長へのアンケート	○	×
数概念獲得の実験	○	×
学校での MAKMur 活動に関するアンケート	×	○
インタビュー	×	○
授業観察	×	○

中間調査から期待される成果

- **MAKMur 活動の効果に関するエビデンスを提供**

パイロット校と非パイロット校で非認知能力・スキルの変化を評価し、その差が有意であれば、MAKMur 活動と子どもの能力・スキルの発達の因果関係を示すことになる。つまり、ツールキットを用いた MAKMur 活動の有効性を一定程度証明することができる。

また、パイロット校と非パイロット校の授業観察やインタビューから得られる情報も、MAKMur 活動の有効性に関する間接的な証拠となり得る。できる限り多くの授業を観察して、客観的エビデンス収集を目指す。

- **MAKMur ツールキットの最終化**

MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 2 を用いて、パイロット校で MAKMur 活動がどのように実施されたか、その活動が児童の能力にいかに関与しているかを確認することができる。これは、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットを完成させるための最も重要な情報の 1 つである

- **教育環境改善のための情報提供**

児童の価値観の内面化は、MAKMur が目指すことに他ならないが、その実現には長い時間を要する。一方、パイロット校における MAKMur 活動を 1 年間試行した初期段階で、MAKMur の原則を踏まえた授業改善がどの程度見られるか等、内面化を強化する試みについて観察することができる。

6.2 成果 2 の活動計画

〔活動 2-2〕 TOT を実施する。

〔活動 2-3〕 SED および DEO の職員を含む教育省職員に対する研修を実施する。

MAKMur 普及のための重要な活動の一つとして、2024 年に小規模な展開が始まる前に、SED や DEO の担当者を含む教育省職員に対する実施・研修のための TOT が計画される。内容は、普及のための実施ツールキットの使い方を想定しており、想定される参加者にとっては身近なものとなる。そのため、TOT と対教育省職員向け研修を組み合わせた 1 回のみ開催となる可能性もある。

〔活動 2-4〕 MAKMur の実践をパイロット地域内の非パイロット校を対象に展開する。

〔活動 2-5〕 ツールキットの評価と最終化を行う。

2024 年度からは、以下の 6 校と中華系国民型学校 (Sekolah Jenis Kebangsaan Cina [Chinese National Type School] : 以下「SJKC」、インド系国民型学校 (Sekolah Jenis Kebangsaan Tamil [Tamil National Type School] : 以下「SJKT」) の数校で普及または小規模な展開を計画し、実施ツールキット Ver. 1 の実行

可能性を検証する予定である。なお、この6校は、2022年の基礎調査および2023年の中間調査の対象校となる。

表 15 2022年の基礎調査および2023年の中間調査の対象校

地区	学校名
Sentul	SK Segambut Makmur
	SK Kiaramas
Bentong	SK Janda Baik
	SK Tuanku Fatimah
Pasir Mas	SK Sri Kiambang
	SK Gelang Mas

普及についてDEO担当者からフィードバックを受け、それをもとに2024年末までにツールキットを完成させる予定である。

6.3 成果3の活動計画

〔活動3-1〕活動1と2の結果を確認し、MAKMurの継続的展開に必要な制度上の調整事項を特定する。

〔活動3-2〕教育省にMAKMur担当部署を設置する。

上記のアクションプランには、MAKMurコーディネーター、学校監督者、IPGトレーナー、IAB講師、SIP+、SIC+、DEOの責任や役割が含まれている。この責任や役割は、現職教員（IPGで学ぶ学生）や現職教員のキャパシティビルディング、保護者やコミュニティに対する全人教育のアドボカシーのために設定されており、これらは実践の普及や担当部署の設置の基礎となるものである。

2024年に実施される「パイロットの普及」のレビューにより、MAKMurの持続可能性に必要な制度上の調整事項を特定し、2025年からパイロット地域で本格的に展開するための教育省内の関連部署の配置を手配することができる。

〔活動3-3〕パイロット地域以外へのMAKMurの普及計画を策定する。

〔活動3-4〕普及計画に基づき、予算を確保する。

上記のアクションプランには、2026年度から実現が期待されるパイロット地域以外へのMAKMurの普及計画が含まれる。次の課題は、実現可能性の観点から普及計画の詳細を2024年度後半に普及計画案¹⁹としてまとめ、明確にすることである。予算については、2023年3月中旬に教育省MAKMurチームのメンバーで準備的な討議が行われた。具体的な予算計画については、上記普及計画案に基づいて教育省内で行われる予定である。

¹⁹ 教員研修・情報交換のためのオンラインプラットフォームコンテンツの作成を含む。

ANNEX 0

LIST OF ANNEXES (OUTPUTS)

付属資料（成果物）リスト

LIST OF ANNEXES (OUTPUTS)

ANNEX Number	Output Title	Purpose/Gist	Corresponding Activities	Implementation Date
1	Interview Session with the School Leaders in 2021	To gather the basic information needed to plan MAKMur Capacity Building Toolkit and baseline and endline surveys by the long-term expert on the Japanese side	Activity1-1	09/2021
2	Report on Dialogue Session with MAKMur Pilot Schools' Preschool Teachers	To exchange views on the situation and the latest trends regarding the holistic education in elementary school and kindergarten by the pre-school education expert from the Japanese side	Activity1-1	06~07/2022
3	Report on Visits to MAKMur Pilot Schools in August 2022	For class observations, school visits, and discussions with school supervisors and elementary school teachers by the holistic education expert from the Japanese side	Activity1-1	08/2022
4E	Base-line End-line Survey Interim Report (Phase 1)	To gather evidence of MAKMur's effectiveness, materials for public awareness and advocacy activities, information for improving the educational environment, and information for toolkit development	Activity1-2	05~06/2022
5	Plan of Mid-term Survey (Draft)	A plan to identify the impact of MAKMur activities on children, teachers, and parents in comparison with baseline survey results	Activity1-2	03/2023

6	MAKMur Capacity Building Toolkit Prototype Version	Teacher's guide to planning, doing, and reflecting on activities to enhance children's holistic competence	Activity1-3	03/2022
7	MAKMur Capacity Building Toolkit Ver. 1	Ditto	Activity1-3	07/2022
8	MAKMur Capacity Building Toolkit Ver. 2	Ditto	Activity1-3	02/2023
9	Record of TOT	Training to build trainers' capacity on how to plan, do and reflect on MAKMur based on the Capacity Building Toolkit developed	Activity1-4	04/2022
10	Record of Teacher Training	Training for teachers to improve their capacity to plan MAKMur activities based on the Capacity Building Toolkit Ver. 1	Activity1-5	07~08/2022
11	Workshop "Learning through Play" May 2023 Proposal	Teacher training for making specific MAKMur activity plans in kindergartens	Activity1-5	04/2023
12	Workshop "Possibilities of MAKMur Activities including Children with Special Needs" May 2023 Proposal	Training for school administrators to incorporate elements of inclusive education into MAKMur to achieve enhanced activities	Activity1-5	04/2023
13	Report on Trial Run Implementation based on MAKMur Capacity Building Toolkit Version 1	Collection of teachers' feedback and insights on MAKMur Capacity Building Toolkit Ver. 1 and effectiveness of pilot implementation	Activity1-6	08~10/2022
14	Record of Teacher Training Attachment Program at JSKL	Observation of Japanese-style holistic education by pilot	Activity2-1	10~11/2022

		school teachers, principals, IPG lecturers, and MoE staff		
15	Report on Training Session in Japan	Lectures, workshops and school visits arranged by Japanese experts and professors and attended by MoE and DEO personnels and teachers from the pilot schools	Activity2-1	10~11/2022
16	MAKMur Action Plan 2022 - 2025	Expansion strategy for nationwide implementation of MAKMur developed during training sessions in Japan, and organizational framework for capacity building and advocacy for that purpose	Activity2-1	11/2022
17	MAKMur Implementation Toolkit Ver. 1 (Draft)	A guide for DEO personnel drafted at a workshop attended by DEO, SIP+, SISC+ personnels, MAKMur Team and Japanese experts	Activity2-1	3/2023
18	Holistic Education Forum Video (CD-R)	A webinar to share information on Japanese-style holistic education obtained through training sessions in Japan and the attachment program at JSKL	Activity3-5	3/2023
19	SEAMEO-Tsukuba Symposium (Presentation Record)	Presentation and panel discussion on the significance of holistic education in Malaysia at SEAMEO	Activity3-5	2/2022 2/2023
20	JICA Shikoku (Presentation Record)	Explaining the background and outline of MAKMur to Japanese participants online	Activity3-5	8/2022
21	JICA Educational Cooperation Week 2022 (Presentation	Explaining the background and outline of MAKMur as part of	Activity3-5	9/2022

	Record)	the 2nd Education Cooperation Week		
22	JICA ODA Mieruka Website (Published Articles)	Project outline posted on JICA website	Activity3-5	9/2022
23	JICA Project News (Published Articles)	Bimonthly posting of the project news on JICA website (from September 2022 up to May 2023)	Activity3-5	9/2022~
24	Minutes of Meeting on MAKMur Joint Coordinating Meeting (JCC)	2/2022 Minutes 3/2023 minutes (in MoE circulation)	Project Management	2/2022 3/2023
25	Record of Learning Walk	Record of school visits conducted to obtain feedback on activities using the MAKMur Capacity Building Toolkit Ver. 2	Activity1-3	4~5/2023
26	Record of Workshop "Learning through Play" May 2023	Same as 12	Activity1-5	5/2023
27	Record of Workshop "Possibilities of MAKMur Activities including Children with Special Needs" May 2023	Same as 13	Activity1-5	5/2023
28	Publicity Video (CD-R)	Publicity video of MAKMur activities in pilot schools	Activity3-5	5/2023

付属資料（成果物）リスト

付属資料 番号	成果物タイトル	趣旨・目的	対応活動	実施日
1	2021年の校長インタビュー	日本側の長期専門家による MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットとベースライン・エンドライン調査の計画に必要な基本情報を収集するため	活動 1-1	09/2021
2	MAKMur パイロット校の幼稚園教員との座談会報告書	日本側の就学前教育専門家による小学校と幼稚園の全人教育に関する状況や最新動向について意見交換をするため	活動 1-1	06~07/2022
3	2022年8月 MAKMur パイロット校視察報告書	日本側の全人教育専門家による授業観察、学校視察、学校監督者や小学校の教員との討論のため	活動 1-1	08/2022
4J	ベースライン・エンドライン調査中間結果報告書（フェーズ1）	MAKMur の有効性を示すエビデンス、啓蒙活動やアドボカシー活動のための資料、教育環境改善のための情報およびツールキット開発のための情報を収集するため	活動 1-2	05~06/2022
5	中間調査計画書（案）	ベースライン調査結果と比較しながら、児童、教員、保護者への MAKMur 活動の影響を明らかにするための計画書	活動 1-2	03/2023
6	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットプロトタイプ版	児童の全人的能力を高めるための活動「計画、実行、振り返り」を行うにあたっての教員用ガイド	活動 1-3	03/2022

7	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1	同上	活動 1-3	07/2022
8	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 2	同上	活動 1-3	02/2023
9	TOT 記録	開発されたキャパシティビルディング・ツールキットに基づき、MAKMur の計画、実行、振り返りの方法についてトレーナーの能力を高める研修	活動 1-4	04/2022
10	教員研修記録	キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 に基づき、MAKMur 活動の計画能力を高める教員研修	活動 1-5	07~08/2022
11	2023 年 5 月「遊びを通じた学び」ワークショップ計画書	幼稚園における MAKMur 活動を具体的に組み立てるための教員研修	活動 1-5	04/2023
12	2023 年 5 月「MAKMur 活動に特別支援教育を取り入れる可能性について」ワークショップ計画書	MAKMur にインクルーシブ教育の要素を取り入れ、より充実した活動を実現していくための学校管理者研修	活動 1-5	04/2023
13	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 による MAKMur 実践の試行報告書	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 1 および試行実施の効果について教員のフィードバックと洞察を収集したもの	活動 1-6	08~10/2022
14	JSKL 教員研修アタッチメントプログラム記録	パイロット校の教員、校長、IPG の講師、教育省のスタッフによる日本式全人教育の実践を視察	活動 2-1	10~11/2022
15	本邦研修報告書	教育省と DEO の職員およびパイロット校の教員が参加した日本側の専門家や教授による講義やワークショップと学校視察	活動 2-1	10~11/2022

16	MAKMur アクションプラン 2022-2025	本邦研修中に作成された MAKMur の全国的な実施に向けた拡大戦略、およびそのためのキャパシティビルディングとアドボカシーに関する組織的枠組み	活動 2-1	11/2022
17	MAKMur 実施ツールキット Ver. 1 (案)	DEO、SIP+、SISC+の担当者、教育省 MAKMur チーム、日本側の専門家が参加したワークショップでドラフトされた DEO 担当者用ガイド	活動 2-1	3/2023
18	全人教育フォーラム記録 (CD-R 収録)	本邦研修や JSKL でのアタッチメントプログラムを通じて得た日本式全人教育の情報を教育省の担当部署と 3 つのパイロット地区の教員で共有するためのウェビナー	活動 3-5	3/2023
19	SEAMEO-筑波大学シンポジウム (発表記録)	「東南アジア教育大臣機構 (SEAMEO) で行ったマレーシアにおける全人教育の意義についての発表およびパネル討論	活動 3-5	2/2022 2/2023
20	JICA 四国 (発表記録)	MAKMur の背景と概要についてオンラインを通じて日本の参加者に説明	活動 3-5	8/2022
21	JICA 教育協力ウィーク 2022 (発表記録)	「第 2 回教育協力ウィーク」の一環として MAKMur の背景や概要をオンライン上で紹介、パネルディスカッション	活動 3-5	9/2022
22	JICA 見える化サイト (掲載記事)	プロジェクト概要を JICA の HP に記載	活動 3-5	9/2022
23	JICA プロジェクトニュース (掲載記事)	2022 年 9 月より隔月でプロジェクトに関するニュースを同じく JICA の HP で発信 (5 月発信分まで格納)	活動 3-5	9/2022~
24	JCC 議事録	2/2022 議事録 3/2023 議事録 (教育省確認中)	プロジェクト管理	2/2022 3/2023

25	Learning Walk 記録	MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver. 2 を使用した活動に対するフィードバックを得る目的で実施した学校視察記録	活動 1-3	4~5/2023
26	2023 年 5 月「遊びを通じた学び」ワークショップ記録	12 に同じ	活動 1-5	5/2023
27	2023 年 5 月「MAKMur 活動に特別支援教育を取り入れる可能性について」ワークショップ記録	13 に同じ	活動 1-5	5/2023
28	広報用ビデオ (CD-R 収録)	パイロット校の MAKMur 活動の様子を撮影した MAKMur の広報用のビデオ	活動 3-5	5/2023

ANNEX 1

Interview Session with the School Leaders in 2021

2021年の校長インタビュー

**Sesi Libat Urus Konsultan Bersama-Sama Sekolah-Sekolah Rintis
Projek MAKMur**

Tarikh	Masa	Pejabat Pendidikan Daerah	Sekolah
23 September 2021 (Khamis)	10:00 – 10:45	Sentul	SK Intan Baiduri
			SK Sentul Utama
			SK Seri Nilam
			SK Seri Murni
			SK Batu Muda
	10:50 – 11:35	Bentong	SK Lebu
			SK Lurah Bilut
			SK Sungai Marong
			SK Sungai Dua
			SK Sri Layang
	11:40 – 12:25	Pasir Mas	SK Lati
			SK Lemal
			SK Sultan Ibrahim (1)
			SK Baroh Pial
			SK Banggol Petai

20 September 2021

Questions to school leaders of pilot schools

[About data collection]

1. Please let us know the number of students at your primary school and the number of children at your preschool as of September 2021.
2. Does each student have ID? We need to identify each student by ID when collecting data. It is because we are planning questionnaires for teachers, students and parents to trace each student's change of attitude and abilities at different times and its relation to school approach and family situation.
3. About what percentage of students/parents do access to internet through PC/tablet/smart phone? (We are planning to use Google Form for questionnaires.)
4. Are the data on socio-economic status of each child's family available? (for example, information on whether each individual child belongs to B40.)
5. Is it possible to conduct experimental observation of children even during school closure if we secure infection prevention measures sufficiently? For example, one teacher will meet one child to carry out experiment in an airy room.

[About implementation]

6. What do you think are main problems or hurdles when activities for student holistic development are introduced at your school? For example, parents' understanding, teachers' awareness barrier, and so on.
7. If parents' understanding for the activities are supposed to be the problems/hurdles, it is possible to carry out an awareness-raising campaign in community organisations such as mosque management committees?
8. With regard to preschools, 'free play' has been introduced into the curriculum since 2017. Has it become firmly established in preschool education? What do you think are its educational benefits?

		Number of children		Number of teachers	extra information	Does each student have ID? -> all students have ID	About what percentage of students/parents do access to internet through PC/tablet/smart phone?	Are the data on socio-economic status of each child's family available?			Is it possible to conduct experimental observation of children even during school closure if we secure infection prevention measures sufficiently?	What do you think are main problems or hurdles when activities for student holistic development are introduced at your school?
		Primary	Preschool					B40	M40	T20		
Sentul	SK Intan Baiduri	489	50	34	1 headmaster 3 vice-masters 5 staff		Possible	some students have devices with sharing siblings	80% category unemployed, own business, most of them are challenging time in the pandemic			school have no problem to experiment if we need some devices and equipment school try to assist
	SK Sentul Utama	353	25 (2class 1 special needs (5students) other preschool)	33			100%	share the device with siblings	28%	59%	13%	during school hours are OK
	SK Seri Nilam	779	25	57								
	SK Seri Murni	461	25 (in 1 class)	37			50%	sharing with parents google form no problem	70%			No problem
	SK Batu Muda	908	50	57	411 Y1-Y3 491 Y4-Y6		90%	90% can answer google form and less 10% school need assist	63%			No problem
Bentong SK Sungai Marong has 4 students with special needs in preschool	SK Lebu	234	16	23			not so good	answering Google form is no problem, student share device with parents	60%			No problem
	SK Lurah Bilut	312	43	31			problem	have problem to get responses group of Orang Asli (remote area) students and parents do not know how to answer google form use google form is challenge	50%			getting students of Orang asli to commit will be difficult. Their character are shy
	SK Sungai Marong	363	29	43			no problem	no problem town area location 5-10% of students are late response because they share devices with parents	20%			get them understand instruct to do MAKmur online will be difficult. if face to face approach is applied, thing will be a lot easier transportation is challenging. 50% use public transportation. Practicing outside school hours is a challenge
	SK Sungai Dua	160	16	17	7-12 yrs live in dormitory preschool: not live in dormitory		impossible	fully Orang asli impossible family do not use internet and device problem school cannot carry online	100%			use internet is problem participation in school is not a problem incur cost to school is also problem every two weeks school provides paper materials as homework
	SK Sri Layang	142	50	19			100%	no problem 100% response google form	17%			safety is major concern in raining season due to flood occur in highland area. participation from students are good
Pasir Mas	SK Lati	821	50	59			unstable	unstable	80% parents have small businesses			financial support from parents is a problem. participation is very good
	SK Lemai	483	25	49			80%	good connection internate connection. 80% of students share the devices with parents so that they can use devices after parents comeback	80% normally students have to wait come back parent low-income and mobile data provide is limited students share devices with family			
	SK Sultan Ibrahim (1)	1105	50	80			very good	online session is OK	50%			participation of students parents are very good. Good support and commitment from parents
	SK Baroh Pial	192	50	27			school: good home: not good	rural area school ministry provides good internet connection in school, but home internet is not good and parents have difficulty to connect internet	90% mobile data purchase is also difficult			using text messages is possible for communication. They share devices at home
	SK Banggol Petai	78	15	16			moderate	located in rural area internet: moderate internet is not covered all area	90%			Students share device with parents whatever activities online can be accessed after parents back from work. most of parents work in the morning. participation from parents are good, need to care of timing (should be afternoon or evening)

Average of children number (Primary)	Average of children number (Preschool)	Average of teachers number (Primary)			Ratio of B40 more than 50%	
			Good	6		11
459	31	39	Moderate or around 50%	4	Ratio of B40 less than 50 %	3
			not so good	4	no answer	1
			no answer	1		

マレーシア教育省ミーティング

2021年9月23日（木）日本時間 11時00分-13時40分

参加者：

マレーシア側：MAKMur チーム、パイロット校 15校の学校長等、JICA ハフィズ氏

日本側：坪川、森本、上野、坂口

1. 本日のインタビューの補足

- 全ての生徒は教育省が提供した E メールおよび ID に紐づけ可能である。
- オランアスリとのコミュニケーションが課題になりそうである。
- Sugai Dua では、教材を印刷して保護者が2週間ごとに引き取り・前週のを提出しにくる形式で進めている。対面授業であれば進めやすくなる。
- どの学校も「保護者は協力的である」とは言っているが、実際に参加できる保護者は限られているのではないか。
- 生徒も、オンラインでの授業参加はハードルが高いため、教員は学校が再開するのを待っている。

2. 来年度一年間予定されているハイブリッド形式

- 2022年度は4月開始。
- クラスを2つに分け、半分は対面授業、半分はオンライン授業を受ける。1週間ごとに交代。

3. JICA からのコメント

- Small fixture として、JICA 予算でサニタイザーの設置や衛生管理のための設備等を考えている。
- 来週日本人学校へ表敬訪問を予定している（日本人学校の校長先生が新しい方になった）。ニューノーマルでの SOP（standard operating procedure）を実行しているだろう。
- MAKMur チームにも後日訪問してもらい、プロジェクトの説明と協力を依頼。

※次回 MAKMur チームとのミーティングは9月27日（月）。

ツールキットの計画策定方法と、全体スケジュールについて。

ANNEX 2

Report on Dialogue Session with MAKMur Pilot Schools' Preschool Teachers
MAKMurパイロット校の幼稚園教員との座談会報告書

Report on Dialogue Session with MAKMur Pilot Schools' Preschool Teachers

Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur)

July 2022

Prepared by:

Registered Non-profit Organization Asia SEED

University of Tsukuba

TABLE OF CONTENTS

1. EXECUTIVE SUMMARY	1
2. INTRODUCTION	1
3. FINDINGS AND DISCUSSION	4
4. POLICY IMPLICATIONS AND RECOMMENDATIONS.....	12
5. CONCLUSION.....	12
6. APPENDIX	15

1. EXECUTIVE SUMMARY

Since the end of June to the beginning of July 2022, dialogue sessions between Ms Tsubokawa, a Japanese expert for preschool education, and preschool teachers of 15 pilot schools of MAKMur were held to gain information as a supplemental information to the information obtained through objective survey using questionnaires and experiments. The supplemental information, which has been obtained from the voices of teachers in the field who experience firsthand the current situation of kindergartens in Malaysia, may be subjective but is essential when considering future development of MAKMur project. Through the dialogue sessions, some challenges, which would be adverse to the future development and most of which are related to burden and pressure that teachers feel, have come to light. It is important to reduce the teachers' burden or pressure and to provide enough time so that preschool teachers can prepare and reflection of educational contents that are in line with principles of MAKMur.

2. INTRODUCTION

The Project for Promoting Holistic Education (in Malay, *Memperkasakan Amalan Kemajadian Murid*, hereinafter referred to as "MAKMur") is a technical cooperation project between the Ministry of Education of Malaysia and the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"). Ministry of Education of Malaysia has been actively providing learning opportunities for students' internalisation of values and holistic development through various programmes and initiatives of curriculum reform and learning activities that focus on students' cognitive and non-cognitive development. MAKMur project is aimed at promoting further development of the holistic education in Malaysia through technical cooperation between Malaysia and Japan.

The overarching goal of the Projek MAKMur is to determine the feasibility of the process of integrating balanced-individual growth into teaching and learning paying close reference to the concepts of holistic education in Japan as well as existing practices in Malaysia. Here, 'balanced individual' is defined as a person who is equipped with the integration of Thought, Feeling (Socio-Emotional) and Behaviour.

In order to achieve the goal, MAKMur activities are expected to be introduced to 15 pilot primary schools including preschools (5 schools in Bentong, 5 schools in Sentul and 5 schools in Pasir Mas). The activities will be designed by each teacher assisted by school coordinators according to their school and class context. MAKMur principles and criteria of MAKMur activities have been set to guide the teachers in 'plan, do and reflect' of the activities as follows.

MAKMur Principles

- Learning through experience
- Self-motivation
- Equity

Criteria of MAKMur activities

- Value of mistakes
- Student-driven
- Opportunities for every student

Dialogue sessions between Ms. Tsubokawa, a Japanese expert for preschool education (accompanied by Dr. Ueno Ryoichi and Ms. Hidayah Mohamad, Japanese Technical Experts/Consultants from Asia SEED) and preschool teachers at 15 pilot schools were held in all PPD Office in three MAKMur pilot districts. It is important to note that the purpose of Ms. Tsubokawa's dialogue session was not to conduct an objective survey, but rather to listen to the voices of teachers in the field who experience on the first hand the current situation of kindergartens in Malaysia, which is essential when considering future development. Although the information is formed, to some extent, from a subjective point of view, it would be supplementary to what can be obtained through objective survey using questionnaires and experiments and would be indispensable when taking consideration to further enhance MAKMur as well as ensuring the feasibility of the process of MAKMur.

The dialogue sessions in every pilot district were led by the Japanese expert for preschool education, Ms. Tsubokawa Kumi. Ms Tsubokawa Kumi received her master degree in education from the University of Alabama at Birmingham and has been appointed as JICA Expert in Early Childhood Education field. Currently, she also holds a Vice principal position in Seirei Hamamatsu Hospital Hibari Kindergarten in Shizuoka Prefecture. Dr. Ueno Ryoichi, a Team leader of Japanese experts/ Consultant from Asia SEED and Ms. Hidayah Mohamad, a Consultant from Asia SEED accompanied Ms Tsubokawa Kumi and assisted her

during dialogue sessions. Please find the Attendees list for each pilot district as follows.

BENTONG DISTRICT

Date: 29th June 2022 (Wednesday)

Venue: Kamar Transformasi, Ground Floor, PPD Bentong

Time: 14:30-16:00

Name	Designation& Affiliation
Anie A/P Than Il	SK SUNGAI DUA
Rohani Binti Che Kar	SK SG. MARONG
Farahatun Nailah Binti Mansor	SK SRI LAYANG
Noor Ermielia Binti Mohd Rahmad	SK LEBU
Norhafizan Binti Mat Jidin	SK FELDA LURAH BILUT
Irasuzura Binti Ibrahim	SK LEBU
Nurharani Binti Selamat	EPRD, MOE
Ahmad Zaki Bin Hussain	Pejabat Pendidikan Daerah Bentong
Norani Binti Mohd Ludin	Pejabat Pendidikan Daerah Bentong
Zulkifli Bin Awang	Pejabat Pendidikan Daerah Bentong
Kumi Tsubokawa	Asia SEED/JICA
Ueno Ryoichi	Asia SEED/JICA
Hidaya Mohamad	Asia SEED/JICA

SENTUL DISTRICT

Date: 30th June 2022 (Thursday)

Venue: Bilik Mesyuarat, Level 1, PPD Sentul

Time: 14:30-16:00

Name	Designation& Affiliation
Sallibiah Binti Sulong	SK BATU MUDA
Nor Azila Binti Mat Saad	SK BATU MUDA
Suhain B Ahmad Razaly	SK SERI MURNI
Jayaletchumy Verapathren	SK SERI NILAM
Nor Azian Binti Zaimal	SK INTAN BAIDURI
Noratiqah Binti Jumien	SK SENTUL UTAMA
Raid Rohaya Raja Berahim	SK SENTUL UTAMA
Vanitha Thambirajah	EPRD, MoE
Rofii Bin Hussein	Pejabat Pendidikan Daerah Sentul

Encik Adam Tan Kheng Huat	Pejabat Pendidikan Daerah Sentul
Tsubokawa Kumi	Asia SEED/JICA
Ueno Ryoichi	Asia SEED/JICA
Hidaya Mohamad	Asia SEED/JICA

PASIR MAS DISTRICT

Date: 4th July 2022 (Monday)

Venue: Bilik Wawasan, Level 1, PPD Pasir Mas

Time: 14:30-16:00

Name	Designation& Affiliation
Siti Aminah BT Ibrahim	SK LEMAL
Aiffah binti Mat Daud	SK BANGGOL PETAI
Siti Faziani bt Osman	SK SULTAN IBRAHIM (1)
Mahani bt Noh	SK SULTAN IBRAHIM (1)
Nor Aziah bt mamat	SK LATI
Rosmaini bt ab razak	SK LATI
Muhammad Aizat bin Ibrahim	SK BAROH PIAL
Zaimah Ab Eduman	SK GELANG MAS
Siti Aminah BT Ibrahim	SK BAROH PIAL
W. Sanioh Bt W. Husdin	SK Sri Kid
Zuraini Bt Mat Deris	SK GELANG MAS
Md Sargowi B Mohe Nor	SK SRI KIAMBANG
Nurharani Binti Selamat	EPRD, MOE
Hasbullah Bin Che Cob	Pejabat Pendidikan Daerah Pasir Mas
Ab Harith Bin Ab Hamid	Pejabat Pendidikan Daerah Pasir Mas
Rosnani Binti Mat Noor	Pejabat Pendidikan Daerah Pasir Mas
Kumi Tsubokawa	Asia SEED/JICA
Ueno Ryoichi	Asia SEED/JICA
Hidaya Mohamad	Asia SEED/JICA

3. FINDINGS AND DISCUSSION

Information obtained from the dialogue session was based on questions drafted (please refer to Appendix) by MAKMur's preschool education Japanese expert, Ms Tsubokawa Kumi. Information gathered from the dialogue sessions with the preschool teachers in MAKMur pilot schools are summarized as follows.

No	Topic/ Questions	Findings	Discussion
1	<p>Comparison of educational environment under previous SOP due to COVID-19 with current educational environment.</p> <p>This question was asked to understand the situation in the pilot schools; whether it is difficult or not to implement MAKMur activities under restriction due to Covid-19. Additionally, by making comparisons between during and post Covid-19, whether a perspective</p>	<p>[Bentong] Teachers in Bentong stated that it was burdensome for them to prepare teaching materials for each student since the previous SOP did not allow group activities. It has become possible for four students to share the same set of teaching materials which ease the burden of the teachers in preparing the teaching materials.</p> <p>[Sentul] Similarly, teachers in Sentul stated that it was burdensome for them to prepare teaching materials for each student since the previous SOP did not allow group activities. Under the latest SOP, students now can work together with one another in the classroom which ease the burden of the teachers in preparing the teaching materials. In addition, the teachers highlighted that the students have become more relaxed now he/she can sit in a group, together with their friends. They further noted that that students tend to tense up when sitting in his/her table alone.</p> <p>[Pasir Mas] Similarly, teachers in Pasir Mas stated that it was burdensome for them to prepare teaching materials for each student since the previous SOP did not allow group activities. Currently, the students can learn things while cooperating with one another, which</p>	<p>Teachers in Sentul and Pasir Mas deemed to have perspective of students cooperating and working together. Meanwhile, teachers in Bentong deemed to be focusing more on smooth class management rather than putting emphasis on nurturing students' skill on cooperation.</p>

	on MAKMur is formed or not.	boosts students' self-confidence as well as letting them enjoy the class more.	
2	<p>What abilities or skills do you deem necessary for your students?</p> <p>This question was asked to understand where the teachers, as educators set their goal at.</p>	<p>[Bentong] Self-management skills, social and communication skills with friends and teachers.</p> <p>[Sentul] Social and communication skills and good habit.</p> <p>[Pasir Mas] Social and communication skills. Proficiency in standard Malay will boost students' self-confidence.</p>	All 3 pilot districts have similarities in regards to the abilities or skills for students that teachers intend to nurture where they stated that social and communication skills are important.
3	<p>What activities have been conducted to nurture the stated abilities or the skills?</p> <p>This question was asked to understand actions taken by the teachers to achieve the goals.</p>	<p>[Bentong] Excursions and festivals such as camping activities etc.</p> <p>[Sentul] Duty roster where five students in a group</p> <p>[Pasir Mas] Let students listen to one another in groups during class.</p>	It was found that suitable special activities have been conducted in accordance with abilities or skills that deemed necessary for the students. However, teachers in Pasir Mas did not mention concretely about educational activities.

4	<p>Whether teachers follow the planned timetable strictly or demonstrate flexibility depending on the students' mood and situation daily.</p> <p>This question was asked to identify whether the teachers demonstrate flexibility depending the students' situation, as stated in the national curriculum.</p>	<p>[Bentong] Generally, teachers follow timetable until morning recess. After the recess, teachers will rearrange timetable in accordance with student situation if necessary. For instance, in the case where the students look sleepy, the teachers will conduct more interactive lessons.)</p> <p>[Sentul] Teachers rearrange timetable considering the situation of the students. However, daily lesson plan and thorough contents are prepared beforehand.</p> <p>[Pasir Mas] In general, teachers follow lesson plans. However, they sometimes extend lesson time when students look interested.</p>	<p>The teachers demonstrate some flexibility in terms of timetable to some extent. For Bentong and Sentul, the teachers show flexibility through rearranging timetable based on the students' mood and situation. However, it is found that the flexibility is demonstrated from the teachers' perspective where students can learn effectively, for example, even when they are sleepy. As for Pasir Mas, instead of rearranging the timetable, the teachers extend lesson time about 5 minutes, when the students look interested.</p>
5	<p>Preparation to implement the national curriculum.</p> <p>This question was asked to understand where most</p>	<p>[Bentong] Teachers prepare detailed and thorough daily lesson plan (RPH).</p> <p>[Sentul] Teachers prepare daily lesson plan (RPH). Additional teaching materials such as flashcards/photos/videos/picture</p>	

	<p>of their time when preparing RPH.</p>	<p>books/worksheets are also being used.</p> <p>[Pasir Mas] Teachers prepare daily lesson plan (RPH). Worksheets are being used twice or three times for all subjects in a day.</p> <p>In all three pilot districts, the teachers prepare daily lesson plan (RPH). In addition to the daily lesson plan, teachers in Sentul and Pasir Mas also mentioned about additional teaching materials such as worksheets and others.</p> <p>In Sentul, when the teachers were asked as to what kind of teaching materials they use, all teachers mentioned about using worksheets. However, the teachers misunderstood the concepts of worksheets. They stated that workbooks cannot be used in preschools but they use worksheets with similar contents as teaching materials.</p> <p>In Pasir Mas, teachers believe that the students will gain a better understanding through worksheets. It was discovered that the teachers use the same lesson plan repeatedly as the previous years, which appears to be a rigid teaching style by solely targeting on the students' ability of reading and writing.</p>	
--	--	--	--

6	<p>Whether the students are able to understand a subject's lesson after being taught only once?</p> <p>This question was asked to understand whether the teachers think that they can achieve 'results' or the targeted outcome in one session. Please be noted the term 'results' used was based on one of the visitations where "goals" and "results" were written on the white board in the preschool classroom.</p>	<p>[Bentong, Sentul and Pasir Mas]</p> <p>All teachers clearly stated that the students will NOT be able to understand after being taught only once.</p>	<p>In the RPH shown by the teachers, there was an item called, 'Learning Outcome'. For example, in this 'Learning Outcome', the teachers stated that even though it was stated that 15 students could understand from the lesson, in reality, less than 15 students could understand.</p>
7	<p>How many lessons are</p>	<p>[Bentong]</p>	<p>Teachers in Bentong seems to understand</p>

	<p>required to teach one topic?</p> <p>This question was asked as an attempt to understand how long the teachers think it takes for the students to understand one lesson.</p>	<p>Three times.</p> <p>[Sentul] Teachers will repeat the same contents from time to time. For example, teachers would use numbers when checking attendance or arranging chairs.</p> <p>[Pasir Mas] Through repetitions.</p>	<p>preschool teaching and learning on the surface based on their simple responses.</p> <p>Teachers in Sentul take initiative by incorporating alternative methods other than the normal teaching.</p> <p>Teachers in Pasir Mas emphasise on the importance of repetition but lacking in creativity to explore new ideas due to being repetitive in lessons plan.</p>
8	<p>Teaching contents in Aktiviti Pembelajaran (AP) time</p> <p>Since AP time is a slot where MAKMur activities can be implemented, this question was asked to grasp the</p>	<p>[Bentong] peer (health/sociability), (cleanliness/safety) PKJR/CIVIC/tigaR.</p> <p>[Sentul] Science/creativity/music/health/bahasa (Between normal lesson on Malay and AP lesson, there is a methodological difference: in AP students learn Malay through physical movement.)</p> <p>[Pasir Mas] -All subjects except Islamic Studies.</p>	<p>A distinct difference was found in regards to how the teachers utilize AP time between Bentong with Sentul and Pasir Mas. In the case of Bentong, it is necessary to monitor from time to time as where do some topics that are not included in the national curriculum appeared. For example, new programs such as</p>

	subjects or activities done during AP time.		Kelab Doktor Tunas Muda and so on.
9	<p>Which strand stated in the National Prsechool Curriculum do the teachers think is the most difficult from all six strands?</p> <p>This question was asked to understand which strand do the teachers perceive as the most challenging in moving forward with the National Curriculum.</p>	<p>[Bentong, Sentul and Pasir Mas]</p> <p>All teachers stated that communication strand is the most difficult and challenging to incorporate.</p>	<p>Teachers in Bentong and Sentul stated that communication is the most difficult strand to incorporate. All the teachers strongly believe that communication is one of the most important abilities or skills for students. The teachers face great pressure coming from the administrative, the primary school teachers as well as parents due to the high expectations towards students' language literacy when they transition to primary schools.</p> <p>In Pasir Mas, teachers face two challenges in regards to language literacy. One is to teach the students to learn standard Malay. Another one is to teach English.</p>

10	Others	<ul style="list-style-type: none"> i. The existence of early learning preparatory and activities outside curriculum such as extracurricular activities (camping) and high standard English teaching was found. ii. Additionally, PPD also pointed out that it is common that the time for free-play (Main Bebas) is prone to be cut short if there is any delay in covering the syllabus. 	<p>For preschool education, in the case where the teaching style is unfit for child development stages, there will be some possibility that some children may develop aversion for the subject.</p>
----	--------	---	---

Challenges

There are few challenges found in our efforts to further promoting MAKMur Project in preschools such as,

- i. Preparation of lesson plans (RPH) have become a burden to preschool teachers who teach all subjects by himself/herself which reduce their time in preparing for actual teaching materials. In particular, preschool teachers in Bentong have expressed how burdensome they feel especially in planning the lesson plan as the teachers are required to write not only outline of daily plan but also detailed plan for each subject.
- ii. Based on the findings gained through the dialogue sessions with preschool teachers in all pilot districts, it is found that although preschool teachers eager to foster abilities or skills through 'learning through play' approach that are in line with MAKMur principles, the expectations from both inside and outside of schools on '3M' have exerted great pressure on the preschool teachers.

4. POLICY IMPLICATIONS AND RECOMMENDATIONS

Based on the above-mentioned findings, we would like to give the following suggestions to enhance MAKMur for preschools.

- i. Lesson plans (RPH) for preschool students should be arranged so that each

student can learn repeatedly through daily-life situation. Therefore it would be desirable to consider system change on preparation of plans from daily type to weekly type. The change will give teachers much time to prepare and reflection of educational contents for learning through experience.

- ii. It is necessary to ensure that each teacher conducts educational activities that are in line with the national curriculum. In particular, differences in basic understanding towards MAKMur between pilot districts may cause regional gap, hence, it is crucial to organise more practical teacher training for preschool teachers to reduce the gap. Since the number of the preschool teachers in pilot schools are less than those in primary schools, it is feasible to organise teacher training for preschool teachers, focusing on 'learning through play'.
- iii. It is essential to elect one key person from the Ministry side, for instance from IPG etc., to be in-charged specifically for preschool education in MAKMur project. This key person is expected to facilitate MAKMur preschool activities as well as becoming a 'helpline' for the preschool teachers in pilot schools. It is deemed necessary for this key person to participate in the training course in Japan organised by JICA in the near future.
- iv. In addition to the above-mentioned key person for preschool education in MAKMur, it is also important to identify model preschool teacher from each pilot district. One model teacher in each pilot district should be elected so that the other teachers in the same pilot district can refer to his/her class activities from time to time. These model preschool teachers can discuss or consult with the above-mentioned key person in a timely manner.
- v. Extensive advocacy activities are essential to get buy-in for MAKMur from various stakeholders including parents and guardians. For instance, seminars on fostering non-cognitive skills, which also develop the students' cognitive skills that contribute in producing balanced individuals, targeted at parents and guardians in every pilot district with the support from IPG lecturers are recommendable. It is important for all MAKMur stakeholders to reconsider the balance between the emphasis on 3M as well as 'learning through play' approach.

5. CONCLUSION

Based on our observations and information obtained from the preschool teachers, it is deemed possible to introduce elements of MAKMur activity into various settings in preschools once we get buy-in from the preschool teachers and the other relevant stakeholders as the preschool class is conducted by only one teacher. This enhancement will establish solid foundation for student holistic development (for example, critical thinking skills) that will not only further promote MAKMur activities in primary schools but also cultivate students' positive attitude for learning subjects in primary schools.

6. APPENDIX

SENARAI SOALAN UNTUK SESI DIALOG BERSAMA-SAMA GURU PRASEKOLAH PROJEK MAKMur

No.	質問項目 (日本語)	SOALAN (BAHASA MELAYU)
1	コロナ禍の制限された教育と現在の比較について	Mengenai pengajaran dan pembelajaran (PdP) sebelum dan selepas pandemik Covid-19
2	子どもに育てたい能力について	Mengenai keupayaan/kemahiran murid yang paling penting untuk masa depan murid mereka
3	育てたい能力のために保育でどんなことを行っているか?	Apakah yang tuan/puan perlu lakukan untuk membangunkan keupayaan/kemahiran tersebut?
4	時間わり通り行われているか、子どもの状態に合わせているか?	Adakah tuan/puan melaksanakan pengajaran mengikut jadual? Atau adakah tuan/puan menyesuaikan pengajaran harian mengikut keadaan murid?
5	カリキュラムを行うための準備について	Mengenai penyediaan rancangan pengajaran harian (RPH)
6	教科指導は 1 回で子どもは理解できるか?	Berdasarkan pengalaman tuan/puan, adakah murid tuan/puan boleh memahami perkara yang diajar dalam satu kali PdP?
7	できない場合、何回ぐらい指導は必要か?	Jika tidak, berapa kali yang dirasakan perlu agar murid tuan/puan memahami sesuatu perkara yang diajar?
8	AP でどんな指導を行っているか?	Bolehkah tuan/puan kongsi PdP

		yang dilaksanakan semasa Aktiviti Pembelajaran (AP)?
9	6 領域の中で最も難しいのはどれか？	<p>Di antara 6 tunjang utama dalam Kurikulum Standard Kebangsaan Prasekolah (KSPK), apakah tunjang utama yang paling sukar untuk dilaksanakan?</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ komunikasi; ➤ kerohanian, sikap dan nilai; ➤ keterampilan peribadi ➤ tahap perkembangan fizikal dan estetika; ➤ sains dan teknologi; dan ➤ kemanusiaan.

**PARTICIPANTS LIST
FOR DIALOGUE SESSION DIALOGUE SESSION
WITH MAKMUR PILOT SCHOOLS' PRESCHOOL TEACHERS**

BENTONG DISTRICT

Date: 29th June 2022 (Wednesday)

Venue: Kamar Transformasi, Ground Floor, PPD Bentong

Time: 14:30-16:00

Name	Designation& Affiliation
Anie A/P Than Il	SK SUNGAI DUA
Rohani Binti Che Kar	SK SG. MARONG
Farahatun Nailah Binti Mansor	SK SRI LAYANG
Noor Ermelia Binti Mohd Rahmad	SK LEBU
Norhafizan Binti Mat Jidin	SK FELDA LURAH BILUT
Irasuzura Binti Ibrahim	SK LEBU
Nurharani Binti Selamat	EPRD, MOE
Ahmad Zaki Bin Hussain	Pejabat Pendidikan Daerah Bentong
Norani Binti Mohd Ludin	Pejabat Pendidikan Daerah Bentong
Zulkifli Bin Awang	Pejabat Pendidikan Daerah Bentong
Kumi Tsubokawa	Asia SEED/JICA
Ueno Ryoichi	Asia SEED/JICA
Hidaya Mohamad	Asia SEED/JICA

SENTUL DISTRICT

Date: 30th June 2022 (Thursday)

Venue: Bilik Mesyuarat, Level 1, PPD Sentul

Time: 14:30-16:00

Name	Designation& Affiliation
Sallibiah Binti Sulong	SK BATU MUDA
Nor Azila Binti Mat Saad	SK BATU MUDA
Suhain B Ahmad Razaly	SK SERI MURNI
Jayaletchumy Verapathren	SK SERI NILAM
Nor Azian Binti Zaimal	SK INTAN BAIDURI
Noratiqah Binti Jumien	SK SENTUL UTAMA
Raid Rohaya Raja Berahim	SK SENTUL UTAMA
Vanitha Thambirajah	EPRD, MoE

Rofii Bin Hussein	Pejabat Pendidikan Daerah Sentul
Encik Adam Tan Kheng Huat	Pejabat Pendidikan Daerah Sentul
Tsubokawa Kumi	Asia SEED/JICA
Ueno Ryoichi	Asia SEED/JICA
Hidaya Mohamad	Asia SEED/JICA

PASIR MAS DISTRICT

Date: 4th July 2022 (Monday)

Venue: Bilik Wawasan, Level 1, PPD Pasir Mas

Time: 14:30-16:00

Name	Designation& Affiliation
Siti Aminah BT Ibrahim	SK LEMAL
Aiffah binti Mat Daud	SK BANGGOL PETAI
Siti Faziani bt Osman	SK SULTAN IBRAHIM (1)
Mahani bt Noh	SK SULTAN IBRAHIM (1)
Nor Aziah bt mamat	SK LATI
Rosmaini bt ab razak	SK LATI
Muhammad Aizat bin Ibrahim	SK BAROH PIAL
Zaimah Ab Eduman	SK GELANG MAS
Siti Aminah BT Ibrahim	SK BAROH PIAL
W. Sanioh Bt W. Husdin	SK Sri Kid
Zuraini Bt Mat Deris	SK GELANG MAS
Md Sargowi B Mohe Nor	SK SRI KIAMBANG
Nurharani Binti Selamat	EPRD, MOE
Hasbullah Bin Che Cob	Pejabat Pendidikan Daerah Pasir Mas
Ab Harith Bin Ab Hamid	Pejabat Pendidikan Daerah Pasir Mas
Rosnani Binti Mat Noor	Pejabat Pendidikan Daerah Pasir Mas
Kumi Tsubokawa	Asia SEED/JICA
Ueno Ryoichi	Asia SEED/JICA
Hidaya Mohamad	Asia SEED/JICA

ANNEX 3

Report on Visits to MAKMur Pilot Schools in August 2022

2022年8月MAKMurパイロット校視察報告書

**Report on Visits
to MAKMur Pilot Schools in
August 2022**

**Projek Memperkasakan Amalan
Kemenjadian Murid (MAKMur)**

January 2023

Prepared by:

Registered Non-profit Organization Asia SEED

University of Tsukuba

TABLE OF CONTENTS

EXECUTIVE SUMMARY	2
LIST OF JAPANESE EXPERT TEAM AND AFFILIATION	5
LIST OF ABBREVIATIONS.....	6
1. INTRODUCTION.....	7
2. SCOPE OF SCHOOL VISIT	34
3. FINDINGS AND DISCUSSION.....	35
4. POLICY RECOMMENDATION	45
5. LIMITATIONS	46
6. RECOMMENDATIONS FOR FUTURE VISIT.....	46
7. CONCLUSION	47
8. ANNEX.....	47
8.1. PRESENTATION MATERIAL BY PROFESSOR TERUYUKI FUJITA.....	48

EXECUTIVE SUMMARY

In accordance with the Malaysian National Education Philosophy that aims to create a harmonious and balanced society, the MAKMur Project is introduced to build school ethos that promotes positive behaviour and enhances pupils' qualities and abilities so that pupils can grow into individuals that can contribute to building a diverse and balanced society. This project is a creative localisation initiative of holistic education that is currently being practised in Japan, designed to suit the context and culture of Malaysian society. Through the combination of the three elements of cognition, feelings, and behaviour, this process will be the foundation for pupils' growth throughout their life.

Three main principles of MAKMur are being promoted to achieve the objectives above:

1. Learning Through Experience

Pupils are given the opportunity to execute and experience activities with their friends. The repeating process of these experiences will help pupils in enhancing their own skills and abilities.

2. Self-Motivation

All activities of MAKMur must be suggested by pupils themselves so that they are more motivated in solving problems and executing activities that have been discussed in their group.

3. Equal opportunity

All pupils must be given the opportunity to participate in all MAKMur activities. Providing these opportunities is crucial so that all pupils go through similar experiences, at the same time helping each other at improving their own skills and abilities.

In order to ensure that the principles of MAKMur are constantly being practised, all MAKMur activities are required to fulfil the following three criteria:

1. Value of mistakes
2. Pupil-driven
3. Opportunities for every pupil

The application of various abilities and values needs to always be emphasised in all pupil-driven activities. In MAKMur, there are a total of 14 abilities and values that are deemed important, as noted below. However, teachers have the flexibility to diversify the abilities/values that will act as added value for each MAKMur activity.

Self-esteem	Motivation
Leadership	Planning
Communication	Flexibility
Cooperation	Reasoning
Participation	Creativity
Facilitation	Proactive and desire to challenge
Tolerance and kindness	Critical thinking

In the period of 8th through to 10th August 2022, the Japanese expert team visited three MAKMur pilot schools (one pilot school in each pilot district: SK Lemal, Pasir Mas on the 8th, SK Batu Muda, Sentul on the 9th, and SK Sungai Marong, Bentong on the 10th) to gather information for future development of Projek MAKMur, especially related to roles of headmasters for the project and possibility of adaptation of Japanese holistic-educational activities to Malaysian context, as well as feasibility and sustainability of MAKMur activities. The purpose of the visit was to deliberate plans for further improving the MAKMur Project through listening to the voices of teachers as well as observing class activities in pilot schools. The information, which has been obtained through class observation and school tours, and discussion with school leaders and teachers, deems to be essential when considering the future development of Projek MAKMur. Based on the findings through the visit, the following nine actions are thought to be preferable to be taken as a next step.

- i. Provide on-site and off-site training opportunities to teachers on various topics (classroom layout, classroom display, etc.)
- ii. Explore ways to implement Projek MAKMur respecting the existing prefect system
- iii. Organise committee for Projek MAKMur in each pilot school including the headmaster
- iv. Take advantage of training in Japanese School in Kuala Lumpur for headmasters to understand school administration about *Tokubestu Katsudo*

(Tokkatsu)

- v. Consider a way to ensure time for MAKMur activities after the trial run
- vi. Investigate the relationship between home environment and pupils' learning in Projek MAKMur
- vii. Involve parents/guardians in MAKMur activities
- viii. Promote collaboration between pilot schools
- ix. Appoint model teachers for preschools in each pilot district

Although the nine actions were suggested based on the school visit this time, there were limitations in information gathering in terms of quantity and quality. To overcome the limitations for further promotion of Projek MAKMur, additional rounds of school visits targeting the other pilot schools as well as the ones visited this time adopting appropriate methods of information-gathering should be conducted.

LIST OF JAPANESE EXPERT TEAM AND AFFILIATION

No.	Name	Affiliation
1	Dr. Ryoichi Ueno	Team Leader, AsiaSEED/JICA
2	Prof. Teruyuki Fujita	University of Tsukuba/JICA
3	Ms. Kumi Tsubokawa	AsiaSEED/JICA
4	Ms. Mio Morimoto	University of Tsukuba
5	Mr. Muhamad Aiman bin Ismail	AsiaSEED

LIST OF ABBREVIATIONS

Abbreviation	Meaning
JICA	Japan International Cooperation Agency
Projek MAKMur	<i>Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid</i> (Project for Promoting Holistic Education)
MOE	Ministry of Education Malaysia
<i>Tokkatsu</i>	<i>Tokubestu Katsudo</i> (Special Activities)

1. INTRODUCTION

Project for Promoting Holistic Education (in Malay, *Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid*, hereinafter referred to as 'Projek MAKMur') is a technical cooperation project between the Ministry of Education Malaysia (hereinafter referred to as 'MOE') and the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as 'JICA'). MOE has been actively providing learning opportunities for pupils' internalisation of values and holistic development through various programmes and initiatives of curriculum reform and learning activities that focus on pupils' cognitive and non-cognitive development. Projek MAKMur is aimed at promoting further development of holistic education in Malaysia through technical cooperation between Malaysia and Japan.

The overarching goal of Projek MAKMur is to determine the feasibility of integrating balanced-individual growth into teaching and learning, paying close reference to a model of holistic education in Japan as well as existing practices in Malaysia. Here, a 'balanced individual' is defined as a person who is equipped with the integration of Cognitive, Feeling and Behaviour.

In order to achieve the goal, MAKMur activities have been introduced to 15 pilot primary schools including preschools (5 schools in Bentong, 5 schools in Sentul and 5 schools in Pasir Mas) officially starting in September 2022. The MAKMur Capacity Building Toolkit Version 1 which highlights the importance of integrating the cognitive, feelings, and behaviours elements pertaining to the development of balanced individuals, were created and provided to each MAKMur teacher in the hope to assist teachers in the process of 'planning, doing, and reflecting' MAKMur activities based on the principles and criteria as follows.

The Main Principles of MAKMur

- Learning through experience
- Self-motivation
- Equal opportunity

Criteria of MAKMur activities

- Value of mistakes
- Pupil-driven

- Opportunities for every pupil

With assistance from the appointed MAKMur school coordinators and the MAKMur Capacity Building Toolkit Version 1, teachers are given the flexibility to plan their own pupil-driven MAKMur activities that are deemed appropriate for the school and local context.

In the period of 8th through to 10th August 2022, the Japanese expert team visited SK Lemal (Pasir Mas), SK Batu Muda (Sentul) and SK Sungai Marong (Bentong) and conducted class observation, school tour and discussion with school leaders and teachers.

The purpose of the visit was to deliberate plans for further improving the MAKMur Project through listening to the voices of teachers as well as observing class activities in pilot schools.

The visit was led by the Japanese expert for holistic education, Professor Dr Fujita Teruyuki, University of Tsukuba, Japan. He concurrently served as the senior specialist for student guidance at the Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology for five years as well. Ms Morimoto Mio, researcher, University of Tsukuba, Ms Tsubokawa Kumi, a Japanese expert in preschool education/ Vice principal position in Seirei Hamamatsu Hospital Hibari Kindergarten in Shizuoka Prefecture, Dr Ueno Ryoichi, a Team leader of Japanese experts/Consultant from Asia SEED and Mr Muhamad Aiman Bin Ismail, a Consultant from Asia SEED accompanied Professor Dr Fujita Teruyuki and assisted him during the school visit. Please find the attendees list for each school as follows.

SK Lemal, Pasir Mas

Date: 8th August 2022

Time: 8:46 am -11:45 am

Events:

- Message from Dr. Nurharani Binti Selamat, an EPRD Officer from the Ministry of Education: She welcomed the expert team and expressed gratitude to the SK Lemal management team and Pasir Mas District Education Office for hosting the school visit

- Briefing from Mr. Norhisyam Bin Abdul Rahim, the headmaster of SK Lemal about the background and achievements of the school (school organisation, school history, school activities, achievements)
- Class observation (Year 6: Classroom discussion on cleaning at school facilitated by the MAKMur coordinator)
- Presentation by Professor Teruyuki Fujita (Title: Overview of the Special Activities in Japanese Elementary Schools)
- Q&A session
- Message from Mr. Hasbullah Bin Che Cob, the Vice Chief Officer of the District Education Office, Pasir Mas: He expressed his gratitude to the participants and showed his interest in Japanese holistic approaches to education as well as expectations of MAKMur.

Attendees:

Name	Designation & Affiliation
Norhisyam Bin Abdul Rahim	Headmaster, SK Lemal
Abdullah Bin Che Kub	Assistant Headmaster, SK Lemal
Che Abdullah Bin Noor	Assistant Headmaster, SK Lemal
Nurul Izza Binti Alias	Assistant Headmaster, SK Lemal
Che Kirani Binti Che Mohd Ramli	MAKMur Coordinator, SK Lemal
Hasbullah Bin Che Cob	Vice Chief Officer, District Education Office, Pasir Mas
Nurharani Binti Selamat	Ministry of Education
Teruyuki Fujita	Professor, University of Tsukuba/JICA
Mio Morimoto	Researcher, University of Tsukuba
Kumi Tsubokawa	Asia SEED/JICA
Ryoichi Ueno	Asia SEED/JICA
Muhamad Aiman Bin Ismail	Asia SEED

The following are the comments, questions, and answers exchanged between the Japanese expert team and the SK Lemal management team during the Q&A session. Please note that due to the lack of video/voice recording of the session, this is not the full transcription of the interactions, but rather, an overview of it.

Q: Question, A: Answer, C: Comment

Type	Remarks by	Contents
Q1	Prof. Fujita,	I was very honoured to be able to observe such a fine

	University of Tsukuba	<p>discussion session between pupils. I believe that having this kind of time where pupils can have discussions among peers is beneficial for pupils' development. The ability to cooperate in solving problems will be crucial for the pupils in the future.</p> <p>I have a question. As mentioned in this slide (slide regarding the implementation process in Prof Fujita's presentation), discussion alone is not enough. Conducting the activities itself is also an important step in the process. I understand that after the role assigning today, the pupils will start with the class cleaning tomorrow. When will the pupils conduct the class cleaning tomorrow? Is it after school period?</p>
A1	Ms. Che Kirani, MAKMur Coordinator SK Lemal	Immediately after the Zuhr prayer time. The teachers will inform the guardians regarding this matter.
Q2	Prof. Fujita, University of Tsukuba	Do the pupils not clean their classes usually?
A2	Ms. Che Kirani, MAKMur Coordinator SK Lemal	They have a Duty Roster, so the class cleaning is done frequently.
C	Prof. Fujita, University of Tsukuba	In Japan, the school decides the place that needs cleaning, and the pupils will decide on the group rotation for each task through Classroom Discussion.
Q3	Ms. Che Kirani, MAKMur Coordinator SK Lemal	What is the role of the Pupil Council in Japan?
A3	Prof. Fujita, University of	In Japan, there is Pupil Council in both primary and secondary schools. In primary schools, under the Pupil

	Tsukuba	Council, there are several committees of which the pupils are in charge. Example: Library committee, Broadcasting committee, Health committee
Q4	Ms. Che Kirani, MAKMur Coordinator SK Lemal	In Japan, do you have a special place/room to conduct activities?
A4	Prof. Fujita, University of Tsukuba	Yes. For example, the Broadcasting Committee has a broadcast room for them to have their activities.
Q5	Ms. Che Kirani, MAKMur Coordinator SK Lemal	Was there anything that you find different in our school, compared to a Japanese school?
A5	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>I found that the freedom of the classroom layout in Malaysia is quite similar to Japan. In Japan, each class can also change their seat layout depending on the needs of a particular lesson.</p> <p>One interesting difference is the school shop (Koperasi). Schools in Japan also have a shop, but they usually only sell stationeries. So, it's quite interesting to see there were some snacks and drinks like Yakult sold in the school shop too.</p>
Q6	Ms. Nurul Izza, Vice Principal	Who supports the Pupil Council? Is there a teacher that manages the Pupil Council?
A6	Prof. Fujita, University of Tsukuba	Pupil Council consists of the main members, who are elected by the pupils, and under them are the committees. There usually is at least one advising teacher for the main members and each of the committees. The selection of advisors depends largely on the school.
Q7	Dr. Ueno	<ol style="list-style-type: none"> 1. Was today the first Classroom Discussion? 2. How do you use the 'Parking Lot'?

A7	Ms. Che Kirani, MAKMur Coordinator SK Lemal	<ol style="list-style-type: none"> 1. No, this was not the first time. 2. Pupils can write anything they want regarding the class (or anything else) and they post it in the 'Parking Lot' space. The teachers will collect them later.
C	Prof. Fujita, University of Tsukuba	My understanding is that the Classroom Discussion as we observed today was not common in Malaysia, and is only being done for MAKMur specifically.
C	Ms. Che Kirani, MAKMur Coordinator SK Lemal	For most things, usually, the teachers will decide for pupils. This is the first time that pupils decide things for themselves (role assigning for class cleaning).
C	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>That is fantastic. The difference between Malaysia and Japan is that Classroom Discussion is included in the syllabus and school schedule. Thus, the chairperson's role is done by rotation. This is to ensure that all pupils will have the chance to experience being a chairperson. The other reason is there are tendencies for pupils to only vote for the 'popular' pupils if a chairperson is elected from candidates. This would cause the pupils that are not selected to feel left out and have their self-esteem lowered.</p> <p>Today, in the classroom discussion, the pupil who was elected chairperson chose the pupil who was not elected chairperson to be the note-taker, which was excellent tact.</p>
C	Ms. Tsubokawa, AsiaSEED	The teachers and pupils must have been nervous having us observe them doing the Classroom Discussion. It's not an easy task to do. However, I could see that the teacher and pupils have developed a good relationship. One particularly noteworthy evidence of this was when in the middle of the discussion, the chairperson turned to the teacher and asked 'Do you also agree with the decision, teacher?'. The teacher then smiled.

		<p>Usually during a discussion, apart from the pupils that are talking, other pupils would barely try to speak. But I was very impressed because the pupils here today were actively trying to join in the discussion.</p> <p>I believe that this kind of discussion today can be applied to the T&L session. As the teacher what do you think?</p>
C	Ms. Che Kirani, MAKMur Coordinator SK Lemal	<p>I completely agree. It seems doable.</p> <p>Usually, the pupils are very talkative even during class. I was surprised that they behaved very well today.</p>
C	Dr. Ueno, AsiaSEED	<p>Thank you very much. We gave the teachers the capacity building toolkit two weeks ago, and I was very surprised that the teachers and pupils have done this well in this short time.</p>
C	Ms. Morimoto, University of Tsukuba	<p>Thank you for everything today. The Classroom Discussion was done mainly by pupils, and the teacher aptly intervene to support the pupils when necessary. Pupils were also very active in expressing their opinions during the discussion. One thing left an impression on me. After the discussion ended, the pupil who was the chairperson had a smile on his face. Then the teacher went to him and pat the pupil on the back. His smile became even bigger with that simple gesture. I believe that this experience has given him some self-confidence. This kind of gesture is crucial for MAKMur activities, and will definitely help pupils develop abilities that will be useful for them in the future.</p>

SK Batu Muda, Sentul

Date: 9th August 2022

Time: 8:00 am - 1:00 pm

Events:

- Message from Ms. Aniqah Husda Binti Abdul Latiff, an EPRD Officer from

the Ministry of Education: She welcomed the expert team and expressed gratitude to the SK Batu Muda management team and Sentul District Education Office for hosting the school visit

- Briefing from Ms. Wan Salmiah Binti Ismail, the headmistress of SK Batu Muda about the background and achievement of the school (school organisation, school activities, achievements)
- Class observations (Preschool: Free play with blocks, Year 6: Religious education, Year 1: Malay language, Year 1: English, Year 2: English)
- School tour (Library)
- Presentation by Professor Teruyuki Fujita (Title: Overview of the Special Activities in Japanese Elementary Schools)
- Q&A session
- Message from Mr. Rofii Bin Hussain, the Vice Chief Officer, District Education Office, Sentul: He appreciated the fruitful discussion and demonstrated his willingness to support Projek MAKMur.

Attendees:

Name	Designation& Affiliation
Wan Salmiah Binti Ismail	Headmaster, SK Batu Muda
Zamzani Bin Ismail	Assistant Headmaster, SK Batu Muda
Aniqah Husda Binti Abdul Latif	Ministry of Education
Nur Shaminah Binti Mustafa Kamalu	Ministry of Education
Rofii Bin Hussain	Vice Chief Officer, District Education Office, Sentul
Faridah Hanim Binti Ariffin	School Improvement Partner+ Officer, District Education Office, Sentul
Yoshitaka Inagaki	JICA Malaysia Office
Teruyuki Fujita	Professor, University of Tsukuba/JICA
Mio Morimoto	Researcher, University of Tsukuba
Kumi Tsubokawa	Asia SEED/JICA
Ryoichi Ueno	Asia SEED/JICA
Muhamad Aiman Bin Ismail	Asia SEED

The following are the comments, questions, and answers exchanged between the Japanese expert team and the SK Batu Muda management team during the first Q&A session, after a presentation regarding the backgrounds and achievements of SK Batu Muda by Ms. Wan Salmiah Binti Ismail, Headmistress

of SK Batu Muda. Please note that due to the lack of video/voice recording of the session, this is not the full transcription of the interactions, but rather, an overview of it.

Q: Question, A: Answer, C: Comment

Type	Remarks by	Contents
Q1	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>Thank you for your presentation. I was very impressed with the achievements of the school. The school's efforts in promoting book reading amongst the pupils are also admirable. Some schools in Japan also allocate around 10 minutes every morning as reading time.</p> <p>I have two questions.</p> <p>First question, from your presentation, I had an impression that this school is very passionate about Mathematics, as there were a lot of school programs revolving around Mathematics. Is this something that is being promoted by the MOE, or is this the school's policy?</p>
A1	Ms. Wan Salmiah, Headmistress SK Batu Muda	<p>We are actually planning to have more programs revolving around other subjects as well, in stages. It's just that Mathematics happens to be the first.</p>
Q2	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>What are the roles of librarians (Pengawas Perpustakaan) in Malaysian schools?</p>
A2	Ms. Wan Salmiah, Headmistress SK Batu Muda	<p>For the selection of librarians, pupils will apply and will then be selected through interviews. They mostly help with the management of the library and the book borrowing and returning.</p> <p>During NILAM time, they also help with bringing books to the activity venue. Pupils are not allowed to be both prefect and librarian at the same time. There is no requirement for the pupils to have a certain grade in exams for them to be a librarian.</p>

Q3	Dr. Ueno, AsiaSEED	From what year can a pupil become a prefect? How many prefects are there in a class?
A3	Ms. Wan Salmiah, Headmistress SK Batu Muda	From the second year. There is no set rule for the number of prefects per class.
Q4	Prof. Fujita, University of Tsukuba	What is the total number of prefects in this school?
A4	Ms. Wan Salmiah, Headmistress SK Batu Muda	There are more or less 10 prefects per Year, and the upper primary has more prefects than the lower primary. In this school, lunch time is separated into 3 (Year 1&2, 3&4, and 5&6). During lunch, the prefects help teachers in making sure lunch time goes smoothly. Because Year 1 pupils do not have prefects, prefects in Year 2 would be in charge of keeping things in line. The class monitor also participates in the leadership camps. Prefects cannot be class monitors and vice versa.
Q5	Prof. Fujita, University of Tsukuba	Is there some sort of hierarchy, in which prefects are seen as a higher rank than a class monitor? How is the class monitor selected?
A5	Ms. Wan Salmiah, Headmistress SK Batu Muda	Yes, it does seem that way. Pupils elect their class monitor in the upper primary, while teachers decide the class monitor for the lower primary.
Q6	Dr. Ueno, AsiaSEED	Does the class monitor need to have good grades?
A6	Ms. Wan Salmiah, Headmistress SK Batu Muda	There are certain criteria for the class monitor selection. First of all, they need to have good behaviour and mannerism. Their grades are also important to a certain level. Because, if a pupil's grade is negatively affected by their role as class monitor, guardians would file a claim against the school.

		In school, prefects are seen as the highest ranking among the pupils. In the absence of teachers, prefects are expected to be the leader and keep everything in line. Thus, they need to have good grades.
Q7	Dr. Ueno, AsiaSEED	If a pupil becomes a prefect in Year 2, will they stay as a prefect until Year 6?
A7	Ms. Wan Salmiah, Headmistress SK Batu Muda	As long as they don't break school regulations, they will stay as a prefect until Year 6.

After the first session of Q&A, the expert team visited and observed various classes (Preschool: Free play with blocks, Year 6: Religious education, Year 1: Malay language, Year 1: English, Year 2: English) and school facilities (library). The second Q&A session was conducted after the class and school observation.

The following are the comments, questions, and answers exchanged between the Japanese expert team and the SK Batu Muda management team during the second Q&A session, after a presentation regarding The Overview of Special Activities in Japanese Elementary School by Prof. Teruyuki Fujita, University of Tsukuba. Please note that due to the lack of video/voice recording of the session, this is not the full transcription of the interactions, but rather, an overview of it.

Q: Question, A: Answer, C: Comment

Type	Remarks by	Contents
Q8	Ms. Wan Salmiah, Headmistress SK Batu Muda	In Japan, how many pupils are there in a class?
A8	Prof. Fujita, University of Tsukuba	For Year 1 and 2, up to 30 pupils per class. Year 3-6 has up to 35 pupils per class.
Q9	Ms. Aniqah	For the time being, it doesn't look like Malaysian pupils

	Husda, Ministry of Education	will be able to do Classroom Discussions all by themselves. What steps should we take to make the shift?
A9	Prof. Fujita, University of Tsukuba	In Japan, pupils are given around 5 minutes to have a short discussion with the class every morning and before school ends. I believe that if we make this a habit in Malaysia, they will get better at it naturally.
Q10	Ms. Wan Salmiah, Headmistress SK Batu Muda	Is there a special time allocated for Classroom Discussion in Japan?
A10	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>Yes, Classroom Discussion is done once per week, in Japan. 45 minutes in primary schools. The '<i>Gakkyu Katsudo</i>' (literally means 'Classroom Activities') program has 3 main objectives that need to be covered in a year:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. understand the significance of various group activities while cooperating with others; 2. recognise the problems in a group or their personal life and hold discussions to form a consensus or make a decision by themselves to address the issues; and 3. form desirable human relationships, enhance their thoughts about their future lives and strive for self-actualisation. <p>Thus, in order to improve pupils' day-to-day life, component number 1 (referring to the Three Components for the Classroom Activities slide in Prof. Fujita's presentation) is mainly being done by the pupils themselves. While components 2 and 3 are sometimes led by the teachers.</p> <p>In primary school, pupils are given a total of 35 time periods to implement the three components of the '<i>Gakkyu Katsudo</i>'. Of the 35 periods, 15 periods are for classroom discussion (component 1), while the</p>

		<p>remaining 20 periods are for components 2 and 3. Thus, pupils have the chance to lead Classroom Discussions 3-4 times per month, and there are also times when teachers would lead the discussion.</p> <p>In component 1, the most important point is forming a consensus through discussion. Then move on to the Do phase based on the consensus. Components 2 and 3 are about what the pupils hope for in day-to-day life, and in their future.</p>
C	Dr. Ueno, AsiaSEED	For Toolkit version 1, we are currently focusing on component no. 1.
C	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>I have some comments regarding the classes we observed today.</p> <p>I will let the expert on preschool, Ms. Tsubokawa comment on more details, but there are two things that I found noteworthy during my observation of the preschool class.</p> <p>① There was an incident where a pupil accidentally knocked his friend's bag off their chair while trying to go back to his seat. The pupil then immediately put down the Lego pieces he was carrying in his hand and picked up the bag he accidentally knocked off. I believe that this school has been instilling the values that MAKMur is trying to promote.</p> <p>② After the pupil built their artwork using the Lego pieces, the teachers go around the groups and asked each group what they built. The teacher would then paraphrase the pupils' answers and say them loudly so that everyone could hear them. I think that having this kind of acknowledgement of what the pupils built by the teachers can help increase the pupils' self-confidence.</p> <p>This is my personal opinion. When the teacher asked the pupils to clean up the Lego pieces after playing,</p>

		<p>some pupils proactively cleaned up, but some did not move much. Perhaps the teacher can try to explain the significance of cleaning up after playing and remind the pupils to help their friends once they are done.</p> <p>I understand that our presence in the classroom today might have been a hindrance to the lesson, but next time, perhaps the teacher can also allow the pupils to go around the groups so that they can have a chance to see what other people were making.</p> <p>(Note: during the observation of the preschool class, pupils were given the task to build whatever they want using Lego pieces in a group, and after the times were up, all groups would explain what everyone in their group has built)</p> <p>The Classroom Discussion is an important part of the MAKMur activity, but the teacher's ability to implement 'learning through play' is also praiseworthy. I am very delighted to see such a high level of MAKMur activity at this early stage of the project.</p>
C	Ms. Tsubokawa, AsiaSEED	<p>From the class observation today, I think that Ms. Salbiah (the class teacher)'s ability as a MAKMur teacher is extremely high.</p> <p>Due to the SARS-Cov-2 pandemic, pupils had to sit separately before, and group activities like today were impossible. I think it was a huge step for the MAKMur project to finally have pupils be able to interact with each other again.</p> <p>During our MAKMur workshop, I learned that only 20 minutes were allocated for free play time in preschool. When I asked the teachers at the workshop if it was possible to integrate free play into the AP (Learning Activity), a lot of the teachers were pretty sceptical. But Ms. Salbiah were eager and willing to try, and I respect</p>

		<p>her for that. Today, she practised one of the examples that was provided in the toolkit prototype version. As mentioned by Prof. Fujita, this kind of attitude will be the forerunner of the MAKMur project.</p> <p>I have a request for Ms. Wan Salmiah, the Headmistress of SK Batu Muda. When learning that pupils play with Lego pieces during their AP period, some guardians may make some complaints to the school. So, I hope that the school can inform the guardians that even while playing, pupils are learning and developing multiple skills/abilities such as communication skills, understanding of numbers, imagination etc. These kinds of skills will carry on and be useful for the pupils when they go on to the primary school level and start learning more subjects such as Bahasa Malaysia and Mathematics. I hope the guardians can understand this.</p> <p>In the class, there was a new pupil with a slight disability in his grip strength. The class teacher worked for him. I believe that the gesture of paying attention to each and every pupil is very crucial to the MAKMur project.</p>
Q11	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>MAKMur is a relatively new project. But as a school management leader, have you found any challenges in introducing and implementing MAKMur in your school? In the process of expanding this project to the national level, the role of school leaders is extremely important. Thus, we would like to hear if there are any challenges that you've found.</p>
A11	Ms. Wan Salmiah, Headmistress SK Batu Muda	<p>This project is fairly new. So, a lot of the teachers are still unsure about the direction this project is heading. They are worried about whether they are doing the correct thing or not.</p> <p>One huge challenge that I think need to be put into consideration is the gap that may occur between pupils</p>

		with an unfortunate family situation or economic challenges and other pupils. I'm worried that there may be differences in values that they learn from home.
C	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>In Japan, the education policies are revised every 10 years. On average, teachers will take up to 3 years for them to familiarise themselves with a new policy. So, we hope that you can take the long view as this will be a long-term project.</p> <p>Regarding pupils in unfortunate family situations, what's important is for the teachers to always acknowledge and praise even the smallest positive changes in pupils. Having acknowledgement by teachers will certainly help pupils that are in unfortunate family situations. The teacher needs to provide a framework that fairly evaluates pupils.</p> <p>During the Bahasa Malaysia lesson in the Year 1 class, the teacher acknowledged each pupil's remarks positively. I think that this kind of acknowledgement is very important.</p>
C	Dr. Ueno, AsiaSEED	We went to observe Classroom Discussion at a school in Pasir Mas yesterday. And today we were able to see MAKMur activity done in preschool. I am very impressed seeing the MAKMur toolkit being put into practice, despite teachers receiving the toolkit only two weeks ago. Although there is a 6 weeks trial period from now on, I am not worried about that. I believe that the teachers in our pilot schools are more than capable to carry out MAKMur activities. Next, figuring out how to support the teachers, and how to expand this project to more schools are on our agenda.
C	Ms. Aniqah Husda, Ministry of Education	The class size is also a point of concern. In Malaysia, some classes could have up to 45 pupils, which may make it hard for the pupils to have a proper discussion. Thus, we may need further recommendations regarding the difference in class size.
C	Ms.	Thank you very much for today. In the Bahasa Malaysia

	Morimoto, University of Tsukuba	class we observed today, I found it amazing that the teacher helped in amplifying each pupil's activity to the whole class. There was a pupil that was asked to read the text out loud, and the whole class applauded and praised the pupil's efforts. Through this, the pupil that was reading out loud gained confidence, while the other pupils continue to develop their communication skills. For a child, even if we can tell them the importance of having self-esteem and communication using words, it is not as easy in practice. Children need to experience this themselves. Just like what we observed in the Bahasa Malaysia class today, I believe that even simple acts can change pupils for the better, and help develop beneficial abilities for them in the future.
Q13	Ms. Nur Shaminah, Ministry of Education	During your time observing the classes, what do you think about the physical environment of the classroom (seat layout, displays on the walls, parking lot etc.)?
A13	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>First, regarding the layout of the seats, I think it's important for the pupils to seat facing towards the person that is speaking. For the lower primary pupils, they would sometimes change seat layout several times during the lesson, if necessary. So, I think it could also be good if the seat layout is more flexible.</p> <p>Regarding the displays in the class, I had an impression that there were very few pupils' artworks being used for the displays when compared to Japanese schools. For example, in Japan, pupils would write the class objectives that were discussed together, and then post them on the board in class. I think it would be beneficial to have more displays made by pupils themselves.</p> <p>Another thing, although this doesn't necessarily have a direct relation with MAKMur, it is advisable that the places surrounding the whiteboard (bulletin board etc.) have as little distraction (displays, posters etc.) as</p>

		possible. This is to prevent overstimulation which may prevent pupils from focusing on the lessons, especially those with learning disabilities.
C	Ms. Wan Salmiah, Headmistress SK Batu Muda	<p>As Prof. Fujita has pointed out, we will try to minimize the distractions in the place surrounding the whiteboard.</p> <p>We will also keep an open mind and think out a way to incorporate 'free play' into the AP period, as mentioned by Ms. Tsubokawa.</p> <p>The guardians of pupils will also be made aware of the MAKMur project. However, we are still unsure of whether to have a physical meeting with the guardians or just have it online.</p> <p>We will also make sure our teachers understand more about MAKMur.</p>
C	Mr. Inagaki, JICA	<p>Thank you for giving us the golden opportunity to observe this school. I believe that the driving force of a country's economic growth is education. As a JICA officer, I have visited many countries. Today I was very honoured to be able to observe a preschool class in a Malaysian school for the first time. I feel like I have witnessed the secret to Malaysia's economic growth. With feedback from schools, I hope that this MAKMur project will lead to the growth of the Malaysian education system.</p>
Q14	Ms. Nur Shaminah, Ministry of Education	<p>In a long-term plan, will guardians be included in the MAKMur project in the future? In Malaysia, guardians intervene directly in the classroom.</p>
A14	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>The presence of guardians during the activities can help facilitate it. Guardians can also support the pupils in the social-emotional sense. Thus, just like teachers, the inclusion of guardians into activities in the classroom can be taken into consideration</p>

SK Sungai Marong, Bentong

Date: 10th August 2022

Time: 7:55 am - 0:34 pm

Events:

- Messages from Mr. Shahrum Bin Md Saud, the Chief Officer of the District Education Office, Bentong: He welcomed the expert team and expressed gratitude to the SK Sungai Marong management team for hosting the school visit at the beginning of the sessions. After the sessions, as the closing remark, he encouraged all the participants to drive MAKMur forward.
- Briefing from Mr. Hasnan Bin Ismail, the headmaster of SK Sungai Marong about the background and achievement of the school (school organisation, school activities, achievements)
- Class observations (Class 3: Classroom discussion on cleaning in school facilitated by the MAKMur coordinator, Year 4: Malay language, Preschool: School meal, Special needs class)
- School tour (Mosque, Cafeteria, Library)
- Presentation by Professor Teruyuki Fujita (Title: Overview of the Special Activities in Japanese Elementary Schools)
- Q&A session

Attendees:

Name	Designation & Affiliation
Hasnan Bin Ismail	Headmaster, SK Sungai Marong
Arina Binti Ramlan	Assistant Headmaster, SK Sungai Marong
Suzliyana Binti Sirojudin	Assistant Headmaster, SK Sungai Marong
Shamsulgafar Bin Ramli	Assistant Headmaster, SK Sungai Marong
Zarina Binti Mahyuddin	Assistant Headmaster, SK Sungai Marong
Siti Norain Binti Mohd Bahari	MAKMur Coordinator, SK Sungai Marong
Shahrum Bin Md Saud	Chief Officer, District Education Office, Bentong
Ahmad Zaki Bin Hussain	Vice Chief Officer, District Education Office, Bentong
Norani Binti Mohd Judin	School Improvement Partner+ Officer, District Education Office, Bentong

Zulkifli Bin Awang	School Improvement Specialist Coach+ Officer, District Education Office, Bentong
Muhammad Hafiz Bin Othman	JICA Malaysia Office
Nurharani Binti Selamat	Ministry of Education
Teruyuki Fujita	Professor, University of Tsukuba/JICA
Mio Morimoto	Researcher, University of Tsukuba
Kumi Tsubokawa	Asia SEED/JICA
Ryoichi Ueno	Asia SEED/JICA
Muhamad Aiman Bin Ismail	Asia SEED

The following are the comments, questions, and answers exchanged between the Japanese expert team and the SK Sungai Marong management team during the Q&A session. Please note that due to the lack of video/voice recording of the session, this is not the full transcription of the interactions, but rather, an overview of it.

Q: Question, A: Answer, C: Comment

Type	Remarks by	Contents
C	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>Thank you for inviting us and showing us the presentation about this school. Through the headmaster's presentation today, I saw some similarities between Malaysian and Japanese schools. Just like Japan, Malaysian schools seem to also be putting a lot of efforts into extracurricular activities. I was very impressed by the achievements of this school.</p> <p>The ratio of male and female teachers was also very similar to Japan, in which female teachers outnumbered male teachers. In addition to that, the layout of the teachers' office was very much like that of a Japanese school.</p> <p>I would like to comment on some points regarding our observation of the classes and school, after the Classroom Discussion.</p>

		<p>All the classrooms have very fascinating decorations. From my observation of the T&L session, I saw that the teachers always accepted pupils' remarks positively, and didn't forget to praise them. The design of the uniform (t-shirt) for extracurricular activities was also very interesting to me, as they are very different from Japan.</p> <p>I had an impression that the relationship between the teachers and the pupils in this school was harmonious. This might be evidence that the pupils developed their trust towards the teachers, which created a safe environment that is appropriate for education.</p> <p>Just one thing, although the efforts of the teachers in decorating the classes were impressive when compared to schools in Japan, it seems that not too many pupils' artworks were used for the displays. By using pupils' work as the displays, pupils will feel acknowledged and it will increase their self-esteem.</p>
C	Mr. Hasnan, Headmaster SK Sungai Marong	The school is currently trying to increase pupils' involvement in the class/school displays, but it hasn't been properly implemented yet.
C & Q1	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>The Classroom Discussion displayed by the class we observed today was very well done in my opinion. In Japan, when the chairperson asked for opinions, sometimes other pupils just stay quiet for 2-3 minutes.</p> <p>I was also very impressed because the chairperson for today volunteered himself for the role. This is one of the things that MAKMur is trying to promote.</p> <p>The way the teacher handled and interfered when needed, was also praiseworthy. For example, when seeing that there were only a few pupils chose to be on duty on Monday and Tuesday, the teacher reminded the</p>

		<p>pupils that this unevenness would make the burden for pupils in charge on Monday and Tuesday heavier. Looking at the way the teachers interfered when needed, and how she always encouraged and acknowledged pupils' remarks positively, I think the teacher truly understood MAKMur</p> <p>Question: In the class we observed today, there was a duty roster posted on the board in front of the class. How will the pupils differentiate the duty roster that already existed and the new roles assigned to everyone today?</p>
A1	<p>Ms. Siti Norain, MAKMur Coordinator SK Sungai Marong</p>	<p>The topic was class cleaning. This particular class performs very well academically. The problem is, some of them have trouble following the existing duty roster and the class cleaning was done only by the same group of pupils. So, today's discussion was done to improve this problem. By letting them decide their duty roster, I hope that the pupils will feel the responsibility to follow it.</p> <p>Regarding your comments on the board in front of the class, as you have observed, most of the decorations and posts were done by the teachers. From now on, we will try to increase pupils' works in the classroom.</p>
C	<p>Prof. Fujita, University of Tsukuba</p>	<p>Today, after the observation of the Classroom Discussion, I was given the honour to talk to the pupils and provide some comments. At the end of a Classroom Discussion, teachers usually take a little bit of time to summarise the discussion, reflect on the discussion, or confirm the next task for the pupils before dismissing the class. But today I was given that precious time by the teacher, and I took it as a chance for co-teaching. I hope that even when I am not here, the teachers will continue to use that precious time after each Classroom Discussion effectively.</p>

		<p>During the discussion, the teacher listened to pupils' remarks and paraphrased them so that the whole class can hear. I think this showcased a very high-level teaching ability of the teacher.</p> <p>As I have also told the pupils today, I am truly glad that I came all the way from Japan</p>
Q2	Ms. Siti Norain, MAKMur Coordinator SK Sungai Marong	Would it be acceptable if we create a plan for Classroom Discussion every week and distribute it among the class teachers?
A2	Prof. Fujita, University of Tsukuba	In the initial stage, creating this kind of model to help with the Classroom Discussion can be taken into consideration. Especially among the lower primary pupils, some may not have the ability to conduct the discussions on their own yet. They will get better at it once they move onto the upper primary. Thus, it is fine to start with this kind of initiative. However, I hope that in the future when MAKMur activities are more prevalent, pupils would be able to conduct Classroom Discussions without this model.
Q3	Ms. Siti Norain, MAKMur Coordinator SK Sungai Marong	Who decides the theme/topic of the Classroom Discussion?
A3	Prof. Fujita, University of Tsukuba	For the Year 1 and 2 pupils, teachers will usually decide/propose the topics to the pupils. In upper primary, pupils usually decide among themselves.
Q4	Ms. Siti Norain, MAKMur Coordinator SK Sungai	In today's Classroom Discussion, the results were to some degree polarised (note: The discussion was about deciding the duty roster. The number of pupils on duty for each day ended up uneven, making some days with too many pupils, and others with too few.)

	Marong	<p>At the end of the discussion, as the teacher, I asked them to try the new uneven duty roster, and see if they can improve it later.</p> <p>Was my way of handling the situation acceptable?</p> <p>If, after the discussion ended, a pupil decided to change their decision, what should I do?</p>
A4	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>Regarding the first question, it was not only an acceptable way of handling it, but it was also exceptionally well done. For a task that has a low risk of pupils getting injured like today (role assigning for duty roster), it is perfectly fine if they could not reach a preferable result. Teachers can ask pupils to carry out what they have discussed and see if there is any way to improve them in the next Classroom Discussion.</p> <p>Regarding the second question, there are two ways to handle this. First, teachers can ask the pupil to stick with what has been discussed in the class first. If the pupil still insists on changing, ask the pupil to speak to the whole class regarding his/her intent of changing the decision. As it is something that was agreed upon among the pupils, the class need to make the decision together. Refrain from making any changes by yourself, as it would render the Classroom Discussion meaningless.</p>
Q5	Teacher	What should we do if pupils have differing opinions that clash with each other?
A5	Prof. Fujita, University of Tsukuba	Two types of conflict can happen. First, a clash of opinions in a constructive discussion. Second, an emotional clash of opinions. Teachers need to be able to differentiate between the two. If it was the former, in the case of upper-year pupils, teachers do not need to interfere because learning how to overcome their differences and reach a collective consensus is also an important process for pupils to experience. If pupils were not able to decide in time, they can continue their

		<p>discussion in the next session. Teachers should not interfere too much. This is also the case in Japanese classroom discussions. For example, 'We didn't finish our discussion today, so let's think about it again next week'. In such cases, it is important to summarise the main points of the discussion and show them to the pupils.</p> <p>If it was the latter where pupils get emotional while discussing/arguing, teachers need to interfere. Teachers can remind pupils how they can convey their thought more appropriately. To prevent this kind of conflict in the classroom, teachers in Japan would post up a guideline of how pupils can phrase their opinions.</p>
Q6	MAKMur Coordinator	In Japan, how old are the first-year pupils?
A6	Prof. Fujita, University of Tsukuba	6-7 years old
Q7	Ms. Siti Norain, MAKMur Coordinator SK Sungai Marong	Does the lower primary pupil take charge of writing discussion notes on the blackboard?
A7	Prof. Fujita, University of Tsukuba	For first-year pupils, the teachers are in charge of both the chairperson and note-taker roles. In the second year, pupils will be in charge of being the chairperson, and teachers help with note-taking, due to their lack of language abilities. However, this may also differ depending on the teachers and the class.
Q8	Ms. Siti Norain, MAKMur Coordinator SK Sungai Marong	Currently, we have done the Classroom Discussion 2-3 times. Even in the first-year pupils, everything was entrusted to the pupils. Because of that, some class teachers complained that pupils were not able to write notes on the whiteboard. Is it acceptable for teachers to do note-taking?

A8	Prof. Fujita, University of Tsukuba	<p>Yes, teachers can take the role of note-taker. In Japan, Classroom discussions are mainly done by pupils, but for Year 1 and 2 pupils, teachers still take the main roles. Even if we force the Year 1 and 2 pupils to do it themselves, most of the time the pupils would just read the scripts provided by the teachers.</p> <p>One suggestion is to have the teacher take the role of the chairperson and note-taker so that the pupils can focus on having a discussion. Even in Japan, for Year 1 and Year 2 pupils, teachers usually take the role of the chairperson and note-taker at first. The pupils will then undergo a transition period, in which they will be taught how to do the chairperson and note-taker roles properly. During this period, teachers would prepare a script for the group in charge of conducting the Classroom Discussion. However, please be aware that if this is done from Year 1, there is a risk of the pupils becoming too reliant on the script.</p>
Q9	Teacher, SK Sungai Marong	Is there a particular classroom layout arrangement when Classroom Discussion is done in Japan?
A9	Prof. Fujita, University of Tsukuba	No. The classroom arrangements may be rearranged as see fit for the discussion.
C	Ms. Tsubokawa, AsiaSEED	<p>Today is the second visit for me. During my first time here, when I greeted the pupils, they didn't greet me back. But today, I was very delighted as the pupils greeted me. Even though this seems like a small thing, I believe that in MAKMur, these kinds of small changes will mount up to huge changes in the future.</p> <p>This morning, the headmaster expressed concern about MAKMur being a burden to the teachers. I want to reiterate that MAKMur is not about evaluating teachers' ability in conducting the activities. One of the principles of MAKMur is highlighting the Value of</p>

		<p>Mistakes, and this applies not only to pupils but also to teachers. We hope that teachers can go through the process of learning from mistakes, just as the pupils. What is more important is for teachers to be able to find joy in implementing MAKMur. I believe that pupils will change for the better when the teachers can find joy and meaning in implementing MAKMur.</p>
C	Dr. Ueno, AsiaSEED	<p>We are extremely grateful to this school and the Bentong district as a whole. In early April this year, the MAKMur project didn't have a specific activity set. When we brought up the idea of Classroom Discussion, we thought that it may be difficult to implement immediately. However, the schools in the Bentong district, including this school, gave the idea a go and reported that it was possible to implement Classroom Discussion. The contents of the toolkit were made based on feedback from the schools. The MAKMur project was able to move forward because of the contribution of the teachers in the Bentong district.</p> <p>We have also visited Pasir Mas and Sentul in the past two days. In both districts, we also observed their implementation of Classroom Discussion. With the appropriate conditions, we now know that implementing the core of MAKMur activities, which is the Classroom Discussion, is achievable. We hope to hear more from the teachers so that we can be better support for the teachers.</p>
C	Ms. Morimoto, University of Tsukuba	<p>We are very glad to be able to hear honest feedback from the teachers. I understand that the teachers have some worries while implementing the MAKMur activities. That in and of itself is not a bad thing. It's natural for some things to not be as successful as we intended. The important thing is teachers and pupils can learn from the experience, and gain new skills/abilities little by little. We hope that the teachers can keep sharing their problems in implementing MAKMur</p>

		activities so that we can also keep improving the MAKMur project. We would really appreciate your honest opinions so that we can keep moving forward with you.
C	Mr. Muhammad Hafiz, JICA Malaysia	I have two points that are related to Prof. Fujita's comment. <ol style="list-style-type: none"> 1. Self-esteem is very important for children's development. 2. We hope that the teachers will not think of MAKMur as another project that will be used to evaluate our teachers. That is not the main objective of MAKMur.

2. SCOPE OF SCHOOL VISIT

The scope of the school visit was set in advance to carry out the visit smoothly and to gather necessary information to proceed with the project with limited visiting time. Upon request from MOE, three perspectives were included in the scope as follows.

- i. Feasibility and Sustainability of Projek MAKMur
- ii. Role of headmasters in pilot schools
- iii. Adaptation of a Japanese model of holistic education to Malaysian schools

The details of the three perspectives are explained below.

i. Feasibility and Sustainability of Projek MAKMur

Special attention was paid to two points: (i) the Culture of prize-giving and (ii) the Prefect system in Malaysian schools. These are deeply rooted in Malaysian schools and there is a concern that they may hinder the advancement of the project. Therefore, the actual situation of these practices in pilot schools should be understood.

ii. Role of headmasters in pilot schools

The leadership of headmasters is critical in school activities in Malaysia. It will be also the case in Projek MAKMur. Support from headmasters will be a key element for teachers to carry out MAKMur activities. However, so far, there has not been

sufficient information-gathering regarding the role of headmasters in pilot schools. Thus, it is necessary to understand their current and expected roles in school and their opinions and attitudes towards the project.

iii. Adaptation of a Japanese model of holistic education to Malaysian schools

Projek MAKMur is in close reference to a Japanese model of holistic education, *Tokubestu Katsudo* (hereinafter referred to as *Tokkatsu*), literally ‘special activity’, based on existing educational practices in Malaysia. For example, classroom discussion, which is the core activity of the project, is one of the activities of *Tokkatsu*.

Importing foreign practices into Malaysian schools as it is merely a transplant of educational practices. Contextualisation of external knowledge is crucial in educational transfer. Therefore, effective ways of adopting *Tokkatsu* into the Malaysian school context should be pursued.

It is noted that some aspects other than the above-mentioned scope attracted attention during the school visit. Some noteworthy points are mentioned in this report.

3. FINDINGS AND DISCUSSION

This chapter explains findings through the school visit. In addition, the chapter discusses ideas beneficial to the project based on the findings.

i. Feasibility and Sustainability of Projek MAKMur

(i) Culture of prize-giving

Findings and Discussion	Recommendation
<p>The team had heard that prize-giving is a frequent practice in Malaysian schools and it may be a challenge to the feasibility and sustainability of Projek MAKMur. During the visits this time, the Japanese expert team was not able to collect sufficient information about the culture of prize-giving in the pilot schools to make a recommendation for the project.</p>	<p>Additional information-gathering is necessary.</p>

(ii) Prefect system

Findings and Discussion	Recommendation
<p>The Japanese expert team found the prefect system in Malaysia is unique in terms of its role and status. The system gives authority to selected pupils to supervise other pupils. Prefects are expected to provide leadership. Major characteristics of the prefect system found in the visited pilot schools are as follows.</p> <ul style="list-style-type: none">• Prefects are selected by teachers• A major criterion of selection is academic performance• The unit of selection is the year, not class• Target years for selection are 2 to 6• A pupil who becomes a prefect in Year 2 will stay as a prefect until Year 6 as long as he/she does not break school regulation• The uniform is differently coloured from other pupils• Prefects can get benefit from special opportunities other pupils cannot have such as leadership camp <p>The status of the prefect may be special due to the selection process and environment mentioned above. This special status would reinforce the leadership of prefects. With such strong leadership of prefects, the</p>	<p>Exploring ways to implement Projek MAKMur respecting the existing prefect system will be a reasonable solution. Listed below is what the Japanese expert team suggests as concrete actions on this issue.</p> <ul style="list-style-type: none">• Instil the MAKMur principles in pupils and their parents/guardians• Set concrete rules in doing MAKMur activities (e.g., each role should be respected) <p>Teachers are expected to explain the MAKMur principles to their pupils at the initial stage of MAKMur activities and continue to remind them to pupils afterwards. For example, teachers can display a poster about the principles in the classroom so that pupils can easily and naturally understand them at any time. It is also important for the headmaster and teachers to explain the MAKMur philosophy and principles at parent-teacher meetings and other opportunities.</p>

<p>perfect system would be a concern for Projek MAKMur as it may conflict with a MAKMur principle of 'equal opportunity', which aims for giving leadership to every pupil.</p> <p>The Japanese expert team learned that there is a long history of the prefect system in Malaysia and abolishing it is very difficult.</p>	
<p>Other pupils have leadership roles like prefects such as class monitors.</p>	<p>The same above-mentioned suggestions are made about working with class monitors in MAKMur activities.</p>

ii. Role of headmasters in pilot schools

Findings and Discussion	Recommendation
<p>Unfortunately, in the visited pilot schools, the Japanese expert team was not able to discuss the roles of headmasters with teachers and collect sufficient information about them, especially in MAKMur-related activities.</p>	<p>What the Japanese expert team can suggest now based on experience in <i>Tokkatsu</i> is an organising committee for Projek MAKMur in each school including the headmaster. In doing so, the headmaster can have a team to provide leadership to teachers. In addition, a training program in a Japanese School in Kuala Lumpur will be a good opportunity for headmasters to understand school administration in a Japanese school. To give further policy recommendations, the team must continue to collect relevant information and consider what and how the leadership of headmasters can be conducive to the project.</p>

iii. Adaptation of a Japanese model of holistic education to Malaysian schools

Findings and Discussion	Recommendation
<p>The adaptation of <i>Tokkatsu</i> practices to Projek MAKMur in the way presented in the Toolkit Version 1.0 seems to have worked so far since classroom discussion, a core activity in <i>Tokkatsu</i>, was well-applied in the visited pilot schools in line with the MAKMur principles.</p>	
<p>The Japanese expert team observed two classroom discussions at the primary level at SK Lemal in Pasir Mas and SK Sungai Marong in Bentong (one session at each school) (please refer to '2. INTRODUCTION' for the details of the classroom discussions). The classroom discussions went smoothly, rather they were a bit too perfect. The team infers they may have been rehearsed. According to MOE, in the meeting with the Japanese expert team, there is a custom in Malaysia in which teachers try to show only the good side of their pupils when they have visitors in school or class. Even if the schools have rehearsed beforehand, it is not such a bad issue since they proved to have sufficient potential to conduct classroom discussions. Nevertheless, it is hoped that in the future there will be a natural flow of class discussion, for example, with conflict of pupils' opinions.</p>	<p>Headmasters and teachers need to understand that it is a normal and natural state for classroom discussions facilitated by pupils not to unfold as planned. Conflicting discussions and even a lack of opinions are not at all uncommon.</p> <p>There needs to be an accumulation of knowledge about what support teachers should provide in such situations. In addition, such supports should differ depending on the year level (and the pupil's level of development). It is necessary to consider a systematic 'scaffolding' strategy that aims to enable pupils to smoothly engage in independent and autonomous classroom discussions by the time they graduate from primary school. (For details, please refer to the Recommendation in 'g. Toolkit Version 1.0'.)</p>
<p>Excellent in the classroom discussions was that both schools (classes) conducted classroom discussions</p>	

<p>consistent with the MAKMur principles. Pupils were given the experience of holding a meeting with their peers ('Learning through experience'). Pupils were asked to voice their opinions on the topic and most of them tried to do so ('Self-motivation'). Operational roles such as chairperson and note-taker were assigned by vote ('Equal opportunity'). The Japanese expert team cannot conclude at this point, of course, without investigating all the MAKMur activity processes ('Preparation', 'Plan', 'Do' and 'Reflect'), but the observations conducted this time imply the possibility of adaptation of <i>Tokkatsu</i> to Malaysian schools.</p>	
<p>However, there is a challenge to consider in terms of administration. It is ensuring time for MAKMur activities. As for <i>Tokkatsu</i>, the Japanese curriculum guarantees an independent time slot. A special time allocation is made for MAKMur activities during the trial run, but it is not guaranteed beyond the trial run.</p>	<p>To work on MAKMur activities without hindering the progress of the curriculum, a certain amount of time is necessary for teachers and pupils. Alternatively, ways of incorporating MAKMur activities into the periods for subjects or co-curricular activities should be considered. An example is choosing topics related to the content of subject studies for MAKMur activities.</p>

Others

Points to note out of the scope of the school visit are described here.

a. Layout in classroom

Findings and Discussion	Recommendation
During the discussions with teachers and the Ministry staff at SK Batu Muda	Opportunities to learn classroom layout in MAKMur activities may be

(Sentul) and SK Sungai Marong (Bentong), questions about classroom layout were raised. They seemed to be unsure of how the classroom layout should be.	beneficial to teachers.
--	-------------------------

b. Displays in classroom

Findings and Discussion	Recommendation
There found many displays on the wall in classrooms in the visited pilot schools, but most of them were prepared by the teachers. Displaying pupils' work enhances their self-esteem and sense of belonging to the class.	Teachers should be encouraged to display what is produced by pupils. For example, posters about class goals decided by classroom discussion can be produced by pupils and displayed on the wall in the classroom.

c. MAKMur activities other than classroom discussion and discussion topics

Findings and Discussion	Recommendation
As mentioned earlier, the visited pilot schools practised classroom discussion well at this initial stage of Projek MAKMur. However, MAKMur activities are not completed with classroom discussion only. Classroom discussion is one step ('Plan') in the MAKMur activity process. This time, the team was not able to observe the two steps of 'Do' and 'Reflect' (and pre classroom discussion ['Preparation']) in the MAKMur activity process due to the timing of visit. These two steps should be certainly carried out.	As a next step, the Japanese expert team expects pilot schools to surely step their practice forwards to executing activities ('Do') and reflecting ('Reflect').
Both topics of the classroom discussions observed this time were about cleaning. Teachers and pupils are free to design MAKMur activities according to their school and class	In the future, the team expects that original and unique topics based on the needs of individual schools will be discussed in classroom discussions.

context as far as they follow the MAKMur principles, criteria and Spiral Process.	
---	--

d. Home environment and parental involvement

Findings and Discussion	Recommendation
<p>Consideration of pupils' home environment seems to be a key to promoting Projek MAKMur. There is a concern about a gap in value-learning among pupils due to their home environment as the headmistress of SK Batu Muda in Sentul showed.</p>	<p>For this issue, the first step is collecting data about pupils' home environment. An accurate understanding of the influence of pupils' home environment is the basis for taking an action. The Projek MAKMur team needs to collect data on parenting styles, economic/cultural/social situations, etc utilising the baseline survey or existing and future available data. Then, the team needs to analyse the data combining them with the results of MAKMur-related values/abilities. It will reveal whether/what/how the home environment is related to pupils' learning of the values/abilities. If yes and there would be challenges arising from pupils' home environment to the project, the project team will need to consider and take measures to overcome the challenges to make the project as effective as possible.</p> <p>Even if there would be no relationship between the home environment and pupils' learning in MAKMur activities, the involvement of family in the project should be considered. The Japanese expert team was informed that parental involvement in class is</p>

	<p>common practice in Malaysia. It would be beneficial for the project to take advantage of the practice and involve parents/guardians in MAKMur activities.</p> <p>There would be two ways of parental involvement in Projek MAKMur. The first is involvement in class. For example, Parents/guardians can be facilitators in class with teachers. The second is involvement at home. For example, parents/guardians can engage with their children in a way to develop their abilities and values at home in line with MAKMur's philosophy. The latter seems more difficult than the former since it occurs outside school. However, it is worth pursuing as the headmaster of SK Lemal in Pasir Mas values. He stated he would like to apply what the school learns in Projek MAKMur not only at school but also at pupils' homes.</p>
--	---

e. Collaboration between pilot schools

Findings and Discussion	Recommendation
<p>The headmaster of SK Sungai Marong in Bentong mentioned that he would like to share what he learnt from the discussion with the Japanese expert team with other pilot schools in his district. This is an ideal situation for Projek MAKMur.</p>	<p>Collaboration between pilot schools such as information sharing should be encouraged. What the Projek MAKMur team must do is creating and promoting a collaborative environment and atmosphere for a community of mutual learning between pilot schools. To do so, an important action would be to establish communication channels between the pilot schools utilizing</p>

	information exchange meetings, joint workshops and distribution of newsletters.
--	---

f. Preschool education

Findings and Discussion	Recommendation
The Japanese expert team observed a MAKMur activity at the preschool level at SK Batu Muda in Sentul. The class practised free play. The pupils in groups were free to create with blocks facilitated by the class teacher. The practice was excellent. The class teacher facilitated the class in a good manner. In line with the content of the Toolkit Version 1.0, group free play was incorporated into Aktiviti Pembelajaran. In addition, a reflection activity was incorporated as well. By observing the practice, the Japanese expert team is convinced that there are preschool teachers who are capable to guide peers.	In each pilot district, the team recommends MOE to appoint such preschool teachers as model teachers in Projek MAKMur. Model teachers can play similar roles as school coordinators for primary teachers in preschools and they will be a reference for other teachers. In this way, a peer-to-peer training mechanism in preschool schools can be created.

g. Toolkit Version 1.0

Findings and Discussion	Recommendation
The 'Toolkit Version 1.0' is concise yet well-designed to convey the essence of holistic education to the readers. The combination of the three elements of 'cognitive', 'feelings', and 'behaviour' as the foundation for lifelong pupil development, as well as the three main principles and the three criteria incorporated into all activities, are effectively presented to integrate MAKMur's philosophy into practice.	There remains some room for improvement. For example, it is important to expand the explanations and practical examples that consider the growth of pupils while they are in primary school. For instance, one of the three Criteria, 'Pupil-driven', should make clear that the degree of expectation should be different between first-year pupils who have just entered primary school and sixth-

<p>Furthermore, the toolkit has been organised into three parts, making it an easy-to-use guidebook for the readers by clarifying the role of each part.</p>	<p>year pupils in their final year of school. Especially in the first and second-year pupils, it is acceptable for the teacher to coordinate and facilitate classroom discussions, as well as note-taking on the whiteboard. In this context, when teachers positively recognise and encourage pupils to speak up spontaneously and actively, pupils will understand the significance of speaking up voluntarily as well. In addition, the teacher's facilitation, note-taking, and positive remarks in response to pupils' statements serve as a model or exemplar for the pupils. It is necessary to understand that the 'pupil-driven' aspect should be strengthened gradually in a step-by-step manner during the six years of primary school education. Teachers at the pilot schools were striving to approach the 'ideal practices' outlined in the toolkit at all year levels, but they will need to be flexible and consider the degree of development of their pupils. This point must be carefully explained for the future expansion of the program nationwide. Furthermore, depending on the topic of the classroom discussion, teacher facilitation may be appropriate even for the third year and above. In this regard, avoiding the enforcement of rigid and strict interpretation of the toolkit and valuing each teacher's professional expertise-based judgements should be respected.</p>
--	--

	<p>It is also important to guide the pupils toward logical speech and the appropriate vocabulary for classroom discussions in conjunction with the Malay language classes. Regarding critical thinking skills, consideration should be given to utilizing the results of learning not only in the Malay language but also in math, science, and other school subjects. Classroom discussions need to be more clearly presented as an opportunity to integrate the learning outcomes across subjects.</p> <p>In addition, the toolkit itself needs to be digitised as a future challenge. This would make it easier to include videos of some of the best practices, 'thinking tools: such as Venn diagrams, Y/X/W charts, PMI Chart (P: plus, M: minus, and I: interesting), and other analysis charts' to invigorate discussion, and other teaching materials for download.</p>
--	--

4. POLICY RECOMMENDATION

By summarising the recommendations based on the findings and discussions in the previous chapter (please refer to '4. FINDINGS AND DISCUSSION'), the Japanese expert team would like to give the following suggestions to enhance the effectiveness of Projek MAKMur.

- i. Provide training opportunities to teachers on various topics (classroom layout, classroom display, etc.)
- ii. Explore ways to implement Projek MAKMur respecting the existing prefect system

- iii. Organise committee for Projek MAKMur in each pilot school including the headmaster
- iv. Take advantage of training in Japanese School in Kuala Lumpur for headmasters to understand school administration about Tokkatsu
- v. Consider a way to ensure time for MAKMur activities after the trial run
- vi. Investigate the relationship between home environment and pupils' learning in Projek MAKMur
- vii. Involve parents/guardians in MAKMur activities
- viii. Promote collaboration between pilot schools
- ix. Appoint model teachers for preschool schools in each pilot district

There are nine suggestions and it may be difficult to undertake all of them immediately. Thus, the Japanese expert team suggests prioritising the suggestions taking the circumstances of the pilot schools and Projek MAKMur into account.

5. LIMITATIONS

There were limitations of the school visit as follows.

- i. Limited time of school visit (one-off-visit of three to five hours per school)
- ii. Limited number of schools visited (three out of 15 pilot schools)
- iii. Limited methods of information-gathering (mainly Q&As bringing together multiple stakeholders)

The information-gathering may have been affected by the above-mentioned limitations in terms of quantity and quality. The first limitation may have limited the amount of information gathered during the visits. The second limitation may have limited the sources of the information and it may have affected the validity of the recommendations to all the 15 pilot schools. The third limitation may have affected the quantity and quality aspects of the information since it was difficult to collect specific information sufficiently from a target informant individually in a situation where multiple stakeholders are together in the same place.

6. RECOMMENDATIONS FOR FUTURE VISIT

For further policy recommendations to develop Projek MAKMur overcoming the

limitations mentioned in '6. LIMITATIONS', additional rounds of school visits ought to be carried out targeting the other pilot schools as well as the ones visited this time. In addition, appropriate methods of information-gathering should be considered based on what information should be gathered from what informant (e.g., individual interview). In doing so, more detailed information can be gathered to accurately understand the details of the challenges and progress of Projek MAKMur and consider the way forward of the project.


7. CONCLUSION

This report describes the school visit to three pilot schools (SK Lemal in Pasir Mas, SK Batu Muda in Sentul and SK Sungai Marong in Bentong) in Projek MAKMur conducted by the Japanese expert team in August 2022. Moreover, the report makes policy recommendations for future development of Projek MAKMur based on the information gathered through class observation, school tours and discussions with school teachers during the visits.

Although there are limitations in information-gathering, nine suggestions are made (please refer to '5. POLICY RECOMMENDATION' for the suggestions) mainly according to the scope of the school visit (please refer to '3. SCOPE OF SCHOOL VISIT' for the details of the scope). To collect further information to make a policy recommendation for Projek MAKMur, the Japanese expert team proposes additional visits to the other pilot schools, as well as the ones, visited this time adopting appropriate methods of information-gathering.

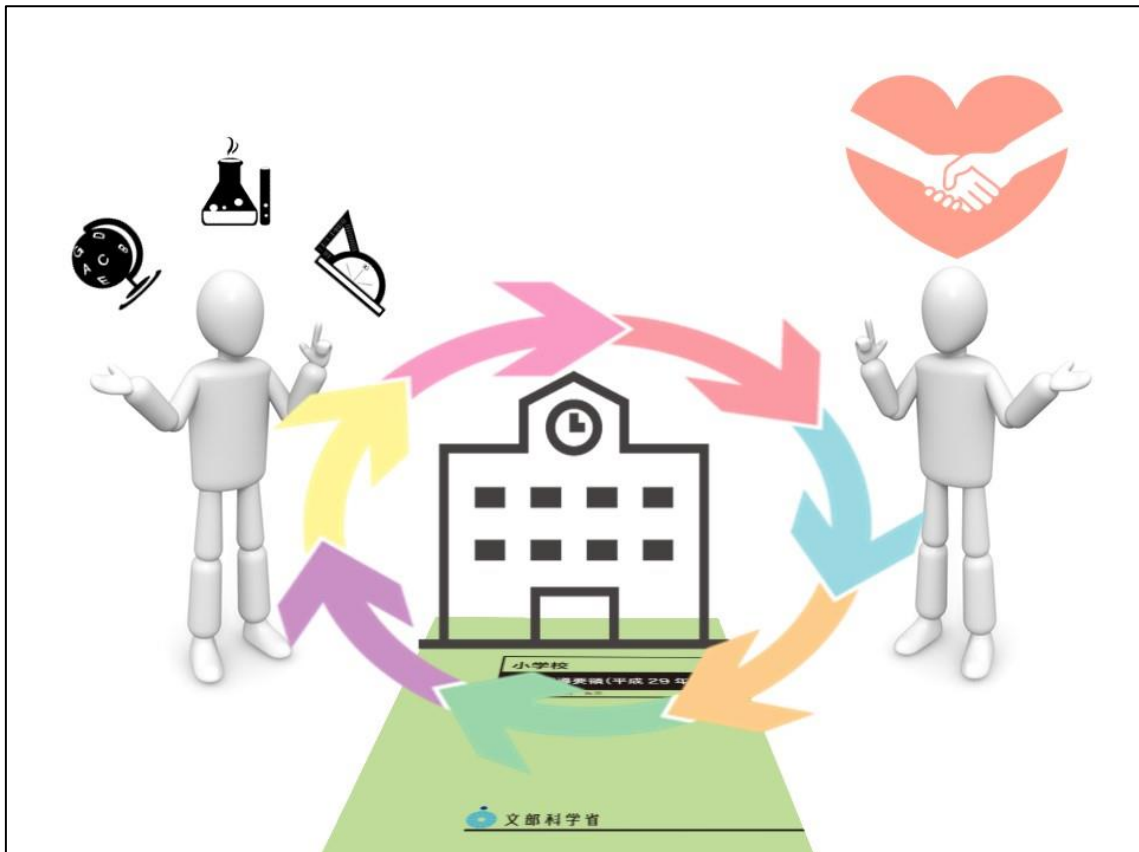


8. ANNEX

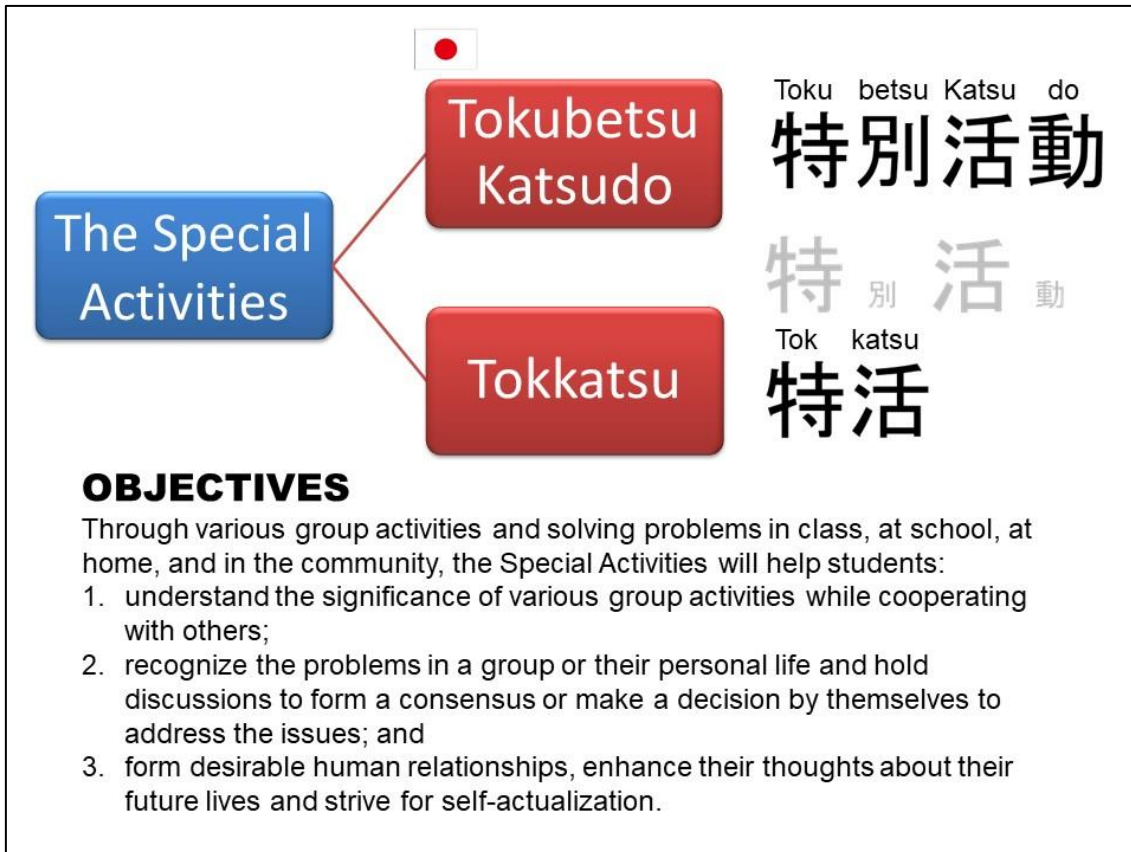
8.1. PRESENTATION MATERIAL BY PROFESSOR TERUYUKI FUJITA

 **Project MAKMUR**

Overview of the Special Activities in Japanese Elementary Schools

Teruyuki FUJITA, Ph.D.
Professor
Faculty of Human Sciences
University of Tsukuba





The Classroom Activities



Three Components for the Classroom Activities

1. Participation in the creation of life in the classroom and/or school
 - Taking up issues, for example, things students want to do together or problems they want to solve together to make the classroom or school life enjoyable and fulfilling.
 - Except for first and second graders, it is common for students to conduct the proceedings themselves. The chairpersons are appointed on a rotational basis and are often different each time.
2. Adaptation to daily life and learning, and securing growth, health and safety
3. Career-building and self-actualization
 - Addressing issues in the everyday life for (2), and issues on life and learning from a current and future perspective for (3)

FOCUS

Forming
Consensus

FOCUS

Making
Decisions
Individually



5th Graders, Tanagura Elementary School, Fukushima Prefecture, Dec. 18, 2019

Agenda

- Let's have a memorable "Fun Party" before the winter vacation.

Considerations for discussion

- Let's organize the program that everyone in the class can participate in.
- Decide on the preparations for the Fun Party and the roles to be played on the day.



2nd Graders, Tanagura Elementary School, Fukushima Prefecture, Dec. 18, 2019

Agenda

- Let's plan a "Fun Party" to celebrate our hard work from September to December.
 - Even in the second grade, students are given the opportunity to moderate the discussion. However, in consideration of the developmental stage of the students, the classroom teacher is in charge of recording on the blackboard.

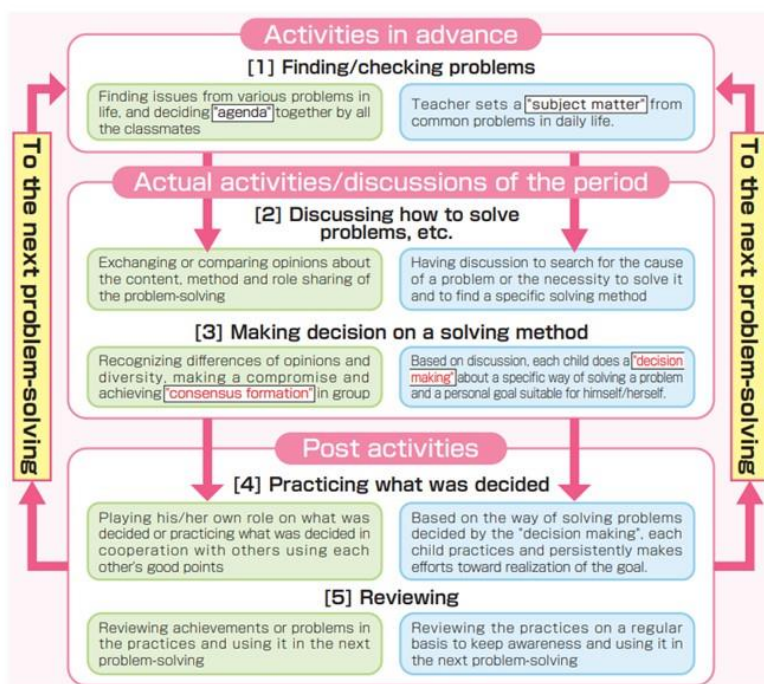


6th Graders, Yamaguchi Elementary School, Hyogo Prefecture, June 18, 2021

Agenda

- Let's improve the quality of "Vertical Group Cleaning".
 *Vertical group: Students from different grades with the same class number, such as "1st Grade, Class 1", "2nd Grade, Class 1" ... "6th Grade, Class 1", get together and decide the roles of cleaning the school and perform the cleaning.

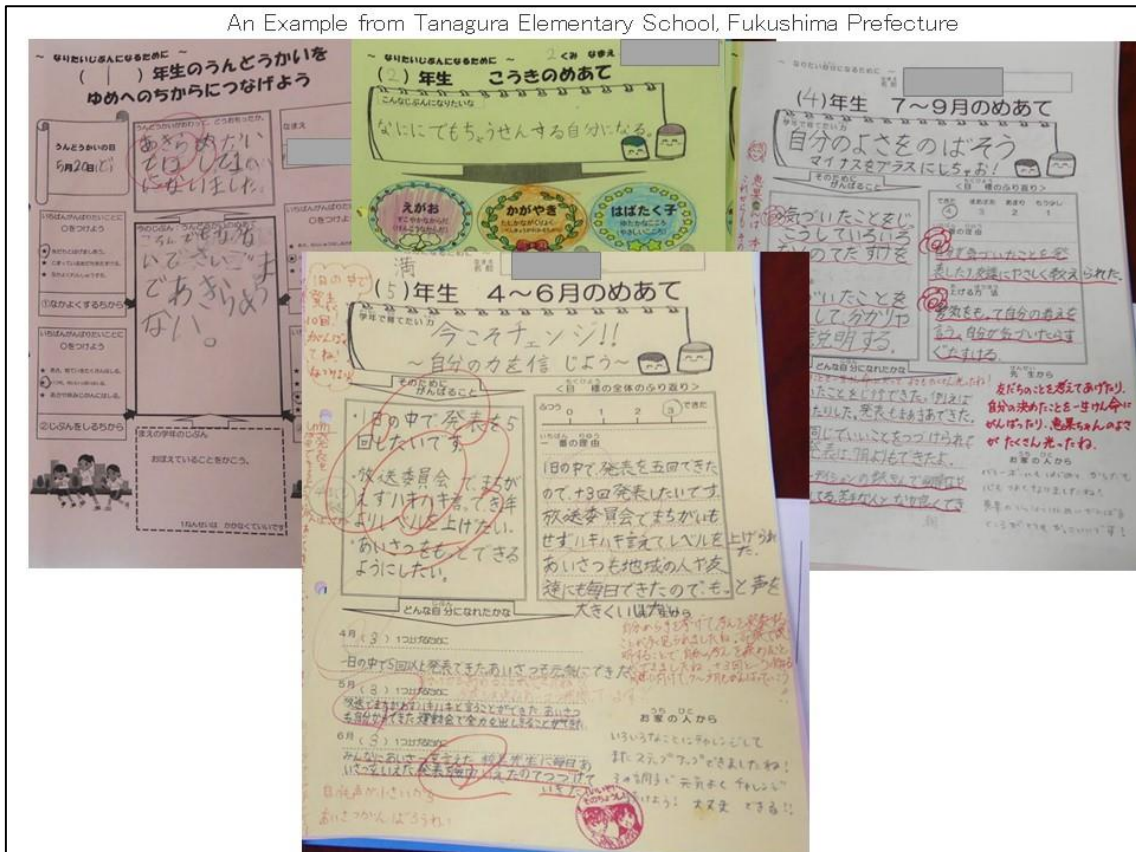
Typical Learning Process for the Classroom Activities



Launching "Career Passport" from Grade 1

- MEXT has mandated all schools to launch a 12-year consecutive career portfolio named "Career Passport" from Grade 1. The portfolio is designed literally for all students in every Elementary, lower secondary, and upper secondary school. Each student will be expected to use his/her portfolio continuously for 12 years.
- According to the MEXT's Administrative Notice sent to all local boards of education on March 29, 2019, "Career Passport" is a portfolio with which students look back their learning processes in each school subject, and in their daily life in and out of schools, focusing on "Tokkatsu" such as the Classroom Activities. It is a portfolio devised for self-evaluation by every student on his/her own career development and growth.

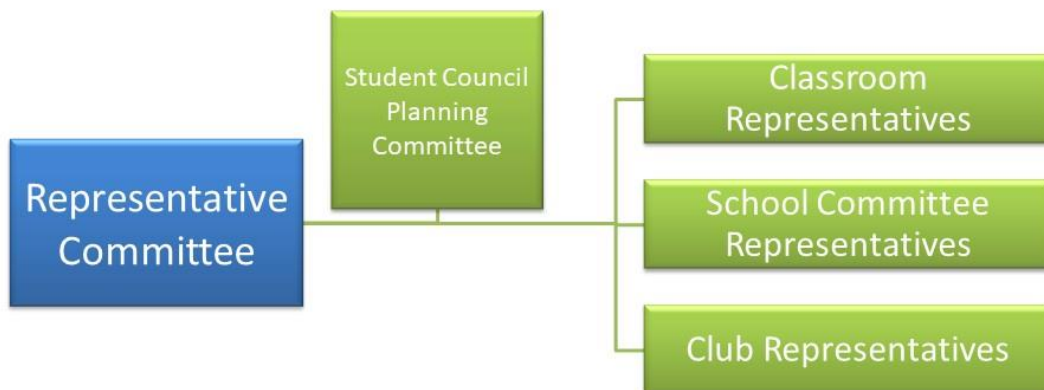
An Example from Tanagura Elementary School, Fukushima Prefecture



The Student Council Activities & School Events



Typical Organization of the Student Council



School Committees

In principle, all students in 5th and 6th grades are divided into several School Committees and conduct activities of each committee for making the whole school life enjoyable and fulfilling. The Committees are different from school to school. However, school newspaper committee, broadcasting committee for lunch-time programs, library committee, school environment committee, and health committee are organized in many elementary schools.

Five Categories of the School Events

- 1. Ceremonial events**
 - ✓ Having a fresh feeling and setting landmarks in life
- 2. Cultural events**
 - ✓ Enriching children's life with culture and arts
- 3. Events for health and safety / Sports events**
 - ✓ Developing a healthy mind and body and a safe way of living
- 4. Excursions and group lodging**
 - ✓ Learning the importance of cooperation and being considerate of one another
- 5. Events for experiencing labor and service**
 - ✓ Get to know the pleasure of serving people

Concluding Remarks



**Thank you every much for your attention.
Terima kasih banyak atas perhatian anda.**

Teruyuki FUJITA, Ph.D.
Professor
Faculty of Human Sciences
University of Tsukuba
tfujita@human.tsukuba.ac.jp



ANNEX 4E/4J

Base-line End-line Survey Interim Report (Phase 1)

ベースライン・エンドライン調査中間結果報告書（フェーズ1）

マレーシア国全人教育推進プロジェクト (MAKMur)

ベースライン・エンドライン調査 中間結果報告書 (フェーズ 1)

2023 年 2 月

独立行政法人国際協力機構
特定非営利活動法人アジア科学教育経済発展機構
国立大学法人筑波大学

目次

1. 要旨	5
2. 概要と目的	6
2.1 MAKMur プロジェクトの概要	6
2.2 ベースライン調査の概要と目的	7
2.3 ベースライン調査および数字の獲得に関する実験の限界	8
3. 調査方法	9
3.1 調査対象者・参加者	9
3.2 アンケート	10
3.3 数概念獲得の実験	11
3.4 ベースライン調査実施説明会	11
3.5 分析手順	16
4. 考察	16
4.1 小学校第4および第5学年の児童を対象とするアンケート(QFF)	17
4.2 小学生保護者を対象とするアンケート(QGP)	20
4.3 教員(クラス担任)を対象とするアンケート(QCT)	22
4.4 主成分分析	24
4.5 重回帰分析	26
4.6 学校の指導と学習スタイル	30
4.7 数概念獲得の実験	37
5. MAKMur プロジェクトへの政策的意義と提言	39
6. 結論	40
7. 参考文献	41
8. 付録	42

図表一覧

表一覧		頁
表 1	MAKMur が推進する 14 の能力と価値	7
表 2	チームメンバーの一覧	8
表 3	地区別 MAKMur ベースライン調査対象の小学校一覧	9
表 4	アンケートおよび実験ごとの標本数と回答数の比較	10
表 5	ベースライン調査実施説明会 1 の仮日程	12
表 6	ベースライン調査実施説明会 1 午前の部の出席者	12
表 7	ベースライン調査実施説明会 1 午後の部の出席者	13
表 8	ベースライン調査実施説明会 2 の仮日程	13
表 9	ベースライン調査実施説明会 2 午前の部の出席者	14
表 10	ベースライン調査実施説明会 2 午後の部の出席者	14
表 11	ベースライン調査実施説明会 3 の仮日程	15
表 12	ベースライン調査実施説明会 3 午前の部の出席者	15
表 13	ベースライン調査実施説明会 3 午後の部の出席者	16
表 14	PE にかかる質問と対応する能力・スキル一覧	17
表 15	QFF における有意な差異	18
表 16	QFF における介入群と対照群の平均値比較結果	19
表 17	QFF における男女間の平均値比較結果	20
表 18	QGP における有意な差異	21
表 19	QGP における介入群と対照群の平均値比較結果	21
表 20	QGP における男女間の平均値比較結果	22
表 21	QCT における有意な差異	23
表 22	QCT における介入群と対照群の平均値比較結果	23
表 23	QCT における男女間の平均値比較結果	24
表 24	各主成分の固有値および分散比率と累積分散比率	25
表 25	各項目の第1主成分における負荷量	26
表 26	QGP の質問 40 から質問 46 に対応するダミー変数	27
表 27	PC1 (従属変数) に対する TM, GE, FB (独立変数) の寄与に関する統計量	28
表 28	回帰式に関する分散分析(ANOVA)	28
表 29	PC1 (従属変数) に対する TM, GE, FB (独立変数) の効果	29
表 30	PC1 (従属変数) に対する GE (独立変数) の寄与に関する統計量	30
表 31	回帰式に関する分散分析(ANOVA)	30
表 32	PC1 (従属変数) に対する GE (独立変数) の効果	30
表 33	Q1, QHH に対する回答数および回答比率	31
表 34	Q2, QHH に対する回答数および回答比率	31
表 35	Q3, QHH に対する回答数および回答比率	31
表 36	Q4, QHH に対する回答数および回答比率	31
表 37	Q5, QHH に対する回答数および回答比率	32
表 38	Q6, QHH に対する回答数および回答比率	32
表 39	Q7, QHH に対する回答数および回答比率	32
表 40	Q8, QHH に対する回答数および回答比率	33
表 41	Q9, QHH に対する回答数および回答比率	33
表 42	Q10, QHH に対する回答数および回答比率	33
表 43	Q11, QHH に対する回答数および回答比率	33
表 44	Q12, QHH に対する回答数および回答比率	34

表 45	Q13、QHH に対する回答数および回答比率	34
表 46	Q14、QHH に対する回答数および回答比率	34
表 47	Q15、QHH に対する回答数および回答比率	34
表 48	Q16、QHH に対する回答数および回答比率	35
表 49	817、QHH に対する回答数および回答比率	35
表 50	Q18、QHH に対する回答数および回答比率	35
表 51	Q19、QHH に対する回答数および回答比率	35
表 52	Q20、QHH に対する回答数および回答比率	36
表 53	Q21、QHH に対する回答数および回答比率	36
表 54	Q22、QHH に対する回答数および回答比率	36
表 55	実験 5、全校に対する回答数および回答比率	37
表 56	実験 5、介入群に対する回答数および回答比率	37
表 57	実験 5、対照群に対する回答数および回答比率	37
表 58	実験 8、全校に対する回答数および回答比率	38
表 59	実験 8、介入群に対する回答数および回答比率	38
表 60	実験 8、対照群に対する回答数および回答比率	38

図一覧

図 1	各主成分の固有値のスクリープロット	25
図 2	Q1、QHH に対する回答数および回答比率	31
図 3	Q2、QHH に対する回答数および回答比率	31
図 4	Q3、QHH に対する回答数および回答比率	31
図 5	Q4、QHH に対する回答数および回答比率	31
図 6	Q5、QHH に対する回答数および回答比率	32
図 7	Q6、QHH に対する回答数および回答比率	32
図 8	Q7、QHH に対する回答数および回答比率	32
図 9	Q8、QHH に対する回答数および回答比率	33
図 10	Q9、QHH に対する回答数および回答比率	33
図 11	Q10、QHH に対する回答数および回答比率	33
図 12	Q11、QHH に対する回答数および回答比率	33
図 13	Q12、QHH に対する回答数および回答比率	34
図 14	Q13、QHH に対する回答数および回答比率	34
図 15	Q14、QHH に対する回答数および回答比率	34
図 16	Q15、QHH に対する回答数および回答比率	34
図 17	Q16、QHH に対する回答数および回答比率	35
図 18	Q17、QHH に対する回答数および回答比率	35
図 19	Q18、QHH に対する回答数および回答比率	35
図 20	Q19、QHH に対する回答数および回答比率	35
図 21	Q20、QHH に対する回答数および回答比率	36
図 22	Q21、QHH に対する回答数および回答比率	36
図 23	Q22、QHH に対する回答数および回答比率	36
図 24	実験 5、全校に対する回答数および回答比率	37
図 25	実験 5、介入群に対する回答数および回答比率	37
図 26	実験 5、対照群に対する回答数および回答比率	37
図 27	実験 8、全校に対する回答数および回答比率	38
図 28	実験 8、介入群に対する回答数および回答比率	38
図 29	実験 8、対照群に対する回答数および回答比率	38

略語一覧

ANOVA	Analysis of Variance 分散分析
df	Degree of freedom 自由度
DV	Dependent Variables 従属変数
FB	Guardians and Family Backgrounds 保護者と家庭環境
GE	Guardians' Evaluation 保護者の評価
IV	Independent Variables 独立変数
JICA	Japan International Cooperation Agency 国際協力機構
MAKMur	Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (The Project for Promoting Holistic Education) マレーシア国全人教育推進プロジェクト
MOE	Ministry of Education of Malaysia マレーシア教育省
MS	Mean sum of square 平均平方和
N	Number of participants 参加者数
PC	Principal Component 主成分
PE	Pupil's Evaluation 児童自身の評価
Q#	Question Number 質問番号
QCT	Questionnaire for Class Teachers 教員（クラス担任）への質問
QFF	Questionnaire for Year 4 & 5 Pupils 小学校第4および第5学年の児童への質問
QGP	Questionnaire for Guardians of Primary School Pupils 小学生保護者への質問
QHH	Questionnaire for Headmaster/Headmistress 学校長への質問
QPS	Questionnaire for Guardians of Preschool Pupils 幼稚園児保護者への質問
R/D	Record of Discussions 討議議事録
SEM	Standard Error of Mean 標準誤差
SIP+	School Improvement Partner+ 学校改善パートナー
SISC+	School Improvement Specialist Coach+ 学校改善専門家コーチ
SK	Sekolah Kebangsaan (National Primary School) 国民小学校
SS	Sum of square 平方和
TL	School Teaching and Learning Style 学校の指導と学習スタイル
TM	Pupil's Time Management 児童の時間管理

1. 要旨

マレーシア国全人教育推進プロジェクト (MAKMur) は、マレーシア教育省 (MOE) と日本の国際協力機構 (JICA) が主導する技術協力プロジェクトである。MAKMur は、「学級会」など日本の全人教育の実践を各校の状況や校風に合わせて取り入れ作り変えることで、マレーシアにおける全人教育のさらなる発展を促すことを目的としている。本プロジェクトの目的は、児童の認知・非認知能力を高める効果的な方法を特定し、最終的にはこれらの方法をマレーシア全土に展開し、バランスのとれた個人を育成するための環境を整えることにある。MAKMur プロジェクトのこれらの目的を達成するためには、以下のことが重要である。

- MAKMur ツールキットの開発
- MAKMur の有効性を示すエビデンスの提供
- 啓発活動やアドボカシー活動のための資料提供
- 教育環境改善のための情報提供

より具体的には、ベースライン調査 (2022 年実施)、中間調査 (2023 年実施予定)、エンドライン調査 (2024 年実施予定) の目的は、一連の調査活動を通じて下記の(1)~(4)を実行することにより、上述のタスクの達成に必要な情報を提供することである。

- (1) パイロット校と非パイロット校の児童の認知・非認知能力の変化を調査・比較することにより、ツールキットの有効性を検証する。
- (2) 児童の認知・非認知能力と保護者の児童への関わり方・態度との関係を調査する。
- (3) 指導・学習スタイルと児童の活動への関与および認知・非認知能力との関連性を明らかにする。
- (4) MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットによる様々な活動への児童の関与と達成度を評価し、ツールキットを改善する。

2022 年に実施された今回のベースライン調査を通して、(1)、(2)、(3)に関連する定量データを収集した。なお、これは「パイロット校」として選ばれた 3 地区 (Sentul、Bentong、Pasir Mas) の幼稚園併設の小学校 15 校が MAKMur 実践を試行する直前の調査である。また、比較のため、非パイロット校 6 校 (Sentul、Bentong、Pasir Mas から各 2 校) も調査に参加した。

(2)については、ベースライン調査のデータを分析した結果、保護者の子どもに対する関わり方や態度が子どもの能力評価と正の相関があること、特に以下の点が明らかになった。

- 子どもの興味・関心を尊重する。
- 行動や経験について子どもといっしょに振り返る。

上記の結果は 2 つとも児童の主体的に学ぶ態度の育成に関係するものであり、教育実践の質の向上に繋がるものと考えられる。つまり、授業まで含めて、子どもの興味・関心の尊重や振り返りの手法の導入あるいは促しにより、子どもの能力に正のインパクトを与えることが示唆されよう。(3)に関連していると言える。また、このことは啓発活動やアドボカシーのための資料作成にあたり有益である。

(1)、(3)については、児童や学校の指導・学習スタイルに対する評価点が総じて高く、今後、定量的なデータのみで改善を測ることに一定の困難 (天井効果) を示唆する一方、MAKMur の理念や基準に基づいた活動を包括的に導入するための素地が出来ていることを示している。

その他、今回のベースライン調査を通じて得られた主な結果は以下の通りである。

- 総じて女子児童の非認知能力は男子児童よりも高い。
- 非認知能力についてパイロット校の教員は非パイロット校の教員よりも高く評価する傾向がある。

- 認知能力について児童の数の概念の学習は就学前の時期に加速する。

ベースライン調査で収集されたデータは、中間およびエンドライン調査で収集されるデータと合わせて、(1)と(3)の調査に利用される。

2. 概要と目的

2.1 MAKMur プロジェクトの概要

全人教育推進プロジェクト（マレー語で **Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid**、以下「MAKMur」）は、マレーシア教育省（以下「MOE」）と国際協力機構（以下「JICA」）が主導する技術協力プロジェクトである。マレーシア教育省は、カリキュラム改革や児童の認知的・非認知的発達に焦点を当てた学習活動など、さまざまなプログラムや取り組みを通して、児童が価値規範を自分のものとし、全人的な成長を遂げるための学習機会を積極的に提供してきた。MAKMur は、マレーシアと日本の技術協力を通じて、マレーシアにおける全人教育のさらなる発展を目指すものである。本プロジェクトでは、児童の認知・非認知能力を高める効果的な方法を特定し、最終的には、これらの方法をマレーシア全土に展開し、バランスのとれた個人を育成するための環境を整えることを目指している。

MAKMur プロジェクトは、調和とバランスのとれた社会の実現を目指すマレーシアの国家教育理念に基づき、児童が多様でバランスのとれた社会の構築に貢献できる個人に成長できるよう、児童の資質や能力を高め、前向きな行動を促進する学校の気風を構築するために導入された。本プロジェクトでは、日本の学校をモデルにした全人教育活動をマレーシアの学校の状況や既存の実践に合わせて取り入れ作り変えるアプローチを強調している。本プロジェクトの導入により、認知、感情、行動の3つの要素を組み合わせることで児童を育成し、ひいては児童が生涯にわたって成長するための基礎固めとなることが期待される。

MAKMur の核となる原則は次の3点である。

1. 体験を通じた学び

児童は、友だちと活動を共にする体験する機会を与えられ、その繰り返しにより、子ども自身のスキルや能力を高めていく。

2. 自発的な活動

MAKMur 活動すべてにおいて、子ども自身が考えることが前提となる。そうなれば、グループ内で議論された問題を解決したり、活動を実行したりすることにより意欲的になれる。

3. 機会均等

すべての児童が MAKMur 活動に参加する機会を与えられる。このような機会を通じて、すべての児童が同じような経験をし、互いに助け合いながら自分自身のスキルや能力を向上させることは非常に重要である。

MAKMur の原則を常に実践するために、すべての MAKMur 活動は、以下の3つの基準を満たすことが必要である。

1. 失敗に価値をおくこと

2. 児童が主体

3. すべての児童への機会提供

全 MAKMur 活動において、児童がバランスのとれた個人として成長するための様々な能力と価値が包摂されるべきである。MAKMur では、表1にあるように、合計14の能力と価値が重要とされている。しかしながら、教員は MAKMur の各活動において、取り込まれる能力や価値を柔軟に広げてかまわない。

表 1

MAKMur が推進する 14 の能力と価値

Self-esteem 自尊心	Motivation やる気
Leadership リーダーシップ	Planning 計画性
Communication コミュニケーション	Flexibility 柔軟性
Cooperation 協調性	Reasoning 思考力
Participation 参加度	Creativity 創造性
Facilitation ファシリテーション	Proactive and desire to challenge 積極性と挑戦意欲
Tolerance and kindness 寛容と親切心	Critical thinking 批判的思考力

Sentul、Bentong、Pasir Mas から幼稚園併設の 15 校のパイロット小学校に、MAKMur プロジェクトが導入された。2022 年 7 月には MAKMur キャパシティビルディング・ツールキット Ver.1 (ツールキット V1) が作成された。これは、MAKMur 活動を「計画し、実行し、振り返る」プロセスにおいて教員を支援することを意図して作成されたもので、バランスのとれた個人の発達に関わる認知、感情、行動の要素を統合することの重要性を強調し、MAKMur の原則と基準に基づいている。

2.2 ベースライン調査の概要と目的

MAKMur プロジェクトの目的を達成のため、すなわち児童の認知・非認知能力を高める効果的な方法を特定し、最終的には、これらの方法をマレーシア全土に展開し、バランスのとれた個人を育成するための環境を整えるために、以下が肝要である。

- MAKMur ツールキットの開発
- MAKMur の有効性を示すエビデンスの提供
- 啓発活動やアドボカシー活動のための資料提供
- 教育環境改善のための情報提供

このタスクを実行するには、MAKMur プロジェクトの遂行により生ずる変容を追跡するための複数の調査が必要となる。実際、下記の(1)~(4)の実行を通して上記のタスクに必要な情報を提供することを目的とするベースライン調査 (2022 年実施)、中間調査 (2023 年実施予定)、エンドライン調査 (2024 年実施予定) の 3 回を計画した。

- (1) パイロット校と非パイロット校の児童の認知・非認知能力の変化を調査・比較することにより、MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットの有効性を検証する。
- (2) 子どもの認知・非認知能力と保護者の子どもへの関わり方・態度との関係を調査する。
- (3) 指導・学習スタイルと児童の活動への関与や認知・非認知能力との関連性を明らかにする。
- (4) MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットによる様々な活動への児童の参加と成果を評価し、ツールキットを改善する。

今回のベースライン調査では、(1)(2)(3)のみを評価する。一方、項目(4)については、実施開始後の一定期間経過後に観察されるものであり、項目(1)(2)(3)に加え、中間調査・エンドライン調査で調べられる。このデータ収集が啓蒙活動やアドボカシー活動にも役立つことが期待される。

児童の非認知能力・スキル (ここでは「体力を除いた個々の能力で、教科の学力テストでは測定できないが有意義に測定できるもの」と定義)、時間管理、保護者の子育てスタイル、家庭環境、学校の指導スタイルなどを測定する 5 つのアンケートを作成し、対象校すべての現状を推定した。幼児期は言語理解能力に限界があるため、幼稚園児と小学校第 1~3 学年の児童はクラス担任と保護者のみで評価した。

非認知能力の評価に加え、ピアジェの「数の保存」課題をもとに、幼児・児童の数 (特に 5 と 8) に対する理解を測定する実験を計画・実施した。全人教育の理念に基づき、児童が認知と非認知の両側面において成長を体験することが重要である。この実験では、ピアジェが「知識の断片を結びつけて新しい知識を形成する能力」と定義し、認知能力の指標のひとつとした論理数学的知識の発

達を測定する（ピアジェ,1954）。したがって、本実験はマレーシアの低学年児童が認知的能力と非認知的能力の両方をどのように発達させるかについて、理解を深めるものである。

ベースライン調査は、表 2 にあるように、JICA の専門家とサポートメンバーで構成されるチームメンバーによって企画・実施された。

表 2
チームメンバーの一覧

氏名	所属
ノル ヒシャム ビン イスマイル	マレーシア教育省
アニカ フスダ ビンティ アブドゥル ラティフ	マレーシア教育省
ヌルハラニ ビンティ スラマツ	マレーシア教育省
リシャリー ビン モハマッド ラムリ	マレーシア教育省
ヴァニタ タンビラジャ	マレーシア教育省
ヌル シャミナ ビンティ ムスタファ カマル	マレーシア教育省
上野 亮一	アジアシード/JICA
藤田 晃之	筑波大学/JICA
川口 純	筑波大学/JICA
坪川 紅美	アジアシード/JICA
ヌル ヒダヤ ビンティ モハマド	アジアシード/JICA
坂口 千恵	アジアシード/JICA
森本 美緒	筑波大学
モハマド アイマン ビン イスマイル	アジアシード
陳 凱娜	アジアシード
豊島 まり絵	アジアシード
渡部 史枝	アジアシード

マレーシア教育省のガイドライン「#ReopeningSafely」を遵守し、児童生徒および第三者との不要な接触を最小限にすべく、各校のスクールコーディネーターがデータ収集を行った。

2.3 ベースライン調査および数字の獲得に関する実験の限界

ベースライン調査および 5 と 8 の概念獲得実験を行うにあたり、いくつかの制約が確認された。

- 参加者全員が自分の所属するグループ（パイロット校と非パイロット校）を知っていた。このことは、参加者のアンケートへの回答に影響を与えた可能性がある。被験者の行動（この場合、特定の児童に対する評価）が不意に変化し、最終的な結果が変わってしまうことを避けるために、一般的には単盲検または二重盲検の調査方法を採用すべきなのだが、調査計画以前にパイロット校が決定していたため、これは不可能であった。したがって、参加者がそれぞれのグループを意識することによって、データに確証バイアスが生じる可能性を排除する方法は、今のところ存在しない。

- 実験は、学校・クラスごとに異なる実験担当者が行った。2022 年 4 月に教育省が発表した「#ReopeningSafely」では、児童生徒や教員の間で SARS-Cov-2 が拡散する可能性を最小限に抑えるため、第三者の学校への立ち入りを制限することが重視されていた。そこで、各校の教員が実験を担当することになった。必要なトレーニングは行われたが、実験者が統一されていないこと、実験者がそれぞれのグループ（介入群または対照群）を意識していることから、バイアスがかかる可能性があることが示唆された。

- 一般に、教員は児童が学校にいる限られた時間の中で得た情報に基づいて児童を評価することしかできない。一方、保護者は、学校以外で子どもと過ごす時間をもとに評価するのみである。従って、評価は評価者の主観と言わざるを得ず、必ずしも現実を反映しているとは言えない。

3. 調査方法

3.1 調査対象者・参加者

ベースライン調査には、Sentul、Bentong、Pasir Mas の 3 地区から幼稚園を併設する国民小学校計 21 校が選ばれた（表 3）。R/D（討議議事録）に記載の通り、プロジェクト開始前の 2020 年末までにマレーシア教育省により、パイロット校として様々な児童数の規模から成る 15 校（各地区あたり 5 校）が指定されていた（以下、介入群と呼ぶ）。一方、マレーシア教育省と日本側専門家の議論を踏まえて、2022 年 3 月に教育省は 6 校（各地区あたり 2 校、それぞれ異なる児童数の規模）をパイロット校との比較対象として選定した（以下、対照群と呼ぶ）。

調査対象者は、各校の幼稚園児から小学校 5 年生までのクラスごとに、約 10%の児童を無作為に選んだ。

表 3

地区別 MAKMur ベースライン調査対象の小学校一覧

地区	Sentul	Bentong	Pasir Mas
パイロット校 (介入群)	SK Sentul Utama* SK Seri Nilam* SK Seri Murni* SK Batu Muda* SK Intan Baiduri*	SK Lebu SK Felda Lurah Bilut SK Sungai Marong* SK Sungai Dua SK Sri Layang	SK Lati* SK Sultan Ibrahim (1)* SK Baroh Pial SK Lemal* SK Banggol Petai
非パイロット校 (対照群)	SK Segambut Makmur* SK Kiaramas*	SK Janda Baik SK Tuanku Fatimah	SK Sri Kiambang* SK Gelang Mas

注 *の学校は、アンケートにオンラインで回答している。

SK = Sekolah Kebangsaan (国民小学校)

2022 年 5 月 30 日から 6 月 24 日までの 3 週間で、5 つのアンケートと 1 つの実験を実施した。パイロット校での MAKMur 実践の試行前のことである。全校、全質問にわたり、のべ 1744 の回答が集まり、実験については、513 人の幼稚園児から小学校 3 年生までの児童が参加した（表 4）。アンケートへの参加者数は、対象児童数に対し 74.7%であり、実験への参加者数は対象児童数に対し 78.9%であった。（対象児童とは、上記の約 10%無作為抽出された児童である。）アンケート調査および実験は、すべてマレーシアの国語であるマレー語で行われた。

表 4

アンケートおよび実験ごとの標本数と回答数の比較

	Treatment		Control		Total	
	Collected	Target	Collected	Target	Collected	Target
Questionnaires	1046	1474	698	861	1744	2335
Class Teachers (QCT)	428	582	278	346	706	928
Year 4 & 5 Pupils (QFF)	204	232	112	136	316	368
Primary Pupils' Guardians (QGP)	349	582	279	346	628	928
Preschool Pupils' Guardians (QPS)	50	63	23	27	73	90
Headmaster/Headmistress (QHH)	15	15	6	6	21	21
Experiment on Number Acquisition	358	413	155	237	513	650

3.2 アンケート

アンケート調査は、オンラインとオフラインの両方で実施された。12校は Google フォームを使用したオンライン、他の9校はオフラインでアンケートに回答した（表3）。オフライン、つまり紙のアンケート用紙は、特に地方でインターネットへのアクセスが限られている学校に対応するために使用された。

5つのアンケートを通じ、以下の評価が測定された。

1. 児童の評価 (PE): 1年生から5年生までを対象に、「自尊心・自己肯定感」「寛容性・寛大性」「柔軟性」「協調性」「コミュニケーション」「挑戦意欲」「計画性」「創造性」「リーダーシップ」「思考力」「やる気」の11項目について、4段階で保護者とクラス担任から評価を受けた。
4年生と5年生も、保護者や担任の先生と同じ質問で自己評価を行った。
2. 保護者の評価 (GE): 保護者は、家庭での子育てスタイルや子どもとの関わり方について、4段階のリッカート尺度で自己評価を行った。
3. 児童の時間管理 (TM): 幼稚園および小学校1年生から5年生までの児童の保護者が、児童の学校生活以外の家庭での過ごし方について回答した。
4. 保護者と家庭環境 (FB): 幼稚園および小学校1年生から5年生までの対象児童について家庭環境を尋ねた。
5. 学校の指導と学習スタイル (TL): 各学校長は、学校での指導と学習スタイルに関する質問に回答した。

ここで、マレーシア教育省の依頼によりアンケートの設問数を適正にするために、児童の評価 (PE)につき、項目数を表1に示した14項目より11項目に減らしたことを付記する。¹

各アンケートの詳細と構成は以下のとおりである。

1. 教員（クラス担任）へのアンケート (QCT): 教員（クラス担任）がそれぞれのクラスで対象とされた児童の評価 (PE) に関する質問に答えた。
2. 小学校第4および第5学年の児童へのアンケート (QFF): 4年生と5年生の対象児童が自己評価として PE の質問に回答した。低学年児童の言語発達段階を考慮し、4年生と5年生に限定

¹ 当初、日本側専門家チームは、PE について 42 設問（14 項目に対してそれぞれ 3 設問）のアンケートを準備した。14 項目のうち、Participation（参加度）、Facilitation（ファシリテーション）、Critical thinking（批判的思考力）の3項目は、他の11項目に含まれる、あるいは派生すると見なして、今回のアンケートからは除外することとなった。

してアンケートを行ったものである。一方、6年生は教育省の研究ガイドライン（2022年版）を遵守するため除外した。²

3. 小学生保護者へのアンケート (QGP)：対象児童の保護者は PE（児童の評価）、GE、TM および FB の質問に回答した。
4. 幼稚園児保護者へのアンケート (QPS)：対象児童の保護者は GE、TM および FB の質問に回答した。
5. 学校長へのアンケート (QHH)：各学校長は、TL 質問を通じて各校の児童全体を評価した。

本ベースライン調査で用いられた全質問項目は、付録 1 を参照されたい。

3.3 数概念獲得の実験

各校の幼稚園、1年生、2年生、3年生の対象児童に実験に参加してもらい、5と8の数概念の獲得を評価した。

1. 数5概念獲得の実験

道具：色違いのコーンクッション2組（1：緑5個、2：青10個）、棒2本

やり方：ひとりひとりの児童に2組の色の違うコーンクッションと2本の棒を渡す。実験者は棒を1本持ち、緑のコーンクッションを5つ突き刺し、各コーンのクッションの間に隙間を作る（見本）。10個の青いコーンクッションと棒を使って、1分以内にサンプルの配置を再現するように指示する。その後、児童の答えにより、3レベルに分ける。

- a) レベル0：10個のコーンクッションすべてを突き刺した。
- b) レベル1：5個前後のコーンクッションを突き刺した。
- c) レベル2：間隔を空けて5個のコーンクッションを突き刺した。

レベル2に達した児童は、次の実験に進む一方、レベル0とレベル1の児童は、実験終了となり、実験室から退出となる。

2. 数8概念獲得の実験

道具：石2組（1：石8個、2：石20個）

やり方：児童に2組の石を渡す。1組目には石が8個あり、2組目には20個ある。実験者は、8個の石を一定の間隔をあけて一直線に並べる（見本）。児童に与えられた20個の石を使って、2分間で見本の配置を再現するように指示する。児童の様子により、以下のようにレベル分けする。

- a) レベル0：20個の石すべてを並べた。
- b) レベル1：8個前後の石を見本のように間隔をあけて並べた。
- c) レベル2：8個の石を見本のように間隔をあけて並べた。

この時点で、レベル0とレベル1の児童の実験は終了となる。実験者は、レベル2の児童に対し、見本の石と石の間の距離を狭めたり広げたりして見せる。そのうえで、自分が並べた石の数と見本の石の数と同じか、小さいか、大きいかを質問する。

- d) レベル3：配置を変えても2組の石が同じ数であることを認識できた。

実験プロトコルおよびスコアフォームの詳細は付録2を参照されたい。

3.4 ベースライン調査実施説明会

児童と第三者との接触を制限し SARS-CoV-2 の感染拡大を防ぐ目的で、スクールコーディネーターが MAKMur プロジェクトチームに代わり、データ収集と実験を行った。2022年5月19日に Sentul

²このガイドラインは、6年生の児童に secondary school への進学準備の時間を確保させるためのものである。

地区、5月24日に Pasir Mas 地区、5月26日に Bentong 地区の3地区でベースライン調査実施説明会を実施し、アンケートおよび数概念に関する実験のデータ収集の手順について、教員に概略紹介と説明が行われた。パイロット校の教員とコントロール校の教員への調査実施説明会は、別々の時間帯で同日に行われた。

調査実施説明会には、パイロット校の全教員60名、コントロール校の全教員28名、3地区の地区教育担当者6名が参加した。説明会・研修の詳細は以下の通りである。

Sentul 地区

開催日：2022年5月19日（木）

場所：Sentul 地区教育事務所

時間：パイロット校教員：8:00 a.m.-12:00 p.m.

コントロール校教員：2:30 p.m.-4:30 p.m.

表 5

ベースライン調査実施説明会1の仮日程

セッション	時間	活動内容
Morning Session (Pilot Schools' Teachers)	8:00 a.m.	Welcoming remarks by Mr. Rofii bin Hussein, Vice Chief Officer of Sentul District Education Office
	8:15 – 9:45 a.m.	Briefing on MAKMur project's tentative for the year 2022
	9:45 – 10:00 a.m.	Break
	10:00 – 12:00 p.m.	Briefing and training regarding MAKMur project's base-line surveys and experiment on acquisition of the number 5 & 8 concept
Afternoon Session (Control Schools' Teachers)	2:30 p.m.	Welcoming remarks by Mr. Rofii bin Hussein, Vice Chief Officer of Sentul District Education Office
	2:45 – 4:30 p.m.	Briefing and training regarding MAKMur project's base-line surveys and experiment on acquisition of the number 5 & 8 concept

表 6

ベースライン調査実施説明会1 午前の部の出席者

所属	参加者氏名	参加人数
Sentul District Education Office	SIP+ Officer	1
	SISC+ Officer	1
SK Intan Baiduri	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	3
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Sentul Utama	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	2
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Seri Nilam	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	3
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Seri Murni	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	3
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Batu Muda	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	3
	Guidance and Counselling Teacher	1

SIP+ = School Improvement Partner+ (学校改善パートナー) , SISC+ = School Improvement Specialist Coach+ (学校改善専門家コーチ)

表 7

ベースライン調査実施説明会 1 午後の部の出席者

所属	参加者氏名	参加人数
Sentul District Education Office	SIP+ Officer	1
	SISC+ Officer	1
SK Segambut Makmur	Headmaster	1
	Lower primary Teachers	1
	Upper primary Teachers	1
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Kiara Mas	Headmaster	1
	Lower primary Teachers	1
	Upper primary Teachers	1
	Guidance and Counselling Teacher	1

SIP+ = School Improvement Partner+ (学校改善パートナー) , SISC+ = School Improvement Specialist Coach+ (学校改善専門家コーチ)

Pasir Mas 地区

開催日：2022年5月24日(火)

場所：Pasir Mas 地区教育事務所

時間：パイロット校教員：8:00 a.m.-12:00 p.m.

コントロール校教員：2:30 p.m.-4:30 p.m.

表 8

ベースライン調査実施説明会 2 の仮日程

セッション	時間	活動内容
Morning Session (Pilot Schools' Teachers)	8:00 a.m.	Welcoming remarks by Mr. Hasbullah bin Che Cob, Vice Chief Officer of Sentul District Education Office
	8:15 – 9:45 a.m.	Briefing on MAKMur project's tentative for the year 2022
	9:45 – 10:00 a.m.	Break
	10:00 – 12:00 p.m.	Briefing and training regarding MAKMur project's base-line surveys and experiment on acquisition of the number 5 & 8 concept
Afternoon Session (Control Schools' Teachers)	2:30 p.m.	Welcoming remarks by Mr. Hasbullah bin Che Cob, Vice Chief Officer of Sentul District Education Office
	2:45 – 4:30 p.m.	Briefing and training regarding MAKMur project's base-line surveys and experiment on acquisition of the number 5 & 8 concept

表 9

ベースライン調査実施説明会2 午前の部の出席者

所属	参加者氏名	参加人数
Pasir Mas District Education Office	SIP+ Officer	1
	SISC+ Officer	1
SK Baroh Pial	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	1
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Banggol Petai	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	1
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Lati	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	3
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Lemal	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	2
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Sultan Ibrahim (1)	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	4
	Guidance and Counselling Teacher	1

SIP+ = School Improvement Partner+ (学校改善パートナー) , SISC+ = School Improvement Specialist Coach+ (学校改善専門家コーチ)

表 10

ベースライン調査実施説明会2 午後の部の出席者

所属	参加者氏名	参加人数
Pasir Mas Education Office	SIP+ Officer	1
	SISC+ Officer	1
SK Gelang Mas	Headmaster	1
	Lower primary Teachers	2
	Upper primary Teachers	2
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Sri Kiambang	Headmaster	1
	Lower primary Teachers	2
	Upper primary Teachers	2
	Guidance and Counselling Teacher	1

SIP+ = School Improvement Partner+ (学校改善パートナー) , SISC+ = School Improvement Specialist Coach+ (学校改善専門家コーチ)

Bentong 地区

開催日：2022年5月26日(木)

場所：Bentong 地区教育事務所

時間：パイロット校教員：8:00 a.m.-12:00 p.m.

コントロール校教員：2:30 p.m.-4:30 p.m.

表 11

ベースライン調査実施説明会3の仮日程

セッション	時間	活動内容
Morning Session (Pilot Schools' Teachers)	8:00 a.m.	Welcoming remarks by Mr. Ahmad Zaki bin Hussain, Vice Chief Officer of Sentul District Education Office
	8:15 – 9:45 a.m.	Briefing on MAKMur project's tentative for the year 2022
	9:45 – 10:00 a.m.	Break
	10:00 – 12:00 p.m.	Briefing and training regarding MAKMur project's base-line surveys and experiment on acquisition of the number 5 & 8 concept
Afternoon Session (Control Schools' Teachers)	2:30 p.m.	Welcoming remarks by Mr. Ahmad Zaki bin Hussain, Vice Chief Officer of Sentul District Education Office
	2:45 – 4:30 p.m.	Briefing and training regarding MAKMur project's base-line surveys and experiment on acquisition of the number 5 & 8 concept

表 12

ベースライン調査実施説明会3 午前の部の出席者

所属	参加者氏名	参加人数
Bentong District Education Office	SIP+ Officer	1
	SISC+ Officer	1
SK Lebu	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	1
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Lurah bilut	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	1
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Sungai Marong	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	1
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Sungai Dua	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	1
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Sri Layang	Headmaster	1
	MAKMur Coordinators	1
	Guidance and Counselling Teacher	1

SIP+ = School Improvement Partner+ (学校改善パートナー) , SISC+ = School Improvement Specialist Coach+ (学校改善専門家コーチ)

表 13

ベースライン調査実施説明会3 午後の部の出席者

所属	参加者氏名	参加人数
Bentong District Education Office	SIP+ Officer	1
	SISC+ Officer	1
SK Tuanku Fatimah	Headmaster	1
	Lower primary Teachers	1
	Upper primary Teachers	1
	Guidance and Counselling Teacher	1
SK Janda baik	Headmaster	1
	Lower primary Teachers	1
	Upper primary Teachers	1
	Guidance and Counselling Teacher	1

SIP+ = School Improvement Partner+ (学校改善パートナー), SISC+ = School Improvement Specialist Coach+ (学校改善専門家コーチ)

3.5 分析手順

統計解析はすべて、BellCurve と Microsoft Excel を用いて行った。データは母集団が正規分布であるとの仮定で分析された。データ解析の方法は以下の通りである。

1. ウェルチの T-検定³

Welch の T-検定を用い、児童 (QFF)、保護者 (QGP)、クラス担任 (QCT) の PE (児童の評価) データを2つのサブグループに分けて比較した。

- a. 介入群と対照群の比較: MAKMur パイロット校とコントロール校の参加者の間で、評価得点の平均値と回答の分散を比較した。
- b. 男女比較: 男子と女子参加者間で、評価得点の平均値と回答の分散を比較した。無回答ないし複数回答は、無効回答とした。無効回答があった参加者は、当該質問についてだけ除外された。

2. 主成分分析⁴

主成分分析は、QGP の PE (児童の評価) 質問に対して行われた。その目的は、最大限の情報保持しつつ、多変量データを選別してまとめあげ、より単純なデータセットにしたうえで、重回帰分析に組み込むことにある。無回答ないし複数回答は、無効回答とした。無効回答があった参加者は、当該質問についてだけ除外された。

3. 重回帰分析⁵

PE (児童の評価)、TM (時間管理)、GE (保護者の評価)、FB (家庭環境) の質問からなる QGP のデータを用いて、重回帰分析を行った。その目的は、保護者によってなされた児童の評価を TM、GE、FB に属する項目の1次式により表すことである。無回答ないし複数回答は、無効回答とした。無効回答があった参加者は、当該質問についてだけ除外された。

4. 考察

³ 2つの母集団の平均に差があるか否かを調べる統計的手法。母集団の分散が同じであることを仮定しない。

⁴ 組になった数で表されるデータを、できるだけ情報を保存しつつより単純な組で表されるデータに縮約する手法。

⁵ ある変数の値を、他の複数の変数からなる一次式の値として予測する統計的手法。

表 14

PE にかかる質問と対応する能力・スキル一覧

Q#	項目	能力/スキル
Q1	I/Pupil/My child speak with confidence.	Sense of self-esteem and self-worth (自尊心と自己肯定感)
Q2	I/Pupil/My child describe my/their achievement to others.	
Q3	I/Pupil/My child listen attentively to others during group conversation.	Tolerance and generosity (寛容さと寛大さ)
Q4	I/Pupil/My child respect others' opinions.	
Q5	I/Pupil/My child can complete task even with sudden schedule changes.	Flexibility (柔軟性)
Q6	I/Pupil/My child able to participate in other activities apart from study.	
Q7	I/Pupil/My child work together with people of different opinions.	Cooperation (協調性)
Q8	I/Pupil/My child discuss with group members in an activity.	
Q9	I/Pupil/My child contribute my/their ideas in a group discussion.	Communication (コミュニケーション)
Q10	I/Pupil/My child greet a new person and get to know him/her better.	
Q11	I/Pupil/My child willing to take new challenges.	Desire to challenge (挑戦意欲)
Q12	I/Pupil/My child try to complete difficult task without giving up.	
Q13	I/Pupil/My child prioritise important tasks.	Planning (計画性)
Q14	I/Pupil/My child am/is punctual.	
Q15	I/Pupil/My child explore new ideas.	Creativity (創造性)
Q16	I/Pupil/My child improve existing methods to solve a task	
Q17	I/Pupil/My child lead discussion during group activities.	Leadership (リーダーシップ)
Q18	I/Pupil/My child engage group members to find solution.	
Q19	I/Pupil/My child apply previous knowledge to solve a problem.	Reasoning (思考力)
Q20	I/Pupil/My child use facts when I/they express my/their opinions to others.	
Q21	I/Pupil/My child am volunteer to do any tasks.	Motivation (やる気)
Q22	I/Pupil/My child am motivated in completing tasks that I/they like.	

Note. Q# = 質問番号, Q1-Q22 = 質問 1 から質問 22

表 14 は、PE (児童の評価) にかかる質問リストである。児童、クラス担任、保護者は同じ質問に答えた。質問の主語が違うだけである (QFF は「わたし」、QGP は「わたしの子ども」、QCT は「児童」)。有効な回答のみを集計・分析した。ウェルチの T-検定では、無効回答 (無回答、ないし複数回答) があつた参加者は、当該質問についてだけ除外された。したがって、回答数はサブグループや質問によって異なる。

4.1 小学校第 4 および第 5 学年の児童を対象とするアンケート (QFF)

表 15 は QFF にかかる知見をまとめたものである。

介入群と対照群の比較

PE の各質問について、Welch の T-検定による介入群と対照群の平均値の比較では、22 問中 11 問で対照群の方が介入群より有意に評価点が高い (表 16) ことがわかった。有意差が認められた質問項目は、次の通りである。Q1 (t [266.6]=3.297, p<.01), Q2 (t [276.6]=2.684, p<.01), Q6 (t [287.9]=4.907, p<.01), Q7 (t [288.9]=2.855, p<.01), Q11 (t [276.5]=3.338, p<.01), Q14 (t [273.1]=6.190, p<.01), Q15 (t [287.7]=2.185, p<.05), Q18 (t [249.8]= 2.871, p<.01), Q19 (t [282.1]= 2.519, p<.05), Q20 (t [275.5]= 2.956, p<.01), Q21 (t [283.0]=3.758, p<.01)

対照群の児童は、介入群と比較して、自尊心と自己肯定感 (Q1、Q2)、柔軟性 (Q6)、協調性 (Q7)、挑戦意欲 (Q11)、計画性 (Q14)、創造性 (Q15)、リーダーシップ (Q18)、思考力 (Q19、Q20)、やる気 (Q21) のレベルが高く、少なくとも、そのように自己評価していることが示された。

男女比較

表17が示すように、以下の5つの質問において、女子児童の方が男子児童よりも有意に自分を高く評価している。すなわち、Q3 ($t [308.9] = 1.999, p < .05$), Q8 ($t [311.5] = 2.668, p < .01$), Q11 ($t [306.8] = 2.467, p < .05$), Q16 ($t [310.0] = 3.262, p < .01$), Q22 ($t [313.373] = 2.337, p < .05$)

このことから、女子児童は男子児童と比較して、「寛容さ・寛大さ (Q3)」「協調性 (Q8)」「挑戦意欲 (Q11)」「創造性 (Q16)」「意欲 (Q22)」に関連する能力が高く、少なくとも、そのように自己評価していることが示された。これらの結果は、小学校低学年から女子児童が男子児童よりも非認知能力の適性が高いとされる傾向がある (中島ら、2019)、さらにそれは思春期まで続く (Zhang & Wang、2022) という複数の国の先行研究を支持するものであった。

表 15

QFF における有意な差異

アンケート	比較対象	有意な差異	質問数 (22 問中)
QFF	Treatment vs Control	Treatment > Control	0
		Control > Treatment	11
		No Difference	11
	Male Vs Female	Male > Female	0
		Female > Male	5
		No Difference	17

表 16

QFF における介入群と対照群の平均値比較結果

Q#	Treatment			Control			df	T Value
	Mean	Unbiased Variance	SEM	Mean	Unbiased Variance	SEM		
Q1	2.956	0.653	0.057	3.234	0.436	0.063	266.586	**3.297
Q2	2.485	1.059	0.072	2.766	0.636	0.076	276.647	**2.684
Q3	3.260	0.755	0.061	3.351	0.412	0.061	285.145	1.063
Q4	3.368	0.707	0.059	3.482	0.435	0.063	271.553	1.325
Q5	2.882	0.892	0.066	3.072	0.631	0.075	260.752	1.891
Q6	2.887	0.913	0.067	3.345	0.467	0.065	287.948	**4.907
Q7	2.966	0.861	0.065	3.225	0.449	0.064	288.906	**2.855
Q8	3.348	0.790	0.062	3.300	0.561	0.071	257.652	0.507
Q9	2.873	0.870	0.065	3.009	0.627	0.075	258.862	1.370
Q10	2.887	0.958	0.069	3.072	0.577	0.072	276.359	1.859
Q11	2.853	0.983	0.069	3.189	0.591	0.073	276.482	**3.338
Q12	3.099	0.931	0.068	3.170	0.539	0.069	282.487	0.734
Q13	3.315	0.781	0.062	3.357	0.520	0.068	269.540	0.454
Q14	2.819	0.612	0.055	3.315	0.381	0.059	273.136	**6.190
Q15	2.985	0.955	0.069	3.196	0.520	0.068	287.711	*2.185
Q16	2.851	0.724	0.060	2.982	0.504	0.067	265.273	1.453
Q17	2.586	0.967	0.069	2.741	0.842	0.087	242.610	1.397
Q18	2.734	1.018	0.071	3.054	0.826	0.086	249.815	**2.871
Q19	2.926	0.811	0.063	3.153	0.458	0.064	282.122	*2.519
Q20	2.569	0.966	0.069	2.866	0.604	0.073	275.452	**2.956
Q21	2.917	0.914	0.067	3.277	0.526	0.069	282.953	**3.758
Q22	3.377	0.847	0.064	3.500	0.414	0.061	296.045	1.383

注 N = 316 回答数は、無効回答の除外により、介入群203-204、対照群110-112と変動している。

SEM= Standard Error of Mean (標準誤差)

df= Degree of freedom (自由度)

Q# = Question Numbers (質問番号), Q1-Q22 = 質問 1から質問 22

*=p<.05, **=p<.01、有意水準がp<.05、p<.01の質問は太字で表示した。

表 17

QFF における男女間の平均値比較結果

Q#	Female			Male			df	T Value
	Mean	Unbiased Variance	SEM	Mean	Unbiased Variance	SEM		
Q1	3.042	0.586	0.064	3.064	0.602	0.059	305.270	0.260
Q2	2.590	0.943	0.081	2.579	0.916	0.073	302.413	0.104
Q3	3.389	0.589	0.081	3.211	0.661	0.073	308.936	*1.999
Q4	3.385	0.619	0.066	3.427	0.611	0.060	301.569	0.476
Q5	3.035	0.789	0.074	2.877	0.814	0.069	305.479	1.557
Q6	3.000	0.789	0.074	3.088	0.815	0.069	303.462	0.869
Q7	3.056	0.738	0.072	3.058	0.726	0.065	303.082	0.030
Q8	3.465	0.544	0.061	3.218	0.822	0.070	311.515	**2.668
Q9	2.917	0.734	0.071	2.924	0.835	0.070	309.385	0.073
Q10	2.951	0.858	0.077	2.953	0.810	0.069	300.805	0.018
Q11	3.111	0.827	0.076	2.854	0.879	0.072	306.789	*2.467
Q12	3.167	0.769	0.073	3.088	0.810	0.069	306.388	0.786
Q13	3.366	0.734	0.071	3.300	0.649	0.062	298.511	0.695
Q14	3.048	0.546	0.061	2.947	0.618	0.060	310.045	1.176
Q15	3.103	0.927	0.080	3.024	0.710	0.065	288.609	0.778
Q16	3.056	0.570	0.063	2.765	0.678	0.063	310.011	**3.262
Q17	2.738	0.750	0.072	2.559	1.065	0.079	312.927	1.675
Q18	2.862	0.967	0.082	2.835	0.979	0.076	305.771	0.240
Q19	2.966	0.770	0.073	3.041	0.635	0.061	293.846	0.797
Q20	2.724	0.840	0.076	2.632	0.869	0.071	307.222	0.887
Q21	3.041	0.818	0.075	3.047	0.798	0.068	304.364	0.053
Q22	3.538	0.598	0.064	3.322	0.761	0.067	313.373	*2.337

注 N = 316 回答数は、無効回答の除外により、女子参加者143-145、男子参加者169-171と変動している。

SEM= Standard Error of Mean (標準誤差)

df= Degree of freedom (自由度)

Q# = Question Numbers (質問番号), Q1-Q22 = 質問 1から質問 22

*=p<.05, **=p<.01、有意水準がp<.05、p<.01の質問は太字で表示した。

4.2 小学生保護者を対象とするアンケート (QGP)

表18はQGPにかかる知見をまとめたものである。

介入群と対照群の比較

22 問中、2 問のみ両群間に有意差を認めた (表 19)。Q12 (t [598.3]=2.120, p<.05), Q22 (t [613.9]=2.465, p<.05) とともに、介入群より対照群が高く評価されていることがわかる。

この2つの質問は、挑戦意欲 (Q12)、動機づけ (Q22) に相当する。

男女比較

22問中1問で男子児童の方が女子児童より有意に評価が高い。すなわち、表20に見るQ10 (t [698.7]=2.990, p<.01) においてである。

Q10 は、コミュニケーション能力に相当する。

表 18

QGP における有意な差異

アンケート	比較対象	有意な差異	質問数 (22 問中)
QGP	Treatment vs Control	Treatment > Control	2
		Control > Treatment	0
		No Difference	20
	Male Vs Female	Male > Female	1
		Female > Male	0
		No Difference	21

表 19

QGP における介入群と対照群の平均値比較結果

Q#	Treatment			Control			df	T value
	Mean	Unbiased Variance	SEM	Mean	Unbiased Variance	SEM		
Q1	3.433	0.649	0.043	3.437	0.456	0.040	620.321	0.070
Q2	3.105	0.887	0.051	3.079	0.564	0.045	619.898	0.376
Q3	3.320	0.683	0.045	3.216	0.560	0.045	610.219	1.638
Q4	3.381	0.613	0.042	3.339	0.500	0.043	609.047	0.698
Q5	3.269	0.743	0.047	3.266	0.492	0.042	617.998	0.045
Q6	3.435	0.741	0.046	3.444	0.445	0.040	617.532	0.144
Q7	3.218	0.778	0.048	3.145	0.648	0.048	605.646	1.068
Q8	3.236	0.801	0.048	3.209	0.787	0.053	594.740	0.383
Q9	2.982	0.829	0.049	2.960	0.796	0.054	596.622	0.302
Q10	3.101	0.795	0.048	3.141	0.875	0.056	578.518	0.532
Q11	3.198	0.713	0.046	3.152	0.716	0.051	590.539	0.675
Q12	3.267	0.731	0.046	3.122	0.700	0.050	598.261	*2.120
Q13	3.264	0.718	0.046	3.180	0.733	0.051	590.601	1.222
Q14	3.225	0.709	0.046	3.220	0.542	0.044	613.361	0.078
Q15	3.279	0.738	0.046	3.233	0.805	0.054	583.600	0.650
Q16	2.974	0.765	0.047	2.921	0.802	0.054	587.444	0.746
Q17	2.569	0.930	0.052	2.534	0.837	0.055	603.465	0.464
Q18	2.910	1.001	0.054	2.917	0.845	0.055	608.829	0.088
Q19	3.187	0.813	0.049	3.148	0.822	0.054	589.457	0.528
Q20	2.901	0.897	0.051	2.838	0.887	0.056	594.525	0.832
Q21	3.190	0.780	0.048	3.148	0.619	0.047	611.999	0.618
Q22	3.402	0.734	0.046	3.240	0.608	0.047	613.937	*2.465

注 N = 628 回答数は、無効回答の除外により、介入群340-347、対照群275-279と変動している。

SEM= Standard Error of Mean (標準誤差)

df= Degree of freedom (自由度)

Q# = Question Numbers (質問番号), Q1-Q22 = 質問 1から質問 22

*=p<.05, **=p<.01、有意水準がp<.05、p<.01の質問は太字で表示した。

表 20

QGP における男女間の平均値比較結果

Q#	Female			Male			df	T value
	Mean	Unbiased Variance	SEM	Mean	Unbiased Variance	SEM		
Q1	3.467	0.577	0.044	3.406	0.546	0.041	614.629	1.016
Q2	3.110	0.691	0.048	3.078	0.791	0.050	619.995	0.460
Q3	3.326	0.665	0.047	3.224	0.593	0.043	606.571	1.585
Q4	3.372	0.581	0.044	3.353	0.546	0.041	611.757	0.311
Q5	3.329	0.655	0.047	3.210	0.600	0.043	611.705	1.866
Q6	3.427	0.604	0.045	3.450	0.614	0.044	616.827	0.359
Q7	3.184	0.708	0.049	3.186	0.734	0.048	613.013	0.032
Q8	3.246	0.833	0.053	3.203	0.758	0.049	611.838	0.596
Q9	2.993	0.824	0.053	2.953	0.805	0.050	611.710	0.549
Q10	3.007	0.880	0.054	3.224	0.762	0.049	608.731	**2.990
Q11	3.177	0.730	0.049	3.177	0.701	0.047	613.478	0.004
Q12	3.237	0.716	0.049	3.170	0.726	0.047	618.173	0.975
Q13	3.255	0.749	0.050	3.199	0.704	0.047	615.793	0.813
Q14	3.272	0.609	0.045	3.178	0.653	0.045	616.009	1.476
Q15	3.234	0.783	0.051	3.281	0.755	0.049	617.710	0.668
Q16	2.947	0.824	0.052	2.954	0.744	0.048	613.480	0.097
Q17	2.556	0.912	0.055	2.551	0.867	0.052	616.387	0.065
Q18	2.967	0.876	0.054	2.863	0.978	0.055	619.995	1.353
Q19	3.200	0.876	0.054	3.141	0.761	0.049	606.934	0.816
Q20	2.901	0.920	0.055	2.847	0.867	0.052	615.925	0.703
Q21	3.213	0.704	0.048	3.131	0.710	0.047	615.779	1.215
Q22	3.325	0.745	0.050	3.334	0.627	0.044	608.756	0.149

注 N = 628 回答数は、無効回答の除外により、女子参加者297-303、男子参加者317-323と変動している。

SEM= Standard Error of Mean (標準誤差)

df= Degree of freedom (自由度)

Q# = Question Numbers (質問番号), Q1-Q22 = 質問 1から質問 22

*=p<.05, **=p<.01、有意水準がp<.05、p<.01の質問は太字で表示した。

4.3 教員(クラス担任)を対象とするアンケート(QCT)

表21はQCTにかかる知見をまとめたものである。

介入群と対照群の比較

表22が示すとおり、QCTにおいて、22問中19問で介入群が対照群より有意に高い評価をしている。**Q2** (t [589.8]= 2.051, p<.05), **Q4** (t [531.4]= 2.994, p<.01), **Q5** (t [555.3]= 4.567, p<.01), **Q6** (t [569.4]= 2.903, p<.01), **Q7** (t [532.2]= 4.106, p<.01), **Q8** (t [528.9]= 2.065, p<.01), **Q9** (t [512.4]= 3.346, p<.01), **Q10** (t [504.0]= 4.076, p<.01), **Q11** (t [506.9]= 2.416, p<.01), **Q12** (t [531.5]= 3.051, p<.01), **Q13** (t [526.5]= 3.386, p<.01), **Q14** (t [525.9]= 2.664, p<.01), **Q15** (t [506.9]= 2.924, p<.01), **Q16** (t [550.3]= 3.462, p<.01), **Q17** (t [586.4]= 2.153, p<.05), **Q18** (t [499.1]= 2.670, p<.01), **Q19** (t [503.4]= 2.828, p<.01), **Q20** (t [539.6]= 2.480, p<.05), and **Q22** (t [558.7]= 2.482, p<.05)。

これら 19 問は、11 の能力・スキル全てに対応している。このことは、児童の自己評価とは対照的に、介入群のクラス担任は、自分の受け持つ児童が対照群よりも総合的に高い能力・スキルを持っていると認識していることを示唆している。しかし、「2.3. ベースライン調査および数字の獲得に関する実験の限界」で述べたように、教員のグループ意識による確証バイアスの可能性は否定できない。

男女比較

22問中12問(表23)で、女子児童の方が男子児童より有意に高い評価を得た。有意差のあった設問は次のとおり。**Q3** (t [696.901]= 3.613, p<.01), **Q4** (t [694.889]= 4.012, p<.01), **Q5** (t [696.899]= 3.933, p<.01), **Q6** (t [695.997]= 2.545, p<.05), **Q8** (t [698.712]=2.809, p<.01), **Q12** (t [701.882]= 3.036, p<.01), **Q13** (t [699.789]= 3.008, p<.01), **Q14** (t [700.000]= 2.910, p<.01), **Q16** (t [696.230]= 2.106, p<.05), **Q17** (t [695.996]= 2.118, p<.05), **Q20** (t [697.126]= 1.964, p<.05), and **Q22** (t [697.906]= 2.451, p<.05)

有意差があった設問は、寛容性・寛大性 (Q3・Q4)、柔軟性 (Q5・Q6)、協調性 (Q8)、挑戦意欲 (Q12)、計画性 (Q13・Q14)、創造性 (Q16)、リーダーシップ (Q17)、思考力 (Q20)、やる気 (Q22) であり、男子児童と比較して女子児童はこれらの能力に優れていると教員が認識している傾向があり、QFFと同様の傾向が示される結果となった。これは、非認知能力の男女差に関する先行研究(中島ら, 2019; Zhang & Wang, 2022)によっても裏付けられている。

表 21

QCTにおける有意な差異

アンケート	比較対象	有意な差異	質問数 (22問中)
QCT	Treatment vs Control	Treatment > Control	19
		Control > Treatment	0
		No Difference	3
	Male Vs Female	Male > Female	0
		Female > Male	12
		No Difference	10

表 22

QCTにおける介入群と対照群の平均値比較結果

Q#	Treatment			Control			df	T value
	Mean	Unbiased Variance	SEM	Mean	Unbiased Variance	SEM		
Q1	3.216	0.611	0.038	3.113	0.677	0.050	564.195	1.646
Q2	2.991	0.655	0.039	2.862	0.650	0.049	589.771	*2.051
Q3	3.327	0.525	0.035	3.235	0.601	0.047	562.118	1.581
Q4	3.469	0.425	0.032	3.305	0.549	0.045	531.355	**2.994
Q5	3.242	0.602	0.038	2.953	0.712	0.051	555.297	**4.567
Q6	3.393	0.511	0.035	3.227	0.573	0.045	569.444	**2.903
Q7	3.363	0.480	0.034	3.122	0.642	0.048	532.223	**4.106
Q8	3.292	0.575	0.037	3.159	0.760	0.052	528.852	*2.065
Q9	3.104	0.642	0.039	2.870	0.932	0.058	512.410	**3.346
Q10	3.124	0.573	0.037	2.849	0.887	0.056	504.043	**4.076
Q11	3.111	0.628	0.038	2.942	0.939	0.058	506.925	*2.416
Q12	3.228	0.595	0.037	3.029	0.793	0.053	531.533	**3.051
Q13	3.188	0.609	0.038	2.964	0.813	0.054	526.524	**3.386
Q14	3.372	0.512	0.035	3.209	0.695	0.050	525.894	**2.664
Q15	3.139	0.643	0.039	2.934	0.926	0.058	506.865	**2.924
Q16	2.981	0.666	0.040	2.748	0.817	0.054	550.345	**3.462
Q17	2.829	0.820	0.044	2.676	0.848	0.055	586.358	*2.153
Q18	3.106	0.636	0.039	2.917	0.978	0.060	499.079	**2.670
Q19	3.188	0.606	0.038	2.993	0.931	0.058	503.391	**2.828
Q20	2.936	0.703	0.041	2.763	0.904	0.057	539.621	*2.480
Q21	3.288	0.584	0.037	3.171	0.799	0.054	519.558	1.785
Q22	3.313	0.615	0.038	3.155	0.723	0.051	558.694	*2.482

注 N = 706 回答数は、無効回答の除外により、介入群419-426、対照群274-278と変動している。

SEM= Standard Error of Mean (標準誤差)

df= Degree of freedom (自由度)

Q# = Question Numbers (質問番号), Q1-Q22 = 質問 1から質問 22
 *=p<.05, **=p<.01、有意水準がp<.05、p<.01の質問は太字で表示した。

表 23
 QCT における男女間の平均値比較結果

Q#	Female			Male			df	T value
	Mean	Unbiased Variance	SEM	Mean	Unbiased Variance	SEM		
Q1	3.229	0.661	0.044	3.123	0.614	0.041	689.926	1.754
Q2	2.974	0.675	0.045	2.908	0.639	0.042	691.655	1.070
Q3	3.394	0.523	0.039	3.192	0.569	0.040	696.901	**3.613
Q4	3.512	0.411	0.035	3.305	0.524	0.038	694.889	**4.012
Q5	3.251	0.603	0.042	3.011	0.696	0.044	696.899	**3.933
Q6	3.399	0.511	0.039	3.258	0.563	0.040	695.997	*2.545
Q7	3.320	0.565	0.041	3.218	0.546	0.039	694.000	1.804
Q8	3.327	0.588	0.042	3.157	0.698	0.044	698.712	**2.809
Q9	3.073	0.727	0.046	2.953	0.803	0.047	698.985	1.825
Q10	3.047	0.723	0.046	2.983	0.708	0.045	692.512	0.996
Q11	3.106	0.771	0.048	2.986	0.738	0.045	694.955	1.819
Q12	3.246	0.626	0.043	3.058	0.720	0.045	701.882	**3.036
Q13	3.197	0.660	0.044	3.008	0.723	0.045	699.789	**3.008
Q14	3.394	0.546	0.040	3.227	0.619	0.041	700.000	**2.910
Q15	3.123	0.744	0.047	2.997	0.776	0.047	696.475	1.910
Q16	2.959	0.714	0.046	2.822	0.754	0.046	696.230	*2.106
Q17	2.843	0.779	0.048	2.697	0.880	0.049	695.996	*2.118
Q18	3.089	0.808	0.049	2.978	0.747	0.045	688.630	1.664
Q19	3.167	0.757	0.047	3.058	0.725	0.045	696.375	1.679
Q20	2.935	0.786	0.048	2.804	0.784	0.047	697.126	*1.964
Q21	3.294	0.674	0.045	3.192	0.664	0.043	694.322	1.646
Q22	3.327	0.623	0.043	3.177	0.691	0.044	697.906	*2.451

注 N = 706 回答数は、無効回答の除外により、女子参加者338-342、男子参加者357-362と変動している。

SEM= Standard Error of Mean (標準誤差)

df= Degree of freedom (自由度)

Q# = Question Numbers (質問番号), Q1-Q22 = 質問 1から質問 22

*=p<.05, **=p<.01、有意水準がp<.05、p<.01の質問は太字で表示した。

4.4 主成分分析

QGPのPEデータを主成分分析した結果、第1主成分(PC1)は全分散(表24)の56.67%を説明することが示された。図1では、PC2以降が急落しており、それ以降の成分(PC2-PC22)は、各成分の全分散の5.06%以下の説明力しかないことがわかる。重回帰分析の従属変数として1変数のみを選ぶには、元の多次元データの情報をよく保存する成分を選ぶ必要がある。したがって、PC1のみを採用し、重回帰分析に組み込んだ。

⁶ 主成分のうち第1主成分が元の多次元データの情報を最もよく保持する。いまの場合、22個の組であるPEデータの持っていた情報のうち56.67%が第1主成分に集約されたということ。

表 24

各主成分の固有値および分散比率と累積分散比率

Principal Component	Eigenvalue	Percentage of Variance	Cumulative
1	12.468	56.67%	56.67%
2	1.114	5.06%	61.74%
3	0.905	4.11%	65.85%
4	0.783	3.56%	69.41%
5	0.631	2.87%	72.27%
6	0.606	2.76%	75.03%
7	0.529	2.41%	77.44%
8	0.490	2.23%	79.66%
9	0.478	2.17%	81.83%
10	0.436	1.98%	83.82%
11	0.396	1.80%	85.62%
12	0.386	1.75%	87.37%
13	0.369	1.68%	89.05%
14	0.351	1.59%	90.64%
15	0.323	1.47%	92.11%
16	0.311	1.41%	93.52%
17	0.291	1.32%	94.84%
18	0.275	1.25%	96.09%
19	0.238	1.08%	97.17%
20	0.231	1.05%	98.22%
21	0.212	0.96%	99.18%
22	0.179	0.82%	100.00%

注 N = 543 質問1～質問22のいずれかに1つでも無効な回答があった参加者は除外した。

図 1

各主成分の固有値のスクリープロット

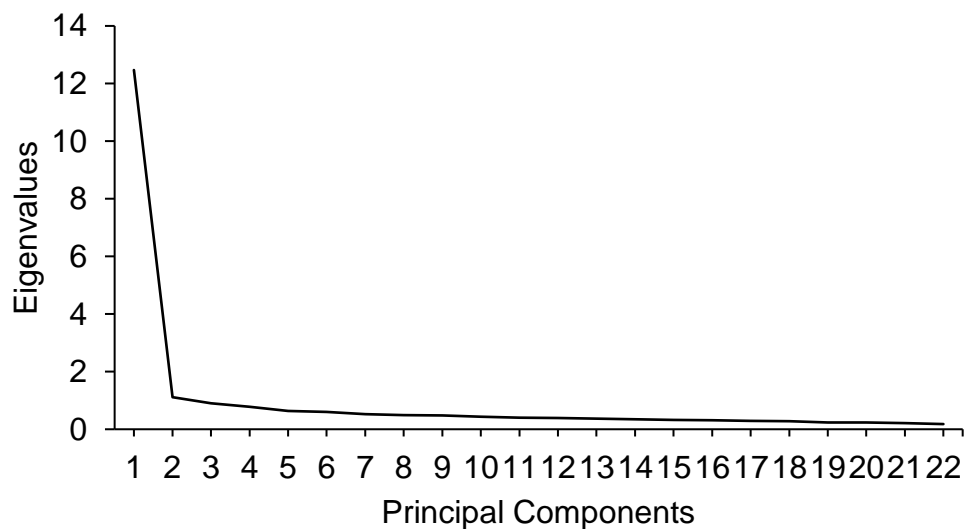


表 25

各項目の第1主成分における負荷量⁷

Variables	PC1
Q8	0.8250
Q19	0.8166
Q9	0.8106
Q11	0.8096
Q18	0.8066
Q15	0.8039
Q12	0.7955
Q13	0.7905
Q16	0.7803
Q20	0.7754
Q3	0.7580
Q22	0.7435
Q4	0.7371
Q21	0.7329
Q5	0.7321
Q17	0.7226
Q14	0.7191
Q1	0.7188
Q7	0.7011
Q10	0.6794
Q6	0.6627
Q2	0.5925

4.5 重回帰分析

重回帰分析により、TM（時間管理）、GE（保護者の評価）、FBの各項目（計23項目／予測因子）が、QGPにおける保護者の児童に対する評価（PE）を有意に予測するかどうかを検証した（表24で算出したPC1により表現される）。

全項目で完全有効回答した参加者のみを使用した。また、PE、TM、GE、FBのいずれかに1つでも無効回答があった参加者は除外した。Q40からQ46までのFBの質問にはダミー変数が符号化され、重回帰に組み込む前に多肢選択式の回答をより小さなサブグループに分類した（表26）。

⁷ 第1主成分と元の項目との相関係数。この負荷量が高い項目ほど、第1主成分に強く影響していることを示す。

表 26

QGP の質問 40 から質問 46 に対応するダミー変数

Q#	Questions	Answers	Dummy variable
Q40	Marital status	Married	1
		Single parent	0
		Divorced	
		Widowed	
Q41	Father/Male guardian's occupation	Full-time	1
		Part-time/day job	0
		Unemployed	
		Retiree	
Q42	Mother/Female guardian's occupation	Full-time	1
		Part-time/day job	0
		Unemployed	
		Retiree	
Q43	The number of siblings (including the child)	Single child	1
		Two	2
		Three	3
		Four or more	4
Q44	The highest level of school you have completed	Primary	6
		Secondary	11
		Tertiary	15
		Post-graduate	20
Q45	The highest level of school you expect your child to complete	Primary	6
		Secondary	11
		Tertiary	15
		Post-graduate	20
Q46	Does your family recognize the importance of inculcating your child's abilities/skills other than subject knowledge and skills in school?	Strongly agree	1
		Agree	0
		Disagree	
		Strongly disagree	

注 Q# = Question Numbers (質問番号), Q1-Q22 = 質問 40 から質問 46

Q44 と Q45 は、対応する教育レベルの修了に要する平均年数で符号化した。

表 27 と表 28 に示すように、回帰の結果、23 の予測変数は分散の 36.6% を有意に説明した。(N=472、調整済み R²=.366、F(23, 448)=12.834 p<.001)。

特に、9 つの予測変数が、保護者の小学生に対する評価を有意に予測した (表 29)。TM では、Q26 「勉強」 時間 ($\beta=0.188$, $p<.001$)、Q29 「ゲーム機」 時間 ($\beta=-0.107$, $p<.05$) が有意な予測因子であることが判明した。GE では、Q31 「子どもと遊ぶ時間を大切にしている」 ($\beta=-0.109$, $p<.05$)、Q33 「子どもがルールを破ったら、次はルールを守るように言う」 ($\beta=0.167$, $p<.01$)、Q35 「子どものやりたいことを尊重している」 ($\beta=0.089$, $p<.05$)、Q38 「子どもと活動をした後、経験したことについて話し合う」 ($\beta=0.177$, $p<.001$) などが有意な予測変数とされた。FB では、Q40 「配偶者の有無」 ($\beta=0.083$, $p<.05$)、Q42 「母親・女性保護者の職業」 ($\beta=0.174$, $p<.001$)、Q45 「子どもに期待する学歴」 ($\beta=0.149$, $p<.01$) が有意予測因子としてあげられる。

具体的には、保護者の子どもに対する評価 (PC1) について以下の結果が見られた。

- Q26 : 「勉強」の時間が 1 ポイント増加するごとに 0.013 ポイント増加
- Q29 : 「ゲーム機」の時間が 1 ポイント増えるごとに 0.006 ポイント減少
- Q31 : 1 ポイント増加するごとに、0.613 ポイント減少
- Q33 : 1 ポイント増加するごとに、1.031 ポイント増加

- Q35 : 1ポイント増加するごとに 0.357ポイント増加
- Q38 : 1ポイント増加につき 0.969ポイント増加
- Q40 : シングルペアレントと比較して、既婚の保護者は 1.132ポイント増加
- Q42 : 常勤の女性保護者は非常勤の女性保護者に比べ 1.184ポイント上昇
- Q45 : 保護者の子どもの教育レベルに対する期待値が 1ポイント上がるごとに、1.040ポイント上昇

上記の結果から、いくつかの情報を推論することができる。Q26 と Q29 から、保護者は「勉強する子」「ゲーム機で遊ばない子」を肯定的に評価する傾向があることが示唆された。Q33、Q38 は、子どもの行動や経験に関する振り返りやコミュニケーションが、保護者の子どもに対する評価と正の相関があることを示している。Q35 は、子どもの興味を尊重する保護者は、子どもの評価も高くなる傾向があることを示している。Q40 は、既婚の保護者の方が、子どもを高く評価する傾向があることを示している。非認知能力の認識と相関があるのは、母親・女性保護者の就業形態のみであり、父親・男性保護者は相関がないことが Q42 から推測される。Q40 と Q42 の結果は、結婚してフルタイムで働いている母親が子どもにとってポジティブなロールモデルになるという先行研究（末森, 2002 ; 中澤・藤原, 2015）に関連すると言える。Q45 から、子どもの教育への期待が高い保護者は、子どもをより肯定的に評価する傾向もあることが推察される。これは、日本の高校生に対する母親の教育期待を調査した先行研究（藤原, 2009）を支持するものである。

表 27

PCI (従属変数)に対する TM, GE, FB (独立変数) の寄与に関する統計量

Regression Statistics	
Correlation coefficient (R)	0.630
R Square	0.397
Adjusted R Square	0.366

表 28

回帰式に関する分散分析(ANOVA)

ANOVA	df	SS	MS	F value	P value
Regression	23	2166.492	94.195	12.834	p<.001
Residual	448	3288.055	7.339		
Total	471	5454.547			

注 ANOVA= Analysis of Variance 分散分析

df= Degree of freedom 自由度

SS= Sum of squares 平方和

MS= Mean sum of squares 平均平方和

表 29

PC1 (従属変数) に対する TM、GE、FB (独立変数) の効果

Q#	PE (PC1)			T Value
	Unstandardized Beta (B)	Standard Error (SE)	Standardized Beta (β)	
Q23	0.000	0.003	0.006	0.121
Q24	0.008	0.004	0.111	1.937
Q25	0.000	0.003	-0.002	-0.055
Q26	0.013	0.004	0.188	**3.286
Q27	0.004	0.003	0.058	1.238
Q28	-0.001	0.003	-0.024	-0.520
Q29	-0.006	0.003	-0.107	*-2.274
Q30	0.287	0.236	0.053	1.213
Q31	-0.613	0.250	-0.109	*-2.451
Q32	-0.153	0.279	-0.028	-0.546
Q33	1.031	0.335	0.167	**3.079
Q34	-0.169	0.164	-0.040	-1.031
Q35	0.357	0.171	0.089	*2.089
Q36	0.068	0.355	0.011	0.192
Q37	0.196	0.363	0.033	0.541
Q38	0.969	0.283	0.177	***3.428
Q40	1.132	0.527	0.083	*2.148
Q41	-0.245	0.319	-0.032	-0.769
Q42	1.184	0.291	0.174	***4.065
Q43	-0.182	0.153	-0.046	-1.188
Q44	-0.025	0.049	-0.022	-0.514
Q45	1.040	0.293	0.149	***3.548
Q46	0.000	0.307	0.000	0.002

注 N = 472 1つでも無効な回答があった参加者は除外した。

*=p<.05, **=p<.01, ***=p<.001、有意水準がp<.05、p<.01、p<.001の予測因子は太字で表示した。

Q31 (項目「子どもと遊ぶ時間がある」) は、Q31の得点が高いほどPC1の総合得点が低いことを有意に予測し、子どもと遊ぶ時間が多い保護者ほど、子どもを悪く評価する傾向があることを示唆する驚くべき結果であった。

GE (Q30~Q38、9予測因子) を分離して重回帰を行ったところ、表30、表31に示すように、9予測因子は分散の24.8%を有意に説明した (N=525、調整済みR²=.242、F (9, 511) =19.544, p<0.001)。重回帰モデルと同様に、PEとGEの両方で有効な回答を得た参加者のみを分析対象とした。9つの予測変数のうち4つは以下の通りである。Q30「子どもが泣いていても、喜んでいても同じように感じる」 ($\beta=0.107$, p<.05) Q33「子どもがルールを破ったら、次からはルールを守るように言う」 ($\beta=0.199$, p<.001)、Q35「子どものやりたいことを尊重する」 ($\beta=0.114$, p<.01)、Q38「子どもと活動をした後、その体験を話し合う」 ($\beta=0.205$, p<.001) はPC1 (表32) を有意に予測した。

このモデル (表 32) において、Q31 は PC1 を有意に予測しないが、先立つ解析 (表 29) の中で有意でないと言われた Q30 については有意に予測することがわかった。また、Q33、Q35、Q38 は両モデルとも高い有意水準を示した。したがって、最初のモデルで Q31 が有意であったことは、第一種の過誤 (false positive) であったと考えるのが妥当であろう。

表 30

PC1 (従属変数) に対する GE (独立変数) の寄与に関する統計量

Regression Statistics	
Correlation coefficient (R)	0.505
R Square	0.255
Adjusted R Square	0.242

表 31

回帰式に関する分散分析(ANOVA)

ANOVA	df	SS	MS	F value	P value
Regression	9	1638.930	182.103	19.544	p<.001
Residual	515	4798.497	9.317		
Total	524	6437.427			

注 ANOVA= Analysis of Variance 分散分析

df= Degree of freedom 自由度

SS= Sum of squares 平方和

MS= Mean sum of squares 平均平方和

表 32

PC1 (従属変数) に対する GE (独立変数) の効果

	PE (PC1)			T Value
	Unstandardized Beta (B)	Standard Error (SE)	Standardized Beta (β)	
Q30	0.589	0.247	0.107	*2.383
Q31	-0.411	0.261	-0.072	-1.575
Q32	-0.312	0.300	-0.055	-1.040
Q33	1.237	0.352	0.199	***3.513
Q34	-0.122	0.170	-0.028	-0.717
Q35	0.477	0.180	0.114	**2.653
Q36	0.454	0.369	0.074	1.230
Q37	0.392	0.376	0.064	1.043
Q38	1.153	0.294	0.205	***3.924

注 N = 525 PC1 を含め 1 つでも無効な回答があった参加者は除外した。

*= $p<.05$, **= $p<.01$, ***= $p<.001$ 、有意水準が $p<.05$ 、 $p<.01$ 、 $p<.001$ の予測因子は太字で表示した。

4.6 学校の指導と学習スタイル

パイロット校とコントロール校の 21 校の校長が自校の授業と学習のスタイルに関する質問に回答した。いくつかの設問では、介入群と対照群の間に違いが見られるが、サンプル数が少ないため、両群を有意に比較することは困難であると判断される。また、Q3, Q6, Q7, Q12, Q16, Q17, Q18 の複数の質問で、どちらかの群、または両方の群の平均点が 4 点満点であることが判明した。これは天井効果を示しており、これらの質問ではこれ以上の改善は望めない。しかしこれらの得点は、グループに関係なく学校が MAKMur の原則と基準に基づいて活動を行うことに、かなり高い適性を持っていることを示すものでもある。

Q1. 児童は、熱心に勉強に取り組んでいる

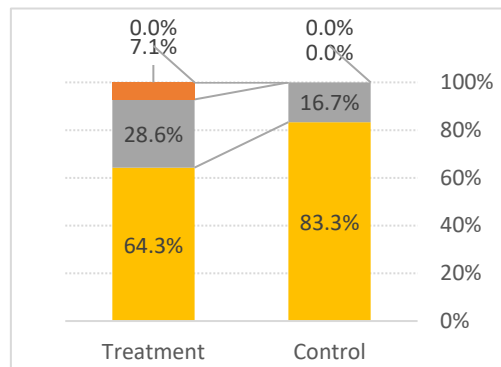
表 33

Q1、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	1	7.1%	0	0.0%
Sometimes	4	28.6%	1	16.7%
Always	9	64.3%	5	83.3%

図 2

Q1、QHH に対する回答数および回答比率



Q2. 児童は、自分の考えを人に伝えることができる

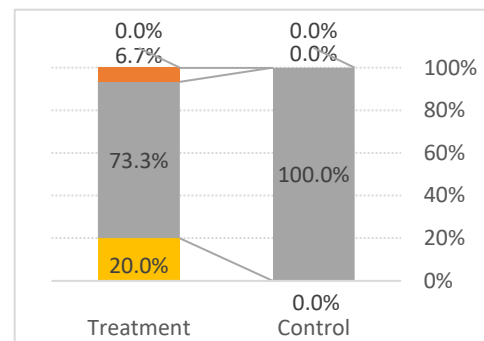
表 34

Q2、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	1	6.7%	0	0.0%
Sometimes	11	73.3%	6	100.0%
Always	3	20.0%	0	0.0%

図 3

Q2、QHH に対する回答数および回答比率



Q3. 児童は、他人の考えを聞くことができる

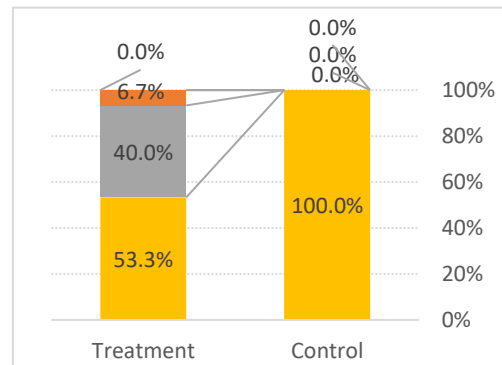
表 35

Q3、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	1	6.7%	0	0.0%
Sometimes	6	40.0%	0	0.0%
Always	8	53.3%	6	100.0%

図 4

Q3、QHH に対する回答数および回答比率



Q4. 児童は、自分の考えを話し合いで伝えることができる

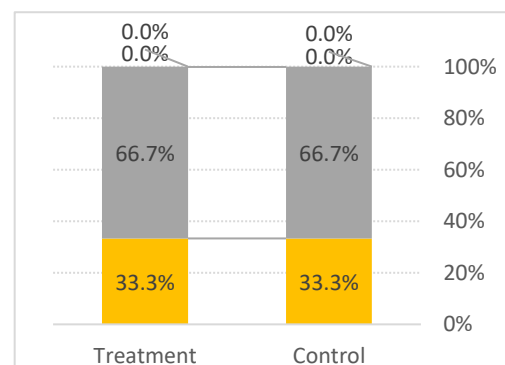
表 36

Q4、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	10	66.7%	4	66.7%
Always	5	33.3%	2	33.3%

図 5

Q4、QHH に対する回答数および回答比率



Q5. 児童は、自ら設定した学習課題に取り組むことができる

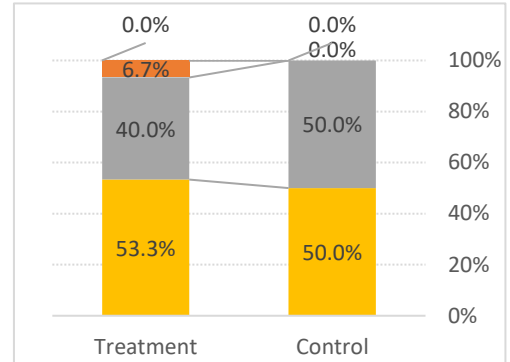
表 37

Q5、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	1	6.7%	0	0.0%
Sometimes	6	40.0%	3	50.0%
Always	8	53.3%	3	50.0%

図 6

Q5、QHH に対する回答数および回答比率



Q6. 毎日の授業計画は、児童の知識・技能に沿って立てられている

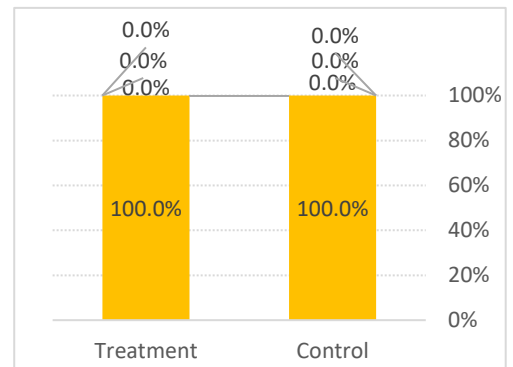
表 38

Q6、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	0	0.0%	0	0.0%
Always	15	100.0%	6	100.0%

図 7

Q6、QHH に対する回答数および回答比率



Q7. 毎日の授業計画は、学習成果を上げるために系統的に組まれている

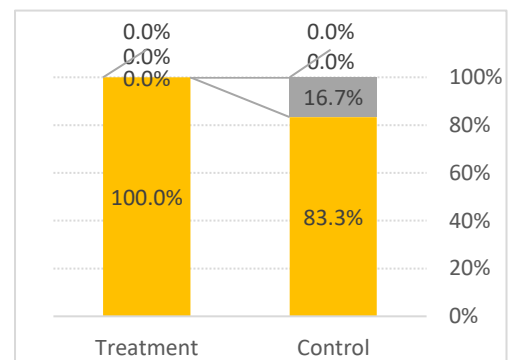
表 39

Q7、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	0	0.0%	1	16.7%
Always	15	100.0%	5	83.3%

図 8

Q7、QHH に対する回答数および回答比率



Q8. 指導方法は、児童の学習の質を高めるために改善されている

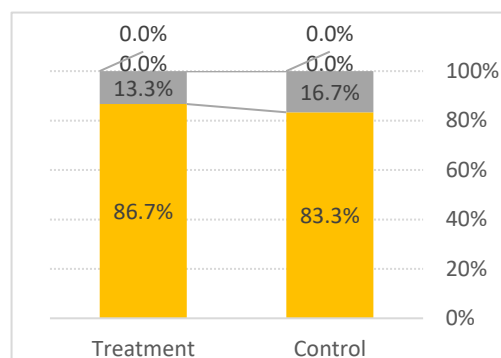
表 40

Q8、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	2	13.3%	1	16.7%
Always	13	86.7%	5	83.3%

図 9

Q8、QHH に対する回答数および回答比率



Q9. 活動は、児童がより高いレベルで考えられるような促す工夫がなされている

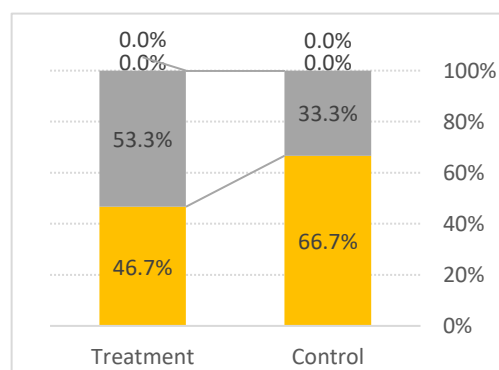
表 41

Q9、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	8	53.3%	2	33.3%
Always	7	46.7%	4	66.7%

図 10

Q9、QHH に対する回答数および回答比率



Q10. 児童は、授業中自分の意見を述べる事が許されている

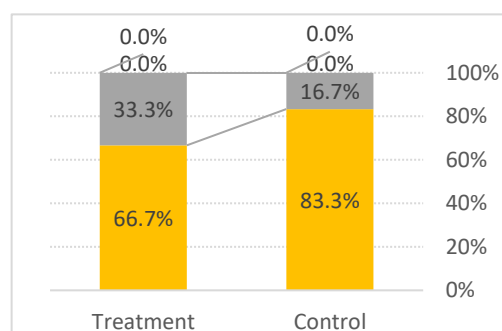
表 42

Q10、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	5	33.3%	1	16.7%
Always	10	66.7%	5	83.3%

図 11

Q10、QHH に対する回答数および回答比率



Q11. 教員は、教室でグループディスカッションを取り入れている

図 12

Q11、QHH に対する回答数および回答比率

表 43

Q11、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	8	53.3%	4	66.7%
Always	7	46.7%	2	33.3%

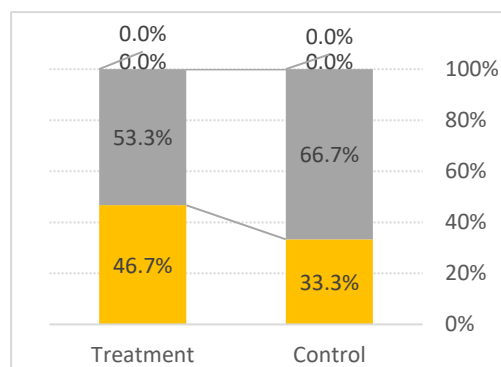


図 13

Q12、QHH に対する回答数および回答比率

Q12. 授業は、児童が積極的に質問できるような工夫がなされている

表 44

Q12、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	1	6.7%	0	0.0%
Sometimes	3	20.0%	0	0.0%
Always	11	73.3%	6	100.0%

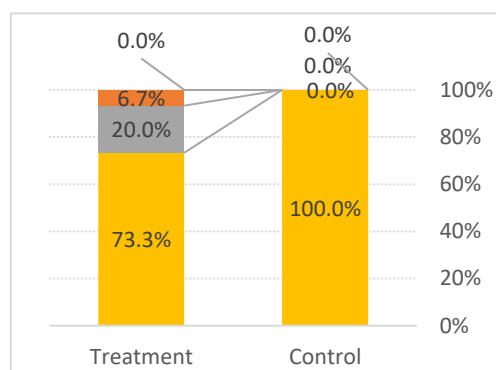


図 14

Q13、QHH に対する回答数および回答比率

Q13. 児童は、道具（模造紙など）を使って自分の作品を発表するように指導されている

表 45

Q13、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	9	60.0%	2	33.3%
Always	6	40.0%	4	66.7%

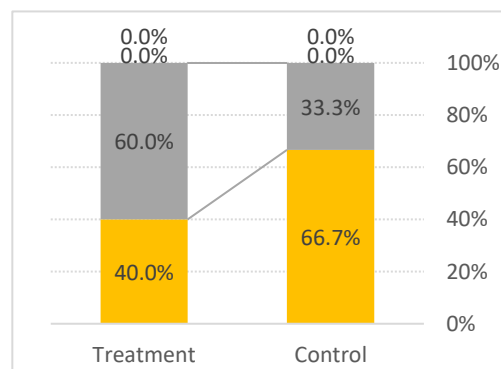


図 15

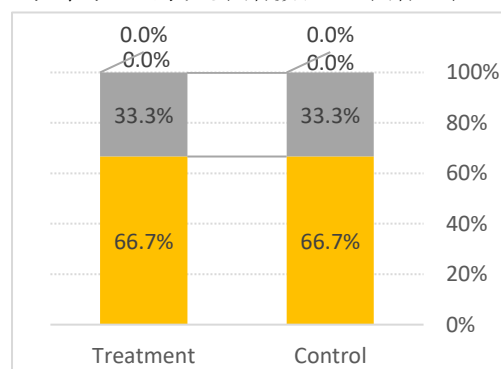
Q14、QHH に対する回答数および回答比率

Q14. 児童は、クラスメートといっしょに完成させる課題を与えられている

表 46

Q14、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	5	33.3%	2	33.3%
Always	10	66.7%	4	66.7%



Q15. 児童は、クラスメートと話し合うように指導されている

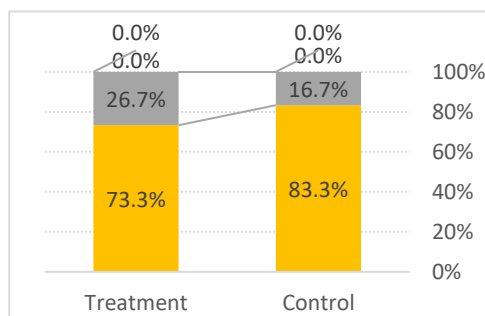
表 47

Q15、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	4	26.7%	1	16.7%
Always	11	73.3%	5	83.3%

図 16

Q15、QHH に対する回答数および回答比率



Q16. 児童は、いつも学校内での態度がよい

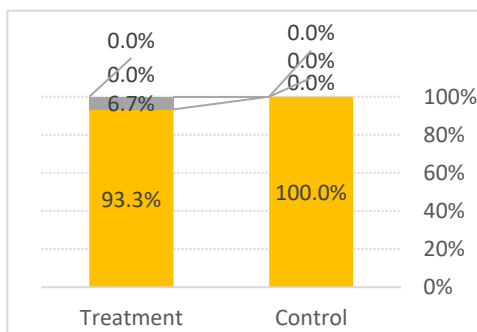
表 48

Q16、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	1	6.7%	0	0.0%
Always	14	93.3%	6	100.0%

図 17

Q16、QHH に対する回答数および回答比率



Q17. 児童は、知っていることを用いて問題を解決するよう仕向けられている

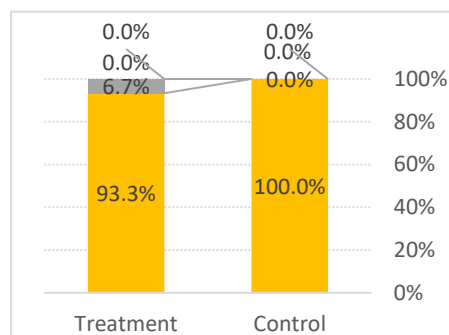
表 49

Q17、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	1	6.7%	0	0.0%
Always	14	93.3%	6	100.0%

図 18

Q17、QHH に対する回答数および回答比率



Q18. 児童は、日々の生活のなかで常に肯定的なフィードバックを受けている

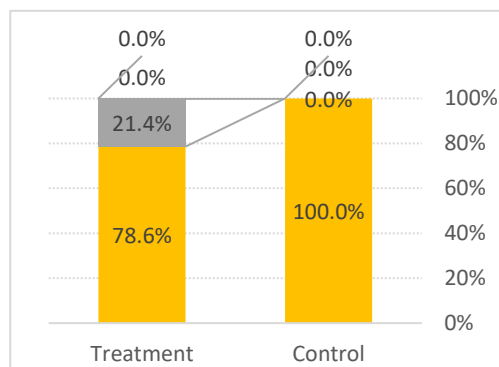
表 50

Q18、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	3	21.4%	0	0.0%
Always	11	78.6%	6	100.0%

図 19

Q18、QHH に対する回答数および回答比率



Q19. 教員は、児童に宿題を出している

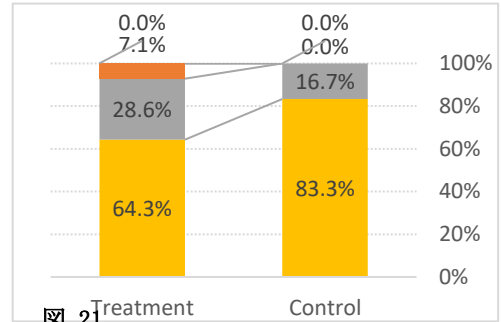
表 51

Q19、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	1	7.1%	0	0.0%
Sometimes	4	28.6%	1	16.7%
Always	9	64.3%	5	83.3%

図 20

Q19、QHH に対する回答数および回答比率



Q20. 児童は、授業中間違えてもいいことを教えられている

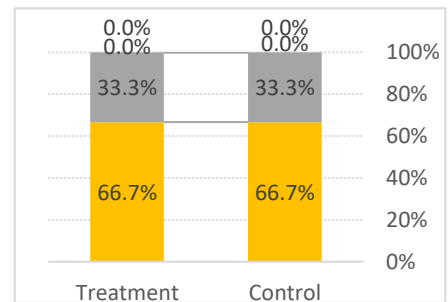
表 52

Q20、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	5	33.3%	2	33.3%
Always	10	66.7%	4	66.7%

図 21

Q20、QHH に対する回答数および回答比率



Q21. 児童は、学習活動を通して問題を解決する訓練を受けている

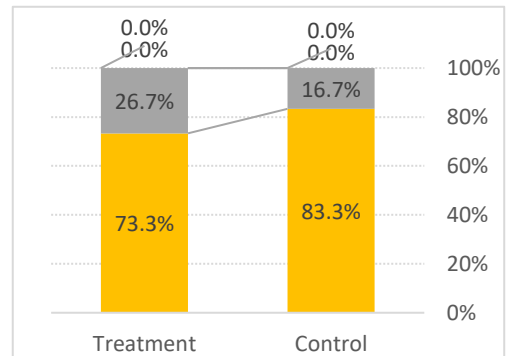
表 53

Q21、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	4	26.7%	1	16.7%
Always	11	73.3%	5	83.3%

図 22

Q21、QHH に対する回答数および回答比率



Q22. 学校は、学力に関する課題について会議の場で議論している

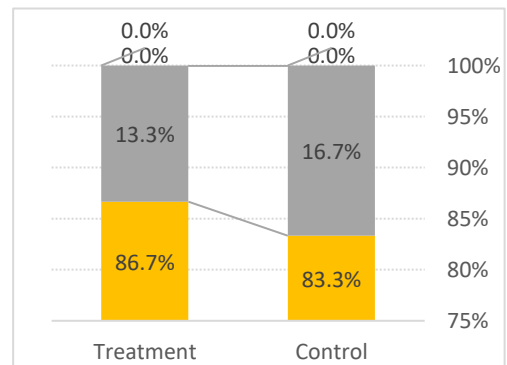
表 54

Q22、QHH に対する回答数および回答比率

	Treatment		Control	
Never	0	0.0%	0	0.0%
Rarely	0	0.0%	0	0.0%
Sometimes	2	13.3%	1	16.7%
Always	13	86.7%	5	83.3%

図 23

Q22、QHH に対する回答数および回答比率



4.7 数概念獲得の実験

数5 概念獲得の実験

幼稚園、1年生、2年生、3年生の計513名の児童が実験に参加した。参加者はレベル2を達成することで、5の数の概念を理解しているとみなされる。実験の結果、幼稚園児（N=69）の37.7%、1年生（N=154）の63.6%、2年生（N=151）の59.6%、3年生（N=139）の71.9%がレベル2（表55）を達成し、5の概念を把握することができたと考えられる。図24では、幼稚園から小学校1年にかけて急傾斜しており、この時期に数の概念に関する学習が加速していることがわかる。1年目と2年目の差は比較的小さく、2年目から3年目にかけて再び上昇する傾向が見られた。

数8 概念獲得の実験

数5獲得実験でレベル2を達成した314名の参加者は、数8獲得実験にも参加した。この実験でレベル2を達成した参加者は、数8の概念を把握できており、レベル3を達成した参加者は、理解するだけでなく、情報を保存する能力を持っていることを示唆している。表58は、幼稚園児（N=26）の65.4%、1年生（N=98）の71.4%、2年生（N=90）、3年生（N=100）の91.0%が少なくともレベル2を達成したことを示している。図27より、学年が上がるにつれて、レベル2達成者の割合が徐々に増え、2年目から3年目にかけて、レベル2達成者の割合が最大となることわかる。

幼稚園児（N=26）の23.1%、1年生（N=98）の38.8%、2年生（N=90）の57.8%、3年生（N=100）の56.0%がレベル2を超えてレベル3に到達している。同様に、幼稚園から小学校2年にかけても、レベル3達成者の割合が徐々に増えている。2年生と3年生では、レベル3達成者数の差は比較的小さかった。

数5 概念獲得の実験にかかる表および図

表 55

実験 5、全校に対する回答数および回答比率

	Pre-school		YEAR 1		YEAR 2		YEAR 3	
Level 0	18	26.1%	16	10.4%	20	13.2%	16	11.5%
Level 1	25	36.2%	40	26.0%	41	27.2%	23	16.5%
Level 2	26	37.7%	98	63.6%	90	59.6%	100	71.9%

図 24

実験 5、全校に対する回答数および回答比率

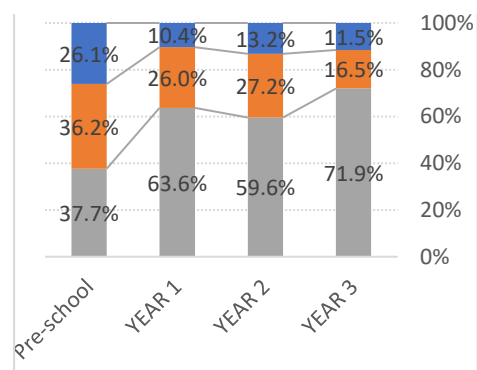


表 56

実験 5、介入群に対する回答数および回答比率

	Pre-school		YEAR 1		YEAR 2		YEAR 3	
Level 0	13	25.0%	12	11.0%	17	16.3%	11	11.8%
Level 1	21	40.4%	27	24.8%	27	26.0%	15	16.1%
Level 2	18	34.6%	70	64.2%	60	57.7%	67	72.0%

図 25

実験 5、介入群に対する回答数および回答比率

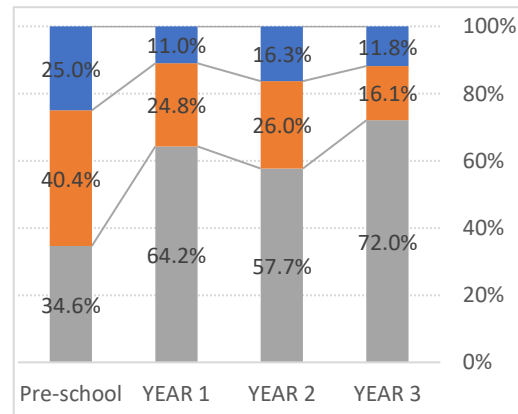


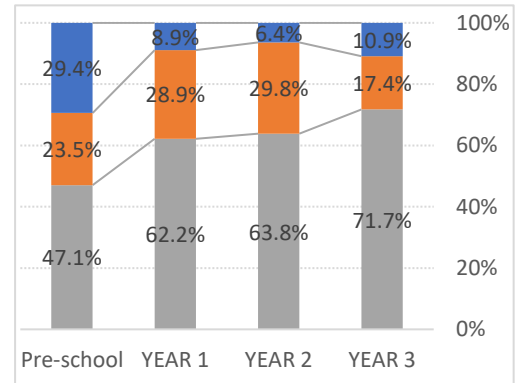
表 57

実験 5、対照群に対する回答数および回答比率

	Pre-school		YEAR 1		YEAR 2		YEAR 3	
Level 0	5	29.4%	4	8.9%	3	6.4%	5	10.9%
Level 1	4	23.5%	13	28.9%	14	29.8%	8	17.4%
Level 2	8	47.1%	28	62.2%	30	63.8%	33	71.7%

図 26

実験 5、対照群に対する回答数および回答比率



数8概念獲得の実験にかかる表および図

表 58

実験 8、全校に対する回答数および回答比率

	Pre-school		YEAR 1		YEAR 2		YEAR 3	
Level 0	4	15.4%	6	6.1%	0	0.0%	3	3.0%
Level 1	5	19.2%	22	22.4%	8	8.9%	6	6.0%
Level 2	11	42.3%	32	32.7%	30	33.3%	35	35.0%
Level 3	6	23.1%	38	38.8%	52	57.8%	56	56.0%

図 27

実験 8、全校に対する回答数および回答比率

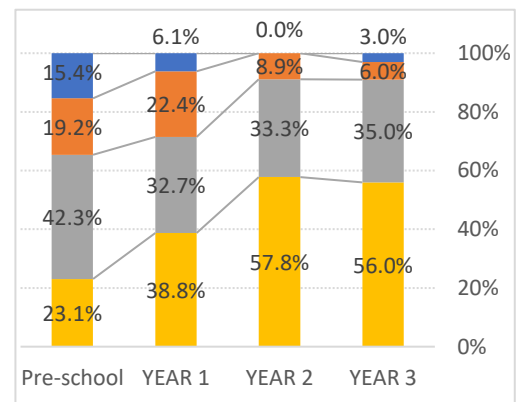


表 59

実験 8、介入群に対する回答数および回答比率

	Pre-school		YEAR 1		YEAR 2		YEAR 3	
Level 0	3	16.7%	5	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
Level 1	3	16.7%	18	25.7%	4	6.7%	6	9.0%
Level 2	8	44.4%	20	28.6%	17	28.3%	23	34.3%
Level 3	4	22.2%	27	38.6%	39	65.0%	38	56.7%

図 28

実験 8、介入群に対する回答数および回答

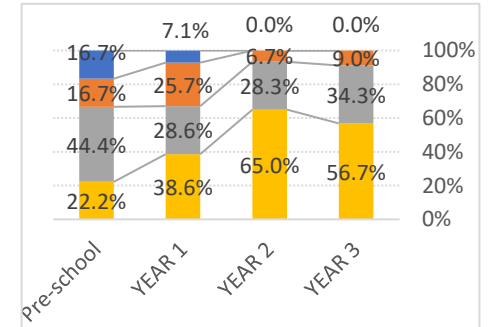


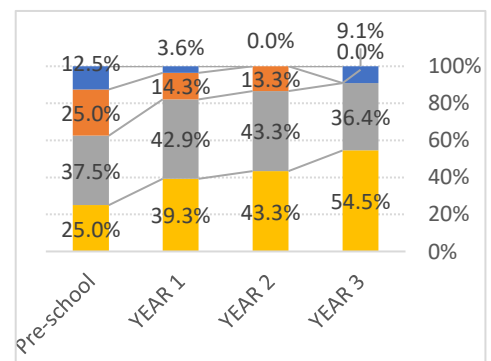
表 60

実験 8、対照群に対する回答数および回答比率

	Pre-school		YEAR 1		YEAR 2		YEAR 3	
Level 0	1	12.5%	4	3.6%	4	0.0%	0	9.1%
Level 1	2	25.0%	12	14.3%	13	13.3%	12	0.0%
Level 2	3	37.5%	11	42.9%	13	43.3%	18	36.4%
Level 3	2	25.0%	28	39.3%	30	43.3%	33	54.5%

図 29

実験 8、対照群に対する回答数および回答比率



5. MAKMur プロジェクトへの政策的意義と提言

- *アドボカシー活動*

重回帰分析の結果、保護者の子どもへの関わり方や態度が重要であることが浮き彫りになった。特に、子どもの行動や経験を振り返り伝えること、子どもの興味を尊重することは、保護者の子どもの能力評価と有意な正の関係があることがわかった。これらの情報は、啓蒙活動やアドボカシー活動のための資料を作成する上で貴重な情報である。また、振り返りの意義は、学校においてどのような指導・学習スタイルが望ましいかについても示唆を与えているものである。

- *キャパシティビルディング・ツールキットの改訂*

上記に関連することであるが、ベースライン調査結果で、子どもの興味・関心の尊重や振り返りの導入あるいは促しが、子どもの能力に正のインパクトを与えることが示唆される。このことより、キャパシティビルディング・ツールキットの第2版において、振り返り活動に重点を置いた MAKMur 活動を、クラス活動のみならず、科目の授業や課外活動、学校行事などクラス外の活動に拡大することを決定した。

- *選択的に改善のポテンシャルのある非認知能力に着目すること*

今回のベースライン調査では、PE と TL の複数の項目で、平均点が 3.5 以上と非常に高い数値が得られた。これは、グループに関係なく MAKMur の理念と基準に基づいた活動を行うことに高い適性があることを示している。しかしこの得点は、児童の非認知能力の向上や学校の教育・学習スタイルの改善を測定する上で、いくつかの設定で天井効果が生じる可能性があることを示唆している。また、今回のベースライン調査で高得点を得た質問項目は、参加者の評価基準の変化により、中間・エンドライン調査では有意差が出ないか、あるいは大きく減少する可能性がある。したがって、すべての項目において改善を期待するよりも、改善のポテンシャルがある項目に選択的に着目するほうがプロジェクトとして有益であるかもしれない。たとえば、PE の Q 20 のような項目のことである。ここでは、「私／児童／わが子が事実に基づいて他人に自分の意見を述べる」は、すべてのサブグループで平均点が 3 未満であった。

- *低学年児童の論理数学的知識の発達に関する継続的研究*

数 5 と数 8 の概念獲得実験において、対象児童である幼稚園児、1 年生、2 年生、3 年生の初期観察を行った結果、1 年から 3 年の対象児童の約 36.4%、40.4%、28% が数 5 の概念を理解していない（レベル 2 に到達していない）ことが判明した。2020 年 3 月から 2 年間続いたマレーシアの SARS-Cov-2 パンデミックにより、児童の学習過程が中断された可能性も考えられなくはない。この可能性を確認または排除するためには、「5 と 8 の数概念の獲得に関する実験」に関するさらなる研究が必要である。また、ある報告書によれば、日常生活にかかわる適当な活動やゲームを活用することで、能力や学習スタイルの異なる児童の数的思考を刺激すると言われている (Kamii, 1982; Kamii & DeClark, 1985; Kamii & Housman, 2000)。現時点ではデータが不十分であるが、マレーシアの児童の遊びの環境と論理数学的知識の発達の関係を調査することは、今後の課題として検討すべきであろう。マレーシアの児童が数の概念の理解をどのように獲得していくのか、その傾向を見るために現在対象となっている児童を継続的に観察することが重要である。

- *非認知能力における男女差*

インドネシア (Nakajima et al, 2019) や中国 (Zhang & Wang, 2022) での先行研究と同様に、非認知能力において、女子児童が男子児童よりも高く評価される傾向にあるという性差が今回のベースライン調査でも見受けられた。この男女差は、中間・エンドライン調査でも継続するのか、さらなる観察が必要である。

6. 結論

一連の調査（ベースライン調査、中間調査、エンドライン調査）により次の(1)～(4)を実行する。

- (1)パイロット校と非パイロット校の児童の認知・非認知能力の変化を調査・比較することにより、ツールキットの有効性を検証する。
- (2)児童の認知・非認知能力と保護者の児童への関わり方・態度との関係を調査する。
- (3)指導・学習スタイルと児童の活動への関与および認知・非認知能力との関連性を明らかにする。
- (4)MAKMur キャパシティビルディング・ツールキットによる様々な活動への児童の関与と達成度を評価し、ツールキットを改善する。

ベースライン調査のデータを分析した結果、(2)について、一定の関係が見られた。すなわち、保護者が子どもの興味を尊重すること、行動や経験について子どもといっしょに振り返ることは、子どもの能力に対する評価と正の相関があることがわかった。この結果は、啓蒙活動やアドボカシー活動のための資料作成に役立つと思われる。また、ベースライン調査で示された振り返りの重要性は、どのような指導・学習スタイルが望ましいかについても示唆を与えており、これは(3)と関連するものである。ベースライン調査で収集されたデータは、中間・エンドライン調査で収集されるデータと合わせて、(1)、(3)の調査にも活用される予定である。

総じて、グループに関係なく全体的に高い評価を得ていることから、マレーシアの児童はMAKMurの原則と基準に基づく活動から十分な恩恵を受けると予想される。他方、非認知能力に関する総じて高い評価は調査参加者の緩い評価基準による可能性（ダニング＝クルーガー効果⁸）が懸念される。MAKMur活動の普及が進むにつれて、調査参加者の評価基準が上がり、中間調査あるいはエンドライン調査時点での評価得点の停滞あるいは低下が見られるかもしれない。

目的(4)については、MAKMurの活動を一定期間実施した後でなければ評価できないため、中間・エンドライン調査を通じて必要なデータを収集する予定である。

このベースライン調査は、一連の調査の出発点である。中期調査、エンドライン調査を通じて、このベースライン調査の知見を集約していく。

⁸ ある分野における知識不足あるいはスキル不足の人は、自分の能力を過大評価する傾向があるというバイアス。

7. 参考文献

- Fujiwara, S. (2009). 現代高校生と母親の教育期待—相互依存モデルを用いた親子同時分析—[Educational Expectations of Japanese Senior High School Students and Mothers: Simultaneous Analysis of Student-Mother Dyadic Data with Interdependence Model]. Japan: Sociological Theory and Methods. (24th ed., pp. 283-289).
- Kamii, C. (1982). *Number in Preschool & Kindergarten: Educational Implications of Piaget's Theory*. National Association for the Education of Young Children.
- Kamii, C., & DeClark, G. (1985). *Young Children Reinvent Arithmetic: Implication of Piaget's Theory*. Teachers College Press.
- Kamii, C., & Housman, L. B. (2000). *Young Children Reinvent Arithmetic: Implication of Piaget's Theory Second Edition*. Teachers College Press.
- Makino, K. (1989). 母親の就労化と家族関係 [Maternal Employment and Family Relationship]. Japan: The Journal of Educational Sociology. (44th ed., pp. 50-70).
- Nakajima, N., Jung, H., Hasan, A., Kinnell, A., & Brinkman, S. (2019). Gender gaps in cognitive and social-emotional skills in early primary grades: Evidence from rural Indonesia. *Developmental Science*, 23(5). <https://doi.org/10.1111/desc.12931>
- Nakazawa, W., & Fujiwara, S. (2015). 格差社会の中の高校生—家族・学校・進路選択 [Highschool Students in Disparate Society: Family, school, and career path]. Japan: Keiso Shobo.
- Piaget, J. (1954). *The Construction of Reality in the Child*. New York: Basic Books.
- Suemori, K. (2002). 母親の就業は子どもに影響を及ぼすのか—職業経歴による差異—[Maternal employment and early adolescent's independence – The effect of occupational career-]. Japan: Japanese Journal of Family Sociology. (13th ed., pp. 103-112).
- Zhang, X., & Wang, Y. (2022). Effects of parenting styles on gender differences of adolescents' non-cognitive abilities: An empirical study in China. *Asia Pacific Journal of Education*. <https://doi.org/10.1080/02188791.2022.2158785>

8. 付録

Annex (付録) 1: List of all Questionnaires (全質問項目リスト)

Annex (付録) 2: Experiment Protocols and Score Form (実験プロトコルと採点表)

Annex (付録) 3: Survey Consent Form (調査同意書)

Annex (付録) 4: Detailed Responses for Each Questionnaire (各質問項目への回答内容)



**KAJIAN *BASELINE*
PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN
KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2022/2023**

**SOAL SELIDIK
MURID TAHUN 4 DAN 5**

Murid-murid yang dikasihi,

Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) adalah program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Kajian ini yang merupakan aktiviti di bawah Projek MAKMur dilaksanakan bertujuan untuk mengenal pasti kemahiran/keupayaan MAKMur dalam kalangan murid prasekolah dan sekolah rendah di Malaysia. Pasukan penyelidik bagi kajian ini terdiri daripada pihak Asia SEED yang merupakan konsultan yang dilantik oleh JICA.

Sehubungan dengan itu, anda telah dipilih sebagai responden untuk kajian ini. Kerjasama anda amatlah diharapkan untuk menjawab **SEMUA** soalan yang terkandung dalam soal selidik ini dengan **IKHLAS** dan **JUJUR**.

Segala maklumat yang anda berikan adalah **SULIT** dan hanya digunakan untuk tujuan kajian ini sahaja. Sekiranya anda memerlukan sebarang penjelasan lanjut mengenai kajian ini, anda boleh menghubungi **Dr. Ueno Ryoichi (Ketua Penyelidik Asia SEED)/ Encik Aiman Ismail (Pembantu Penyelidik Asia SEED)** di talian **014-9665723** atau e-Mel **makmur@asiaseed.org**

Perhatian dan kerjasama anda dalam menjayakan kajian ini amat dihargai dan didahului dengan ucapan ribuan terima kasih.

Sekian.

BAHAGIAN A**Arahan: Sila isi maklumat berikut.**

NAMA SEKOLAH	
KELAS	
NAMA PENUH MURID	
JANTINA	

BAHAGIAN B

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Tidak Pernah	☺
2	Jarang	
3	Kadang-kadang	
4	Selalu	

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan diri anda untuk setiap item berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
	☺			
① Saya bercakap dengan yakin.	1	2	3	4
② Saya menceritakan kejayaan diri sendiri kepada orang lain.	1	2	3	4
③ Saya mendengar dengan teliti ketika perbincangan kumpulan.	1	2	3	4
④ Saya menghormati pendapat orang lain.	1	2	3	4

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan diri anda untuk setiap item berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
			☺	
⑥ Saya dapat menyiapkan tugas walaupun jadual berubah secara tiba-tiba.	1	2	3	4
⑥ Saya meluangkan masa untuk menyertai aktiviti selain dari belajar.	1	2	3	4
⑦ Saya boleh bekerjasama dengan orang yang berbeza pendapat dengan saya.	1	2	3	4
⑧ Saya berbincang dengan ahli kumpulan ketika melakukan sesuatu aktiviti.	1	2	3	4
⑨ Saya memberikan idea ketika perbincangan kumpulan.	1	2	3	4
⑩ Saya menyapa orang baru untuk berkenalandengan lebih lanjut.	1	2	3	4
⑩ Saya sanggup menghadapi cabaran baharu.	1	2	3	4

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan diri anda untuk setiap item berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
			☺	
⑫ Saya berusaha menyiapkan tugas yang sukar.	1	2	3	4
⑬ Saya mengutamakan tugas yang lebih penting.	1	2	3	4
⑭ Saya menepati masa.	1	2	3	4
⑮ Saya suka mencuba idea baharu.	1	2	3	4
⑯ Saya menambah baik kaedah sedia ada untuk menyelesaikan sesuatu tugas.	1	2	3	4
⑰ Saya mengetuai perbincangan berkumpulan.	1	2	3	4
⑱ Saya melibatkan ahli kumpulan untuk mencari penyelesaian sesuatu masalah.	1	2	3	4

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan diri anda untuk setiap item berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
			☺	
⑩ Saya menggunakan pengetahuan sedia ada untuk menyelesaikan sesuatu masalah.	1	2	3	4
⑪ Saya menggunakan fakta ketika menyampaikan pendapat kepada orang lain.	1	2	3	4
⑫ Saya sukarela untuk melakukan sesuatu tugas.	1	2	3	4
⑬ Saya bermotivasi untuk menyiapkan tugas yang saya suka.	1	2	3	4

KERJASAMA ANDA SANGAT DIHARGAI DAN DIUCAPKAN TERIMA KASIH.



KEMENTERIAN PENDIDIKAN



KAJIAN *BASELINE*
PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN
KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2022/2023

SOAL SELIDIK
GURU KELAS TAHUN 1, 2, 3, 4 DAN 5

Tuan/Puan yang dihormati,

Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) adalah program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Kajian ini yang merupakan aktiviti di bawah Projek MAKMur dilaksanakan bertujuan untuk mengenal pasti kemahiran/keupayaan MAKMur dalam kalangan murid prasekolah dan sekolah rendah di Malaysia. Pasukan penyelidik bagi kajian ini terdiri daripada pihak Asia SEED yang merupakan konsultan yang dilantik oleh JICA.

Sehubungan dengan itu, tuan/puan telah dipilih sebagai responden untuk kajian ini. Kerjasama tuan/puan amatlah diharapkan untuk menjawab **SEMUA** soalan yang terkandung dalam soal selidik ini dengan **IKHLAS** dan **JUJUR**.

Segala maklumat yang tuan/puan berikan adalah **SULIT** dan hanya digunakan untuk tujuan kajian ini sahaja. Sekiranya tuan/puan memerlukan sebarang penjelasan lanjut mengenai kajian ini, tuan/puan boleh menghubungi **Dr. Ueno Ryoichi (Ketua Penyelidik Asia SEED)/ Encik Aiman bin Ismail (Pembantu Penyelidik Asia SEED)** di talian **014-9665723** atau e-Mel **makmur@asiaseed.org**

Perhatian dan kerjasama tuan/puan dalam menjayakan kajian ini amat dihargai dan didahului dengan ucapan ribuan terima kasih.

Sekian.

BAHAGIAN A

Arahan: Sila isi maklumat berikut.

NAMA SEKOLAH	
KELAS	
NAMA PENUH MURID	
JANTINA MURID	

BAHAGIAN B

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Tidak Pernah
2	Jarang
3	Kadang-kadang
4	Selalu

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan murid anda untuk setiap item berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
① Murid bercakap dengan yakin.	1	2	3	4
② Murid menceritakan kejayaan diri sendiri kepada orang lain.	1	2	3	4
③ Murid mendengar dengan teliti ketika perbincangan kumpulan.	1	2	3	4
④ Murid menghormati pendapat orang lain.	1	2	3	4
⑤ Murid dapat menyiapkan tugas walaupun jadual berubah secara tiba-tiba.	1	2	3	4
⑥ Murid meluangkan masa untuk menyertai aktiviti selain dari belajar.	1	2	3	4
⑦ Murid boleh bekerjasama dengan orang yang berbeza pendapat dengan mereka.	1	2	3	4

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan murid anda untuk setiap item berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang Kadang	Selalu
⑧ Murid berbincang dengan ahli kumpulan ketika melakukan sesuatu aktiviti.	1	2	3	4
⑨ Murid memberikan idea ketika perbincangan kumpulan.	1	2	3	4
⑩ Murid menyapa orang baru untuk berkenalan dengan lebih lanjut.	1	2	3	4
⑪ Murid sanggup menghadapi cabaran baru.	1	2	3	4
⑫ Murid berusaha menyiapkan tugas yang sukar.	1	2	3	4
⑬ Murid mengutamakan tugas yang lebih penting.	1	2	3	4
⑭ Murid menepati masa.	1	2	3	4
⑮ Murid suka mencuba idea baharu.	1	2	3	4
⑯ Murid menambah baik kaedah sedia ada untuk menyelesaikan sesuatu tugas.	1	2	3	4
⑰ Murid mengetuai perbincangan berkumpulan.	1	2	3	4
⑱ Murid melibatkan ahli kumpulan untuk mencari penyelesaian sesuatu masalah.	1	2	3	4
⑲ Murid menggunakan pengetahuan sedia ada untuk menyelesaikan sesuatu masalah.	1	2	3	4
⑳ Murid menggunakan fakta ketika menyampaikan pendapat kepada orang lain.	1	2	3	4
㉑ Murid sukarela untuk melakukan sesuatu tugas.	1	2	3	4
㉒ Murid bermotivasi untuk menyiapkan tugas yang mereka suka.	1	2	3	4

KERJASAMA TUAN/PUAN SANGAT DIHARGAI DAN DIUCAPKAN TERIMA KASIH.

ANNEX1-10



KEMENTERIAN PENDIDIKAN



**KAJIAN BASELINE
PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN KEMENJADIAN
MURID (MAKMur)
TAHUN 2022/2023
SOAL SELIDIK
IBU BAPA/PENJAGA MURID PRASEKOLAH**

Tuan/Puan yang dihormati,

Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) adalah program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Kajian ini yang merupakan aktiviti di bawah Projek MAKMur dilaksanakan bertujuan untuk mengenal pasti kemahiran/keupayaan MAKMur dalam kalangan murid prasekolah dan sekolah rendah di Malaysia. Pasukan penyelidik bagi kajian ini terdiri daripada pihak Asia SEED yang merupakan konsultan yang dilantik oleh JICA.

Sehubungan dengan itu, tuan/puan telah dipilih sebagai responden untuk kajian ini. Kerjasama tuan/puan amatlah diharapkan untuk menjawab **SEMUA** soalan yang terkandung dalam soal selidik ini dengan **IKHLAS** dan **JUJUR**.

Segala maklumat yang tuan/puan berikan adalah **SULIT** dan hanya digunakan untuk tujuan kajian ini sahaja. Sekiranya tuan/puan memerlukan sebarang penjelasan lanjut mengenai kajian ini, tuan/puan boleh menghubungi **Dr. Ueno Ryoichi (Ketua Penyelidik Asia SEED)/ Encik Aiman bin Ismail (Pembantu Penyelidik Asia SEED)** di talian **014-9665723** atau e-Mel makmur@asiaseed.org

Perhatian dan kerjasama tuan/puan dalam menjayakan kajian ini amat dihargai dan didahului dengan ucapan ribuan terima kasih.

Sekian.

BAHAGIAN A

Arahan: Sila isi maklumat berikut.

NAMA SEKOLAH	
KELAS	
NAMA PENUH ANAK	
JANTINA ANAK	

BAHAGIAN B-1

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Tiada
2	Kurang dari 30 minit
3	30 minit - 1 jam
4	1 jam - 2 jam
5	2 jam - 3 jam
6	Lebih dari 3 jam

Pilih jawapan yang sesuai menggambarkan tempoh anak anda menghabiskan masa di rumah dengan aktiviti berikut pada hari persekolahan.	Tiada	Kurang dari 30 minit	30 minit- 1 jam	1 jam – 2 jam	2 jam- 3 jam	Lebih dari 3 jam
1) Bermain di luar rumah.	1	2	3	4	5	6
2) Membaca buku.	1	2	3	4	5	6
3) Menonton televisyen.	1	2	3	4	5	6
4) Belajar.	1	2	3	4	5	6
5) Aktiviti selepas sekolah (contoh: belajar muzik, sukan, atau lain-lain).	1	2	3	4	5	6
6) Menggunakan telefon pintar atau tablet.	1	2	3	4	5	6
7) Konsol permainan (<i>video game</i>).	1	2	3	4	5	6

BAHAGIAN B-2

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Sangat Tidak Setuju
2	Tidak Setuju
3	Setuju
4	Sangat Setuju

	Sangat Tidak Setuju	Tidak Setuju	Setuju	Sangat Setuju
Nyatakan sejauh mana anda bersetuju dengan pernyataan berikut.				
8) Saya juga dapat merasakan perasaan yang sama dialami oleh anak saya.	1	2	3	4
9) Saya menghabiskan masa bermain dengan anak saya.	1	2	3	4
10) Saya ikhlas memaafkan anak saya jika dia melakukan kesalahan.	1	2	3	4
11) Saya menasihati anak saya untuk mematuhi peraturan.	1	2	3	4
12) Saya memarahi anak saya walaupun untuk perkara kecil.	1	2	3	4
13) Saya menyokong apa sahaja yang ingin dilakukan oleh anak saya.	1	2	3	4
14) Saya memuji usaha anak saya.	1	2	3	4
15) Saya menjawab pertanyaan anak saya.	1	2	3	4
16) Saya dan anak saya bercakap tentang pengalaman kami selepas melakukan aktiviti bersama-sama.	1	2	3	4

BAHAGIAN B-3

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

Sila pilih jawapan yang sesuai berhubung dengan situasi keluarga anda.			
17) Siapakah yang menjawab borang kaji selidik ini?			
<input type="checkbox"/> Bapa	<input type="checkbox"/> Ibu	<input type="checkbox"/> Ahli keluarga	<input type="checkbox"/> Lain-lain
18) Status perkahwinan:			
<input type="checkbox"/> Berkahwin	<input type="checkbox"/> Ibu tunggal / Bapa tunggal	<input type="checkbox"/> Bercerai	<input type="checkbox"/> Kematian suami / isteri
19) Pekerjaan bapa/penjaga lelaki:			
<input type="checkbox"/> Sepenuh masa	<input type="checkbox"/> Separuh masa/ kerja harian	<input type="checkbox"/> Tidak bekerja	<input type="checkbox"/> Pencen
20) Pekerjaan ibu/penjaga wanita:			
<input type="checkbox"/> Sepenuh masa	<input type="checkbox"/> Separuh masa/ kerja harian	<input type="checkbox"/> Tidak bekerja	<input type="checkbox"/> Pencen
21) Bilangan anak:			
<input type="checkbox"/> Anak tunggal	<input type="checkbox"/> Dua	<input type="checkbox"/> Tiga	<input type="checkbox"/> Empat dan ke atas
22) Taraf pendidikan tertinggi yang anda:			
<input type="checkbox"/> Sekolah Rendah	<input type="checkbox"/> Sekolah Menengah	<input type="checkbox"/> Ijazah	<input type="checkbox"/> Ijazah Sarjana/ PhD
23) Taraf pendidikan tertinggi yang anda harapkan untuk anak anda:			
<input type="checkbox"/> Sekolah Rendah	<input type="checkbox"/> Sekolah Menengah	<input type="checkbox"/> Ijazah	<input type="checkbox"/> Ijazah Sarjana/ PhD
24) Adakah keluarga anda memahami kepentingan untuk mengajar anak anda kemahiran lain selain daripada mata pelajaran dan kemahiran yang diajar di sekolah?			
<input type="checkbox"/> Sangat Setuju	<input type="checkbox"/> Setuju	<input type="checkbox"/> Tidak Setuju	<input type="checkbox"/> Sangat Tidak Setuju

**KERJASAMA TUAN/PUAN SANGAT DIHARGAI DAN DIUCAPKAN
TERIMA KASIH.**



KEMENTERIAN PENDIDIKAN



**KAJIAN BASELINE
PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN
KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2022/2023**

**SOAL SELIDIK IBU BAPA/PENJAGA
MURID TAHUN 1, 2, 3, 4 DAN 5**

Tuan/Puan yang dihormati,

Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) adalah program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Kajian ini yang merupakan aktiviti di bawah Projek MAKMur dilaksanakan bertujuan untuk mengenal pasti kemahiran/keupayaan MAKMur dalam kalangan murid prasekolah dan sekolah rendah di Malaysia. Pasukan penyelidik bagi kajian ini terdiri daripada pihak Asia SEED yang merupakan konsultan yang dilantik oleh JICA.

Sehubungan dengan itu, tuan/puan telah dipilih sebagai responden untuk kajian ini. Kerjasama tuan/puan amatlah diharapkan untuk menjawab **SEMUA** soalan yang terkandung dalam soal selidik ini dengan **IKHLAS** dan **JUJUR**.

Segala maklumat yang tuan/puan berikan adalah **SULIT** dan hanya digunakan untuk tujuan kajian ini sahaja. Sekiranya tuan/puan memerlukan sebarang penjelasan lanjut mengenai kajian ini, tuan/puan boleh menghubungi **Dr. Ueno Ryoichi (Ketua Penyelidik Asia SEED)/ Encik Aiman bin Ismail (Pembantu Penyelidik Asia SEED)** di talian **6014-9665723** atau e-Mel **makmur@asiaseed.org**

Perhatian dan kerjasama tuan/puan dalam menjayakan kajian ini amat dihargai dan didahului dengan ucapan ribuan terima kasih.

Sekian.

BAHAGIAN A

Arahan: Sila isi maklumat berikut.

NAMA SEKOLAH	
KELAS	
NAMA ANAK	
JANTINA ANAK	

BAHAGIAN B-1

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Tidak Pernah
2	Jarang
3	Kadang-kadang
4	Selalu

	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan anak anda untuk setiap pernyataan.				
1) Anak saya bercakap dengan yakin.	1	2	3	4
2) Anak saya menceritakan kejayaan diri sendiri kepada orang lain.	1	2	3	4
3) Anak saya mendengar dengan teliti ketika perbincangan kumpulan.	1	2	3	4
4) Anak saya menghormati pendapat orang lain.	1	2	3	4
5) Anak saya dapat menyiapkan tugas walaupun jadual berubah secara tiba-tiba.	1	2	3	4
6) Anak saya meluangkan masa untuk menyertai aktiviti selain dari belajar.	1	2	3	4
7) Anak saya boleh bekerjasama dengan orang yang berbeza pendapat dengan saya.	1	2	3	4
8) Anak saya berbincang dengan ahli kumpulan ketika melakukan sesuatu aktiviti.	1	2	3	4
9) Anak saya memberikan idea ketika perbincangan kumpulan.	1	2	3	4
10) Anak saya menyapa orang baru untuk berkenalan dengan lebih lanjut.	1	2	3	4

1	Tidak Pernah
2	Jarang
3	Kadang-kadang
4	Selalu

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan anda untuk setiap pernyataan.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
11) Anak saya sanggup menghadapi cabaran baru.	1	2	3	4
12) Anak saya berusaha menyiapkan tugas yang sukar.	1	2	3	4
13) Anak saya mengutamakan tugas yang lebih penting.	1	2	3	4
14) Anak saya menepati masa.	1	2	3	4
15) Anak saya suka mencuba idea baharu.	1	2	3	4
16) Anak saya menambah baik kaedah sedia ada untuk menyelesaikan sesuatu tugas.	1	2	3	4
17) Anak saya mengetuai perbincangan berkumpulan.	1	2	3	4
18) Anak saya melibatkan diri dengan ahli kumpulan untuk mencari penyelesaian sesuatu masalah.	1	2	3	4
19) Anak saya menggunakan pengetahuan sedia ada untuk menyelesaikan sesuatu masalah.	1	2	3	4
20) Anak saya menggunakan fakta ketika menyampaikan pendapat kepada orang lain.	1	2	3	4
21) Anak saya sukarela untuk melakukan sesuatu	1	2	3	4
22) Anak saya bermotivasi untuk menyiapkan tugas yang saya suka.	1	2	3	4

BAHAGIAN B-2

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Tiada
2	Kurang dari 30 minit
3	30 minit - 1 jam
4	1 jam - 2 jam
5	2 jam - 3 jam
6	Lebih dari 3 jam

Pilih jawapan yang sesuai menggambarkan tempoh anak anda menghabiskan masa di rumah dengan aktiviti berikut pada hari persekolahan.	Tiada	Kurang dari 30 minit	30 minit - 1 jam	1 jam - 2 jam	2 jam - 3 jam	Lebih dari 3 jam
23) Bermain di luar rumah.	1	2	3	4	5	6
24) Membaca buku.	1	2	3	4	5	6
25) Menonton televisyen.	1	2	3	4	5	6
26) Belajar.	1	2	3	4	5	6
27) Aktiviti selepas sekolah (contoh: belajar muzik, sukan, atau lain-lain).	1	2	3	4	5	6
28) Menggunakan telefon pintar atau tablet.	1	2	3	4	5	6
29) Konsol permainan (video game).	1	2	3	4	5	6

BAHAGIAN B-3

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Sangat Tidak Setuju
2	Tidak Setuju
3	Setuju
4	Sangat Setuju

	Sangat Tidak Setuju	Tidak Setuju	Setuju	Sangat Setuju
Nyatakan sejauh mana anda bersetuju dengan pernyataan berikut.				
30) Saya juga dapat merasakan perasaan yang sama dialami oleh anak saya.	1	2	3	4
31) Saya menghabiskan masa bermain dengan anak saya.	1	2	3	4
32) Saya ikhlas memaafkan anak saya jika dia melakukan kesalahan.	1	2	3	4
33) Saya menasihati anak saya untuk mematuhi peraturan.	1	2	3	4
34) Saya memarahi anak saya walaupun untuk perkara kecil.	1	2	3	4
35) Saya menyokong apa sahaja yang ingin dilakukan oleh anak saya.	1	2	3	4
36) Saya memuji usaha anak saya.	1	2	3	4
37) Saya menjawab pertanyaan anak saya.	1	2	3	4
38) Saya dan anak saya bercakap tentang pengalaman kami selepas melakukan aktiviti bersama-sama.	1	2	3	4

BAHAGIAN B-4

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap kenyataan.

Sila pilih jawapan yang sesuai berhubung dengan situasi keluarga anda.			
39) Siapakah yang menjawab borang kaji selidik ini?			
<input type="checkbox"/> Bapa	<input type="checkbox"/> Ibu	<input type="checkbox"/> Ahli keluarga	<input type="checkbox"/> Lain-lain
40) Status perkahwinan:			
<input type="checkbox"/> Berkahwin	<input type="checkbox"/> Ibu tunggal /Bapa tunggal	<input type="checkbox"/> Bercerai	<input type="checkbox"/> Kematian suami/isteri
41) Pekerjaan bapa/penjaga lelaki:			
<input type="checkbox"/> Sepenuh masa	<input type="checkbox"/> Separuh masa/kerja harian	<input type="checkbox"/> Tidak bekerja	<input type="checkbox"/> Pencen
42) Pekerjaan ibu/penjaga wanita:			
<input type="checkbox"/> Sepenuh masa	<input type="checkbox"/> Separuh masa/kerja harian	<input type="checkbox"/> Tidak bekerja	<input type="checkbox"/> Pencen
43) Bilangan anak:			
<input type="checkbox"/> Anak tunggal	<input type="checkbox"/> Dua	<input type="checkbox"/> Tiga	<input type="checkbox"/> Empat dan ke atas
44) Taraf pendidikan tertinggi yang anda:			
<input type="checkbox"/> Sekolah Rendah	<input type="checkbox"/> Sekolah Menengah	<input type="checkbox"/> Ijazah	<input type="checkbox"/> Ijazah Sarjana/PhD
45) Taraf pendidikan tertinggi yang anda harapkan untuk anak anda:			
<input type="checkbox"/> Sekolah Rendah	<input type="checkbox"/> Sekolah Menengah	<input type="checkbox"/> Ijazah	<input type="checkbox"/> Ijazah Sarjana/PhD
46) Adakah keluarga anda memahami kepentingan untuk mengajar anak anda kemahiran lain selain daripada mata pelajaran dan kemahiran yang diajar di sekolah?			
<input type="checkbox"/> Sangat Setuju	<input type="checkbox"/> Setuju	<input type="checkbox"/> Tidak Setuju	<input type="checkbox"/> Sangat Tidak Setuju

**KERJASAMA TUAN/PUAN SANGAT DIHARGAI DAN DIUCAPKAN
TERIMA KASIH.**



KEMENTERIAN PENDIDIKAN



KAJIAN *BASELINE*
PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN
KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2022/2023

SOAL SELIDIK
GURU BESAR

Tuan/Puan yang dihormati,

Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) adalah program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Kajian ini yang merupakan aktiviti di bawah Projek MAKMur dilaksanakan bertujuan untuk mengenal pasti kemahiran/keupayaan MAKMur dalam kalangan murid prasekolah dan sekolah rendah di Malaysia. Pasukan penyelidik bagi kajian ini terdiri daripada pihak Asia SEED yang merupakan konsultan yang dilantik oleh JICA.

Sehubungan dengan itu, tuan/puan telah dipilih sebagai responden untuk kajian ini. Kerjasama tuan/puan amatlah diharapkan untuk menjawab **SEMUA** soalan yang terkandung dalam soal selidik ini dengan **IKHLAS** dan **JUJUR**.

Segala maklumat yang tuan/puan berikan adalah **SULIT** dan hanya digunakan untuk tujuan kajian ini sahaja. Sekiranya tuan/puan memerlukan sebarang penjelasan lanjut mengenai kajian ini, tuan/puan boleh menghubungi **Dr. Ueno Ryoichi (Ketua Penyelidik Asia SEED)/ Encik Aiman bin Ismail (Pembantu Penyelidik Asia SEED)** di talian **014-9665723** atau e-Mel **makmur@asiaseed.org**

Perhatian dan kerjasama tuan/puan dalam menjayakan kajian ini amat dihargai dan didahului dengan ucapan ribuan terima kasih.

Sekian.

BAHAGIAN A

Arahan: Sila isi maklumat berikut.

NAMA SEKOLAH	
NAMA GURU BESAR	

BAHAGIAN B

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Tidak Pernah
2	Jarang
3	Kadang-kadang
4	Selalu

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan keadaan di sekolah anda untuk setiap pernyataan berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
① Murid bersungguh-sungguh belajar.	1	2	3	4
② Murid boleh menyampaikan idea mereka kepada orang lain.	1	2	3	4
③ Murid boleh mendengar idea orang lain dengan baik.	1	2	3	4
④ Murid boleh menyampaikan idea mereka melalui perbincangan.	1	2	3	4
⑤ Murid boleh melaksanakan tugas yang mereka rancang.	1	2	3	4
⑥ Rancangan pengajaran harian memberi fokus kepada pengetahuan dan kemahiran murid.	1	2	3	4
⑦ Rancangan pengajaran harian disusun secara sistematik untuk mencapai hasil pembelajaran.	1	2	3	4

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan keadaan di sekolah anda untuk setiap pernyataan berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
⑧ Kaedah pengajaran dan pembelajaran guru sentiasa ditambah baik untuk mempertingkatkan kualiti pembelajaran murid.	1	2	3	4
⑨ Aktiviti yang diberikan kepada murid menggalakkan murid menggunakan kemahiran berfikir aras tinggi.	1	2	3	4
⑩ Murid digalakkan untuk memberikan pendapat mereka semasa sesi pengajaran dan pembelajaran.	1	2	3	4
⑪ Guru menggunakan kaedah perbincangan kumpulan dalam bilik darjah.	1	2	3	4
⑫ Murid digalakkan bertanya soalan semasa sesi pengajaran dan pembelajaran.	1	2	3	4
⑬ Murid dilatih untuk membentangkan hasil kerja mereka menggunakan bahan (contoh: kertas mahjong).	1	2	3	4
⑭ Murid diberikan tugas untuk diselesaikan bersama-sama dengan akan sekelas.	1	2	3	4
⑮ Murid dilatih untuk berbincang bersama-sama rakan di dalam kelas.	1	2	3	4
⑯ Murid berkelakuan baik di sekolah.	1	2	3	4
⑰ Murid diberikan peluang untuk menggunakan pengetahuan sedia ada untuk menyelesaikan pelbagai masalah.	1	2	3	4
⑱ Murid sentiasa menerima maklum balas positif dalam kehidupan seharian mereka.	1	2	3	4

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan keadaan di sekolah anda untuk setiap pernyataan berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
⑩ Guru memberikan kerja rumah kepada murid.	1	2	3	4
⑪ Murid dilatih bahawa melakukan kesilapan sepanjang proses pembelajaran dapat menambahbaik proses pembelajaran mereka.	1	2	3	4
⑫ Murid dilatih untuk menyelesaikan masalah melalui aktiviti pengajaran dan pembelajaran.	1	2	3	4
⑬ Sekolah membincangkan tentang cabaran yang dihadapi berkaitan pencapaian akademik murid semasa mesyuarat.	1	2	3	4

**KERJASAMA TUAN/PUAN SANGAT DIHARGAI DAN
DIUCAPKAN TERIMA KASIH.**

BORANG SKOR
EKSPERIMEN PEMEROLEHAN KONSEP MATEMATIK
KAJIAN BASELINE PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2022/2023

BIL.	NAMA SEKOLAH	NAMA GURU PENTADBIR EKSPERIMEN	NAMA PENUH MURID	KELAS	NOMBOR DAN NAME JENIS EKSPERIMEN	ARAS	NOTA
<i>Contoh</i>	<i>SK Indah Permata</i>	<i>SHARIFAH HIDAYAH BINTI SYED AHMAD</i>	<i>AHMAD RAHIM BIN ALWI</i>	<i>2 MERAH</i>	<i>Eksperimen 1: Ujian Persepsi Angka 5</i>	<i>0</i>	<i>Murid hanya mencucuk 3 biji corn starch</i>



KEMENTERIAN PENDIDIKAN



PROTOKOL EKSPERIMEN PEMEROLEHAN
KEMAHIRAN MATEMATIK
KAJIAN *BASELINE* PROJEK MEMPERKASAKAN
AMALAN KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2022/2023
UNTUK MURID SAMPEL
PRASEKOLAH, TAHUN 1, 2 DAN 3

PERINGATAN PENTING SEBELUM/ SEMASA PELAKSANAAN
EKSPERIMEN

1. Guru perlu memastikan ibu bapa/penjaga telah memberi kebenaran untuk anak mereka terlibat dalam eksperimen ini melalui Borang Kebenaran Ibu Bapa/Penjaga untuk Penglibatan Anak/Anak Jagaan dalam Kajian *Baseline* Projek MAKMur Tahun 2022/2023.
2. Guru menerangkan satu persatu pelaksanaan eksperimen kepada murid secara bersemuka.
3. Guru menggunakan ayat seperti yang dinyatakan di dalam protokol ini.
4. Guru mengulang semula satu persatu sekiranya terdapat murid yang kurang jelas dengan penerangan tersebut.

EKSPERIMEN 1. Ujian Persepsi Angka 5

Tujuan: Mengenal pasti pemerolehan konsep angka 5.

A. SEBELUM EKSPERIMEN: PERSEDIAAN

Guru Penyelaras / Guru Bimbingan dan Kaunseling	<p>A. Guru menyediakan dua batang lidi.</p> <p>B. Guru menyediakan dua jenis "<i>corn cushion</i>" yang berbeza warna. Pastikan jenis pertama mempunyai 5 biji "<i>corn cushion</i>" yang berwarna hijau, dan jenis kedua mempunyai 10 biji "<i>corn cushion</i>" yang berwarna biru.</p>  <p>C. Guru mencucuk 5 biji "<i>corn cushion</i>" yang berwarna hijau ke dalam lidi dengan meletakkan sedikit jarak di antara setiap bunga.</p>
---	--

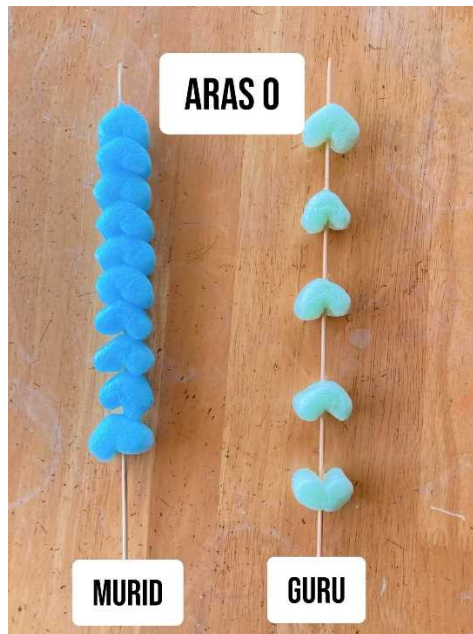


D. Guru meletakkan sebatang lidi bersama-sama dengan 10 biji “*corn cushion*” yang berwarna biru di hadapan murid.

B. SEMASA EKSPERIMEN: PEMERHATIAN

Murid hanya diperuntukkan selama 1 minit untuk melaksanakan aktiviti ini.

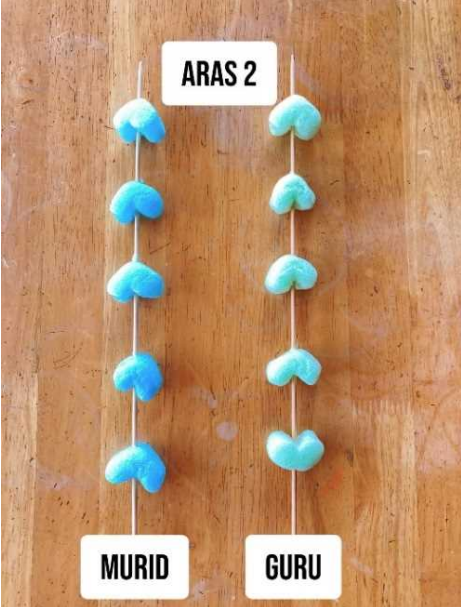
<p>Guru Penyelaras / Guru Bimbingan dan Kaunseling</p>	<p>Guru menunjukkan 5 biji “<i>corn cushion</i>” yang berwarna hijau yang telah dicucuk pada lidi terlebih dahulu, dan bertanya kepada murid.</p> <p>Guru: “<i>(Nama Murid), boleh kamu cuba buat seperti ini?</i>”.</p> <p>Hasil kerja murid boleh dibahagikan kepada tiga aras, iaitu:</p> <p>1. ARAS 0 Murid mencucuk <u>semua “<i>corn cushion</i>”</u> ke dalam lidi.</p>
--	---



2. ARAS 1

Murid mencucuk kurang atau lebih daripada 5 biji “corn cushion” ke dalam lidi di mana jarak dan ruang kepanjangan di antara satu “corn cushion” ke arah “corn cushion” yang lain sama seperti contoh yang ditunjukkan.



	<p>3. ARAS 2 Murid mencucuk 5 biji “<i>corn cushion</i>” ke dalam lidi sama seperti contoh yang ditunjukkan oleh guru.</p> 
--	---

C. SELEPAS EKSPERIMEN: PENGISIAN SKOR

<p>Guru Penyelaras / Guru Bimbingan dan Kaunseling</p>	<p>Guru memasukkan skor melalui pautan Google Form: https://forms.gle/D4BJ1bjfzUwFPFL69</p> <p>(*Sekiranya terdapat masalah capaian internet, guru dimohon untuk mengisi Borang Skor Eksperimen Pemerolehan Konsep Matematik yang telah disediakan.)</p>
--	--

HANYA MURID YANG MELEPASI ARAS 2 BAGI EKSPERIMEN 1: UJIAN PERSEPSI ANGKA 5 AKAN MENERUSKAN EKSPERIMEN 2: UJIAN PERSEPSI ANGKA 8

EKSPERIMEN 2. Ujian Persepsi Angka 8

Tujuan: Mengenal pasti pemerolehan konsep angka 8.

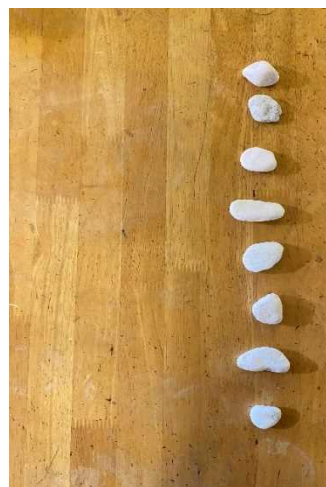
A. SEBELUM EKSPERIMEN: PERSEDIAAN


Guru Penyelaras / Guru Bimbingan dan Kaunseling

A. Guru menyediakan dua kumpulan batu. Kumpulan pertama mempunyai 8 biji batu, dan kumpulan kedua mempunyai 20 biji batu.



B. Guru menyusun 8 biji batu dengan sedikit jarak di antara setiap batu di atas meja.



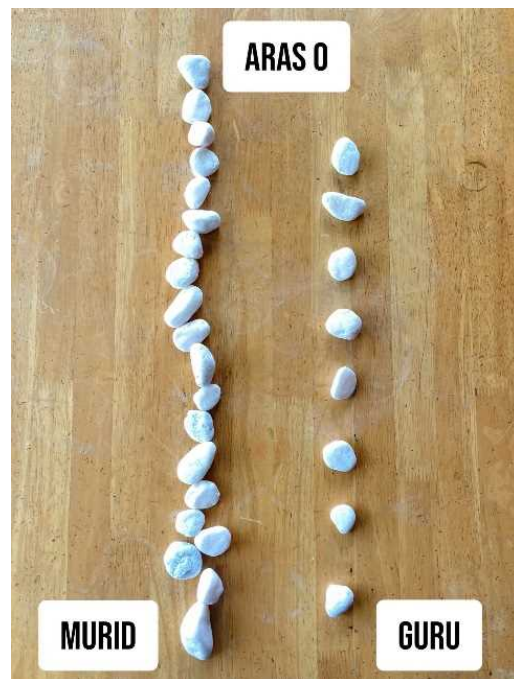
	<p>C. Guru meletak 20 biji batu di hadapan murid.</p> 
--	---

B. SEMASA EKSPERIMEN: PEMERHATIAN

Murid hanya diperuntukkan selama 2 minit untuk melaksanakan aktiviti ini.

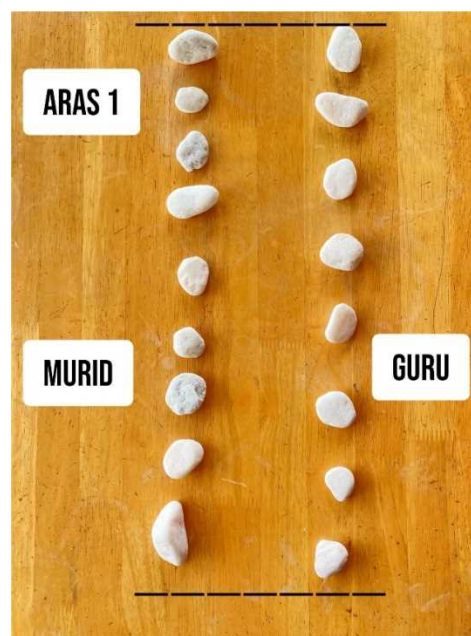
<p>Guru Penyelaras / Guru Bimbingan dan Kaunseling</p>	<p>Guru meminta murid untuk menyusun batu tersebut seperti gambar rajah berikut.</p> <p>Guru berkata kepada murid: <i>“(Nama Murid), sila susun batu kamu seperti ini.”</i></p>
--	---

	
	<p>Hasil kerja murid boleh dibahagikan kepada empat aras berikut, iaitu:</p> <p>ARAS 0 Murid menyusun kesemua 20 biji batu.</p>



ARAS 1

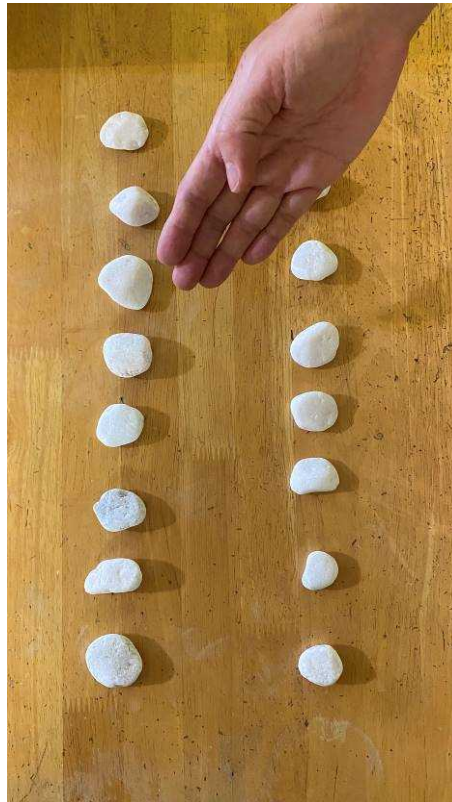
Murid menyusun kurang atau lebih 8 biji batu tetapi kedua-dua hujung batu murid dan guru adalah sama.



ARAS 2

Murid menyusun semula 8 biji batu

	<p>dengan cara yang sama seperti gambar rajah berikut:</p>  <p>ARAS 3 Murid boleh menyatakan konsep angka 8 walaupun susunan berubah.</p>
<p>Guru Penyelaras / Guru Bimbingan dan Kaunseling</p>	<p>Untuk murid yang melepasi Aras 2, Guru dimohon untuk bertanyakan lebih lanjut kepada murid seperti berikut:</p> <p>Guru: <i>“Sudahkah kamu menyusun batu seperti cikgu?”</i> Murid: <i>“Ya, Cikgu. Sudah.”</i></p>



Setelah melihat hasil kerja murid, guru seterusnya bertanya,

Guru: **“Sekarang, kamu cuba lihat apa yang cikgu akan buat.”**

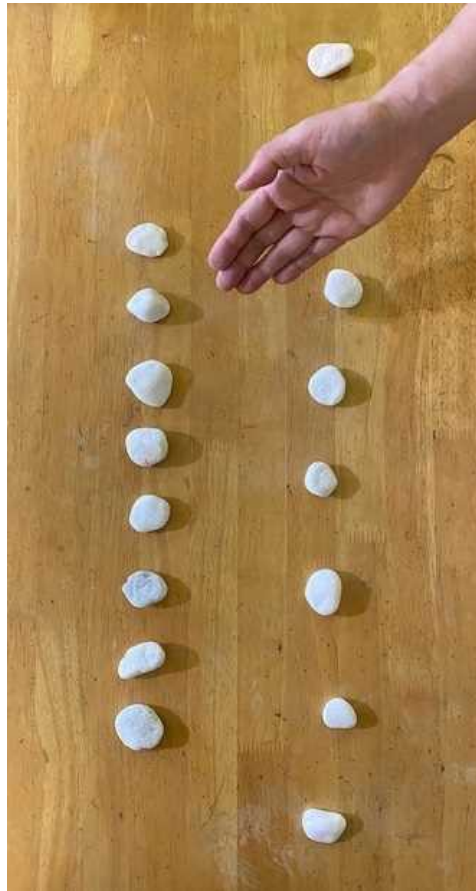
*(*Tujuan soalan ini ditanya adalah untuk melihat jika murid boleh memahami dan menguasai konsep nombor di dalam minda mereka.)*

Guru seterusnya mengubah susunan batu dengan menambah atau mengurangkan jarak di antara batu pada satu bahagian seperti gambar rajah berikut. Guru boleh memilih sama ada ingin mengubah susunan seperti Situasi A atau Situasi B.

SITUASI A



SITUASI B



Kemudian, guru bertanya lagi kepada murid.

Guru: ***“Sekarang, adakah bilangan batu kamu sama dengan cikgu? Adakah batu batu cikgu lagi banyak? Atau batu kamu lagi banyak?”***

Jika murid menjawab bahawa **salah satu kumpulan batu adalah lebih banyak atau kurang daripada kumpulan batu yang lain**, ini bermaksud murid tersebut masih kurang memahami dan menguasai konsep nombor tersebut di dalam

	<p>minda mereka.</p> <p>Jika murid menjawab bahawa <u>kedua-dua kumpulan batu mempunyai bilangan yang sama walaupun selepas susunan diubah</u>, maka guru seterusnya bertanya, Guru bertanya: <i>"Kenapa kamu rasa begitu?"</i></p> <p>Jika murid memberi jawapan seperti berikut, itu bermakna murid melepasi Aras 3 dan berjaya memahami dan menguasai konsep nombor.</p> <p>Panduan jawapan murid:</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>"Kerana kita tidak menambah atau mengurangkan bilangan batu."</i> • <i>"Kerana jika kita mengundurkan perubahan susunan, susunan batu tersebut kembali seperti asal."</i> • <i>"Kerana yang berubah ialah jarak antara batu sahaja."</i>
	<p>Adalah lebih baik jika guru memeriksa adakah murid akan menukar jawapan mereka sekiranya guru memberi cadangan jawapan yang bercanggah dari jawapan asal mereka.</p>

C. SELEPAS EKSPERIMEN: PENGISIAN SKOR

Guru Penyelaras / Guru Bimbingan dan Kaunseling	Guru memasukkan skor melalui pautan Google Form: https://forms.gle/D4BJ1bjfzUwFPFL69 <i>(* Sekiranya terdapat masalah capaian internet, guru dimohon untuk mengisi Borang Skor Eksperimen Pemerolehan Konsep Matematik yang telah disediakan.)</i>
---	--

**KERJASAMA TUAN/PUAN SANGAT DIHARGAI DAN
DIUCAPKAN TERIMA KASIH.**

**BORANG KEBENARAN IBU BAPA/PENJAGA UNTUK
PENGLIBATAN ANAK/ANAK JAGAAN DALAM KAJIAN *BASELINE* PROJEK
MEMPERKASAKAN AMALAN KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2022/2023**

Tuan/Puan yang dihormati,

Kajian *Baseline* Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2022/2023 merupakan salah satu daripada aktiviti di bawah Projek MAKMur yang merupakan program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Pentadbiran kajian ini dilaksanakan oleh pasukan penyelidik daripada Asia SEED yang telah dilantik oleh JICA dengan kebenaran daripada KPM. Pasukan penyelidik ini juga bertanggungjawab mengendalikan maklumat peribadi responden yang diperolehi daripada kajian ini. Untuk makluman tuan/ puan juga, kajian ini melibatkan pentadbiran soal selidik dan pelaksanaan eksperimen untuk pemerolehan kemahiran matematik dalam kalangan murid prasekolah serta murid tahun 1, 2, 3, 4 dan 5.

PERSETUJUAN IBU BAPA/PENJAGA

Adalah saya _____ ***ibu/bapa/penjaga** kepada
_____ dari Kelas _____
yang sedang belajar di _____

Dengan ini, saya *BERSETUJU/TIDAK BERSETUJU:

1. **membenarkan** anak/ anak jagaan saya menjadi responden Kajian *Baseline* Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2022/2023; dan
2. **membenarkan** anak/ anak jagaan saya menjawab soal selidik dan terlibat dalam eksperimen pemerolehan kemahiran matematik Kajian *Baseline* Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2022/2023.

Dengan ini, saya juga memahami bahawa:

1. segala maklumat peribadi yang diperolehi daripada Kajian *Baseline* Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2022/2023 adalah sulit dan hanya digunakan untuk tujuan kajian semata-mata. Maklumat tersebut juga tidak akan diberikan kepada pihak ketiga tanpa kebenaran bertulis daripada KPM;
2. pihak Asia SEED bertanggungjawab terhadap data/maklumat peribadi yang diperolehi melalui Kajian *Baseline* Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2022/2023 dan pihak Asia SEED mengambil langkah keselamatan yang sewajarnya untuk memastikan maklumat peribadi anak/ anak jagaan saya adalah dilindungi dan disimpan dengan selamat;
3. saya dan anak/anak di bawah jagaan saya boleh memohon secara rasmi kepada Asia SEED di e-mel makmur@asiaseed.org melalui KPM untuk mendapatkan penjelasan lanjut tentang tujuan penggunaan maklumat peribadi saya dan anak/anak di bawah jagaan saya. Saya juga boleh mengemukakan permohonan rasmi kepada Asia SEED di e-mel yang sama melalui KPM untuk menarik balik kebenaran penggunaan maklumat peribadi saya dan anak/anak di bawah jagaan saya.

Tarikh (hari/bulan/tahun): _____

Nama Penuh: _____

Tandatangan: _____

No. Kad Pengenalan: _____

ANNEX

1.1. Details of the responses for Pupil’s Evaluation

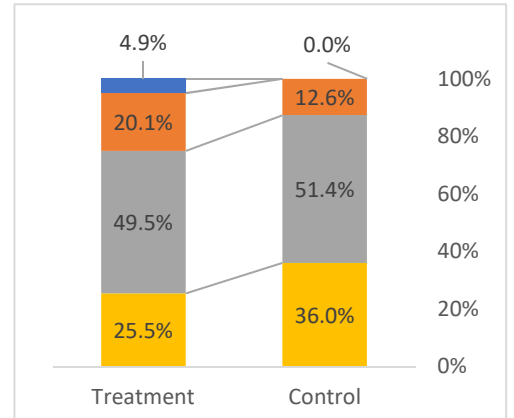
I/The pupil/My child speaks with confidence (Q1)

Annex Table 4-1-1 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q1, QFF

	Treatment		Control	
Never	10	4.9%	0	0.0%
Rarely	41	20.1%	14	12.6%
Sometimes	101	49.5%	57	51.4%
Always	52	25.5%	40	36.0%

Annex Figure 4-1-1 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q1, QFF

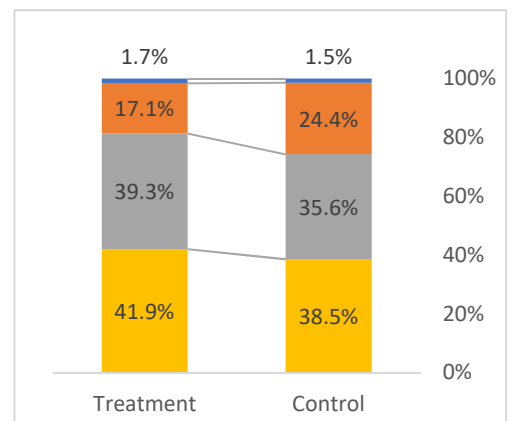


Annex Table 4-1-1 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q1, QCT

	Treatment		Control	
Never	7	1.7%	4	1.5%
Rarely	72	17.1%	67	24.4%
Sometimes	166	39.3%	98	35.6%
Always	177	41.9%	106	38.5%

Annex Figure 4-1-1 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q1, QCT

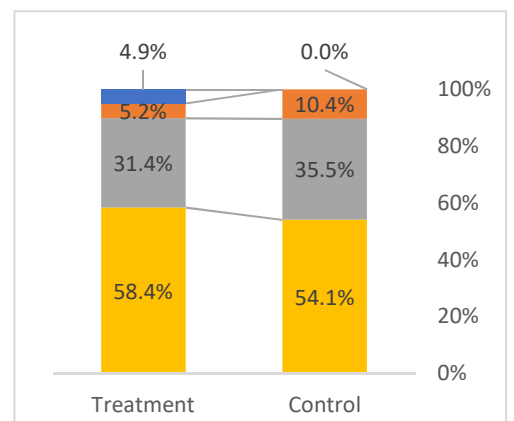


Annex Table 4-1-1 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q1, QGP

	Treatment		Control	
Never	17	4.9%	0	0.0%
Rarely	18	5.2%	29	10.4%
Sometimes	108	31.4%	99	35.5%
Always	201	58.4%	151	54.1%

Annex Figure 4-1-1 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q1, QGP



I/The pupil/My child describe to people about my/his/her achievement (Q2)

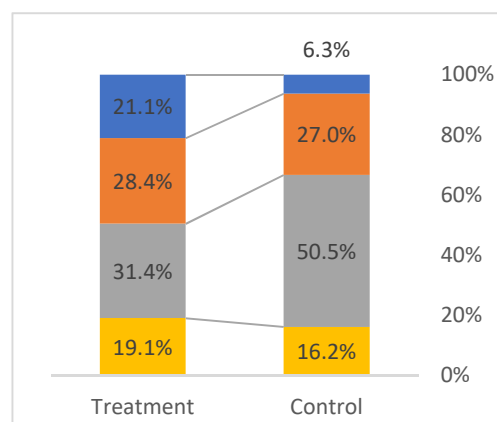
Annex Table 4-1-2 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q2, QFF

	Treatment		Control	
Never	43	21.1%	7	6.3%
Rarely	58	28.4%	30	27.0%
Sometimes	64	31.4%	56	50.5%
Always	39	19.1%	18	16.2%

Annex Figure 4-1-2 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q2, QFF



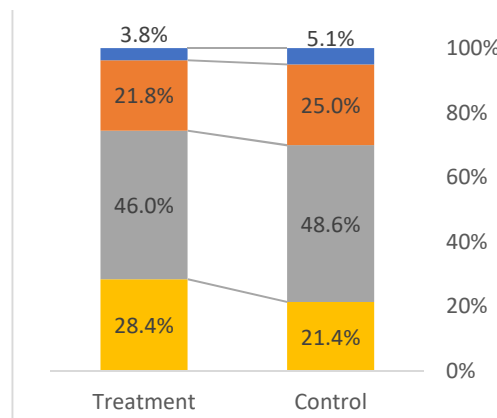
Annex Table 4-1-2 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q2, QCT

	Treatment		Control	
Never	16	3.8%	14	5.1%
Rarely	92	21.8%	69	25.0%
Sometimes	194	46.0%	134	48.6%
Always	120	28.4%	59	21.4%

Annex Figure 4-1-2 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q2, QCT



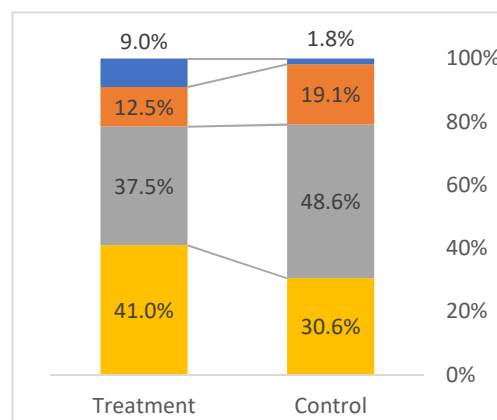
Annex Table 4-1-2 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q2, QGP

	Treatment		Control	
Never	31	9.0%	5	1.8%
Rarely	43	12.5%	53	19.1%
Sometimes	129	37.5%	135	48.6%
Always	141	41.0%	85	30.6%

Annex Figure 4-1-2 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q2, QGP



I/The pupil/My child listen attentively to others during group conversation (Q3)

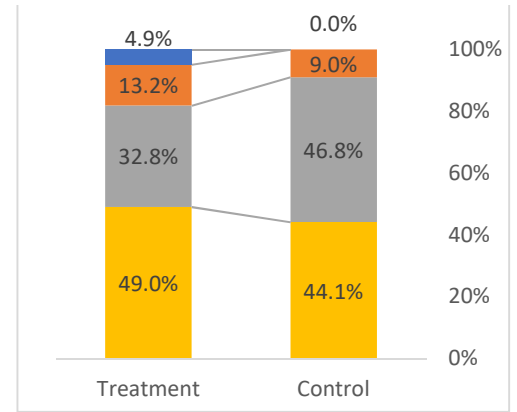
Annex Table 4-1-3 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q3, QFF

	Treatment		Control	
Never	10	4.9%	0	0.0%
Rarely	27	13.2%	10	9.0%
Sometimes	67	32.8%	52	46.8%
Always	100	49.0%	49	44.1%

Annex Figure 4-1-3 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q3, QFF



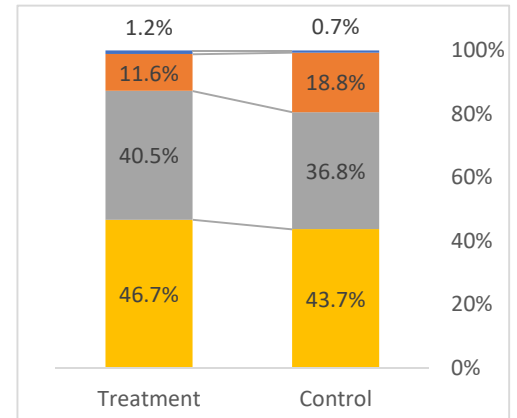
Annex Table 4-1-3 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q3, QCT

	Treatment		Control	
Never	5	1.2%	2	0.7%
Rarely	49	11.6%	52	18.8%
Sometimes	171	40.5%	102	36.8%
Always	197	46.7%	121	43.7%

Annex Figure 4-1-3 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q3, QCT



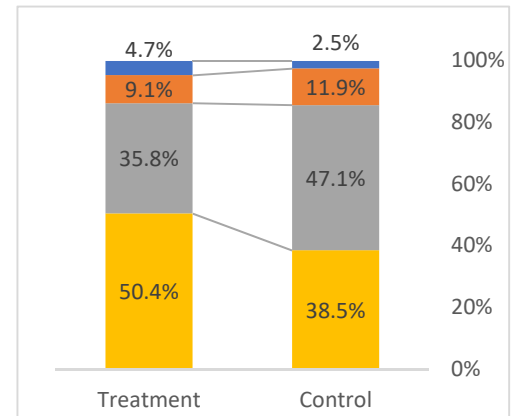
Annex Table 4-1-3 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q3, QGP

	Treatment		Control	
Never	16	4.7%	7	2.5%
Rarely	31	9.1%	33	11.9%
Sometimes	122	35.8%	131	47.1%
Always	172	50.4%	107	38.5%

Annex Figure 4-1-3 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q3, QGP



I/The pupil/My child respect others' opinions (Q4)

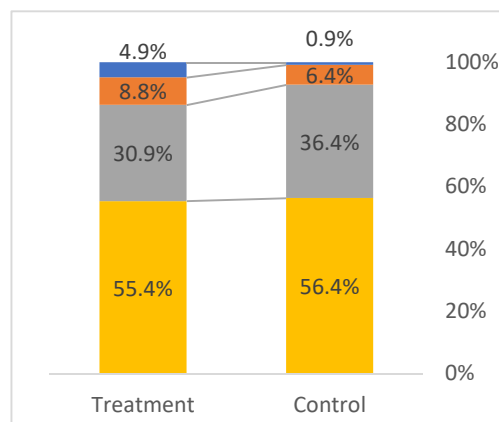
Annex Table 4-1-4 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q4, QFF

	Treatment		Control	
Never	10	4.9%	1	0.9%
Rarely	18	8.8%	7	6.4%
Sometimes	63	30.9%	40	36.4%
Always	113	55.4%	62	56.4%

Annex Figure 4-1-4 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q4, QFF



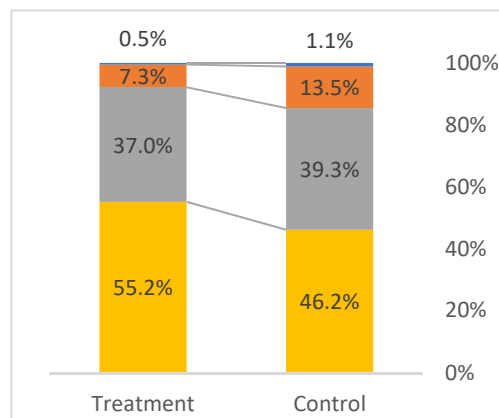
Annex Table 4-1-4 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q4, QCT

	Treatment		Control	
Never	2	0.5%	3	1.1%
Rarely	31	7.3%	37	13.5%
Sometimes	157	37.0%	108	39.3%
Always	234	55.2%	127	46.2%

Annex Figure 4-1-4 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q4, QCT



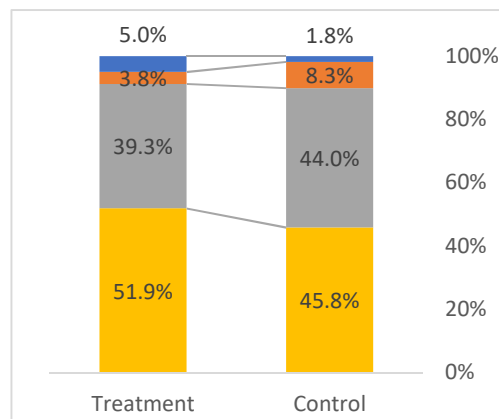
Annex Table 4-1-4 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q4, QGP

	Treatment		Control	
Never	17	5.0%	5	1.8%
Rarely	13	3.8%	23	8.3%
Sometimes	134	39.3%	122	44.0%
Always	177	51.9%	127	45.8%

Annex Figure 4-1-4 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q4, QGP



I/The pupil/My child can complete task even with sudden schedule changes (Q5)

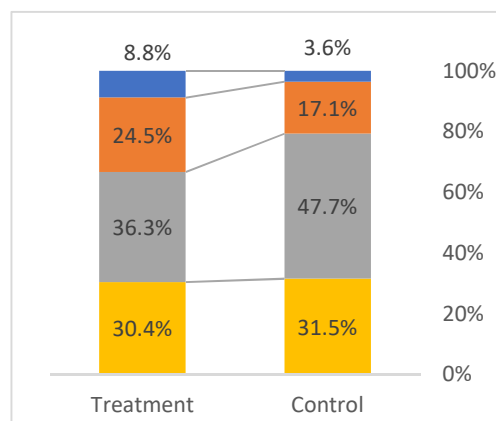
Annex Table 4-1-5 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q5, QFF

	Treatment		Control	
Never	18	8.8%	4	3.6%
Rarely	50	24.5%	19	17.1%
Sometimes	74	36.3%	53	47.7%
Always	62	30.4%	35	31.5%

Annex Figure 4-1-5 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q5, QFF



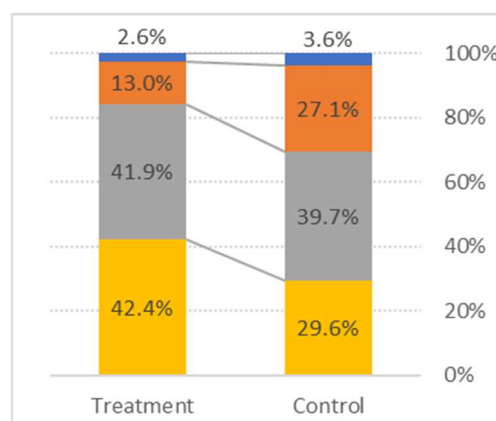
Annex Table 4-1-5 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q5, QCT

	Treatment		Control	
Never	11	2.6%	10	3.6%
Rarely	55	13.0%	75	27.1%
Sometimes	177	41.9%	110	39.7%
Always	179	42.4%	82	29.6%

Annex Figure 4-1-5 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q5, QCT



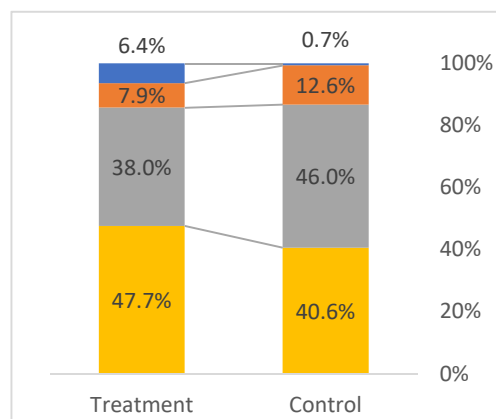
Annex Table 4-1-5 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q5, QGP

	Treatment		Control	
Never	22	6.4%	2	0.7%
Rarely	27	7.9%	35	12.6%
Sometimes	130	38.0%	128	46.0%
Always	163	47.7%	113	40.6%

Annex Figure 4-1-5 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q5, QGP



I/The pupil/My child am/is able to participate in other activities apart from study (Q6)

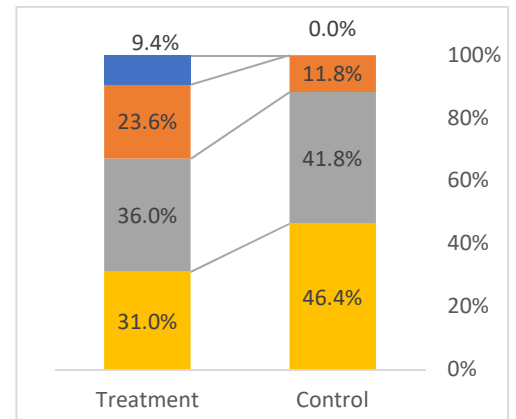
Annex Table 4-1-6 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q6, QFF

	Treatment		Control	
Never	19	9.4%	0	0.0%
Rarely	48	23.6%	13	11.8%
Sometimes	73	36.0%	46	41.8%
Always	63	31.0%	51	46.4%

Annex Figure 4-1-6 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q6, QFF



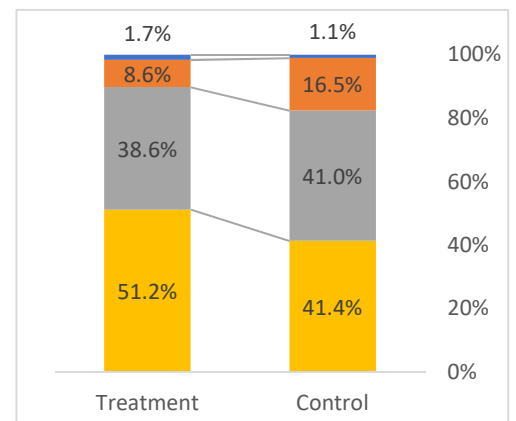
Annex Table 4-1-6 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q6, QCT

	Treatment		Control	
Never	7	1.7%	3	1.1%
Rarely	36	8.6%	46	16.5%
Sometimes	162	38.6%	114	41.0%
Always	215	51.2%	115	41.4%

Annex Figure 4-1-6 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q6, QCT



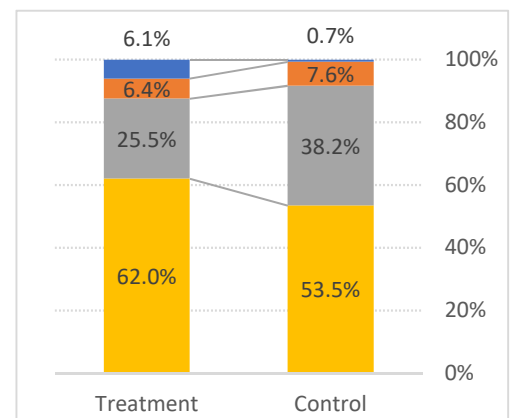
Annex Table 4-1-6 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q6, QGP

	Treatment		Control	
Never	21	6.1%	2	0.7%
Rarely	22	6.4%	21	7.6%
Sometimes	88	25.5%	105	38.2%
Always	214	62.0%	147	53.5%

Annex Figure 4-1-6 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q6, QGP

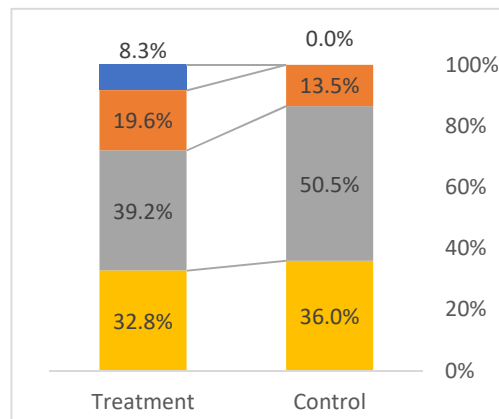


I/The pupil/My child work together with people of different opinions (Q7)

Annex Table 4-1-7 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q7, QFF

	Treatment		Control	
Never	17	8.3%	0	0.0%
Rarely	40	19.6%	15	13.5%
Sometimes	80	39.2%	56	50.5%
Always	67	32.8%	40	36.0%

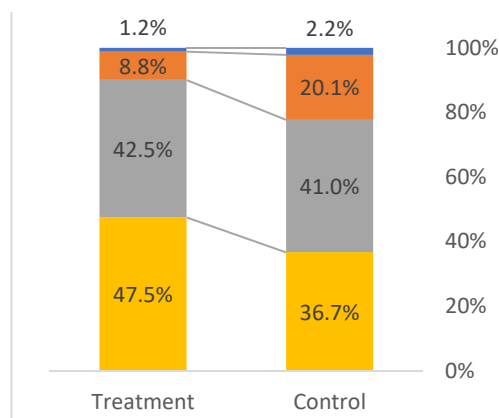
Annex Figure 4-1-7 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q7, QFF



Annex Table 4-1-7 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q7, QCT

	Treatment		Control	
Never	5	1.2%	6	2.2%
Rarely	37	8.8%	56	20.1%
Sometimes	179	42.5%	114	41.0%
Always	200	47.5%	102	36.7%

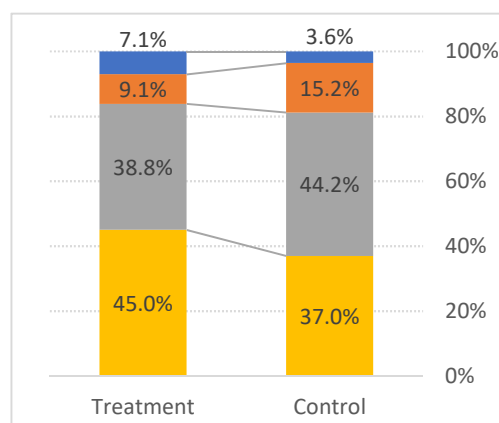
Annex Figure 4-1-7 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q7, QCT



Annex Table 4-1-7 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q7, QGP

	Treatment		Control	
Never	24	7.1%	10	3.6%
Rarely	31	9.1%	42	15.2%
Sometimes	132	38.8%	122	44.2%
Always	153	45.0%	102	37.0%

Annex Figure 4-1-7 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q7, QGP



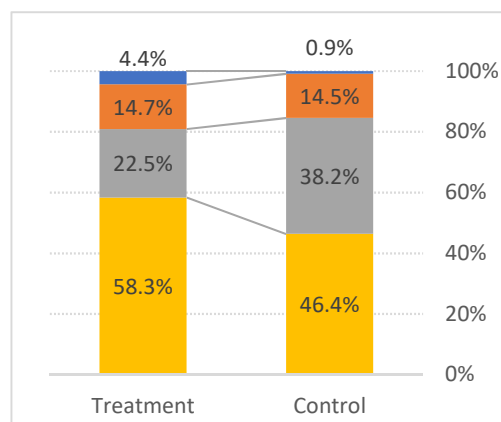
I/The pupil/My child discuss with group members in an activity (Q8)

Annex Table 4-1-8 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q8, QFF

	Treatment		Control	
Never	9	4.4%	1	0.9%
Rarely	30	14.7%	16	14.5%
Sometimes	46	22.5%	42	38.2%
Always	119	58.3%	51	46.4%

Annex Figure 4-1-8 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q8, QFF

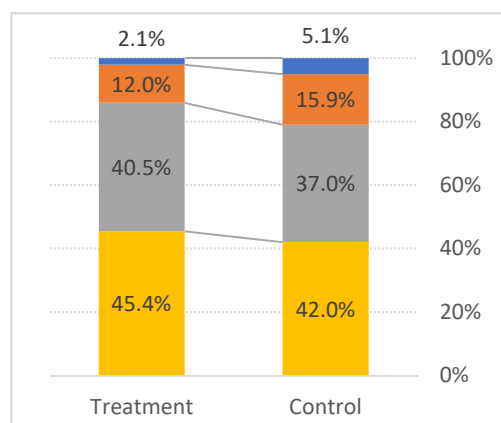


Annex Table 4-1-8 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q8, QCT

	Treatment		Control	
Never	9	2.1%	14	5.1%
Rarely	51	12.0%	44	15.9%
Sometimes	172	40.5%	102	37.0%
Always	193	45.4%	116	42.0%

Annex Figure 4-1-8 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q8, QCT

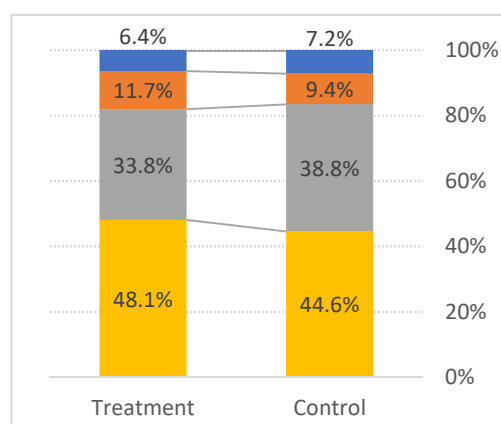


Annex Table 4-1-8 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q8, QGP

	Treatment		Control	
Never	22	6.4%	20	7.2%
Rarely	40	11.7%	26	9.4%
Sometimes	116	33.8%	108	38.8%
Always	165	48.1%	124	44.6%

Annex Figure 4-1-8 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q8, QGP



I/The pupil/My child contributes my/his/her ideas in a group discussion (Q9)

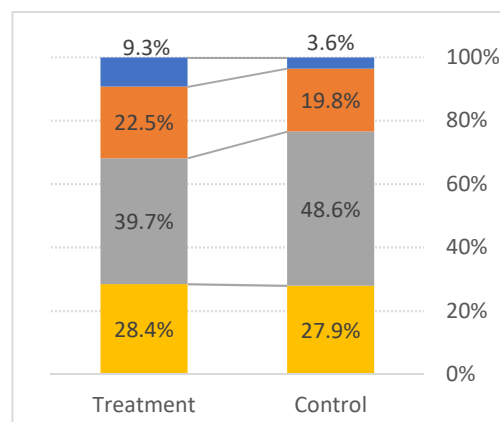
Annex Table 4-1-9 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q9, QFF

	Treatment		Control	
Never	19	9.3%	4	3.6%
Rarely	46	22.5%	22	19.8%
Sometimes	81	39.7%	54	48.6%
Always	58	28.4%	31	27.9%

Annex Figure 4-1-9 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q9, QFF



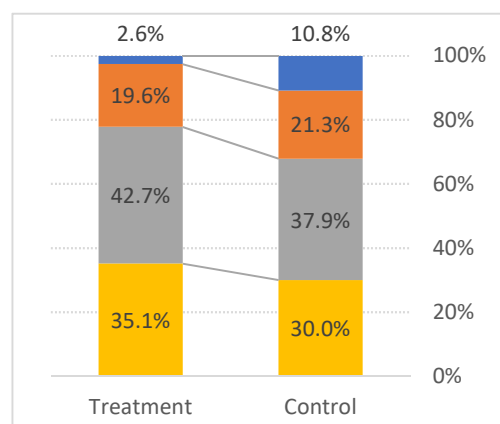
Annex Table 4-1-9 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q9, QCT

	Treatment		Control	
Never	11	2.6%	30	10.8%
Rarely	83	19.6%	59	21.3%
Sometimes	181	42.7%	105	37.9%
Always	149	35.1%	83	30.0%

Annex Figure 4-1-9 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q9, QCT



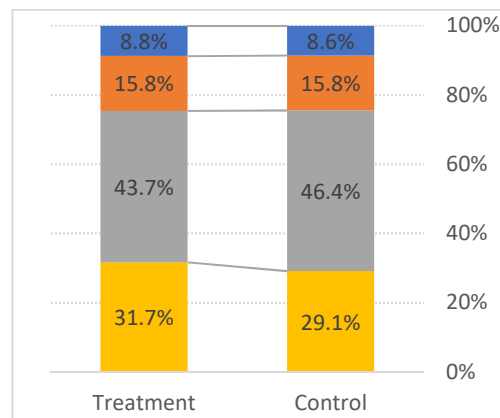
Annex Table 4-1-9 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q9, QGP

	Treatment		Control	
Never	30	8.8%	24	8.6%
Rarely	54	15.8%	44	15.8%
Sometimes	149	43.7%	129	46.4%
Always	108	31.7%	81	29.1%

Annex Figure 4-1-9 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q9, QGP

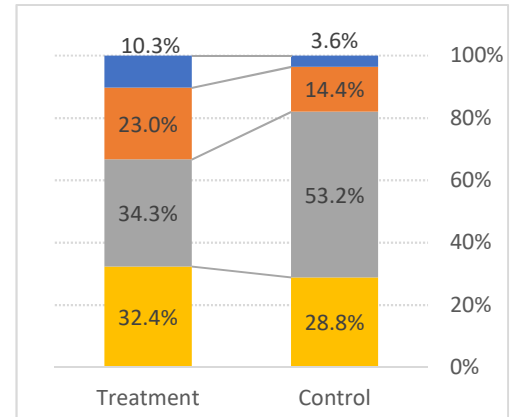


I/The pupil/My child greets a new person and get to know him/her better (Q10)

Annex Table 4-1-10 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q10, QFF

	Treatment		Control	
Never	21	10.3%	4	3.6%
Rarely	47	23.0%	16	14.4%
Sometimes	70	34.3%	59	53.2%
Always	66	32.4%	32	28.8%

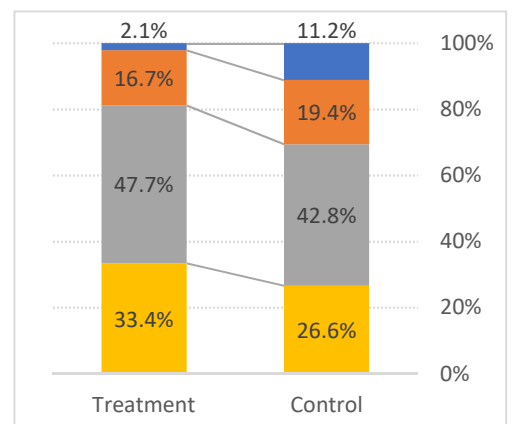
Annex Figure 4-1-10 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q10, QFF



Annex Table 4-1-10 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q10, QCT

	Treatment		Control	
Never	9	2.1%	31	11.2%
Rarely	70	16.7%	54	19.4%
Sometimes	200	47.7%	119	42.8%
Always	140	33.4%	74	26.6%

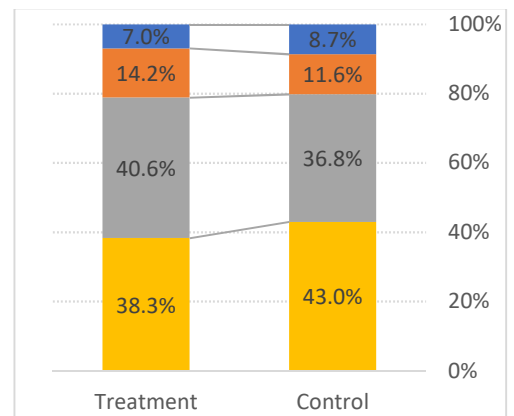
Annex Figure 4-1-10 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q10, QCT



Annex Table 4-1-10 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q10, QGP

	Treatment		Control	
Never	24	7.0%	24	8.7%
Rarely	49	14.2%	32	11.6%
Sometimes	140	40.6%	102	36.8%
Always	132	38.3%	119	43.0%

Annex Figure 4-1-10 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q10, QGP



I/The pupil/My child am/is willing to take new challenges (Q11)

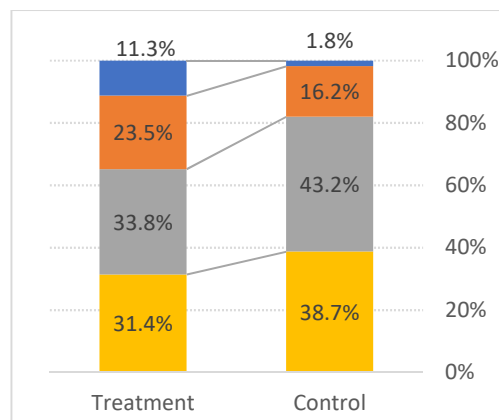
Annex Table 4-1-11 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q11, QFF

	Treatment		Control	
Never	23	11.3%	2	1.8%
Rarely	48	23.5%	18	16.2%
Sometimes	69	33.8%	48	43.2%
Always	64	31.4%	43	38.7%

Annex Figure 4-1-11 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q11, QFF



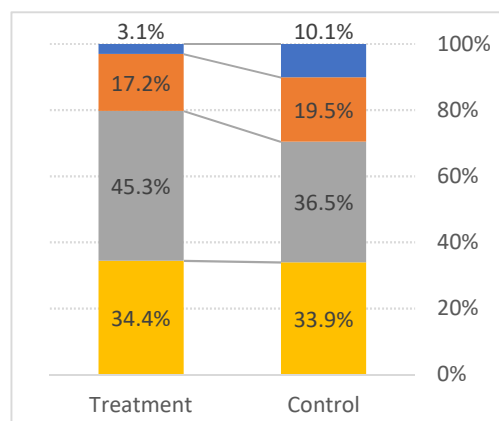
Annex Table 4-1-11 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q11, QCT

	Treatment		Control	
Never	13	3.1%	28	10.1%
Rarely	73	17.2%	54	19.5%
Sometimes	192	45.3%	101	36.5%
Always	146	34.4%	94	33.9%

Annex Figure 4-1-11 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q11, QCT



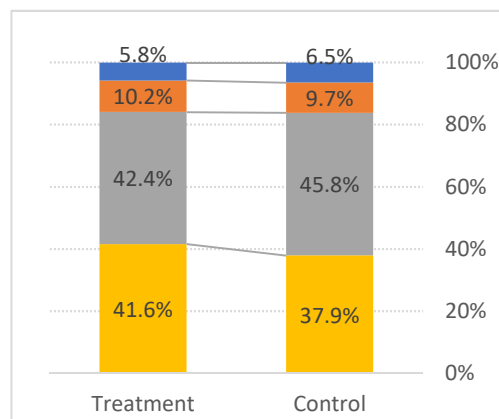
Annex Table 4-1-11 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q11, QGP

	Treatment		Control	
Never	20	5.8%	18	6.5%
Rarely	35	10.2%	27	9.7%
Sometimes	146	42.4%	127	45.8%
Always	143	41.6%	105	37.9%

Annex Figure 4-1-11 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q11, QGP

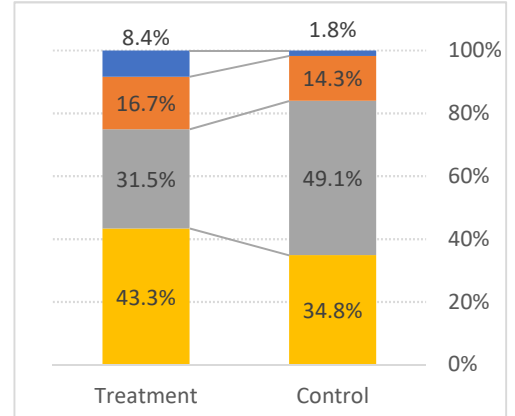


I/The pupil/My child try to complete difficult task without giving up (Q12)

Annex Table 4-1-12 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q12, QFF

	Treatment		Control	
Never	17	8.4%	2	1.8%
Rarely	34	16.7%	16	14.3%
Sometimes	64	31.5%	55	49.1%
Always	88	43.3%	39	34.8%

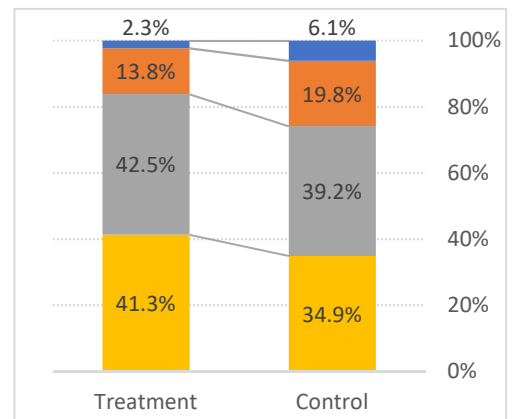
Annex Figure 4-1-12 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q12, QFF



Annex Table 4-1-12 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q12, QCT

	Treatment		Control	
Never	10	2.3%	17	6.1%
Rarely	59	13.8%	55	19.8%
Sometimes	181	42.5%	109	39.2%
Always	176	41.3%	97	34.9%

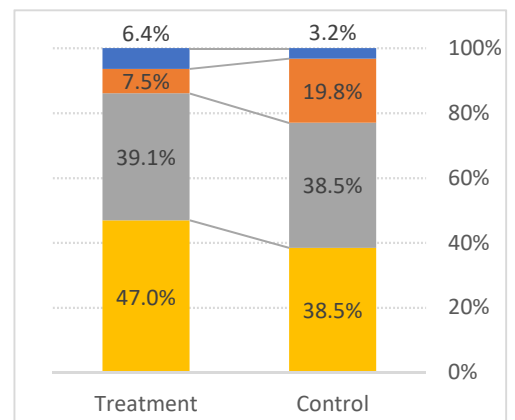
Annex Figure 4-1-12 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q12, QCT



Annex Table 4-1-12 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q12, QGP

	Treatment		Control	
Never	22	6.4%	9	3.2%
Rarely	26	7.5%	55	19.8%
Sometimes	135	39.1%	107	38.5%
Always	162	47.0%	107	38.5%

Annex Figure 4-1-12 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q12, QGP

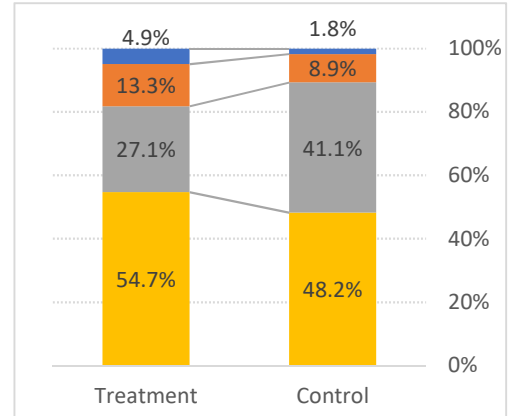


I/The pupil/My child prioritizes important tasks (Q13)

Annex Table 4-1-13 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q13, QFF

	Treatment		Control	
Never	10	4.9%	2	1.8%
Rarely	27	13.3%	10	8.9%
Sometimes	55	27.1%	46	41.1%
Always	111	54.7%	54	48.2%

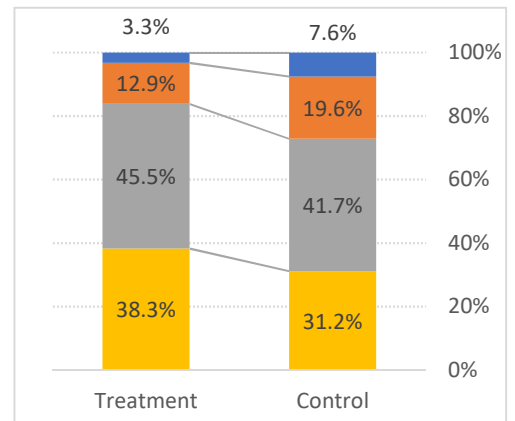
Annex Figure 4-1-13 (i).
 Number and Percentage of Respondents for Q13, QFF



Annex Table 4-1-13 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q13, QCT

	Treatment		Control	
Never	14	3.3%	21	7.6%
Rarely	55	12.9%	54	19.6%
Sometimes	194	45.5%	115	41.7%
Always	163	38.3%	86	31.2%

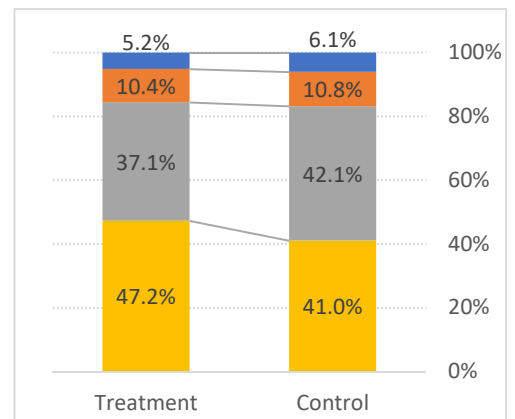
Annex Figure 4-1-13 (ii).
 Number and Percentage of Respondents for Q13, QCT



Annex Table 4-1-13 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q13, QGP

	Treatment		Control	
Never	18	5.2%	17	6.1%
Rarely	36	10.4%	30	10.8%
Sometimes	128	37.1%	117	42.1%
Always	163	47.2%	114	41.0%

Annex Figure 4-1-13 (iii).
 Number and Percentage of Respondents for Q13, QGP

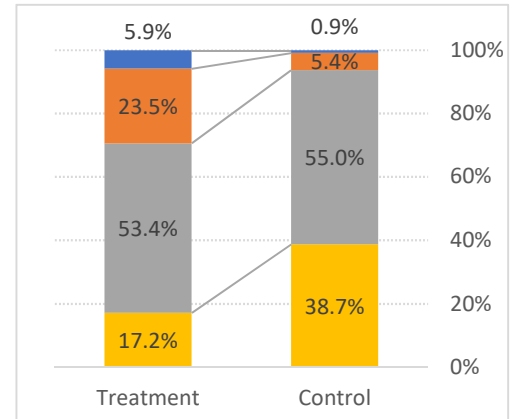


I/The pupil/My child am/is punctual (Q14)

Annex Table 4-1-14 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q14, QFF

	Treatment		Control	
Never	12	5.9%	1	0.9%
Rarely	48	23.5%	6	5.4%
Sometimes	109	53.4%	61	55.0%
Always	35	17.2%	43	38.7%

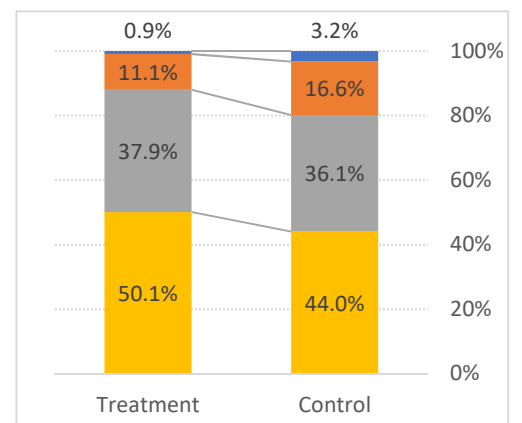
Annex Figure 4-1-14 (i).
 Number and Percentage of Respondents for Q14, QFF



Annex Table 4-1-14 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q14, QCT

	Treatment		Control	
Never	4	0.9%	9	3.2%
Rarely	47	11.1%	46	16.6%
Sometimes	161	37.9%	100	36.1%
Always	213	50.1%	122	44.0%

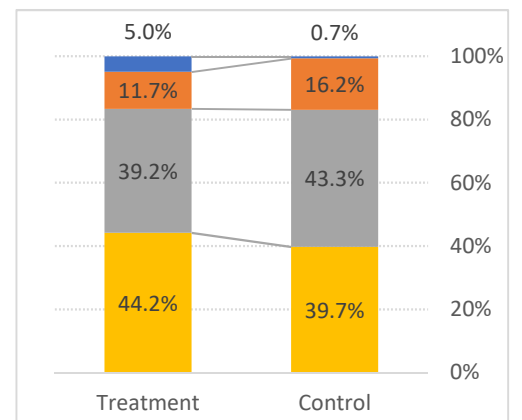
Annex Figure 4-1-14 (ii).
 Number and Percentage of Respondents for Q14, QCT



Annex Table 4-1-14 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q14, QGP

	Treatment		Control	
Never	17	5.0%	2	0.7%
Rarely	40	11.7%	45	16.2%
Sometimes	134	39.2%	120	43.3%
Always	151	44.2%	110	39.7%

Annex Figure 4-1-14 (iii).
 Number and Percentage of Respondents for Q14, QGP

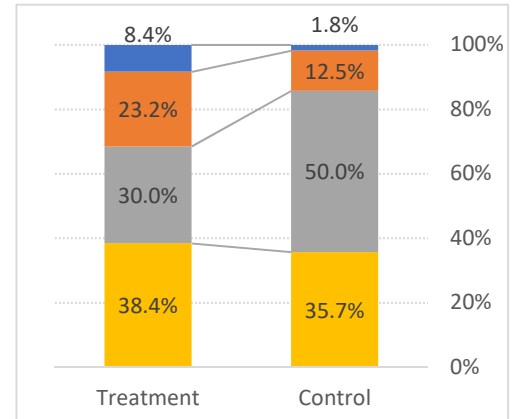


I/The pupil/My child explore new ideas (Q15)

Annex Table 4-1-15 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q15, QFF

	Treatment		Control	
■ Never	17	8.4%	2	1.8%
■ Rarely	47	23.2%	14	12.5%
■ Sometimes	61	30.0%	56	50.0%
■ Always	78	38.4%	40	35.7%

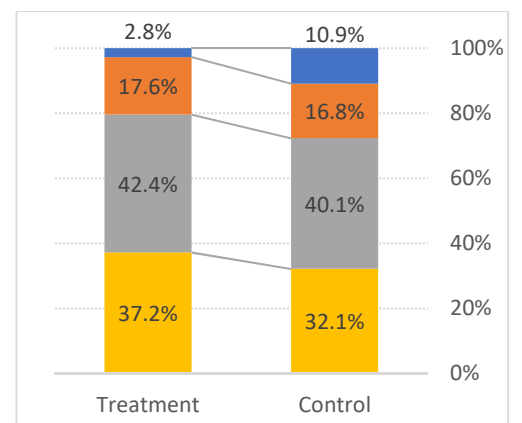
Annex Figure 4-1-15 (i).
 Number and Percentage of Respondents for Q15, QFF



Annex Table 4-1-15 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q15, QCT

	Treatment		Control	
■ Never	12	2.8%	30	10.9%
■ Rarely	75	17.6%	46	16.8%
■ Sometimes	180	42.4%	110	40.1%
■ Always	158	37.2%	88	32.1%

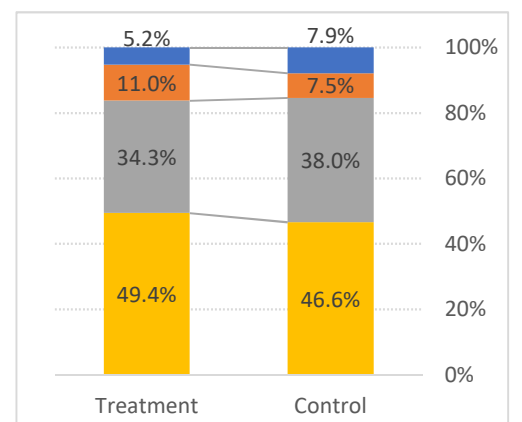
Annex Figure 4-1-15 (ii).
 Number and Percentage of Respondents for Q15, QCT



Annex Table 4-1-15 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q15, QGP

	Treatment		Control	
■ Never	18	5.2%	22	7.9%
■ Rarely	38	11.0%	21	7.5%
■ Sometimes	118	34.3%	106	38.0%
■ Always	170	49.4%	130	46.6%

Annex Figure 4-1-15 (iii).
 Number and Percentage of Respondents for Q15, QGP



I/The pupil/My child improves existing methods when things do not work out (Q16)

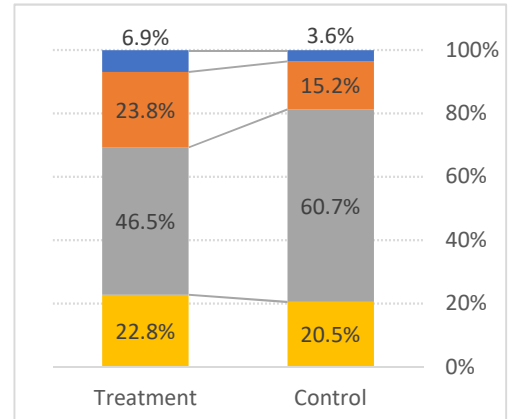
Annex Table 4-1-16 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q16, QFF

	Treatment		Control	
Never	14	6.9%	4	3.6%
Rarely	48	23.8%	17	15.2%
Sometimes	94	46.5%	68	60.7%
Always	46	22.8%	23	20.5%

Annex Figure 4-1-16 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q16, QFF



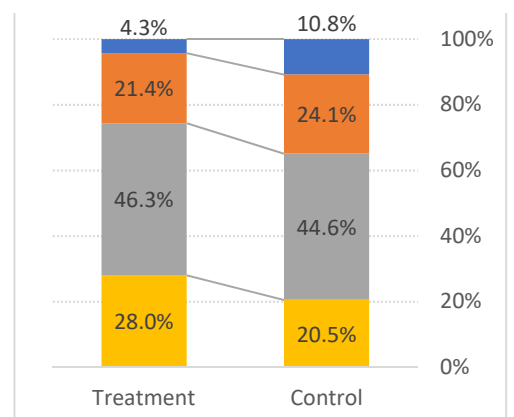
Annex Table 4-1-16 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q16, QCT

	Treatment		Control	
Never	18	4.3%	30	10.8%
Rarely	90	21.4%	67	24.1%
Sometimes	195	46.3%	124	44.6%
Always	118	28.0%	57	20.5%

Annex Figure 4-1-16 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q16, QCT



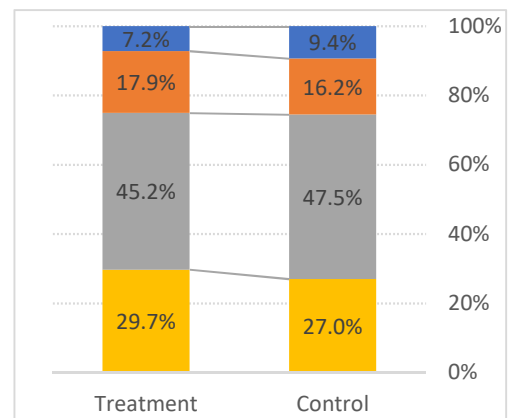
Annex Table 4-1-16 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q16, QGP

	Treatment		Control	
Never	25	7.2%	26	9.4%
Rarely	62	17.9%	45	16.2%
Sometimes	157	45.2%	132	47.5%
Always	103	29.7%	75	27.0%

Annex Figure 4-1-16 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q16, QGP



I/The pupil/My child lead discussion during group activities (Q17)

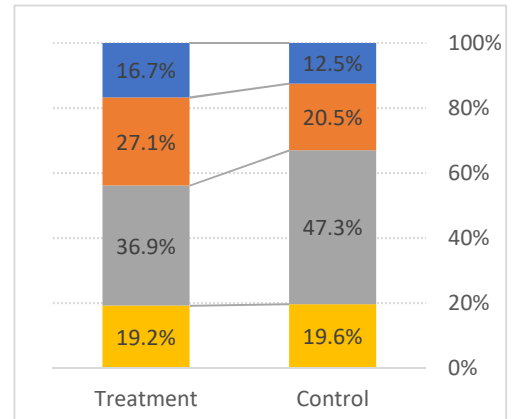
Annex Table 4-1-17 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q17, QFF

	Treatment		Control	
Never	34	16.7%	14	12.5%
Rarely	55	27.1%	23	20.5%
Sometimes	75	36.9%	53	47.3%
Always	39	19.2%	22	19.6%

Annex Figure 4-1-17 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q17, QFF



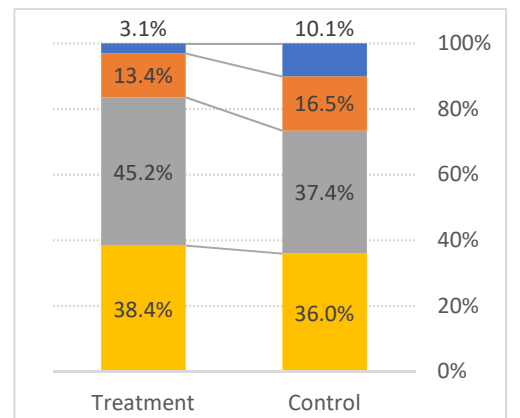
Annex Table 4-1-17 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q17, QCT

	Treatment		Control	
Never	13	3.1%	28	10.1%
Rarely	57	13.4%	46	16.5%
Sometimes	192	45.2%	104	37.4%
Always	163	38.4%	100	36.0%

Annex Figure 4-1-17 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q17, QCT



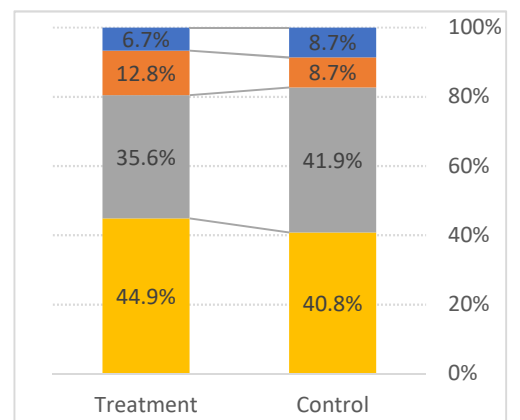
Annex Table 4-1-17 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q17, QGP

	Treatment		Control	
Never	23	6.7%	24	8.7%
Rarely	44	12.8%	24	8.7%
Sometimes	122	35.6%	116	41.9%
Always	154	44.9%	113	40.8%

Annex Figure 4-1-17 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q17, QGP



I/The pupil/My child engages with group members to find solution (Q18)

Annex Table 4-1-18 (i).

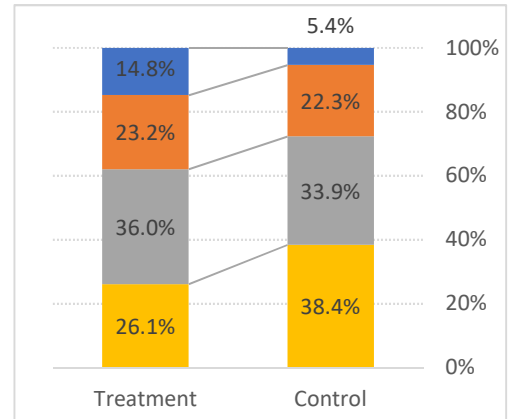
Number and Percentage of Respondents for Q18, QFF

	Treatment		Control	
Never	30	14.8%	6	5.4%
Rarely	47	23.2%	25	22.3%
Sometimes	73	36.0%	38	33.9%
Always	53	26.1%	43	38.4%

- Never
- Rarely
- Sometimes
- Always

Annex Figure 4-1-18 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q18, QFF



Annex Table 4-1-18 (ii).

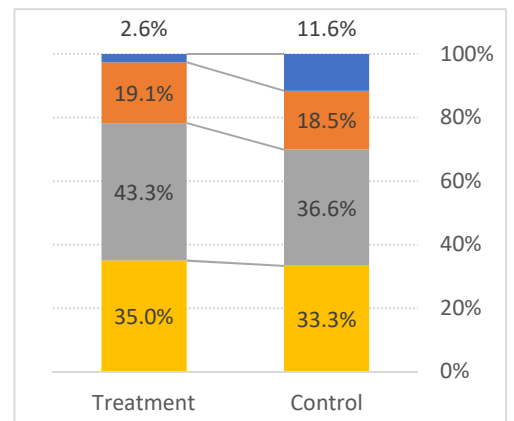
Number and Percentage of Respondents for Q18, QCT

	Treatment		Control	
Never	11	2.6%	32	11.6%
Rarely	81	19.1%	51	18.5%
Sometimes	183	43.3%	101	36.6%
Always	148	35.0%	92	33.3%

- Never
- Rarely
- Sometimes
- Always

Annex Figure 4-1-18 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q18, QCT



Annex Table 4-1-18 (iii).

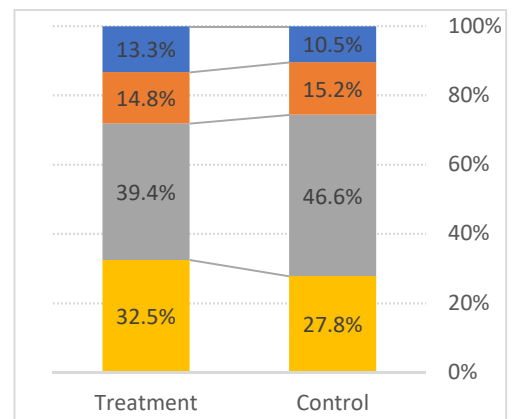
Number and Percentage of Respondents for Q18, QGP

	Treatment		Control	
Never	46	13.3%	29	10.5%
Rarely	51	14.8%	42	15.2%
Sometimes	136	39.4%	129	46.6%
Always	112	32.5%	77	27.8%

- Never
- Rarely
- Sometimes
- Always

Annex Figure 4-1-18 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q18, QGP

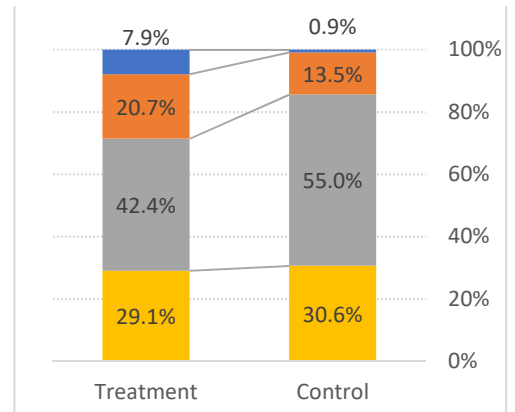


I/The pupil/My child applies previous knowledge or experience to solve a problem (Q19)

Annex Table 4-1-19 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q19, QFF

	Treatment		Control	
Never	16	7.9%	1	0.9%
Rarely	42	20.7%	15	13.5%
Sometimes	86	42.4%	61	55.0%
Always	59	29.1%	34	30.6%

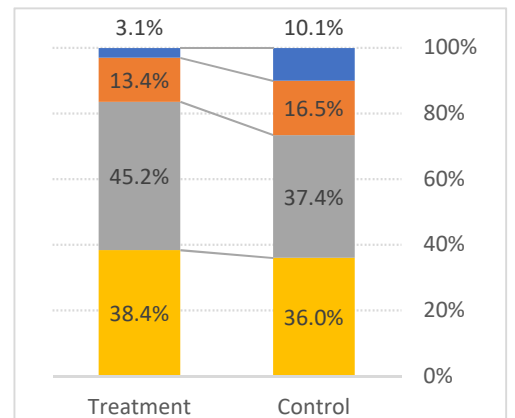
Annex Figure 4-1-19 (i).
 Number and Percentage of Respondents for Q19, QFF



Annex Table 4-1-19 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q19, QCT

	Treatment		Control	
Never	13	3.1%	28	10.1%
Rarely	57	13.4%	46	16.5%
Sometimes	192	45.2%	104	37.4%
Always	163	38.4%	100	36.0%

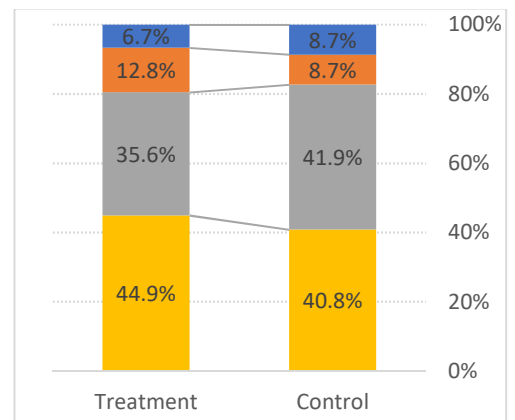
Annex Figure 4-1-19 (ii).
 Number and Percentage of Respondents for Q19, QCT



Annex Table 4-1-19 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q19, QGP

	Treatment		Control	
Never	23	6.7%	24	8.7%
Rarely	44	12.8%	24	8.7%
Sometimes	122	35.6%	116	41.9%
Always	154	44.9%	113	40.8%

Annex Figure 4-1-19 (iii).
 Number and Percentage of Respondents for Q19, QGP



I/The pupil/My child use facts when he/she express his/her opinions to others (Q20)

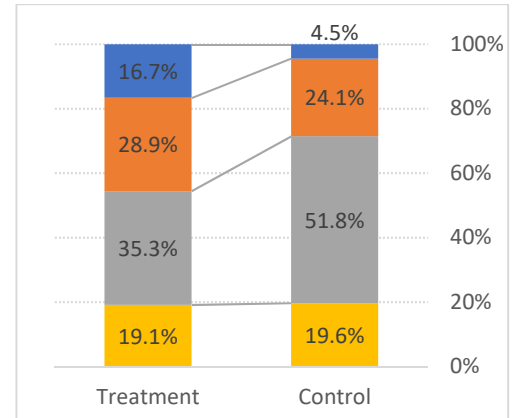
Annex Table 4-1-20 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q20, QFF

	Treatment		Control	
Never	34	16.7%	5	4.5%
Rarely	59	28.9%	27	24.1%
Sometimes	72	35.3%	58	51.8%
Always	39	19.1%	22	19.6%

Annex Figure 4-1-20 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q20, QFF



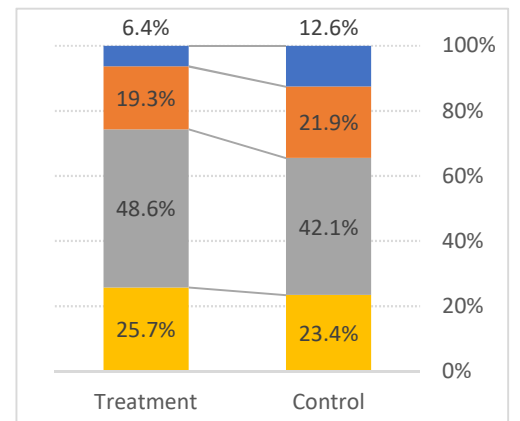
Annex Table 4-1-20 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q20, QCT

	Treatment		Control	
Never	27	6.4%	35	12.6%
Rarely	82	19.3%	61	21.9%
Sometimes	206	48.6%	117	42.1%
Always	109	25.7%	65	23.4%

Annex Figure 4-1-20 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q20, QCT



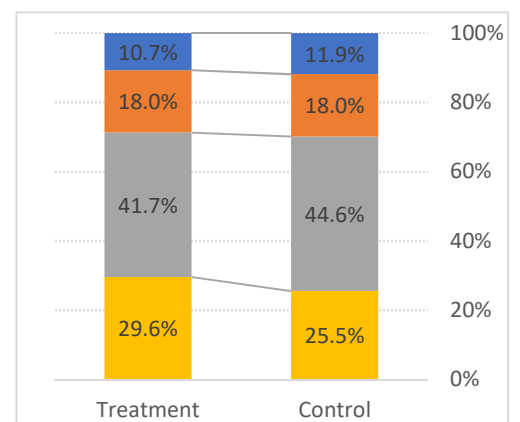
Annex Table 4-1-20 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q20, QGP

	Treatment		Control	
Never	37	10.7%	33	11.9%
Rarely	62	18.0%	50	18.0%
Sometimes	144	41.7%	124	44.6%
Always	102	29.6%	71	25.5%

Annex Figure 4-1-20 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q20, QGP



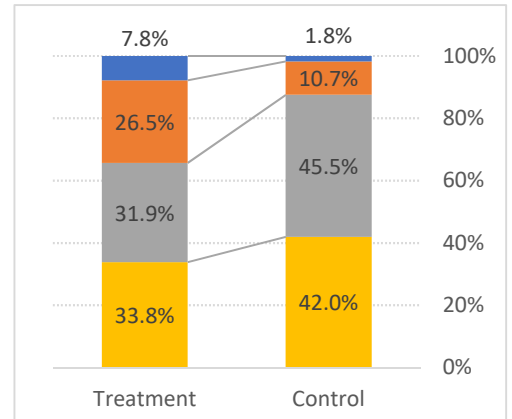
I/The pupil/My child volunteer to do tasks (Q21)

Annex Table 4-1-21 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q21, QFF

	Treatment		Control	
Never	34	16.7%	5	4.5%
Rarely	59	28.9%	27	24.1%
Sometimes	72	35.3%	58	51.8%
Always	39	19.1%	22	19.6%

Annex Figure 4-1-21 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q21, QFF

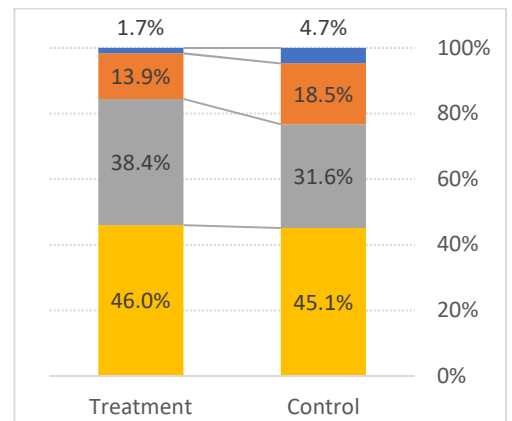


Annex Table 4-1-21 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q21, QCT

	Treatment		Control	
Never	7	1.7%	13	4.7%
Rarely	59	13.9%	51	18.5%
Sometimes	163	38.4%	87	31.6%
Always	195	46.0%	124	45.1%

Annex Figure 4-1-21 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q21, QCT

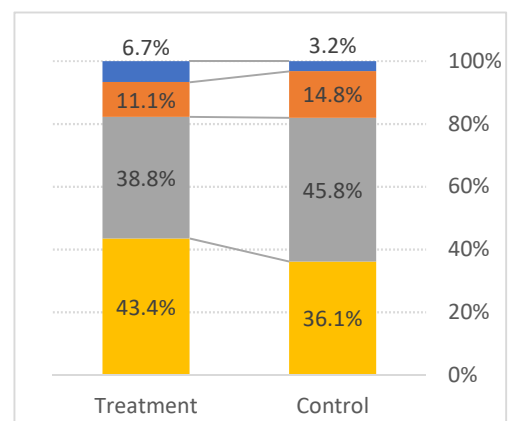


Annex Table 4-1-21 (iii).

Number and Percentage of Respondents for Q21, QGP

	Treatment		Control	
Never	23	6.7%	9	3.2%
Rarely	38	11.1%	41	14.8%
Sometimes	133	38.8%	127	45.8%
Always	149	43.4%	100	36.1%

Annex Figure 4-1-21 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q21, QGP

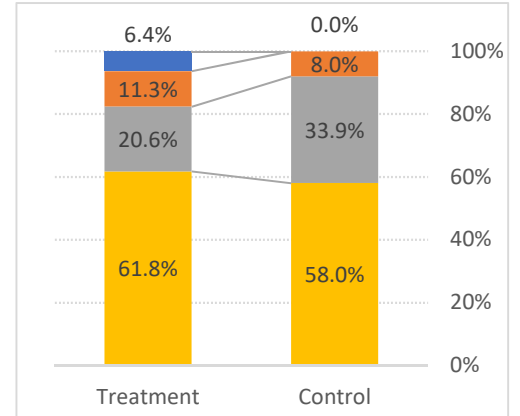


I/The pupil/My child am/is motivated in completing tasks that he/she like (Q22)

Annex Table 4-1-22 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q22, QFF

	Treatment		Control	
Never	13	6.4%	0	0.0%
Rarely	23	11.3%	9	8.0%
Sometimes	42	20.6%	38	33.9%
Always	126	61.8%	65	58.0%

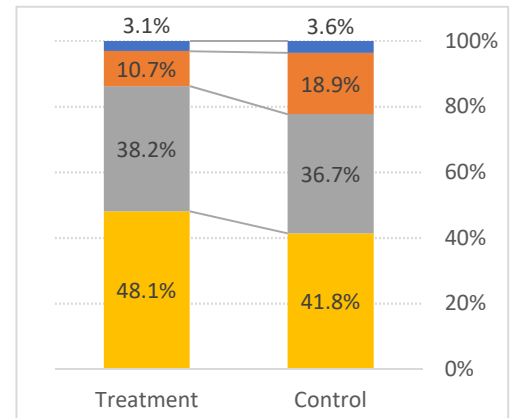
Annex Figure 4-1-22 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q22, QFF



Annex Table 4-1-22 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q22, QCT

	Treatment		Control	
Never	13	3.1%	10	3.6%
Rarely	45	10.7%	52	18.9%
Sometimes	161	38.2%	101	36.7%
Always	203	48.1%	115	41.8%

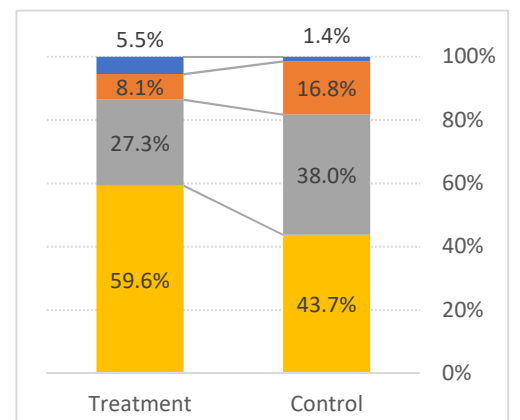
Annex Figure 4-1-22 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q22, QCT



Annex Table 4-1-22 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q22, QGP

	Treatment		Control	
Never	19	5.5%	4	1.4%
Rarely	28	8.1%	47	16.8%
Sometimes	94	27.3%	106	38.0%
Always	205	59.6%	122	43.7%

Annex Figure 4-1-22 (iii).
Number and Percentage of Respondents for Q22, QGP



1.2. Details of the responses for Guardians' Evaluation

I feel the same way when my child is crying or happy (Q30 in QGP, Q8 in QPS)

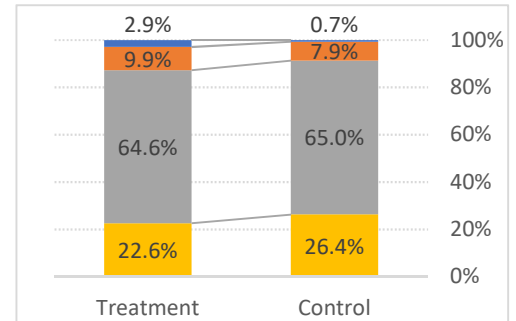
Annex Table 4-2-30 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q30, QGP

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	10	2.9%	2	0.7%
Disagree	34	9.9%	22	7.9%
Agree	223	64.6%	180	65.0%
Strongly Agree	78	22.6%	73	26.4%

Annex Figure 4-2-30 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q30, QGP



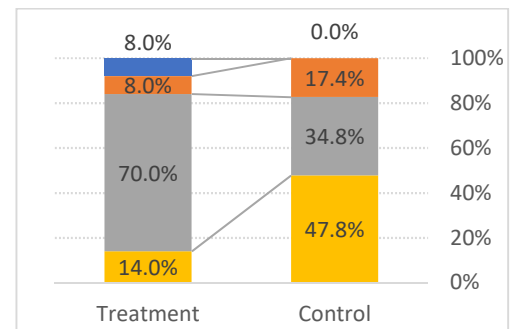
Annex Table 4-2-8 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q8, QPS

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	4	8.0%	0	0.0%
Disagree	4	8.0%	4	17.4%
Agree	35	70.0%	8	34.8%
Strongly Agree	7	14.0%	11	47.8%

Annex Figure 4-2-8 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q8, QPS



I spend time to play with my child (Q31 in QGP, Q9 in QPS)

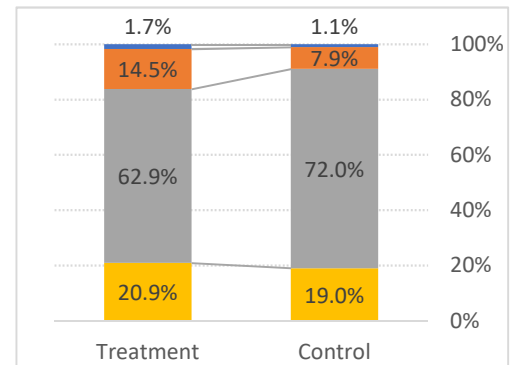
Annex Table 4-2-31 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q31, QGP

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	6	1.7%	3	1.1%
Disagree	50	14.5%	22	7.9%
Agree	217	62.9%	201	72.0%
Strongly Agree	72	20.9%	53	19.0%

Annex Figure 4-2-31 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q31, QGP



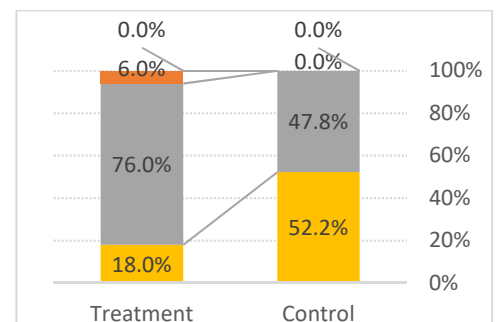
Annex Table 4-2-9 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q9, QPS

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	0	0.0%	0	0.0%
Disagree	3	6.0%	0	0.0%
Agree	38	76.0%	11	47.8%
Strongly Agree	9	18.0%	12	52.2%

Annex Figure 4-2-9 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q9, QPS



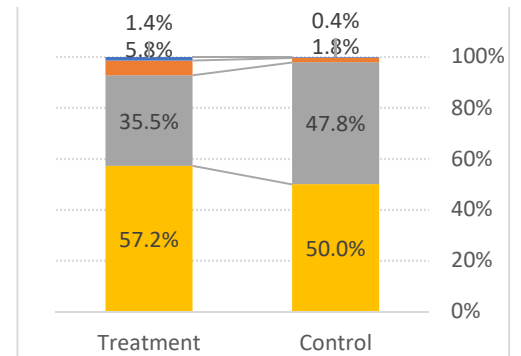
If my child does something wrong, I will forgive him/her without getting angry (Q32 in QGP, Q10 in QPS)

Annex Table 4-2-32 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q32, QGP

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	5	1.4%	1	0.4%
Disagree	20	5.8%	5	1.8%
Agree	123	35.5%	133	47.8%
Strongly Agree	198	57.2%	139	50.0%

Annex Figure 4-2-32 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q32, QGP

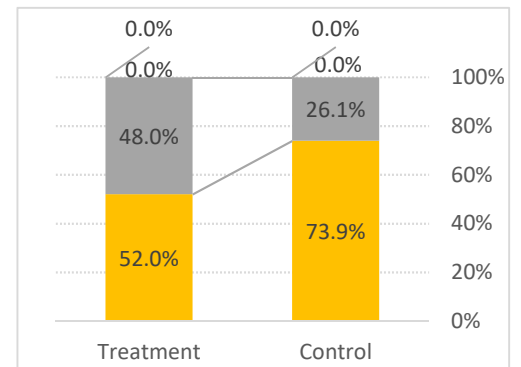


Annex Table 4-2-10 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q10, QPS

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	0	0.0%	0	0.0%
Disagree	0	0.0%	0	0.0%
Agree	24	48.0%	6	26.1%
Strongly Agree	26	52.0%	17	73.9%

Annex Figure 4-2-10 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q10, QPS



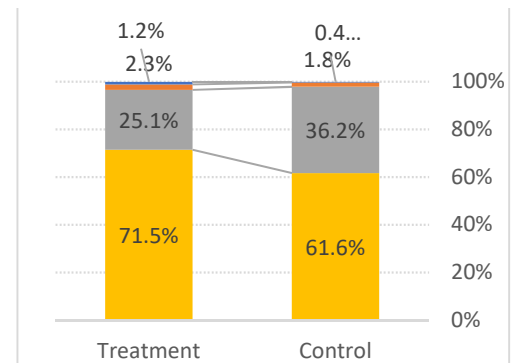
If my child breaks a rule, I will tell him/her to follow the rules next time (Q33 in QGP, Q11 in QPS)

Annex Table 4-2-33 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q33, QGP

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	4	1.2%	1	0.4%
Disagree	8	2.3%	5	1.8%
Agree	87	25.1%	101	36.2%
Strongly Agree	248	71.5%	172	61.6%

Annex Figure 4-2-33 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q33, QGP

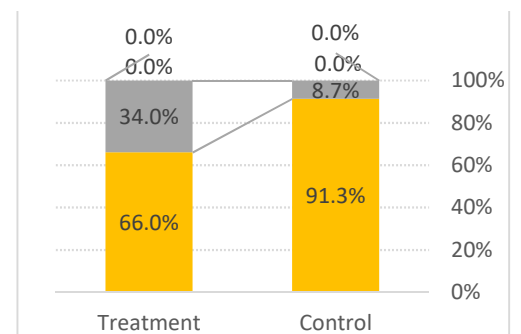


Annex Table 4-2-11 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q11, QPS

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	0	0.0%	0	0.0%
Disagree	0	0.0%	0	0.0%
Agree	17	34.0%	2	8.7%
Strongly Agree	33	66.0%	21	91.3%

Annex Figure 4-2-11 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q11, QPS



I sometimes scold my child even for small matter (Q34 in QGP, Q12 in QPS)

Annex Table 4-2-34 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q34, QGP

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	34	9.8%	19	6.8%
Disagree	111	32.1%	98	35.3%
Agree	162	46.8%	130	46.8%
Strongly Agree	39	11.3%	31	11.2%

Annex Table 4-2-12 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q12, QPS

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	5	10.0%	10	43.5%
Disagree	28	56.0%	5	21.7%
Agree	14	28.0%	8	34.8%
Strongly Agree	3	6.0%	0	0.0%

I respect what my child wants to do (Q35 in QGP, Q13 in QPS)

Annex Table 4-2-35 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q35, QGP

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	21	6.1%	7	2.5%
Disagree	85	24.5%	56	20.1%
Agree	134	38.6%	140	50.4%
Strongly Agree	107	30.8%	75	27.0%

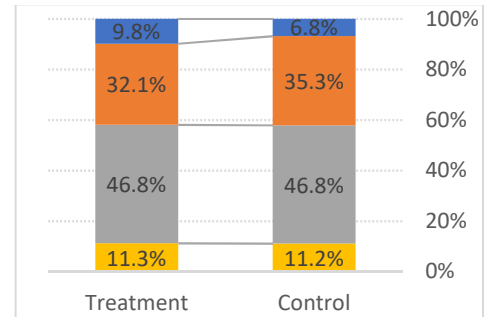
Annex Table 4-2-13 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q13, QPS

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	3	6.0%	3	13.0%
Disagree	17	34.0%	3	13.0%
Agree	24	48.0%	7	30.4%
Strongly Agree	6	12.0%	10	43.5%

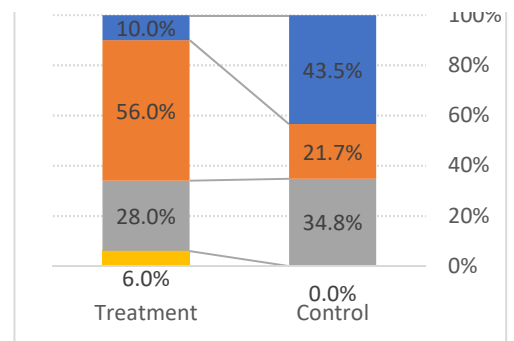
Annex Figure 4-2-34 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q34, QGP



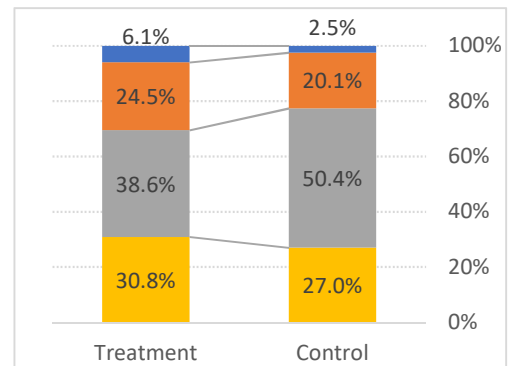
Annex Figure 4-2-12 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q12, QPS



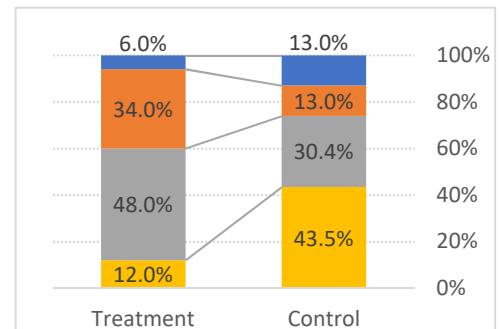
Annex Figure 4-2-35 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q35, QGP



Annex Figure 4-2-13 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q13, QPS



I praise my child's effort (Q36 in QGP, Q14 in QPS)

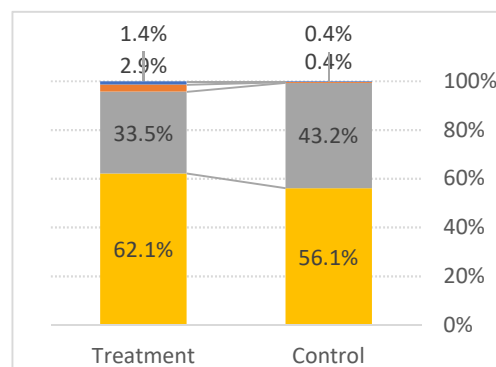
Annex Table 4-2-36 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q36, QGP

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	5	1.4%	1	0.4%
Disagree	10	2.9%	1	0.4%
Agree	116	33.5%	120	43.2%
Strongly Agree	215	62.1%	156	56.1%

Annex Figure 4-2-36 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q36, QGP



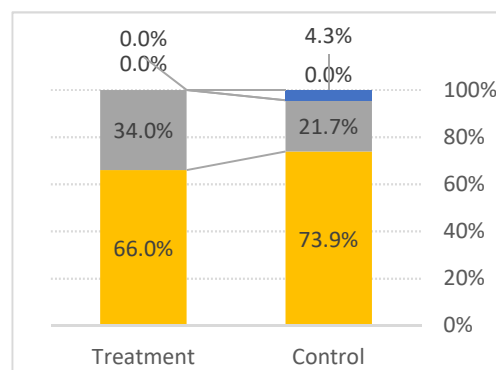
Annex Table 4-2-14 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q14, QPS

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	0	0.0%	1	4.3%
Disagree	0	0.0%	0	0.0%
Agree	17	34.0%	5	21.7%
Strongly Agree	33	66.0%	17	73.9%

Annex Figure 4-2-14 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q14, QPS



I give answers to my child's questions (Q37 in QGP, Q15 in QPS)

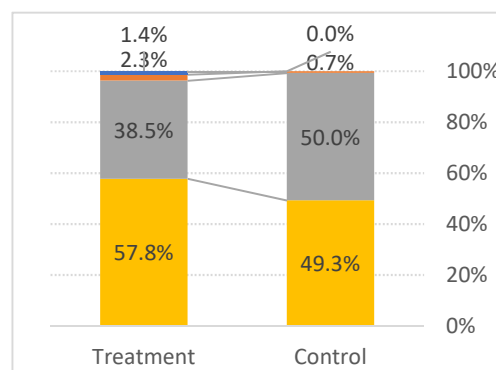
Annex Table 4-2-37 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q37, QGP

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	5	1.4%	0	0.0%
Disagree	8	2.3%	2	0.7%
Agree	134	38.5%	139	50.0%
Strongly Agree	201	57.8%	137	49.3%

Annex Figure 4-2-37 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q37, QGP



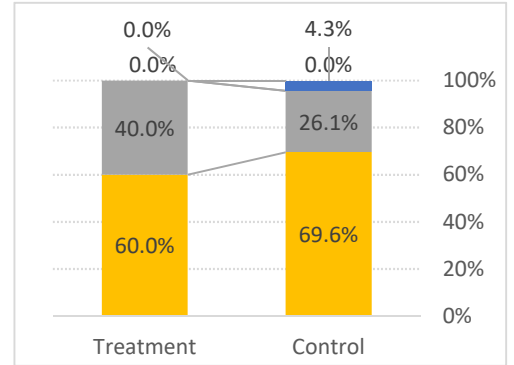
Annex Table 4-2-15 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q15, QPS

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	0	0.0%	1	4.3%
Disagree	0	0.0%	0	0.0%
Agree	20	40.0%	6	26.1%
Strongly Agree	30	60.0%	16	69.6%

Annex Figure 4-2-15 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q15, QPS



After doing activities with my child, we discuss the experience (Q38 in QGP, Q16 in QPS)

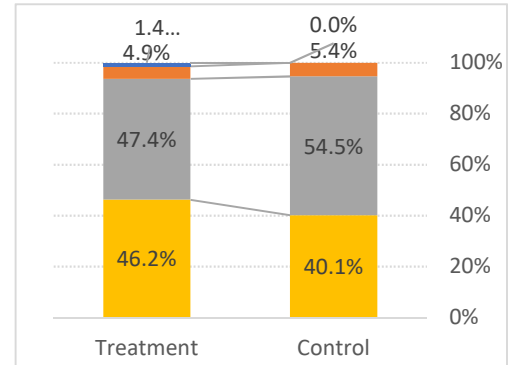
Annex Table 4-2-38 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q38, QGP

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	5	1.4%	0	0.0%
Disagree	17	4.9%	15	5.4%
Agree	164	47.4%	152	54.5%
Strongly Agree	160	46.2%	112	40.1%

Annex Figure 4-2-38 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q38, QGP



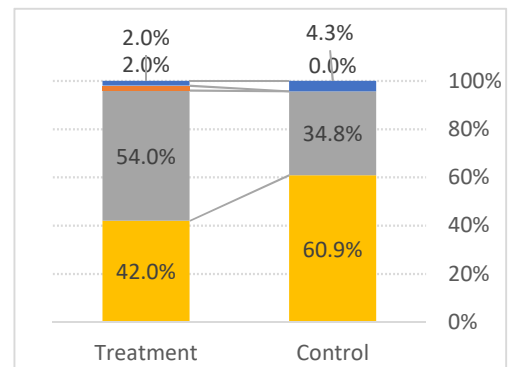
Annex Table 4-2-16 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q16, QPS

	Treatment		Control	
Strongly Disagree	1	2.0%	1	4.3%
Disagree	1	2.0%	0	0.0%
Agree	27	54.0%	8	34.8%
Strongly Agree	21	42.0%	14	60.9%

Annex Figure 4-2-16 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q16, QPS



1.3. Details of the responses for Pupils' Time Management

Playing outdoors (Q23 in QGP, Q1 in QPS)

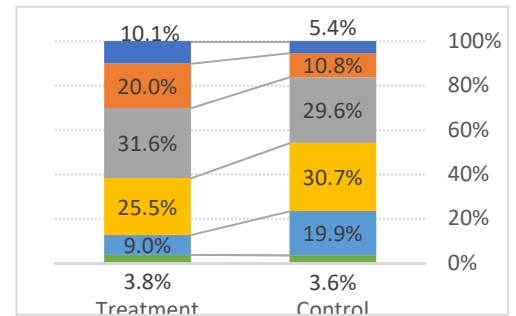
Annex Table 4-3-23 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q23, QGP

	None	Less than 30 min	31 min - 1 hour	1 hour - 2 hours	2 hours - 3 hours	More than 3 hours
	35	69	109	88	31	13
	10.1%	20.0%	31.6%	25.5%	9.0%	3.8%
	15	30	82	85	55	10
	5.4%	10.8%	29.6%	30.7%	19.9%	3.6%

Annex Figure 4-3-23 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q23, QGP



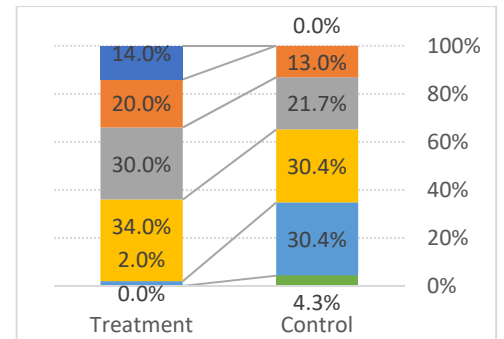
Annex Table 4-3-1 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q1, QPS

	Treatment		Control	
None	7	14.0%	0	0.0%
Less than 30 min	10	20.0%	3	13.0%
31 min - 1 hour	15	30.0%	5	21.7%
1 hour - 2 hours	17	34.0%	7	30.4%
2 hours - 3 hours	1	2.0%	7	30.4%
More than 3 hours	0	0.0%	1	4.3%

Annex Figure 4-3-1 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q1, QPS



Reading books (Q24 in QGP, Q2 in QPS)

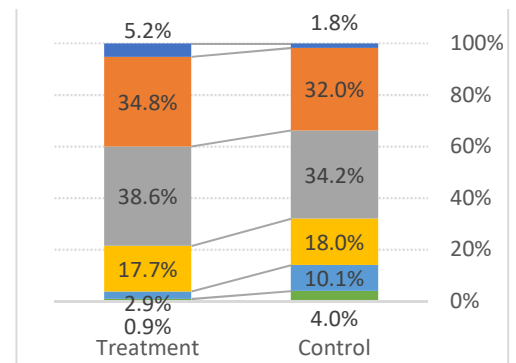
Annex Table 4-3-24 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q24, QGP

	Treatment		Control	
None	18	5.2%	5	1.8%
Less than 30 min	120	34.8%	89	32.0%
31 min - 1 hour	133	38.6%	95	34.2%
1 hour - 2 hours	61	17.7%	50	18.0%
2 hours - 3 hours	10	2.9%	28	10.1%
More than 3 hours	3	0.9%	11	4.0%

Annex Figure 4-3-24 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q24, QGP



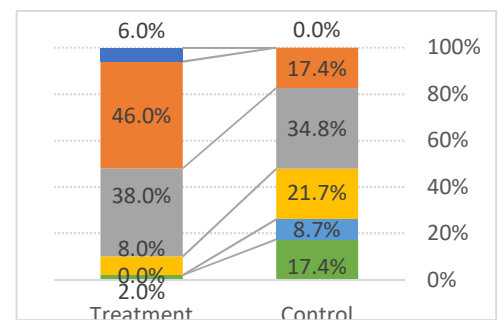
Annex Table 4-3-2 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q2, QPS

	Treatment		Control	
None	3	6.0%	0	0.0%
Less than 30 min	23	46.0%	4	17.4%
31 min - 1 hour	19	38.0%	8	34.8%
1 hour - 2 hours	4	8.0%	5	21.7%
2 hours - 3 hours	0	0.0%	2	8.7%
More than 3 hours	1	2.0%	4	17.4%

Annex Figure 4-3-2 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q2, QPS



Watching Television (Q25 in QGP, Q3 in QPS)

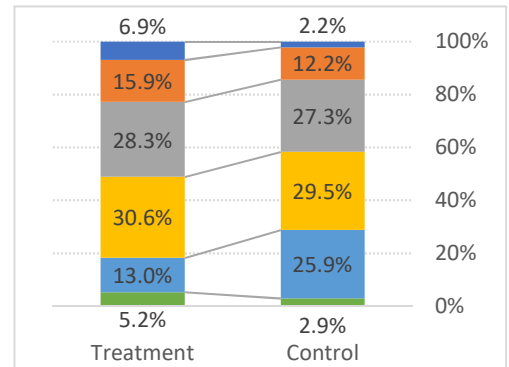
Annex Table 4-3-25 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q25, QGP

	Treatment		Control	
None	24	6.9%	6	2.2%
Less than 30 min	55	15.9%	34	12.2%
31 min - 1 hour	98	28.3%	76	27.3%
1 hour - 2 hours	106	30.6%	82	29.5%
2 hours - 3 hours	45	13.0%	72	25.9%
More than 3 hours	18	5.2%	8	2.9%

Annex Figure 4-3-25 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q25, QGP



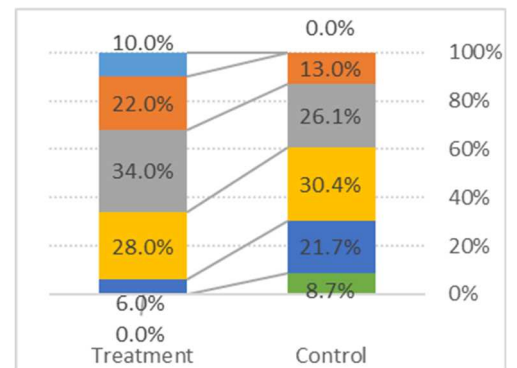
Annex Table 4-3-3 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q3, QPS

	Treatment		Control	
None	5	10.0%	0	0.0%
Less than 30 min	11	22.0%	3	13.0%
31 min - 1 hour	17	34.0%	6	26.1%
1 hour - 2 hours	14	28.0%	7	30.4%
2 hours - 3 hours	3	6.0%	5	21.7%
More than 3 hours	0	0.0%	2	8.7%

Annex Figure 4-3-3 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q3, QPS



Study (Q26 in QGP, Q4 in QPS)

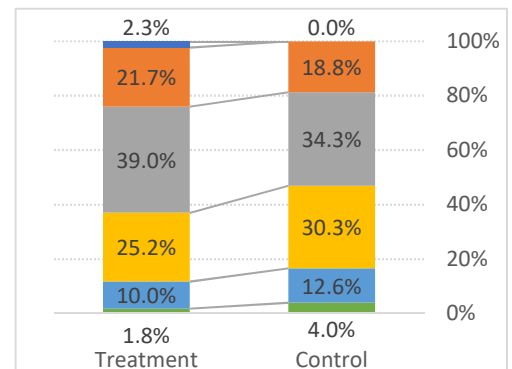
Annex Table 4-3-26 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q26, QGP

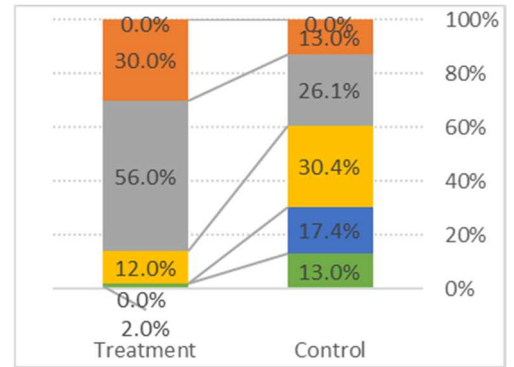
	Treatment		Control	
None	8	2.3%	0	0.0%
Less than 30 min	74	21.7%	52	18.8%
31 min - 1 hour	133	39.0%	95	34.3%
1 hour - 2 hours	86	25.2%	84	30.3%
2 hours - 3 hours	34	10.0%	35	12.6%
More than 3 hours	6	1.8%	11	4.0%

Annex Figure 4-3-26 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q26, QGP



Annex Figure 4-3-4 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q4, QPS



Annex Table 4-3-4 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q4, QPS

	Treatment		Control	
None	0	0.0%	0	0.0%
Less than 30 min	15	30.0%	3	13.0%
31 min - 1 hour	28	56.0%	6	26.1%
1 hour - 2 hours	6	12.0%	7	30.4%
2 hours - 3 hours	0	0.0%	4	17.4%
More than 3 hours	1	2.0%	3	13.0%

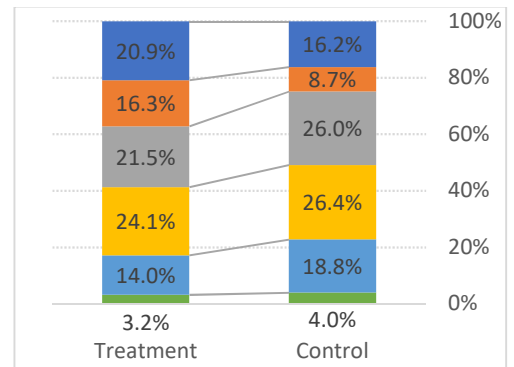
After-school activities (including learning music, sports, etc.) (Q27 in QGP, Q5 in QPS)

Annex Table 4-3-27 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q27, QGP

	Treatment		Control	
None	72	20.9%	45	16.2%
Less than 30 min	56	16.3%	24	8.7%
31 min - 1 hour	74	21.5%	72	26.0%
1 hour - 2 hours	83	24.1%	73	26.4%
2 hours - 3 hours	48	14.0%	52	18.8%
More than 3 hours	11	3.2%	11	4.0%

Annex Figure 4-3-27 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q27, QGP

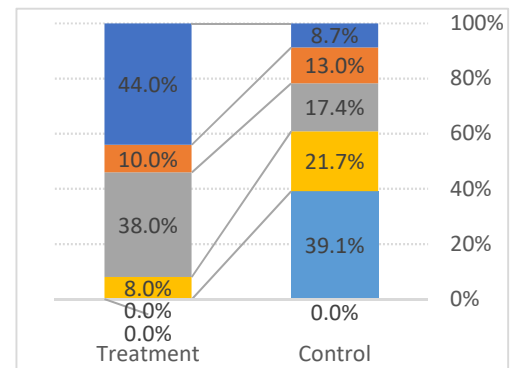


Annex Table 4-3-5 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q5, QPS

	Treatment		Control	
None	22	44.0%	2	8.7%
Less than 30 min	5	10.0%	3	13.0%
31 min - 1 hour	19	38.0%	4	17.4%
1 hour - 2 hours	4	8.0%	5	21.7%
2 hours - 3 hours	0	0.0%	9	39.1%
More than 3 hours	0	0.0%	0	0.0%

Annex Figure 4-3-5 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q5, QPS



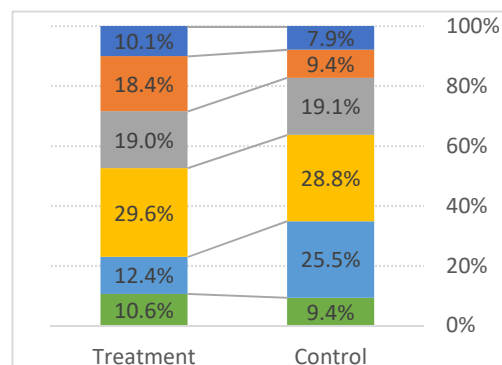
Using smartphones or Annex Tablet devices (Q28 in QGP, Q6 in QPS)

Annex Table 4-3-28 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q28, QGP

	Treatment		Control	
None	35	10.1%	22	7.9%
Less than 30 min	64	18.4%	26	9.4%
31 min - 1 hour	66	19.0%	53	19.1%
1 hour - 2 hours	103	29.6%	80	28.8%
2 hours - 3 hours	43	12.4%	71	25.5%
More than 3 hours	37	10.6%	26	9.4%

Annex Figure 4-3-28 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q28, QGP

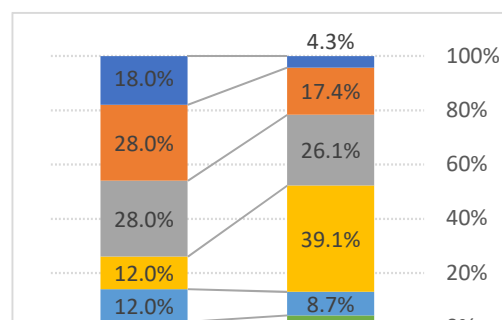


Annex Table 4-3-6 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q6, QPS

	Treatment		Control	
None	9	18.0%	1	4.3%
Less than 30 min	14	28.0%	4	17.4%
31 min - 1 hour	14	28.0%	6	26.1%
1 hour - 2 hours	6	12.0%	9	39.1%
2 hours - 3 hours	6	12.0%	2	8.7%
More than 3 hours	1	2.0%	1	4.3%

Annex Figure 4-3-6 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q6, QPS



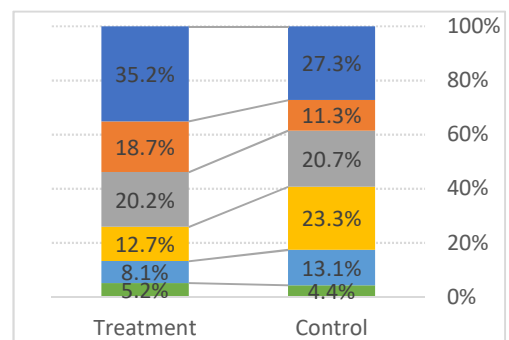
Game consoles (Q29 in QGP, Q7 in QPS)

Annex Table 4-3-29 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q29, QGP

	Treatment		Control	
None	122	35.2%	75	27.3%
Less than 30 min	65	18.7%	31	11.3%
31 min - 1 hour	70	20.2%	57	20.7%
1 hour - 2 hours	44	12.7%	64	23.3%
2 hours - 3 hours	28	8.1%	36	13.1%
More than 3 hours	18	5.2%	12	4.4%

Annex Figure 4-3-29 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q29, QGP

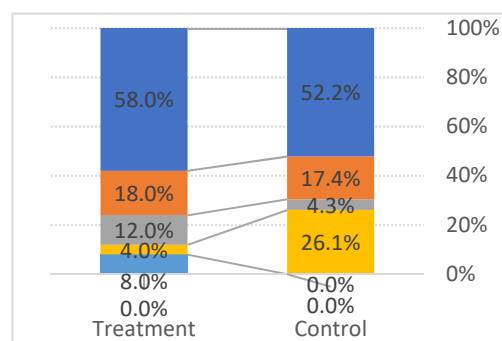


Annex Table 4-3-7 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q7, QPS

	Treatment		Control	
None	29	58.0%	12	52.2%
Less than 30 min	9	18.0%	4	17.4%
31 min - 1 hour	6	12.0%	1	4.3%
1 hour - 2 hours	2	4.0%	6	26.1%
2 hours - 3 hours	4	8.0%	0	0.0%
More than 3 hours	0	0.0%	0	0.0%

Annex Figure 4-3-7 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q7, QPS



1.4. Details of the responses for Guardians and Family Background

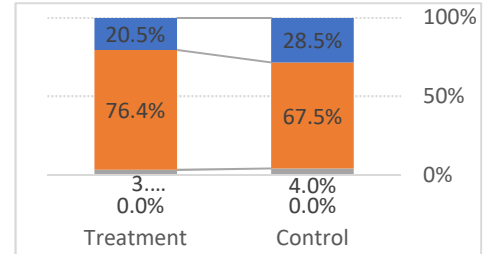
Who answers this questionnaire? (Q39 in QGP, Q17 in QPS)

Annex Table 4-5-39 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q39, QGP

	Father	71	20.5%	78	28.5%
■	Mother	265	76.4%	185	67.5%
■	Grandparents/Relatives	11	3.2%	11	4.0%
■	Others	0	0.0%	0	0.0%

Annex Figure 4-5-39 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q39, QGP

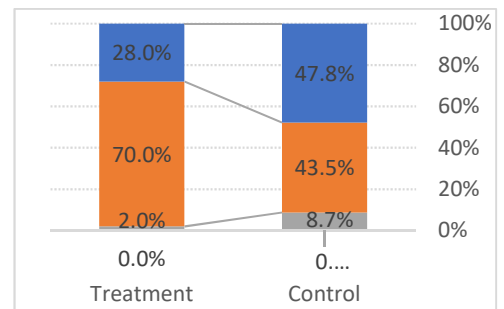


Annex Table 4-5-17 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q17, QPS

	Treatment	Control	
■	Father	14 (28.0%)	11 (47.8%)
■	Mother	35 (70.0%)	10 (43.5%)
■	Grandparents/Relatives	1 (2.0%)	2 (8.7%)
■	Others	0 (0.0%)	0 (0.0%)

Annex Figure 4-5-17 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q17, QPS



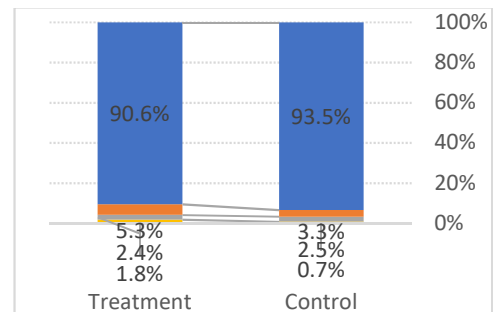
About your spouse/marital status (Q40 in QGP, Q18 in QPS)

Annex Table 4-5-40 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q40, QGP

	Treatment	Control	
■	Married	308 (90.6%)	257 (93.5%)
■	Single parent	18 (5.3%)	9 (3.3%)
■	Divorced	8 (2.4%)	7 (2.5%)
■	Widowed	6 (1.8%)	2 (0.7%)

Annex Figure 4-5-40 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q40, QGP

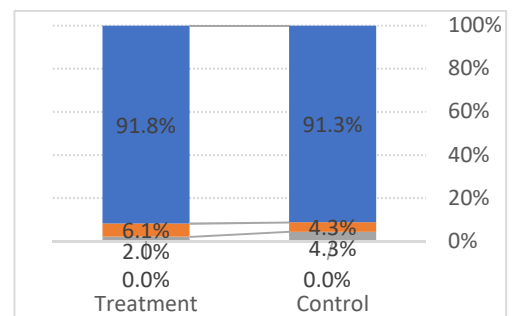


Annex Table 4-5-18 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q18, QPS

	Treatment	Control	
■	Married	45 (91.8%)	21 (91.3%)
■	Single parent	3 (6.1%)	1 (4.3%)
■	Divorced	1 (2.0%)	1 (4.3%)
■	Widowed	0 (0.0%)	0 (0.0%)

Annex Figure 4-5-18 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q18, QPS



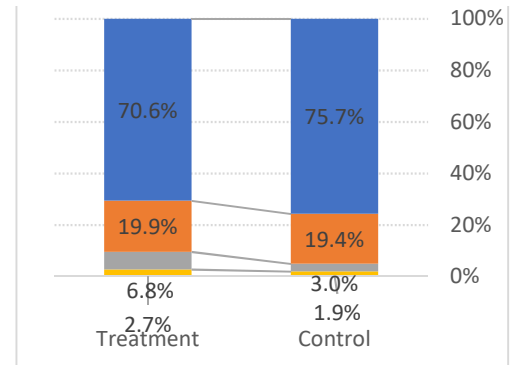
About father's occupation (Q41 in QGP, Q19 in QPS)

Annex Table 4-5-41 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q41, QGP

	Treatment		Control	
Full-Time	238	70.6%	203	75.7%
Part-Time/Day job	67	19.9%	52	19.4%
Unemployed	23	6.8%	8	3.0%
Retiree	9	2.7%	5	1.9%

Annex Figure 4-5-41 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q41, QGP

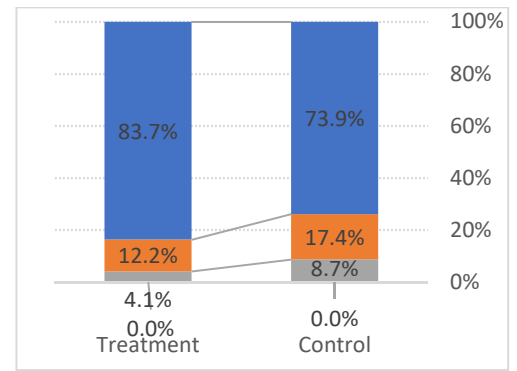


Annex Table 4-5-19 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q19, QPS

	Treatment		Control	
Full-Time	41	83.7%	17	73.9%
Part-Time/Day job	6	12.2%	4	17.4%
Unemployed	2	4.1%	2	8.7%
Retiree	0	0.0%	0	0.0%

Annex Figure 4-5-19 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q19, QPS



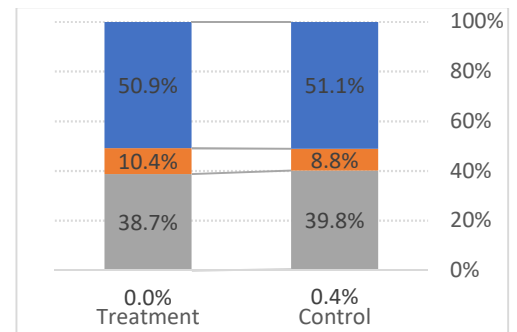
About mother's occupation (Q42 in QGP, Q20 in QPS)

Annex Table 4-5-42 (i).

Number and Percentage of Respondents for Q42, QGP

	Treatment		Control	
Full-Time	176	50.9%	140	51.1%
Part-Time/Day job	36	10.4%	24	8.8%
Unemployed	134	38.7%	109	39.8%
Retiree	0	0.0%	1	0.4%

Annex Figure 4-5-42 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q42, QGP

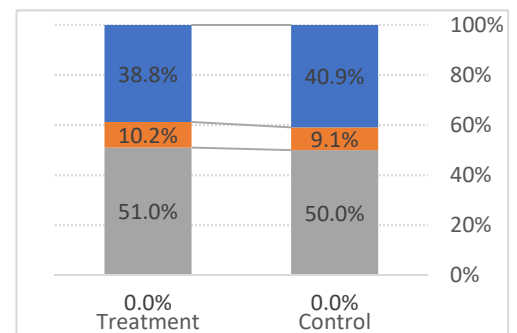


Annex Table 4-5-20 (ii).

Number and Percentage of Respondents for Q20, QPS

	Treatment		Control	
Full-Time	19	38.8%	9	40.9%
Part-Time/Day job	5	10.2%	2	9.1%
Unemployed	25	51.0%	11	50.0%
Retiree	0	0.0%	0	0.0%

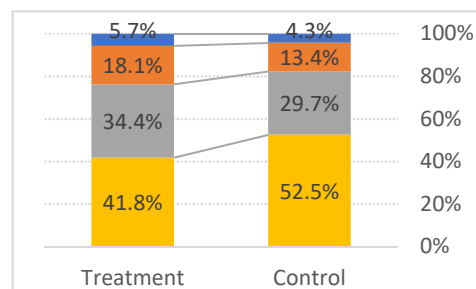
Annex Figure 4-5-20 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q20, QPS



The number of siblings (including the child) (Q43 in QGP, Q21 in QPS)

Annex Table 4-5-43 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q43, QGP

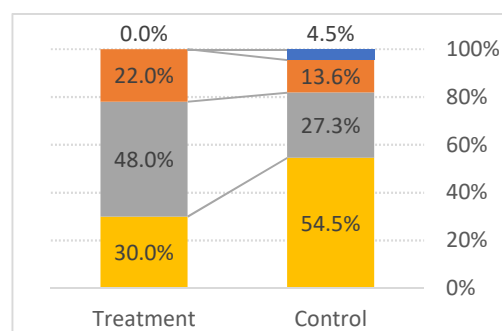
	Treatment		Control	
	Number	Percentage	Number	Percentage
Single child	20	5.7%	12	4.3%
Two	63	18.1%	37	13.4%
Three	120	34.4%	82	29.7%
Four	146	41.8%	145	52.5%



Annex Table 4-5-21 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q21, QPS

	Treatment		Control	
	Number	Percentage	Number	Percentage
Single child	0	0.0%	1	4.5%
Two	11	22.0%	3	13.6%
Three	24	48.0%	6	27.3%
Four	15	30.0%	12	54.5%

Annex Figure 4-5-21 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q21, QPS

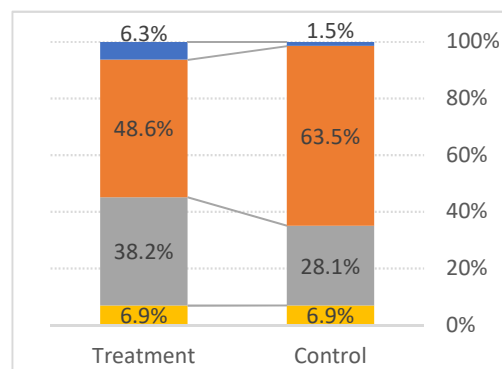


The highest level of school you have completed (Q44 in QGP, Q22 in QPS)

Annex Table 4-5-44 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q44, QGP

	Treatment		Control	
	Number	Percentage	Number	Percentage
Primary	22	6.3%	4	1.5%
Secondary	169	48.6%	174	63.5%
Tertiary	133	38.2%	77	28.1%
Post-graduate	24	6.9%	19	6.9%

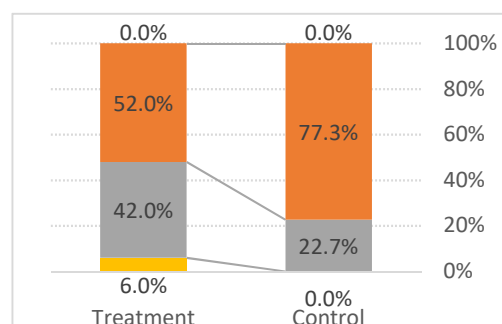
Annex Figure 4-5-44 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q44, QGP



Annex Table 4-5-22 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q22, QPS

	Treatment		Control	
	Number	Percentage	Number	Percentage
Primary	0	0.0%	0	0.0%
Secondary	26	52.0%	17	77.3%
Tertiary	21	42.0%	5	22.7%
Post-graduate	3	6.0%	0	0.0%

Annex Figure 4-5-22 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q22, QPS

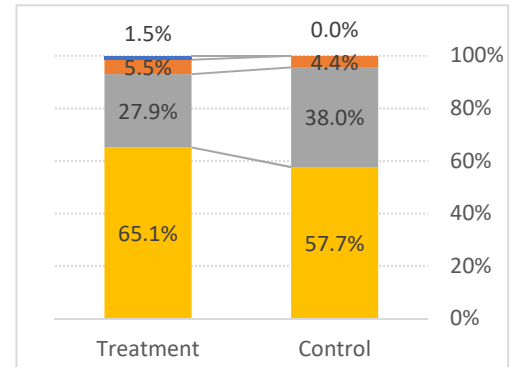


The highest level of school you expect your child to complete (Q45 in QGP, Q23 in QPS)

Annex Table 4-5-45 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q45, QGP

	Treatment		Control	
Primary	5	1.5%	0	0.0%
Secondary	19	5.5%	12	4.4%
Tertiary	96	27.9%	104	38.0%
Post-graduate	224	65.1%	158	57.7%

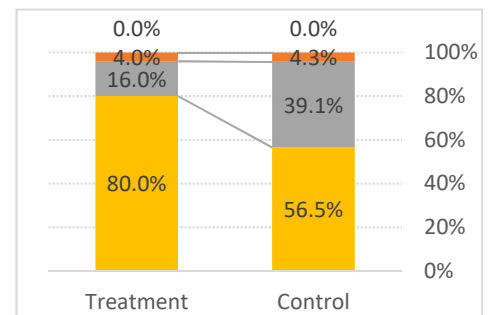
Annex Figure 4-5-45 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q45, QGP



Annex Table 4-5-23 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q23, QPS

	Treatment		Control	
Primary	0	0.0%	0	0.0%
Secondary	2	4.0%	1	4.3%
Tertiary	8	16.0%	9	39.1%
Post-graduate	40	80.0%	13	56.5%

Annex Figure 4-5-23 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q23, QPS

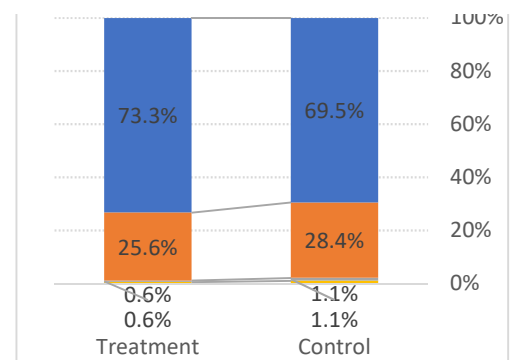


Does your family recognize the importance of inculcating your child’s abilities/skills other than subject knowledge and skills in school? (Q46 in QGP, Q24 in QPS)

Annex Table 4-5-46 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q46, QGP

	Treatment		Control	
Strongly agree	252	73.3%	191	69.5%
Agree	88	25.6%	78	28.4%
Disagree	2	0.6%	3	1.1%
Strongly Disagree	2	0.6%	3	1.1%

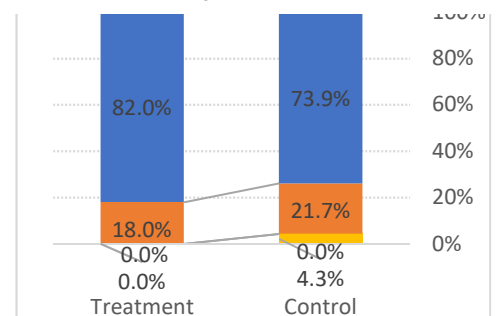
Annex Figure 4-5-46 (i).
Number and Percentage of Respondents for Q46, QGP



Annex Table 4-5-24 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q24, QPS

	Treatment		Control	
Strongly agree	41	82.0%	17	73.9%
Agree	9	18.0%	5	21.7%
Disagree	0	0.0%	0	0.0%
Strongly Disagree	0	0.0%	1	4.3%

Annex Figure 4-5-24 (ii).
Number and Percentage of Respondents for Q24, QPS



APPENDIX：追加データ分析

2023年2月ベースライン調査報告書において、保護者の児童に対する評価と児童の家庭環境との関係（児童の時間管理、保護者の評価（子育てスタイル）、家庭環境）について報告したが、その後、クラス担任の児童に対する評価と児童の家庭環境の関係についても分析を行った。前回の結果（2023年2月ベースライン調査報告書4.5重回帰分析参照）と同様に、児童の能力・スキル（Q1-22）についてのクラス担任の評価と以下の項目の間に有意な正の関係があることがわかった。

Q26：家庭での勉強時間

Q38：子どもといっしょにやったことについて、その経験を話し合う

Q44：保護者の最終学歴

Q45：子どもに期待する最終学歴

特に、上記のQ38（子どもと一緒にやったことについて、その経験を話し合う）の結果は、子どもの経験について振り返り、コミュニケーションをとることの重要性を示唆している。

また、数概念の獲得と児童の能力・スキル（Q1-22）に関する児童の評価との関係についても分析した。しかし、2022年のベースライン調査では、保護者やクラス担任によるQ1-22の評価と数概念の獲得に関する実験結果（認知能力の一種）との間に有意な関係は認められなかった。

『Skills for Social Progress：The Power of Social and Emotional Skills』（OECD, 2015）によれば、認知能力と非認知能力にはダイナミックな相互作用があると考えられている。すなわち、一方の能力が他方の能力の発達を徐々に相互に促していくと考えられている。このため、今後の調査において、児童の能力・スキル（Q1-22）の評価を追跡調査することを提案する。将来の調査で収集される児童の能力・スキルの結果を今回のデータセットと比較することで、今回の数概念の獲得に関する実験結果が、将来の児童の能力・スキルの成長を予測するかどうかを確かめることができるだろう。

1. クラス担任の児童に対する評価と児童の時間管理、保護者の評価（子育てスタイル）、家庭環境の関連性

1.1. クラス担任の児童に対する評価対児童の時間管理、保護者の評価（子育てスタイル）、家庭環境

- 従属変数：クラス担任の児童に対する評価
- 予測変数（独立変数）：時間管理（Q23～Q29）、子育てスタイル（Q30～Q38）、家族環境（Q40～Q46）

表A1より、23の予測変数のうち、「クラス担任の児童に対する評価」の結果を有意に予測する予測変数があることがわかる（ $N=421$ 、調整後 $R^2=.10$ 、 $F(23, 397)=3.04$, $p<.001$ ）。

表A1

1.1.1. 回帰の分散分析（ANOVA）

ANOVA	df	SS	MS	F value	P value
Regression	23	953.51	41.46	3.04	$P < 0.001$
Residual	397	5403.07	13.61		
Total	420	6356.58			

表 A2 より、以下の項目が「クラス担任の児童に対する評価」を有意に予測することがわかる。

- Q26（「勉強」の時間）：正の関係
- Q44（保護者の最終学歴）：正の関係

表 A2

時間管理（Q23-Q29）、子育てスタイル（Q30-Q38）、家庭環境（Q40-Q46）の各予測変数がクラス担任による児童の評価に与える影響

PE by Class Teachers (PC1)				
Q#	Unstandardized Beta (B)	Standard Error (SE)	Standardized Beta (β)	T Value
Q23	0.002	0.004	0.026	0.442
Q24	0.005	0.006	0.061	0.830
Q25	0.000	0.004	-0.002	-0.042
Q26	0.012	0.006	0.147	*2.059
Q27	-0.002	0.004	-0.034	-0.569
Q28	0.000	0.004	0.005	0.077
Q29	-0.003	0.004	-0.038	-0.632
Q30	-0.384	0.352	-0.061	-1.091
Q31	-0.306	0.377	-0.046	-0.810
Q32	0.201	0.410	0.031	0.489
Q33	0.710	0.461	0.102	1.541
Q34	-0.166	0.242	-0.034	-0.684
Q35	0.058	0.266	0.012	0.220
Q36	0.187	0.481	0.028	0.388
Q37	-0.268	0.525	-0.039	-0.510
Q38	0.694	0.416	0.109	1.667
Q40	1.272	0.742	0.083	1.714
Q41	-0.051	0.456	-0.006	-0.111
Q42	0.476	0.430	0.061	1.107
Q43	-0.082	0.222	-0.018	-0.368
Q44	0.168	0.071	0.129	*2.363
Q45	0.753	0.418	0.094	1.802
Q46	-0.473	0.454	-0.054	-1.041

1.2. クラス担任の児童に対する評価と児童の時間管理の比較

- 従属変数：クラス担任の児童に対する評価
- 予測変数（独立変数）：時間管理（Q23-Q29）

予測変数を時間管理のみに限定すると、7つの予測変数のうち、クラス担任の児童に対する評価の結果を有意に予測する予測変数がいくつか存在する (N=476、調整後 R²=.045、F(7, 468)=4.2, p<.001)。

表 A3

1.2.の回帰の分散分析 (ANOVA)

ANOVA	df	SS	MS	F value	P value
Regression	7	429.05	61.29	4.20	P < 0.001
Residual	468	6827.99	14.59		
Total	475	7257.05			

表 A4 より、以下の項目が「クラス担任の児童に対する評価」を有意に予測することがわかる。

Q26 (学習時間) : 正の関係

表 A4

時間管理 (Q23~Q29) の各予測変数がクラス担任の児童に対する評価に与える影響

PE by Class Teachers (PC1)				
	Unstandardized Beta (B)	Standard Error (SE)	Standardized Beta (β)	T Value
Q23	-0.006	0.004	-0.083	-1.542
Q24	0.002	0.006	0.020	0.294
Q25	-0.001	0.004	-0.009	-0.181
Q26	0.019	0.005	0.235	***3.505
Q27	0.000	0.004	0.002	0.033
Q28	0.003	0.004	0.052	0.926
Q29	-0.005	0.004	-0.071	-1.245

1.3. クラス担任による児童の評価と保護者の評価 (子育てスタイル) の比較

- 従属変数 : クラス担任の児童に対する評価
- 予測変数 (独立変数) : 子育てスタイル (Q30-Q38)

保護者評価 (子育てスタイル) のみに限定すると、9つの予測変数のうち、クラス担任の児童に対する評価の結果を有意に予測する予測変数が存在する (N=477、調整後 R²=.053、F(9, 467)=4.00, p<.001)。

表 A5

1.3.の回帰の分散分析 (ANOVA)

ANOVA	df	SS	MS	F value	P value
-------	----	----	----	---------	---------

Regression	9	518.26	57.58	4.00	P < 0.001
Residual	467	6716.91	14.38		
Total	476	7235.17			

表 A6 によると、以下の項目が「クラス担任による児童の評価」を有意に予測することがわかる。

Q38 (子どもといっしょにやったことについて、その経験を話し合う) : 正の関係

表 A6

子育てスタイル (Q30-Q38) の各予測変数がクラス担任による児童の評価に及ぼす影響

PE by Class Teachers (PC1)				
	Unstandardized Beta (B)	Standard Error (SE)	Standardized Beta (β)	T Value
Q30	-0.400	0.328	-0.064	-1.2183
Q31	0.131	0.353	0.020	0.3699
Q32	-0.230	0.384	-0.036	-0.5988
Q33	0.807	0.436	0.118	1.8509
Q34	-0.155	0.226	-0.031	-0.6832
Q35	0.147	0.249	0.030	0.5907
Q36	0.412	0.449	0.061	0.9175
Q37	0.168	0.485	0.025	0.3458
Q38	0.848	0.388	0.133	*2.1843

1.4. クラス担任の児童に対する評価と家庭環境との比較

- 従属変数 : クラス担任による児童の評価
- 予測変数 (独立変数) : 家庭環境 (Q40-Q46)

予測変数を家庭環境のみに限定すると、7つの予測変数のうち、クラス担任の児童に対する評価の結果を有意に予測する予測変数がいくつか存在する (N=449, Adjusted R2 = .06, F(7, 441)=5.14, p<.001)。

表 A7

1.4.の回帰の分散分析 (ANOVA)

ANOVA	df	SS	MS	F value	P value
Regression	7	502.54	71.79	5.14	P < 0.001
Residual	441	6157.82	13.96		
Total	448	6660.36			

表 A8 より、以下の項目が「クラス担任の児童に対する評価」を有意に予測することがわかる。

Q44 (保護者の最終学歴) : 正の関係

Q45 (子どもに期待する最終学歴) : 正の関係

表 A8

家庭環境 (Q40-Q46) の各予測変数がクラス担任による児童の評価に与える影響

PE by Class Teachers (PC1)				
	Unstandardized Beta (B)	Standard Error (SE)	Standardized Beta (β)	T Value
Q40	1.282	0.719	0.084	1.7844
Q41	0.266	0.426	0.031	0.6231
Q42	0.308	0.410	0.040	0.7512
Q43	-0.192	0.212	-0.043	-0.9034
Q44	0.164	0.066	0.128	*2.5006
Q45	1.209	0.388	0.152	**3.1200
Q46	0.000	0.409	0.000	0.0011

2. 保護者評価と数概念の獲得実験との関連性

2.1 数概念の獲得と保護者評価の関係

相関関係

- すべての相関係数の絶対値は 0.18 未満であり、児童の保護者評価と数 5 概念の獲得実験の結果との間には有意な関係はないことが示唆される。
- 標本 : 保護者からの評価を受け、実験に参加した 1 年、2 年、3 年の児童。

Question #	Sample Size	Correlation coefficient (r)
Q1	314	0.178
Q2	314	0.062
Q3	310	0.113
Q4	312	0.035
Q5	310	0.050
Q6	311	0.087
Q7	308	0.035
Q8	312	0.065
Q9	311	0.055
Q10	313	0.071
Q11	310	0.112

Q12	313	0.085
Q13	313	-0.013
Q14	314	0.007
Q15	312	0.083
Q16	315	0.112
Q17	313	0.071
Q18	313	0.127
Q19	314	0.122
Q20	314	0.119
Q21	313	0.087
Q22	314	0.109

2.2. 数 8 概念の獲得と保護者による評価との比較

相関関係

- すべての相関係数の絶対値は 0.11 未満であり、保護者の評価と実験（ナンバー8）の間に有意な関係がないことを意味する。
- 標本：保護者の評価を受け、実験に参加した 1 年生、2 年生、3 年生

Question #	Sample Size	Correlation coefficient (r)
Q1	200	-0.060
Q2	202	-0.017
Q3	200	-0.085
Q4	200	0.029
Q5	197	-0.002
Q6	199	-0.103
Q7	197	-0.026
Q8	201	0.108
Q9	198	0.027
Q10	200	-0.093
Q11	200	-0.021
Q12	200	-0.031
Q13	201	-0.006
Q14	201	-0.054
Q15	200	-0.057
Q16	202	-0.026
Q17	200	0.091
Q18	202	0.072

Q19	201	-0.009
Q20	201	0.069
Q21	199	-0.076
Q22	201	0.007

3. 数概念の獲得に関するクラス担任による児童の評価と実験との関係

3.1. 数概念の獲得とクラス担任の評価との関係

相関関係

- すべての相関係数の絶対値は 0.14 未満であり、クラス担任の児童に対する評価と実験結果との間に有意な関係がないことを意味する。
- 標本：1年、2年、3年の児童のうち、クラス担任の評価を受け、5番実験に参加した児童。

Question #	Sample Size Experiment Number 5	Correlation coefficient (r) of Experiment Number 5
Q1	347	0.056
Q2	348	0.044
Q3	347	0.088
Q4	348	0.109
Q5	349	0.059
Q6	345	0.039
Q7	347	0.055
Q8	350	0.028
Q9	348	0.048
Q10	347	0.086
Q11	349	0.027
Q12	351	0.127
Q13	349	0.042
Q14	350	0.066
Q15	349	0.113
Q16	348	0.098
Q17	348	0.028
Q18	348	0.096
Q19	350	0.135
Q20	348	0.102
Q21	347	0.105
Q22	348	0.093

3.2. 数8概念の獲得とクラス担任の児童に対する評価

- 相関係数の絶対値はいずれも 0.19 未満であり、クラス担任による児童の評価と実験結果との間に有意な関係はないことが示唆された。
- 標本：1年、2年、3年の児童のうち、教師から評価を受け、8番実験に参加した児童。

Question #	Sample Size Experiment Number 8	Correlation coefficient (r) Experiment Number8
Q1	218	0.178
Q2	220	0.148
Q3	219	0.084
Q4	220	-0.003
Q5	221	0.077
Q6	217	0.193
Q7	218	0.129
Q8	222	0.180
Q9	219	0.159
Q10	219	0.107
Q11	221	0.034
Q12	222	0.014
Q13	220	0.025
Q14	221	-0.044
Q15	221	0.068
Q16	221	0.080
Q17	220	0.079
Q18	220	0.121
Q19	221	0.128
Q20	219	0.083
Q21	221	0.069
Q22	220	0.036

ANNEX 5
Mid-term Survey Plan (Draft)
中間調査計画書（案）

THE PROJECT FOR PROMOTING HOLISTIC EDUCATION (MAKMur) Mid-term Survey Plan

Japan International Cooperation Agency (JICA)
Registered Non-profit Organization Asia SEED
University of Tsukuba

1. Background and Objectives

The Project for Promoting Holistic Education (Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid, in short, "MAKMur") is a technical cooperation initiated by Ministry of Education of Malaysia and the Japan International Cooperation Agency (in short, "JICA"). MAKMur aims at promoting further development of the holistic education in Malaysia. The objectives of this project are to identify effective methods that can enhance mainly pupils' non-cognitive skills and eventually, to further expand these methods throughout Malaysia creating environment for the development of balanced individual.

The survey for MAKMur consisting of Base-line (conducted in 2022), Mid-term (will be conducted in 2023) and End-line (will be conducted in 2024) surveys which aims at assessing the effectiveness of various activities conducted and identify challenges that comes with these activities. This will clarify the efficiency and challenges of MAKMur activities and provide useful information to improve the MAKMur Capacity Building Tool Kit¹.

The data to be gathered at the three timings from two target groups: the intervention group (the 15 pilot schools) and the control group (six primary schools with similar variations to the pilot schools) will form cross-sectional/longitudinal data as well as quantitative/qualitative data. In 2022, indeed, the base-line survey was conducted just before trial implementation of MAKMur activities at pilot schools to collect quantitative data.

Survey Methods

Specifically, there are a total of six objectives that will be investigated in the mid-term survey as follows:

No.	Objektif Kajian	Peserta Kajian	Instrumen	Konstruk	Sub Konstruk
1	Mengenal pasti tahap penerapan nilai/kebolehan	Murid tahun 5 & 6 di sekolah rintis dan kawalan yang telah	• Borang Soal Selidik	Demogra fi	Jantina Lokasi sekolah

¹ In fact, MAKMur Capacity Building Toolkit were revised in February 2023 using the information gained from the base-line survey done in 2022.

<p>MAKMur dalam kalangan murid:</p> <p>1a) perbezaan antara kajian <i>baseline</i> dan <i>midterm</i> di sekolah rintis dan sekolah kawalan</p> <p>1b) demografi</p>	<p>menyertai kajian <i>baseline</i></p>	<p>Murid tahun 5 & 6</p> <ul style="list-style-type: none"> Borang Kebenaran Menjadi Responden 	<p>Nilai/Kebolehan MAKMur</p>	(maklumat akan dimohon daripada KPM)
				Keyakinan Diri
				Toleransi and kemurahan hati
				Fleksibiliti
				Kerjasama
				Komunikasi
				Berani menghadapi cabaran
				Perancangan
				Kreativiti
				Kepimpinan
				Berfikir secara logik
				Motivasi
<p>Guru Kelas kepada Murid Tahun 2-6 yang telah menyertai kajian <i>baseline</i></p>	<p>Borang Soal Selidik Guru Kelas tahun 2-6</p> <p>Borang Kebenaran Menjadi Responden</p>	<p>Demografi</p>	<p>Nilai/Kebolehan MAKMur</p>	Jantina
				Lokasi sekolah (maklumat akan dimohon daripada KPM)
				Keyakinan Diri
				Toleransi and kemurahan hati
				Fleksibiliti
				Kerjasama
				Komunikasi
				Berani menghadapi cabaran
				Perancangan
				Kreativiti
				Kepimpinan
				Berfikir secara logik
Motivasi				
<p>Ibu Bapa/Penjaga Murid Tahun 2-6 yang telah menyertai kajian <i>baseline</i></p>	<p>Borang Soal Selidik Ibu Bapa/penjaga</p> <p>Borang Kebenaran</p>	<p>Demografi</p>	<p>Nilai/Kebolehan MAKMur</p>	Jantina
				Lokasi sekolah
		Keyakinan Diri		
		Toleransi and kemurahan hati		

			Menjadi Responden		Fleksibilitas Kerjasama Komunikasi
		Kelas Tahun 2 & 4 di Sekolah Rintis dan Kawalan	Borang Pencerapan PdP	Nilai/Kebolehan MAKMur	Keterlibatan Murid Motivasi Kendiri Memudahnya Pemikiran Kritis Daya Kreativiti
2	Mengenal pasti hubungan di antara penglibatan ibu bapa/penjagadengan nilai/ kebolehan MAKMur murid serta menganalisis: 2a) Perbezaan antara <i>baseline</i> dan <i>midterm</i> di kalangan sekolah rintis dan kawalan 2b) demografi	Ibu Bapa/Penjaga Murid Tahun 2-6 yang telah menyertai kajian <i>baseline</i>	Borang Soal Selidik Ibu Bapa/penjaga Borang Kebenaran Menjadi Responden	Demografi Penglibatan Ibu Bapa/Pe njaga	Pengurusan Masa Latar belakang Keluarga
3	Mengenalpasti aktiviti-aktiviti di dalam dan luar kelas yang berkaitan dengan MAKMur	Guru Kelas Tahun 1-6	Borang Soal Selidik Pelaksanaan Aktiviti MAKMur	Aktiviti di dalam dan luar kelas yang berkaitan dengan MAKMur	Perancangan Kelas Pengajaran dan Pembelajaran Aktiviti Kokurikulum Acara Sekolah
4	Mengenal pasti pendekatan pengajaran dan pembelajaran guru di sekolah rintis dan kawalan.	Kelas Tahun 2 dan 4 di Sekolah Rintis dan Kawalan	Borang Pencerapan PdP	Pelaksanaan PdP	Gaya Pengajaran dan Pembelajaran Guru
5	Mendapatkan pandangan tambahan daripada guru, murid, dan ibu bapa/penjaga tentang aktiviti-aktiviti MAKMur yang dilaksanakan di sekolah, serta perubahan dan	Guru (Penyelaras MAKMur, Guru Kelas tahap 1, Guru kelas tahap 2)	Protokol Temu Bual Guru	Kesan pelaksanaan aktiviti MAKMur yang boleh dilihat di sekolah	Perubahan tingkah laku murid. Perubahan cara mengajar (teknik pengajaran) guru

cabaran yang datang bersama aktiviti MAKMur				Cabaran-cabaran dalam melaksanakan aktiviti MAKMur
	Murid Tahun 6	Protokol Temu Bual Murid Borang Kebenaran Temu Bual - Murid	Pandangan murid tentang pelaksanaan aktiviti MAKMur di sekolah	Adakah murid seronok melaksanakan aktiviti MAKMur? Apa pandangan murid tentang sesi refleksi selepas sesi PdP?
	Ibu Bapa/Penjaga	Protokol Temu Bual Ibu Bapa/Penjaga Borang Persetujuan Temu Bual-Ibu Bapa/Penjaga	Pandangan ibu bapa/penjaga tentang pelaksanaan aktiviti MAKMur di sekolah anak/anak jagaan	Perubahan tingkah laku anak/anak jagaan. Perubahan gaya penglibatan ibu bapa/penjaga dengan anak/anak jagaan.

3. Survey Areas

Table 2 shows the 21 schools that were selected for the survey in 2022: the intervention group comprises 15 schools; the control group 6 schools. The member of the schools will be the same for the mid-term survey.

Table 2 Intervention Group and Control Group

District	Intervention/Control	School
Sentul, Kuala Lumpur	Intervention	SK Intan Baiduri
		SK Sentul Utama
		SK Seri Nilam
		SK Seri Murni
		SK Batu Muda
	Control	SK Segambut Makmur
		SK Kiaramas
Bentong, Pahang	Intervention	SK Lebu
		SK Lurah Bilut
		SK Sungai Marong
		SK Sungai Dua
		SK Sri Layang

	Control	SK Janda Baik
		SK Tuanku Fatimah
Pasir Mas, Kelantan	Intervention	SK Lati
		SK Lemal
		SK Sultan Ibrahim
		SK Baroh Pial
		SK Banggol Petai
	Control	SK Sri Kiambang
		SK Gelang Mas

4. Data Collection

4.1 Data Collection for Questionnaires

There are four types of questionnaires for the mid-term survey.

1. Questionnaires for Pupils

The target group of this data collection are the Year 5 & 6 pupils in intervention and control groups who participated in the base-line survey in 2022.

2. Questionnaires for Class Teacher

The target group of this data collection are the class teachers of Year 2-6 in intervention and control groups who participated in the base-line survey in 2022. Each class teacher will answer questions regarding each target pupil in their class.

3. Questionnaires for Parents/Guardians

Parents/Guardians of pupils in Intervention and Control groups that participated in the base-line survey in 2022, will answer the same questionnaire as the base-line survey.

4. Questionnaires for Headmaster/Headmistress

Headmaster/Headmistress of each school will answer a questionnaire about the teaching and learning styles in their own school, the same as the base-line survey.

5. Questionnaires Regarding the Implementation of MAKMur Activities in Schools

All class teachers in the intervention group will be asked regarding the current situation of the implementation of MAKMur activities in each school.

Questionnaires for Pupils, Questionnaires for Class Teachers, and Questionnaires for Parents/Guardians were designed to track the differences of the target population before and after MAKMur activities implementation, in terms of 1) The inculcation of pupils' non-cognitive abilities from the perspectives of pupils, class teachers, and parents/guardians, 2) Parents/Guardians' engagements towards their child, and 3) Pupils' time management. Apart from the three questionnaires, the Questionnaire Regarding the implementation of MAKMur Activities in Schools, has been newly

designed to grasp the current situation of the MAKMur activities implementation in each school.

Table 3 shows the expected sample sizes for each questionnaire.

Table 3 Targets and Sample Sizes for Each Questionnaire

Name of Questionnaires	Target Respondents	Appendix No.	Relates to Objectives	Expected Number of Respondents	
				Intervention	Control
Questionnaire for Year 5 & 6 Pupils	Year 5 & 6 Pupils	1	1	204	112
Questionnaire for Class Teachers Regarding Pupils Abilities	Class Teachers of Year 2-6 Pupils	2	1	428	278
Questionnaire for Primary Pupils' Guardians	Parents/Guardians of primary pupils in year 2- 6	3	1, 2	349	279
Questionnaire Regarding the Implementation of MAKMur Activities in Schools	Class Teachers of Year 1-6 Pupils	4	3	199+Year 6 Class Teachers	0

For families with access to the internet, the schools will notify the parents/guardians of the questionnaires and the questionnaire will be distributed through Google Forms. On the other hand, for families with no access to the internet, teachers will distribute the questionnaires to pupils.

4.2. Data Collection for Interview

The target of this data collection is the MAKMur coordinators, lower primary class teachers, upper primary class teachers, year 6 pupils and parents/guardians from four of the schools in the intervention group².

Table 4 Targets and Sample Sizes for Interview

School	MAKMur Coordinator	Lower Primary Class Teachers	Upper Primary Class Teachers	Year 6 Pupils	Guardians
SK Intan Baiduri, Sentul	1	1	1	3	1

² Before distributing the revised MAKMur Capacity Building Toolkit to all pilot schools, the Ministry of Education requested the four schools to help in creating supporting materials (videos and photos). Due to this, these four schools have longer experience of using the revised MAKMur Capacity Building Toolkit, and thus, were chosen to participate in the interview.

SK Sentul Utama, Sentul	1	1	1	3	1
SK Sungai Marong, Bentong	1	1	1	3	1
SK Lemal, Pasir Mas	1	1	1	3	1

The interview will be done in groups for the Year 6 pupils, while the teachers (MAKMur coordinator, lower primary class teacher, upper primary class teacher) and guardians' interview will be done individually.

4.3 Data Collection of Class Observation

All classes of **Year 2** and **Year 4** in 2023 from the intervention and control groups.

Observers will watch classes that will be held at each class and evaluate student performance as a class (collective performance), as well as the teaching and learning styles of teachers in both pilot and non-pilot schools using the Class Observation Form.

5. Significance of Mid-term Survey to Ministry of Education Malaysia

5.1. Provide an Evidence of effectiveness of MAKMur activities

By evaluating the changes of non-cognitive abilities/skills in ***pilot schools (intervention group)*** and ***non-pilot schools (control group)***, if their differences are significant, it will indicate a causal relationship between the MAKMur activities and the development of abilities/skills of children. In other words, it provides evidence of the effectiveness of MAKMur activities using the toolkit to a certain degree.

The information to be gained from class observations and interview in Intervention and Control groups may also provide additional indirect evidence regarding the effectiveness of MAKMur activities.

5.2. Finalise MAKMur Tool Kit

We can check how MAKMur activities have been implemented in the pilot schools using MAKMur Capacity Building Toolkit Ver. 2 and whether the activities are contributing to pupils' abilities. This is one of the most important information to finalise MAKMur Capacity Building Toolkit.

1



KEMENTERIAN PENDIDIKAN



**KAJIAN PENILAIAN PERTENGAHAN TAHUN
PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN
KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2023**

**SOAL SELIDIK
MURID TAHUN 5 DAN 6**

Murid-murid yang dikasihi,

Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) adalah program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Kajian ini bertujuan untuk menilai keberkesanan aktiviti MAKMur di sekolah. Pasukan penyelidik bagi kajian ini terdiri daripada pihak Asia SEED yang merupakan konsultan yang dilantik oleh JICA.

Sehubungan dengan itu, anda telah dipilih sebagai responden untuk kajian ini. Kerjasama anda amatlah diharapkan untuk menjawab **SEMUA** soalan yang terkandung dalam soal selidik ini dengan **IKHLAS** dan **JUJUR**.

Segala maklumat yang anda berikan adalah **SULIT** dan hanya digunakan untuk tujuan kajian ini sahaja. Sekiranya anda memerlukan sebarang penjelasan lanjut mengenai kajian ini, anda boleh menghubungi **Dr. Ueno Ryoichi (Ketua Penyelidik Asia SEED)/ Encik Muhamad Aiman Ismail (Pembantu Penyelidik Asia SEED)** di talian **018-5723234** atau e-Mel **makmur@asiaseed.org**

Perhatian dan kerjasama anda dalam menjayakan kajian ini amat dihargai dan didahului dengan ucapan ribuan terima kasih.



Sekian.



BAHAGIAN A**Arahan: Sila isi maklumat berikut.**

NAMA SEKOLAH	
KELAS	
NAMA PENUH MURID	
JANTINA	

BAHAGIAN B

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Tidak Pernah	
2	Jarang	
3	Kadang-kadang	
4	Selalu	

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan diri anda untuk setiap item berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
				
① Saya bercakap dengan yakin.	1	2	3	4
② Saya menceritakan kejayaan diri sendiri kepada orang lain.	1	2	3	4
③ Saya mendengar dengan teliti ketika perbincangan kumpulan.	1	2	3	4
④ Saya menghormati pendapat orang lain.	1	2	3	4

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan diri anda untuk setiap item berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
	☹️		😊	
⑤ Saya dapat menyiapkan tugas walaupun jadual berubah secara tiba-tiba.	1	2	3	4
⑥ Saya meluangkan masa untuk menyertai aktiviti selain dari belajar.	1	2	3	4
⑦ Saya boleh bekerjasama dengan orang yang berbeza pendapat dengan saya.	1	2	3	4
⑧ Saya berbincang dengan ahli kumpulan ketika melakukan sesuatu aktiviti.	1	2	3	4
⑨ Saya memberikan idea ketika perbincangan kumpulan.	1	2	3	4
⑩ Saya menyapa orang baru untuk berkenalan dengan lebih lanjut.	1	2	3	4
⑪ Saya sanggup menghadapi cabaran baharu.	1	2	3	4

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan diri anda untuk setiap item berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
	☹️		😊	
⑫ Saya berusaha menyiapkan tugas yang sukar.	1	2	3	4
⑬ Saya mengutamakan tugas yang lebih penting.	1	2	3	4
⑭ Saya menepati masa.	1	2	3	4
⑮ Saya suka mencuba idea baharu.	1	2	3	4
⑯ Saya menambah baik kaedah sedia ada untuk menyelesaikan sesuatu tugas.	1	2	3	4
⑰ Saya mengetuai perbincangan berkumpulan.	1	2	3	4
⑱ Saya melibatkan ahli kumpulan untuk mencari penyelesaian sesuatu masalah.	1	2	3	4

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan diri anda untuk setiap item berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
	☹️		😊	
⑲ Saya menggunakan pengetahuan sedia ada untuk menyelesaikan sesuatu masalah.	1	2	3	4
⑳ Saya menggunakan fakta ketika menyampaikan pendapat kepada orang lain.	1	2	3	4
㉑ Saya sukarela untuk melakukan sesuatu tugas.	1	2	3	4
㉒ Saya bermotivasi untuk menyiapkan tugas yang saya suka.	1	2	3	4

KERJASAMA ANDA SANGAT DIHARGAI DAN DIUCAPKAN TERIMA KASIH.

2



KEMENTERIAN PENDIDIKAN



**KAJIAN PENILAIAN PERTENGAHAN TAHUN
PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN
KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2023**

**SOAL SELIDIK
GURU KELAS TAHUN 2, 3, 4, 5 DAN 6**

Tuan/Puan yang dihormati,

Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) adalah program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Kajian ini bertujuan untuk menilai keberkesanan aktiviti MAKMur di sekolah. Pasukan penyelidik bagi kajian ini terdiri daripada pihak Asia SEED yang merupakan konsultan yang dilantik oleh JICA.

Sehubungan dengan itu, tuan/puan telah dipilih sebagai responden untuk kajian ini. Kerjasama tuan/puan amatlah diharapkan untuk menjawab **SEMUA** soalan yang terkandung dalam soal selidik ini dengan **IKHLAS** dan **JUJUR**.

Segala maklumat yang tuan/puan berikan adalah **SULIT** dan hanya digunakan untuk tujuan kajian ini sahaja. Sekiranya tuan/puan memerlukan sebarang penjelasan lanjut mengenai kajian ini, tuan/puan boleh menghubungi **Dr. Ueno Ryoichi (Ketua Penyelidik Asia SEED)/ Encik Muhamad Aiman bin Ismail (Pembantu Penyelidik Asia SEED)** di talian 018-5723234 atau e-Mel makmur@asiaseed.org

Perhatian dan kerjasama tuan/puan dalam menjayakan kajian ini amat dihargai dan didahului dengan ucapan ribuan terima kasih.

Sekian.

BAHAGIAN A

Arahan: Sila isi maklumat berikut.

NAMA SEKOLAH	
KELAS	
NAMA PENUH MURID	
JANTINA MURID	

BAHAGIAN B

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Tidak Pernah
2	Jarang
3	Kadang-kadang
4	Selalu

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan murid anda untuk setiap item berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
① Murid bercakap dengan yakin.	1	2	3	4
② Murid menceritakan kejayaan diri sendiri kepada orang lain.	1	2	3	4
③ Murid mendengar dengan teliti ketika perbincangan kumpulan.	1	2	3	4
④ Murid menghormati pendapat orang lain.	1	2	3	4
⑤ Murid dapat menyiapkan tugas walaupun jadual berubah secara tiba-tiba.	1	2	3	4
⑥ Murid meluangkan masa untuk menyertai aktiviti selain dari belajar.	1	2	3	4
⑦ Murid boleh bekerjasama dengan orang yang berbeza pendapat dengan mereka.	1	2	3	4

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan murid anda untuk setiap item berikut.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang Kadang	Selalu
⑧ Murid berbincang dengan ahli kumpulan ketika melakukan sesuatu aktiviti.	1	2	3	4
⑨ Murid memberikan idea ketika perbincangan kumpulan.	1	2	3	4
⑩ Murid menyapa orang baru untuk berkenalan dengan lebih lanjut.	1	2	3	4
⑪ Murid sanggup menghadapi cabaran baru.	1	2	3	4
⑫ Murid berusaha menyiapkan tugas yang sukar.	1	2	3	4
⑬ Murid mengutamakan tugas yang lebih penting.	1	2	3	4
⑭ Murid menepati masa.	1	2	3	4
⑮ Murid suka mencuba idea baharu.	1	2	3	4
⑯ Murid menambah baik kaedah sedia ada untuk menyelesaikan sesuatu tugas.	1	2	3	4
⑰ Murid mengetuai perbincangan berkumpulan.	1	2	3	4
⑱ Murid melibatkan ahli kumpulan untuk mencari penyelesaian sesuatu masalah.	1	2	3	4
⑲ Murid menggunakan pengetahuan sedia ada untuk menyelesaikan sesuatu masalah.	1	2	3	4
⑳ Murid menggunakan fakta ketika menyampaikan pendapat kepada orang lain.	1	2	3	4
㉑ Murid sukarela untuk melakukan sesuatu tugas.	1	2	3	4
㉒ Murid bermotivasi untuk menyiapkan tugas yang mereka suka.	1	2	3	4

KERJASAMA TUAN/PUAN SANGAT DIHARGAI DAN DIUCAPKAN TERIMA KASIH.



**KAJIAN PENILAIAN PERTENGAHAN TAHUN
PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN
KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2023**

**SOAL SELIDIK IBU BAPA/PENJAGA
MURID TAHUN 2, 3, 4, 5 DAN 6**

Tuan/Puan yang dihormati,

Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) adalah program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Kajian ini bertujuan untuk menilai keberkesanan aktiviti MAKMur di sekolah. Pasukan penyelidik bagi kajian ini terdiri daripada pihak Asia SEED yang merupakan konsultan yang dilantik oleh JICA.

Sehubungan dengan itu, tuan/puan telah dipilih sebagai responden untuk kajian ini. Kerjasama tuan/puan amatlah diharapkan untuk menjawab **SEMUA** soalan yang terkandung dalam soal selidik ini dengan **IKHLAS** dan **JUJUR**.

Segala maklumat yang tuan/puan berikan adalah **SULIT** dan hanya digunakan untuk tujuan kajian ini sahaja. Sekiranya tuan/puan memerlukan sebarang penjelasan lanjut mengenai kajian ini, tuan/puan boleh menghubungi **Dr. Ueno Ryoichi (Ketua Penyelidik Asia SEED)/ Encik Muhamad Aiman bin Ismail (Pembantu Penyelidik Asia SEED)** di talian **018-5723234** atau e-Mel makmur@asiaseed.org

Perhatian dan kerjasama tuan/puan dalam menjayakan kajian ini amat dihargai dan didahului dengan ucapan ribuan terima kasih.

Sekian.

BAHAGIAN A

Arahan: Sila isi maklumat berikut.

NAMA SEKOLAH	
KELAS	
NAMA ANAK	
JANTINA ANAK	

BAHAGIAN B-1

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Tidak Pernah
2	Jarang
3	Kadang-kadang
4	Selalu

Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan anak anda untuk setiap pernyataan.	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
1) Anak saya bercakap dengan yakin.	1	2	3	4
2) Anak saya menceritakan kejayaan diri sendiri kepada orang lain.	1	2	3	4
3) Anak saya mendengar dengan teliti ketika perbincangan kumpulan.	1	2	3	4
4) Anak saya menghormati pendapat orang lain.	1	2	3	4
5) Anak saya dapat menyiapkan tugas walaupun jadual berubah secara tiba-tiba.	1	2	3	4
6) Anak saya meluangkan masa untuk menyertai aktiviti selain dari belajar.	1	2	3	4
7) Anak saya boleh bekerjasama dengan orang yang berbeza pendapat dengan saya.	1	2	3	4
8) Anak saya berbincang dengan ahli kumpulan ketika melakukan sesuatu aktiviti.	1	2	3	4
9) Anak saya memberikan idea ketika perbincangan kumpulan.	1	2	3	4
10) Anak saya menyapa orang baru untuk berkenalan dengan lebih lanjut.	1	2	3	4

1	Tidak Pernah
2	Jarang
3	Kadang-kadang
4	Selalu

	Tidak Pernah	Jarang	Kadang-kadang	Selalu
Pilih jawapan yang paling sesuai menggambarkan anda untuk setiap pernyataan.				
11) Anak saya sanggup menghadapi cabaran baru.	1	2	3	4
12) Anak saya berusaha menyiapkan tugas yang sukar.	1	2	3	4
13) Anak saya mengutamakan tugas yang lebih penting.	1	2	3	4
14) Anak saya menepati masa.	1	2	3	4
15) Anak saya suka mencuba idea baharu.	1	2	3	4
16) Anak saya menambah baik kaedah sedia ada untuk menyelesaikan sesuatu tugas.	1	2	3	4
17) Anak saya mengetuai perbincangan berkumpulan.	1	2	3	4
18) Anak saya melibatkan diri dengan ahli kumpulan untuk mencari penyelesaian sesuatu masalah.	1	2	3	4
19) Anak saya menggunakan pengetahuan sedia ada untuk menyelesaikan sesuatu masalah.	1	2	3	4
20) Anak saya menggunakan fakta ketika menyampaikan pendapat kepada orang lain.	1	2	3	4
21) Anak saya sukarela untuk melakukan sesuatu .	1	2	3	4
22) Anak saya bermotivasi untuk menyiapkan tugas yang saya suka.	1	2	3	4

BAHAGIAN B-2

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Tiada
2	Kurang dari 30 minit
3	30 minit - 1 jam
4	1 jam - 2 jam
5	2 jam - 3 jam
6	Lebih dari 3 jam

Pilih jawapan yang sesuai menggambarkan tempoh anak anda menghabiskan masa di rumah dengan aktiviti berikut pada hari persekolahan.	Tiada	Kurang dari 30 minit	30 minit - 1 jam	1 jam - 2 jam	2 jam - 3 jam	Lebih dari 3 jam
23) Bermain di luar rumah.	1	2	3	4	5	6
24) Membaca buku.	1	2	3	4	5	6
25) Menonton televisyen.	1	2	3	4	5	6
26) Belajar.	1	2	3	4	5	6
27) Aktiviti selepas sekolah (contoh: belajar muzik, sukan, atau lain-lain).	1	2	3	4	5	6
28) Menggunakan telefon pintar atau tablet.	1	2	3	4	5	6
29) Konsol permainan (video game).	1	2	3	4	5	6

BAHAGIAN B-3

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap pernyataan.

1	Sangat Tidak Setuju
2	Tidak Setuju
3	Setuju
4	Sangat Setuju

	Sangat Tidak Setuju	Tidak Setuju	Setuju	Sangat Setuju
Nyatakan sejauh mana anda bersetuju dengan pernyataan berikut.				
30) Saya juga dapat merasakan perasaan yang sama dialami oleh anak saya.	1	2	3	4
31) Saya menghabiskan masa bermain dengan anak saya.	1	2	3	4
32) Saya ikhlas memaafkan anak saya jika dia melakukan kesalahan.	1	2	3	4
33) Saya menasihati anak saya untuk mematuhi peraturan.	1	2	3	4
34) Saya memarahi anak saya walaupun untuk perkara kecil.	1	2	3	4
35) Saya menyokong apa sahaja yang ingin dilakukan oleh anak saya.	1	2	3	4
36) Saya memuji usaha anak saya.	1	2	3	4
37) Saya menjawab pertanyaan anak saya.	1	2	3	4
38) Saya dan anak saya bercakap tentang pengalaman kami selepas melakukan aktiviti bersama-sama.	1	2	3	4

BAHAGIAN B-4

Arahan: Sila pilih jawapan yang paling sesuai untuk setiap kenyataan.

Sila pilih jawapan yang sesuai berhubung dengan situasi keluarga anda.			
39) Siapakah yang menjawab borang kaji selidik ini?			
<input type="checkbox"/> Bapa	<input type="checkbox"/> Ibu	<input type="checkbox"/> Ahli keluarga	<input type="checkbox"/> Lain-lain
40) Status perkahwinan:			
<input type="checkbox"/> Berkahwin	<input type="checkbox"/> Ibu tunggal /Bapa tunggal	<input type="checkbox"/> Bercerai	<input type="checkbox"/> Kematian suami/isteri
41) Pekerjaan bapa/penjaga lelaki:			
<input type="checkbox"/> Sepenuh masa	<input type="checkbox"/> Separuh masa/kerja harian	<input type="checkbox"/> Tidak bekerja	<input type="checkbox"/> Pencen
42) Pekerjaan ibu/penjaga wanita:			
<input type="checkbox"/> Sepenuh masa	<input type="checkbox"/> Separuh masa/kerja harian	<input type="checkbox"/> Tidak bekerja	<input type="checkbox"/> Pencen
43) Bilangan anak:			
<input type="checkbox"/> Anak tunggal	<input type="checkbox"/> Dua	<input type="checkbox"/> Tiga	<input type="checkbox"/> Empat dan ke atas
44) Taraf pendidikan tertinggi yang anda:			
<input type="checkbox"/> Sekolah Rendah	<input type="checkbox"/> Sekolah Menengah	<input type="checkbox"/> Ijazah	<input type="checkbox"/> Ijazah Sarjana/PhD
45) Taraf pendidikan tertinggi yang anda harapkan untuk anak anda:			
<input type="checkbox"/> Sekolah Rendah	<input type="checkbox"/> Sekolah Menengah	<input type="checkbox"/> Ijazah	<input type="checkbox"/> Ijazah Sarjana/PhD
46) Adakah keluarga anda memahami kepentingan untuk mengajar anak anda kemahiran lain selain daripada mata pelajaran dan kemahiran yang diajar di sekolah?			
<input type="checkbox"/> Sangat Setuju	<input type="checkbox"/> Setuju	<input type="checkbox"/> Tidak Setuju	<input type="checkbox"/> Sangat Tidak Setuju

**KERJASAMA TUAN/PUAN SANGAT DIHARGAI DAN DIUCAPKAN
TERIMA KASIH.**

4



KEMENTERIAN PENDIDIKAN



**KAJIAN PENILAIAN PERTENGAHAN TAHUN
PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN
KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2023**

**SOAL SELIDIK
PELAKSANAAN AKTIVITI MAKMUR DI SEKOLAH**

Tuan/Puan yang dihormati,

Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) adalah program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Kajian ini yang merupakan aktiviti di bawah Projek MAKMur dilaksanakan bertujuan untuk mengenal pasti status pelaksanaan aktiviti MAKMur di 15 buah sekolah rintis MAKMur. Pasukan penyelidik bagi kajian ini terdiri daripada pihak Asia SEED yang merupakan konsultan yang dilantik oleh JICA.

Sehubungan dengan itu, tuan/puan telah dipilih sebagai responden untuk kajian ini. Kerjasama tuan/puan amatlah diharapkan untuk menjawab **SEMUA** soalan yang terkandung dalam soal selidik ini dengan **IKHLAS** dan **JUJUR**.

Segala maklumat yang tuan/puan berikan adalah **SULIT** dan hanya digunakan untuk tujuan kajian ini sahaja. Sekiranya tuan/puan memerlukan sebarang penjelasan lanjut mengenai kajian ini, tuan/puan boleh menghubungi **Dr. Ueno Ryoichi** (Ketua Penyelidik Asia SEED)/ **Encik Muhamad Aiman bin Ismail** (Pembantu Penyelidik Asia SEED) di talian **018-5723234** atau e-Mel makmur@asiaseed.org

Perhatian dan kerjasama tuan/puan dalam menjayakan kajian ini amat dihargai dan didahului dengan ucapan ribuan terima kasih.

Sekian.

BAHAGIAN A: DEMOGRAFI

Arahan: Sila isi maklumat berikut.

NAMA SEKOLAH	
GURU KELAS	<i>(contoh: 2 Zuhai)</i>

BAHAGIAN B: PENGAJARAN DAN PEMBELAJARAN

Perbincangan kumpulan						
1. Adakah kelas tuan/puan melaksanakan perbincangan kumpulan ketika sesi PdP?						
a. Ya		b. Tidak				
2. Kekerapan mengadakan perbincangan kumpulan di kelas tuan/puan. (contoh: sekali seminggu)						
.....						
3. Siapakah yang mengetuai perbincangan berkumpulan?						
a. Guru		b. Murid				
4. (Berknaan no. 3) Jika murid, bagaimanakah murid yang bertanggungjawab untuk melaksanakan perbincangan kumpulan dipilih?						
a. Sukarela		b. Penggiliran	c. Dipilih oleh guru	d. Undian rakan		e. Lain-Lain
5. Jika 'Lain-lain', sila nyatakan.						
.....						
.....						

6. Bagaimanakah tuan/puan melaksanakan sesi refleksi selepas sesi PdP tuan/puan? (contoh: menggunakan kad refleksi, murid menulis di dalam buku nota, kad 'traffic light' dan lain-lain.)				
.....				
.....				
7. Secara amnya, berapa lama masa yang diperuntukkan untuk murid membuat refleksi sesi PdP?				
a. Tidak pernah	b. <=5 minit	c. 5-10 minit	d. 10-15 minit	e. Lain-lain
Jika 'Lain-lain', sila nyatakan.				
.....				
.....				

BAHAGIAN C: PERANCANGAN KELAS

Tetapkan Matlamat Kelas				
8. Adakah kelas tuan/puan telah menetapkan dan mempamerkan matlamat kelas?				
a. Ya		b. Tidak		
9. Jika ya, nyatakan matlamat kelas tuan/puan.				
.....				
.....				
10. Siapakah yang menetapkan matlamat kelas?				
a. Guru			b. Murid	
.....			
11. Bagaimanakah Matlamat Kelas ditetapkan?				
.....				
.....				
12. Kekerapan penukaran matlamat kelas tuan/puan.				
	a. Sebulan sekali	b. 3 bulan sekali	c. 6 bulan sekali	d. Setahun sekali
.....				
13. Nyatakan sebab matlamat kelas ditukar.				
.....				
.....				

Tetapkan Matlamat Individu				
14. Adakah murid kelas tuan/puan telah menetapkan matlamat individu masing-masing?				
a. Ya		b. Tidak		
15. Bagaimanakah Matlamat Kelas ditetapkan?				
.....				
.....				
16. Kekerapan penukaran matlamat individu murid kelas tuan/puan				
	a. Sebulan sekali	b. 3 bulan sekali	c. 6 bulan sekali	d. Setahun sekali
.....				
17. Nyatakan sebab matlamat individu ditukar.				
.....				
.....				

Pamer Hasil Kerja Murid

18. Adakah tuan/puan mempamerkan hasil kerja semua murid di dalam kelas?

a. Ya

b. Tidak

19. Kekerapan mempamerkan hasil kerja baharu murid? (contoh: sekali sebulan)

Perbualan Pagi dan Jom Kemas

20. Adakah kelas tuan/puan melaksanakan aktiviti Perbualan Pagi dan Jom Kemas?

a. Ya

b. Tidak

21. Kekerapan aktiviti Perbualan Pagi dilaksanakan di kelas tuan/puan. (contoh: setiap hari)

22. Kekerapan aktiviti Jom Kemas dilaksanakan di kelas tuan/puan? (contoh: dua kali sehari)

Lain-lain (biarkan kosong jika tidak berkenaan)

23. Sila nyatakan jika tuan/puan ada melaksanakan aktiviti lain yang berasaskan kriteria aktiviti MAKMur

.....

--

24. Kekerapan aktiviti ini dilaksanakan di kelas tuan/puan.

--

Lain-lain (biarkan kosong jika tidak berkenaan)

25. Sila nyatakan jika tuan/puan ada melaksanakan aktiviti lain yang berasaskan kriteria aktiviti MAKMur

.....

--

26. Kekerapan aktiviti ini dilaksanakan di kelas tuan/puan?

--

BAHAGIAN D: AKTIVITI KOKURIKULUM

27. Adakah tuan/puan menerapkan prinsip aktiviti MAKMur semasa menjalankan aktiviti kokurikulum

a. Ya, b. Tidak

28. Siapakah yang mencadangkan aktiviti mingguan setiap kali perjumpaan kokurikulum?

a. Guru	b. Murid	
---------	----------	--

BAHAGIAN E: ACARA SEKOLAH

29. Adakah murid di sekolah tuan/puan diberi peluang untuk mengurus dan melaksana acara sekolah?	
--	--

a. Ya	b. Tidak
-------	----------

30. Adakah semua murid di sekolah tuan/puan diberi peluang untuk menyertai acara sekolah.	
---	--

a. Ya	b. Tidak
-------	----------

--	--

5-1



**KAJIAN PENILAIAN PERTENGAHAN TAHUN PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN
KEMENJADIAN MURID (MAKMur)**

TAHUN 2023

BORANG PENCERAPAN PENGAJARAN DAN PEMBELAJARAN (MURID)

Bahagian A: Maklumat Pencerap	
1. Nama Pencerap	
2. Organisasi	
3. Tarikh	

Bahagian B: Maklumat Sekolah		
Nama Sekolah		
Jenis Sekolah	Rintis	Kawalan
Lokasi Sekolah	Bandar	Luar Bandar

Bahagian C: Maklumat Kelas yang dicerap			
1. Nama Guru			
2. Bil. Murid	___orang	Lelaki:	Perempuan:
3. Tahun/Kelas	Tahun: Kelas:		
4. Masa			
5. Mata pelajaran			

BAHAGIAN D: PENCERAPAN MURID

Tandakan 0, 1, 2, 3, atau 4 pada lajur yang disediakan bagi setiap aspek di bawah

0= 0%

1= 1-49%

2= 50-79%

3= 80-89%

4=90-100%

Bil.	Item	Tandakan	Catatan (Nyatakan contoh/evidens yang berkaitan)
1.	Keterlibatan murid dikenal pasti apabila murid dapat: Pupils' participations can be confirmed when the pupils are able to:		
	a. menyumbang pandangan dalam perbincangan. Contribute opinions in a discussion		
	b. mendengar pandangan yang dikemukakan rakan. Listen to other pupils' opinions.		
	c. mengajak rakan untuk melaksanakan tugas yang diberikan. Invite(?) other pupils to carry out a task		
2.	Memudah cara dikenal pasti apabila murid dapat: Facilitation can be confirmed when the pupils are able to:		
	a. menentukan penyelesaian terbaik selepas perbincangan. Decide on the best solutions after discussion.		
	b. menyelesaikan perbezaan pendapat dan mencapai konsensus. Solve differing opinions and reach consensus.		
	c. Menggalakkan rakan untuk menyatakan pandangan mereka. Encourage other friends to express their opinions		
3.	Motivasi sendiri dikenal pasti apabila murid: pupils' self motivation can be confirmed when the pupils		
	a. berinisiatif untuk menyelesaikan tugas yang diberi oleh guru. Take initiative to finish a task given by the teacher		
	b. melaksanakan aktiviti dalam kumpulan secara inisiatif sendiri. Pupils carry out group activities on their own initiative		
4.	Pemikiran kritis dikenal pasti apabila murid: Critical thinking can be confirmed when the pupils:		
	a. menjana idea kritis berdasarkan maklumat sedia ada. Generate critical ideas based on given information		

Bil.	Item	Tandakan	Catatan (Nyatakan contoh/evidens yang berkaitan)
	b. mengaplikasi pemikiran logik berdasarkan maklumat/eviden untuk menyelesaikan masalah. Apply logical thinking based on information/evidence when solving problems to solve problems		
5.	Daya kreativiti dikenal pasti apabila murid: Creativity can be confirmed when pupils:		
	a. mampu memikirkan idea tersendiri dengan menggunakan pengetahuan sedia ada. Are able to think through original idea based on existing knowledge		
	b. menggunakan alternatif yang berbeza untuk menyelesaikan masalah. Find different alternatives to solve problems		

Bahagian F: Refleksi (Diisi oleh pencerap semasa menemubual guru)	
1. Adakah berlaku perubahan positif pada murid dalam kelas tuan/puan daripada permulaan tahun pembelajaran sehingga kini? a. Ya b. Tidak	
2. Jika ya, nyatakan bentuk perubahan tersebut.	
3. Jika ya (no. 1), pada pandangan tuan/puan mengapa perubahan ini berlaku?	

RUMUSAN PENCERAP

Dicerap oleh,

.....

Cap Rasmi

Tarikh:

5-2



**KAJIAN PENILAIAN PERTENGAHAN TAHUN PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN
KEMENJADIAN MURID (MAKMur)**

TAHUN 2023

BORANG PENCERAPAN PENGAJARAN DAN PEMBELAJARAN (GURU)

Bahagian A: Maklumat Pencerap	
1. Nama Pencerap	
2. Organisasi	
3. Tarikh	

Bahagian B: Maklumat Sekolah		
Nama Sekolah		
Jenis Sekolah	Rintis	Kawalan
Lokasi Sekolah	Bandar	Luar Bandar

Bahagian C: Maklumat Kelas yang dicerap			
1. Nama Guru			
2. Bil. Murid	___orang	Lelaki:	Perempuan:
3. Tahun/Kelas	Tahun: Kelas:		
4. Masa			
5. Mata pelajaran			

BAHAGIAN D: PENCERAPAN PdP GURU

Tandakan **1** untuk **Ya** atau **2** untuk **Tidak** pada lajur yang disediakan bagi setiap aspek di bawah.

Bil.	Item	Tandakan Ya = 1 Tidak = 2	Catatan (Nyatakan contoh/evidens yang berkaitan)
1.	Guru melaksanakan PdP yang berpusatkan murid. The teacher conducted a student-centered T&L S		
2.	Guru berinteraksi dengan: the teacher interacted by:		
	a. memberi arahan yang jelas. Giving clear instructions T		
	b. menggunakan laras bahasa yang mudah difahami oleh murid. Using words that are easy to understand T		
	c. mengawal perlakuan murid sepanjang aktiviti PdP. Control students' behaviour during the T&L T		
	d. memastikan penglibatan aktif murid dalam aktiviti PdP. Encourage students' participation in the T&L E		
	e. menghubungkan pembelajaran dengan penyelesaian masalah. Relate the class to problem solving. L		
	f. menggalakkan murid menyelesaikan masalah secara kolaboratif. Encourage students to collaboratively solve problems L		
	g. menggalakkan murid mengemukakan soalan. Encourage students to ask questions S		
	h. menggalakkan murid menjawab soalan yang dikemukakan rakan. Encourage students to answer questions asked by friends S		
	i. memberi maklum balas terhadap semua soalan yang dikemukakan murid. Respond to all questions asked by students E		
	j. menyelitkan unsur didik hibur. Insert fun-learning aspect L		
3.	Guru mengemukakan soalan/tugasan: The teacher gave task/questions Sila nyatakan soalan atau tugas atau keduanya. State whether it is question, task, or both		
	a. secara terbuka (<i>open-ended question</i>). L		
	b. yang merangsang inkuiri murid. That stimulates students' inquiries S		

Bil.	Item	Tandakan Ya = 1 Tidak = 2	Catatan (Nyatakan contoh/evidens yang berkaitan)
	c. yang menjurus kepada pemikiran kritis dan kreatif. That support critical and creative thinking L		
4.	Guru menerapkan amalan refleksi dalam kalangan murid dengan: The teacher introduced reflection activities among students by:		
	a. memperuntukkan masa yang mencukupi. Allocating ample times L		
	b. membimbing murid membuat refleksi. Guide students to reflect. S		
	c. memberi maklum balas kepada refleksi murid. Gave feedback to students' reflection E		
5.	Guru memotivasikan murid dengan: The teacher motivate students by:		
	a. menggalakkan mereka mengemukakan pandangan. Encourage them to convey their opinions S		
	b. terus mencuba sehingga berjaya menyelesaikan tugas. Keep trying until the task is succesfully done S		
	c. memberikan kata pujian. Give compliments S		
	d. sentiasa prihatin dengan keperluan mereka. Always be concern about students' needs. E		
6.	Guru melatih murid untuk belajar daripada kesilapan dengan: The teacher train students to learn from mistake by:		
	a. memberi peluang kepada murid membuat keputusan. Let students have the change to make their own decision E		
	b. menggalakkan murid untuk mencari alternatif kepada penyelesaian. Encourage students to find alternative solutions L		
	c. memperuntukkan masa kepada murid untuk berfikir. Give time for students to think by themselves L		
	d. memperuntukkan masa untuk murid mencuba semula. Give time for students to try again L		
7.	Guru memberikan peluang yang sama rata kepada setiap murid dengan:		

Bil.	Item	Tandakan Ya = 1 Tidak = 2	Catatan (Nyatakan contoh/evidens yang berkaitan)
	The teacher gave equal opportunity to each students by:		
	a. melaksanakan PdP terbeza conducting <i>differentiated learning</i> . E		
	b. bertindak sebagai fasilitator semasa aktiviti berkumpulan. Act as a facilitator during group activities E		
	c. memastikan murid berpeluang mengemukakan pendapat. Make sure students are given the chance to express their opinions E		
	d. mengingatkan murid menerima pandangan rakan. Remind students to accept other people's opinions E		
	e. menyerlahkan keupayaan setiap murid untuk memimpin. exhibit/display E		
8.	Persekitaran kelas yang dicerap berada dalam keadaan yang kondusif seperti yang berikut: The environment of the observed class were condusive as follows:		
	a. kelas berada dalam keadaan yang bersih The class is clean C		
	b. murid membuat penggiliran dalam jadual bertugas harian. The students made rotation for duty roster C		
	c. murid sentiasa memastikan tempat duduk masing-masing bersih. The students made sure their seats are clean C		
	d. matlamat kelas telah ditetapkan oleh murid dan dipaparkan. The classroom goal is decided by students and put up in the class C		
	e. hasil kerja semua murid ditampal dalam kelas all students' artwork are posted in the class C		
	f. suasana pembelajaran yang menyeronokkan. Fun study environment		

RUMUSAN PENCERAP

Dicerap oleh,

.....

Cap Rasmi

Tarikh:

KAJIAN PENILAIAN PERTENGAHAN TAHUN PROJEK
MEMPERKASAKAN AMALAN KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2023

PROTOKOL TEMU BUAL GURU
(PENYELARAS MAKMur DAN GURU KELAS)

Bahagian A: Senarai Semak Penyelidik

1. Maklumat Sekolah
 - a. Nama Sekolah :
 - b. Lokasi Sekolah:

2. Maklumat Peserta Kajian
 - a. Peserta 1 (Guru Penyelaras MAKMur)
Bilangan Tahun Mengajar:

 - b. Peserta 2 (Guru Kelas Tahun)
Bilangan Tahun Mengajar:

 - c. Peserta 3 (Guru Kelas Tahun)
Bilangan Tahun Mengajar:

Bahagian B: Protokol Temu Bual

1. Apakah kesan pelaksanaan MAKMur pada diri murid

What is the effects of MAKMur implementation on pupils?

2. Apakah perubahan terhadap PdP tuan/puan selepas melaksanakan aktiviti MAKMur?

What are the changes in your T&L after the implementation of MAKMur?

3. Apakah bentuk sokongan yang diterima oleh tuan/puan dalam melaksanakan aktiviti MAKMur?

What kind of supports have you received in implementing MAKMur?

4. Apakah cabaran yang dihadapi oleh tuan/puan sepanjang melaksanakan aktiviti MAKMur?

What kind of challenges have you faced during the implementation MAKMur activities?

5. Apakah cadangan penambahbaikan pelaksanaan aktiviti MAKMur?

What is your suggestion to improve the implementation MAKMur activities?

7

KAJIAN PENILAIAN PERTENGAHAN TAHUN PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN KEMENJADIAN MURID (MAKMur)

TAHUN 2023

PROTOKOL TEMU BUAL MURID

Bahagian A: Senarai Semak Penyelidik

1. Maklumat Sekolah
 - a. Nama Sekolah:
 - b. Lokasi Sekolah:

2. Maklumat Peserta Kajian
 - a. Peserta 1: Kelas
 - b. Peserta 2: Kelas
 - c. Peserta 3: Kelas

Bahagian B: Protokol dan Soalan Temu Bual

Syarat: Sesi temu bual perlu ditemani oleh seorang guru sekolah dan seorang pegawai Pejabat Pendidikan Daerah

Q-1. Adakah anda seronok datang ke sekolah?

Do you feel happy coming to school?

Q-2. Kenapa anda rasa seronok/ tidak seronok? (to the answer to Q1)

Why do you feel happy/not happy?

Q-3. Apa perubahan yang anda perasan telah berlaku melalui penglibatan dalam aktiviti yang telah dilaksanakan ?

What kind of changes have you noticed happened through your participations in activities that has been done in your school.

KAJIAN PENILAIAN PERTENGAHAN TAHUN PROJEK
MEMPERKASAKAN AMALAN KEMENJADIAN MURID (MAKMur)

TAHUN 2023

PROTOKOL TEMU BUAL IBU BAPA/PENJAGA

Bahagian A: Senarai Semak Penyelidik

1. Maklumat Sekolah
 - a. Nama Sekolah :
 - b. Lokasi Sekolah :

2. Maklumat Peserta Kajian
 - a. Kelas Anak/Anak Jagaan:
 - b. Hubungan dengan Anak/Anak Jagaan:

Bahagian B: Protokol Temu Bual

Syarat: Sesi temu bual perlu ditemani oleh seorang pegawai Pejabat Pendidikan Daerah

1. Adakah tuan/puan tahu tentang aktiviti MAKMur di sekolah anak/anak jagaan tuan/puan?

Do you know about the MAKMur activities in your child's school?

Jika Ya (soalan 1)

2. Bagaimana tuan/puan mengetahui tentang aktiviti MAKMur di sekolah anak/anak jagaan tuan/puan?

How did you know about the MAKMur activities in your child's school?

3. Adakah tuan/puan perasan sebarang perubahan dari segi kelakuan anak/anak jagaan tuan/puan selepas aktiviti MAKMur mula dilaksanakan di sekolah? (Jika tidak, terus ke soalan 7)

Have you noticed any changes in your child's behaviour after the MAKMur activities started to be implemented?

4. Nyatakan perubahan tersebut.

State the changes

7. Bagaimanakah cara dan bentuk sokongan tuan/puan kepada sekolah dalam pelaksanaan aktiviti MAKMur, jika ada?

How have you support the school in implementing MAKMur activities, if any?

Jika Tidak (soalan 1)

2. Bermula dari Ogos 2022 sehingga sekarang, adakah tuan/puan perasan sebarang perubahan dari segi kelakuan anak/anak jagaan tuan /puan? tidak, terus ke soalan 5)

3. Nyatakan perubahan tersebut.

State the changes.

4. Mengikut pandangan tuan/puan, mengapa perubahan tersebut berlaku?

In your opinion, why do you think such changes in your child occurred?

5. Bagaimanakah cara dan bentuk sokongan tuan/puan kepada sekolah dalam pelaksanaan aktiviti-aktiviti di sekolah, jika ada?

How have you support the school in implementing school activities, if any?

**BORANG KEBENARAN IBU BAPA/PENJAGA UNTUK
PENGLIBATAN ANAK/ANAK JAGAAN DALAM KAJIAN PENILAIAN
PERTENGAHAN TAHUN PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN
KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2023**

Tuan/Puan yang dihormati,

Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023 merupakan salah satu daripada aktiviti di bawah Projek MAKMur yang merupakan program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Pentadbiran kajian ini dilaksanakan oleh pasukan penyelidik daripada Asia SEED yang telah dilantik oleh JICA dengan kebenaran daripada KPM. Pasukan penyelidik ini juga bertanggungjawab mengendalikan maklumat peribadi responden yang diperolehi daripada kajian ini.

PERSETUJUAN IBU BAPA/PENJAGA

Adalah saya _____ *ibu/bapa/penjaga kepada
_____ dari Kelas _____
yang sedang belajar di _____

Dengan ini, saya *BERSETUJU/TIDAK BERSETUJU:

1. **membenarkan** anak/anak jagaan saya menjadi responden Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023; dan
2. **membenarkan** anak/anak jagaan saya menjawab soal selidik Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023.

Dengan ini, saya juga memahami bahawa:

1. segala maklumat peribadi yang diperolehi daripada Kajian Penilaian Pertengahan Tahun

Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023 adalah sulit dan hanya digunakan untuk tujuan kajian semata-mata. Maklumat tersebut juga tidak akan diberikan kepada pihak ketiga tanpa kebenaran bertulis daripada KPM;

2. pihak Asia SEED bertanggungjawab terhadap data/maklumat peribadi yang diperolehi melalui Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023 dan pihak Asia SEED mengambil langkah keselamatan yang sewajarnya untuk memastikan maklumat peribadi anak/ anak jagaan saya adalah dilindungi dan disimpan dengan selamat;
3. saya dan anak/anak di bawah jagaan saya boleh memohon secara rasmi kepada Asia SEED di e-mel makmur@asiaseed.org melalui KPM untuk mendapatkan penjelasan lanjut tentang tujuan penggunaan maklumat peribadi saya dan anak/anak di bawah jagaan saya. Saya juga boleh mengemukakan permohonan rasmi kepada Asia SEED di e-mel yang sama melalui KPM untuk menarik balik kebenaran penggunaan maklumat peribadi saya dan anak/anak di bawah jagaan saya.

Tarikh (hari/bulan/tahun): _____

Nama Penuh: _____

Tandatangan: _____

No. Kad Pengenalan: _____

10



**BORANG KEBENARAN IBU BAPA/PENJAGA UNTUK
PENGLIBATAN ANAK/ANAK JAGAAN DALAM TEMU BUAL KAJIAN
PENILAIAN PERTENGAHAN TAHUN PROJEK MEMPERKASAKAN AMALAN
KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2023**

Tuan/Puan yang dihormati,

Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023 merupakan salah satu daripada aktiviti di bawah Projek MAKMur yang merupakan program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Pentadbiran kajian ini dilaksanakan oleh pasukan penyelidik daripada Asia SEED yang telah dilantik oleh JICA dengan kebenaran daripada KPM. Pasukan penyelidik ini juga bertanggungjawab mengendalikan maklumat peribadi responden yang diperolehi daripada kajian ini.

PERSETUJUAN IBU BAPA/PENJAGA

Adalah saya _____ ***ibu/bapa/penjaga** kepada
_____ dari Kelas _____
yang sedang belajar di _____

Dengan ini, saya *BERSETUJU/TIDAK BERSETUJU:

1. **membenarkan** anak/anak jagaan saya menjadi responden Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023; dan
2. **membenarkan** anak/anak jagaan saya ditemu bual oleh pasukan penyelidik Asia SEED ditemani oleh seorang (1) guru sekolah dan seorang (1) pegawai Pejabat Pendidikan Daerah, berkenaan Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023; dan
3. **membenarkan** sesi temu bual anak/anak jagaan saya dirakam dalam bentuk audio.

Dengan ini, saya juga memahami bahawa:

1. segala maklumat peribadi yang diperolehi daripada Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023 adalah sulit dan hanya digunakan untuk tujuan kajian semata-mata. Maklumat tersebut juga tidak akan diberikan kepada pihak ketiga tanpa kebenaran bertulis daripada KPM;
2. pihak Asia SEED bertanggungjawab terhadap data/maklumat peribadi yang diperolehi melalui Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023 dan pihak Asia SEED mengambil langkah keselamatan yang sewajarnya untuk memastikan maklumat peribadi anak/ anak jagaan saya adalah dilindungi dan disimpan dengan selamat;
3. rakaman audio sesi temu bual tidak akan digunakan untuk sebarang tujuan lain selain daripada Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023;
4. saya dan anak/anak di bawah jagaan saya boleh memohon secara rasmi kepada Asia SEED di e-mel makmur@asiaseed.org melalui KPM untuk mendapatkan penjelasan lanjut tentang tujuan penggunaan maklumat peribadi saya dan anak/anak di bawah jagaan saya. Saya juga boleh mengemukakan permohonan rasmi kepada Asia SEED di e-mel yang sama melalui KPM untuk menarik balik kebenaran penggunaan maklumat peribadi saya dan anak/anak di bawah jagaan saya.

Tarikh (hari/bulan/tahun): _____

Nama Penuh: _____

Tandatangan: _____

No. Kad Pengenalan: _____

**BORANG PERSETUJUAN UNTUK
TEMU BUAL KAJIAN *MIDTERM SURVEY* PROJEK MEMPERKASAKAN
AMALAN KEMENJADIAN MURID (MAKMur)
TAHUN 2023**

Tuan/Puan yang dihormati,

Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023 merupakan salah satu daripada aktiviti di bawah Projek MAKMur yang merupakan program kerjasama di antara Kementerian Pendidikan Malaysia (KPM) dan *Japan International Cooperation Agency* (JICA). Pentadbiran kajian ini dilaksanakan oleh pasukan penyelidik daripada Asia SEED yang telah dilantik oleh JICA dengan kebenaran daripada KPM. Pasukan penyelidik ini juga bertanggungjawab mengendalikan maklumat peribadi responden yang diperolehi daripada kajian ini.

PERSETUJUAN IBU BAPA/PENJAGA

Adalah saya _____ ***ibu/bapa/penjaga** kepada
_____ dari Kelas _____
yang sedang belajar di _____

Dengan ini, saya *BERSETUJU/TIDAK BERSETUJU:

1. menjadi responden Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023; dan
2. ditemu bual oleh pasukan penyelidik Asia SEED berkenaan Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023; dan
3. **membenarkan** sesi temu bual saya dirakam dalam bentuk audio.

Dengan ini, saya juga memahami bahawa:

1. segala maklumat peribadi yang diperolehi daripada Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023 adalah sulit dan hanya digunakan untuk tujuan kajian semata-mata. Maklumat tersebut juga tidak akan diberikan kepada pihak ketiga tanpa kebenaran bertulis daripada KPM;
2. pihak Asia SEED bertanggungjawab terhadap data/maklumat peribadi yang diperolehi melalui Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023 dan pihak Asia SEED mengambil langkah keselamatan yang sewajarnya untuk memastikan maklumat peribadi saya adalah dilindungi dan disimpan dengan selamat;
3. rakaman audio sesi temu bual tidak akan digunakan untuk sebarang tujuan lain selain daripada Kajian Penilaian Pertengahan Tahun Projek Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid (MAKMur) Tahun 2023;
4. saya boleh memohon secara rasmi kepada Asia SEED di e-mel makmur@asiaseed.org melalui KPM untuk mendapatkan penjelasan lanjut tentang tujuan penggunaan maklumat peribadi saya. Saya juga boleh mengemukakan permohonan rasmi kepada Asia SEED di e-mel yang sama melalui KPM untuk menarik balik kebenaran penggunaan maklumat peribadi saya.

Tarikh (hari/bulan/tahun): _____

Nama Penuh: _____

Tandatangan: _____

No. Kad Pengenalan: _____

ANNEX 6

MAKMur Capacity Building Toolkit Prototype Version

MAKMurキャパシティビルディング・ツールキットプロトタイプ版

MAKMur
Capacity Building Tool Kit
Prototype Version

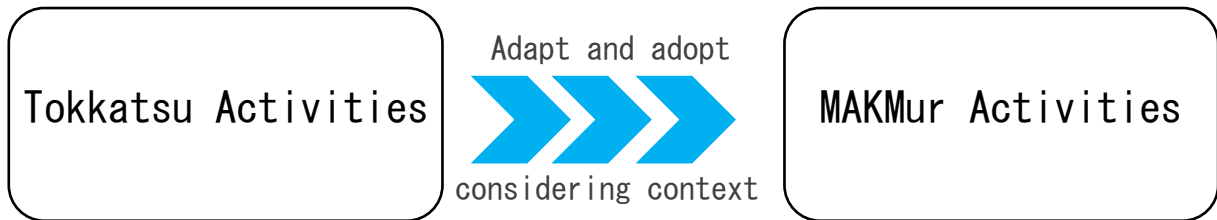
This toolkit is designed to assist teachers in their work of planning, implementation and reflection of activities to foster balanced individuals.

	Preschool	Primary School
STEP 1	Read 01 and jump in URL/QR Code to get familiarized with what MAKMur aims and why MAKMur is important.	
STEP 2	Work on 02 to plan and implement activities.	Work on 03 by referring to 04 to plan and implement activities.
STEP 3	Read and work on 05	

Contents

01	INTRODUCTION.....	1
02	PLANNING AND IMPLEMENTATION – PRESCHOOL.....	2
2.1.	Role of Pre-school to create a foundation for MAKMur.....	4
2.2.	Principle of MAKMur pre-school.....	5
2.3.	Steps for pre-school of MAKMur.....	5
03	PLANNING AND IMPLEMENTATION - PRIMARY SCHOOL.....	11
3.1.	Planning.....	11
3.1.1.	Identify existing challenges.....	12
3.1.2.	Set class goals and objectives.....	13
3.1.3.	Review goals and objectives.....	14
3.2.	Implementing MAKMur activities.....	15
3.2.1.	Choose activities.....	16
3.2.2.	Carry out activities.....	19
04	EXEMPLARS - PRIMARY SCHOOL.....	22
EXEMPLAR 1	Day duty.....	28
EXEMPLAR 2	Cleaning.....	31
EXEMPLAR 3	Time Management.....	34
EXEMPLAR 4	Class Meeting.....	40
EXEMPLAR 5	Helping the local farmers and growers.....	44
EXEMPLAR 6	Complimenting someone every day.....	47
EXEMPLAR 7	Showing appreciation & saying thank you.....	49
EXEMPLAR 8	My Yearly Goals.....	52
05	REFLECTIONS.....	56
5.1.	How to evaluate yearly outcomes.....	57

01 INTRODUCTION



MAKMur, *Memperkasakan Amalan Kemenjadian Murid* (MAKMur) or Fostering Students' Positive Values, is a process of enhancing the learning environment by providing opportunities for children to realize their potential and develop their characters towards becoming balanced individuals.

There may be many series of activities that lead the children to becoming balanced individuals. The purpose of this toolkit is to assist teachers in planning activities that suits each school/class.

This toolkit includes some exemplars taken from special activities conducted in Japanese schools called "*Tokkatsu*". It is important to adapt and adopt these exemplars depending on the context and existing practices in each respective school. Therefore, DO NOT copy directly from these Japanese Tokkatsu exemplars as they only serve as references when planning and implementing MAKMur Activities.

Access

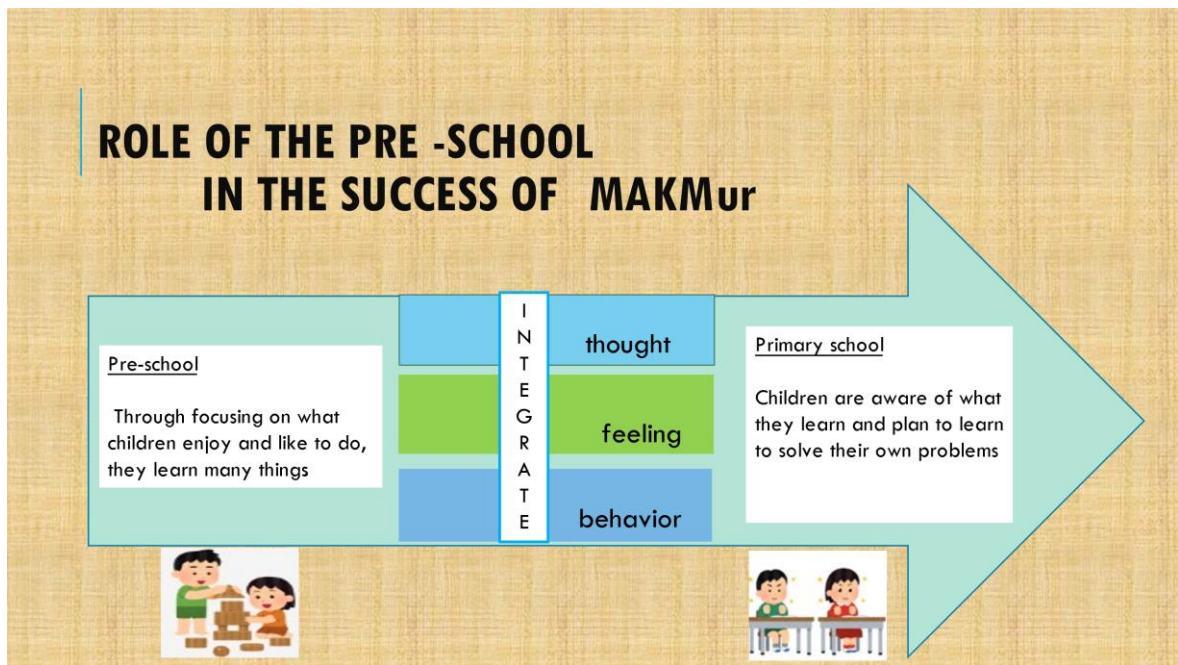
- VIDEO LINK to Tokkatsu:
<https://youtu.be/QwrcNy4tmbo>

You will get more information about background of MAKMur from the following link.

Access

BACKGROUND: URL and QR Code

02 PLANNING AND IMPLEMENTATION – PRESCHOOL



Three domains (thought, feeling and behaviour) are developed through play
Children develop non-cognitive skills such as concentration and perseverance by “playing for fun” where these skills provide them the ability to cope with a new learning environment. Whether this foundation can be established will have a significant impact on subsequent learning in primary school education and the integration of thought, feeling and behaviour through their life.

The difference between pre-school and primary school

It is challenging for small children to learn the new concept only by language. However, a play includes many elements related to cognitive skills such as language and notion of quantity, size of objects, etc., provides children with opportunities to think from various perspectives such as the concept of hygiene and the importance of cooperation. These things are called **learning through play**.

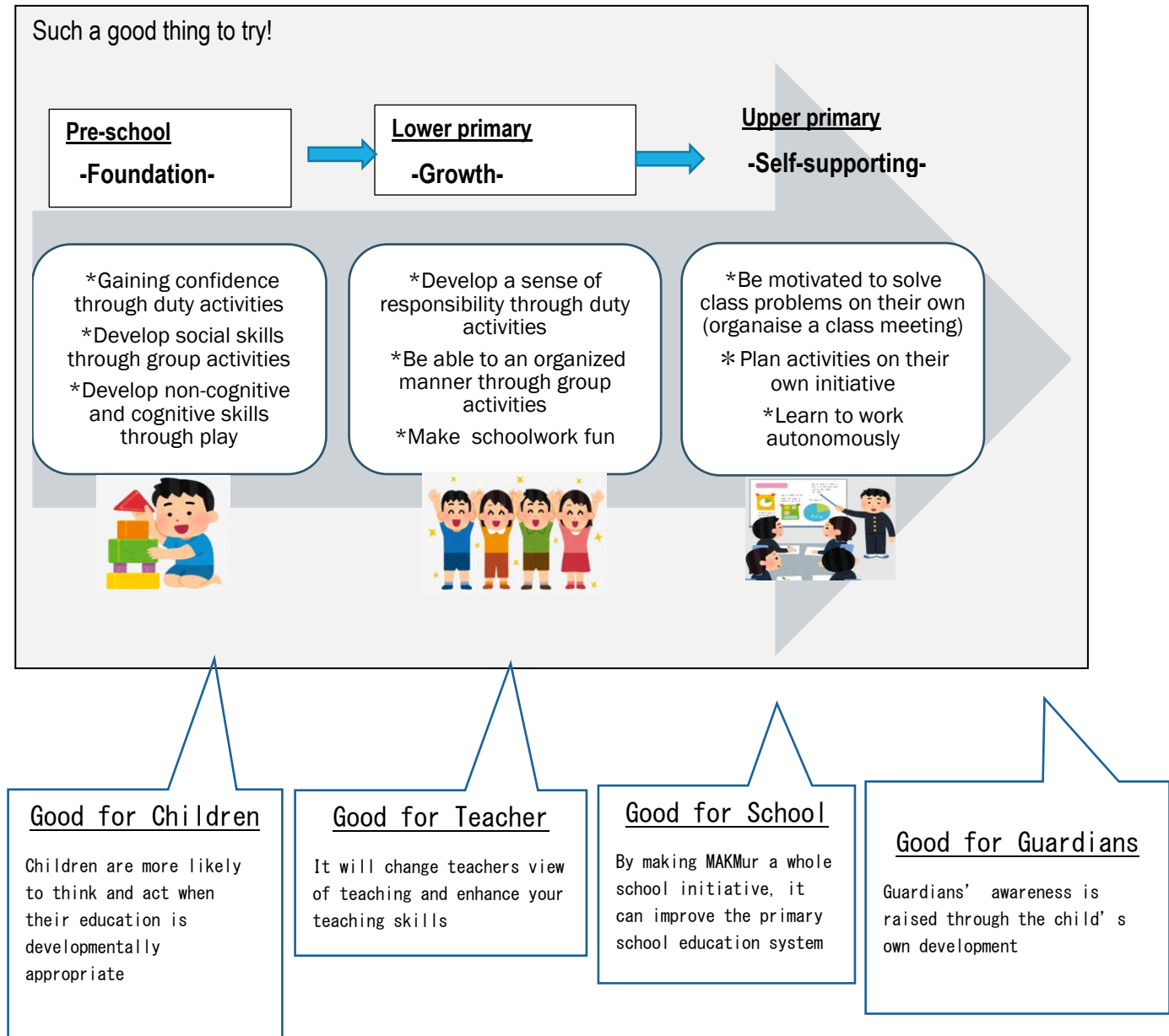
Access

VIDEO LINK to Introduction of Preschool Education
<https://youtu.be/kSZ4QxfQ8jI>



2.1. Role of Pre-school to create a foundation for MAKMur

MAKMur adds value to Malaysia Education system.



2.2. Principle of MAKMur pre-school

***Building good communication and trust with children**

***Guaranteed time and space for play**

The above two points should always be kept in mind by teachers as basic principles. When a child's first teacher is kind and compassionate, his or her emotional state becomes more stable and he or she becomes more interested in learning about the environment.

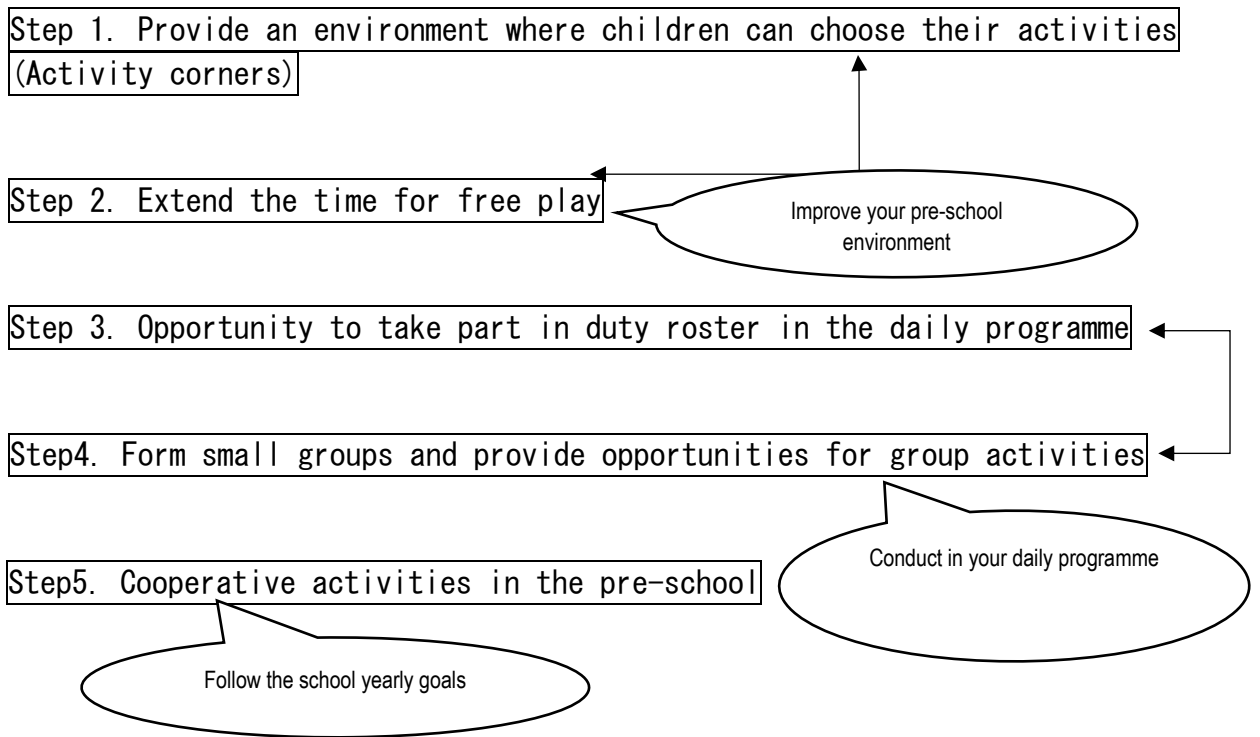
Based on a relationship of trust with children, the teacher should extend the time and space for free-play.

Early years children learn through play, so a variety of environments need to be created in the class room. In general, free-play lasts between one and one and a half hours, where children choosing their own play and activities. It is therefore necessary for the teacher to guarantee the space and time for free-play, linking it to the curriculum.

2.3. Steps for pre-school of MAKMur

Children in pre-school are characterised by learning through play, and pre-school is the first time for them to live in a group called pre-school life. Therefore, we have to take a different approach to primary school.

From the two points above, you can improve pre-school education through the following five steps.



Step1. Provide an environment

Work.1.1. Set up a corner system in the classroom (Draw a picture)

Activity Corner Example:

- Playing house: Through pretend play, language is enriched and role-play is developed, such as playing shop.
- Constructive play: Spatial awareness and imagination are developed by playing with blocks.
- Math corner: Mancala (Congkak) is a game played with the decomposition of the number 5 or 7, which naturally develops number concepts.
- Art corner: drawing pictures and making things out of scrap materials not only develops creativity but also logical thinking such as spatial

awareness and temporal order.

- Reading corner: Not only does the teacher read to the children, but the children also learn to read themselves through picture books.



Other environments:

Outdoor play is also important for children to improve their physical functioning. We also encourage children to grow their own flowers and vegetables.



Step2. Extend the time for free-play

Preschool education aims to develop the potential of children between the ages of four to six in a comprehensive and integrated manner with respect to their physical, emotional, spiritual, intellectual and social development in a safe and enriching learning environment through fun, creative and meaningful activities. Therefore, Free-play is very important in developing the above aims, but it has only 20 minutes of time and needs to be extended to include other subjects in curriculum. Children are more likely to concentrate when corner system is included in their free play time. This helps the development of non-cognitive and cognitive skills.

MASA HARI	7.55-8.15(20m)	8.15-8.35(20m)	8.35-9.05(30m)	9.05-9.35(30m)	9.35-10.05(30m)	10.05-10.35(30m)	10.35-11.05(30m)	11.05-11/45(40m)	11.45-11.55(10m)
ISININ	PA	MAIN B.	BM	AP	R E H A T	PI/PM	PI/PM	AP	PENUTUP
SELASA	PA	FIZIKAL	BI	AP		AP	AP	MATEMATiK AWAL	PENUTUP
RABU	PA	FIZIKAL	AP	AP		PI/PM	PI/PM	AP	PENUTUP
KHAMIS	PA	MAIN B.	BM	BI		AP	AP	AP	PENUTUP
JUMAAT	PA	MAIN B	AP	AP		AP	AP	AP	PENUTUP

PA: Morning assembly, MAIN B.: Free play, BM: Malay language, PI: Islamic education, PM: Moral education, Fizikal: Physical Activity,

BI: English language, MATEMATIK AWAL: Math, REHAT: Recess, PENUTUP: Closing assembly, AP: Learning Activity

Work 2.1 Where can you extend free play in the above timetable?



Example of Extending free play

- Integrate free play and other subject: Implementing corner system with two or three Bahasa, Maths and English etc.
- AP : Parallel implement of free play during AP time.

Step 3. Opportunity to take part in duty work in the daily programme

Children will take a leadership role in front of others and will want to help their teachers. Children take it in turns to be in charge of the daily routine activities. This starts with a greeting at the morning assembly, followed by tidying up, where only the person on duty takes a broom and cleans the room. To make sure that their classmates know that they are on duty that day, they wear badges or draw their own faces on them and put them out as a daily reminder. The children look forward to their turn and gain confidence through the activities they do.



Work 2.1 Where do you think children can do their duty in the above timetable?

Example of duty work in daily programme

- Perbualan Awal: Saying the morning greetings, Announce the date, day and weather for the day
- Aktiviti Pembelajaran: Passing out papers on behalf of the teacher
- Rehat: praying before meals

Step 4. Form small groups and have opportunities for group activities

Children at the age of five begin to enjoy playing together with their friends. For this reason, pre-schools provide opportunities for children to work with their friends in groups of about five. The teacher first divides the children into groups. Sometimes the children themselves decide on their group mates, but sometimes the teacher decides on the groups beforehand with an intention. The name of the group is decided in consultation with the children in the group. The advantage of small group activities is that they are able to discuss, define and implement their own roles. For example, small group activities can be a useful way of deciding on roles in drama and making props.



Work 3.1 Where do you think children can do small group activities in the above timetable?

Example of duty work small group activities

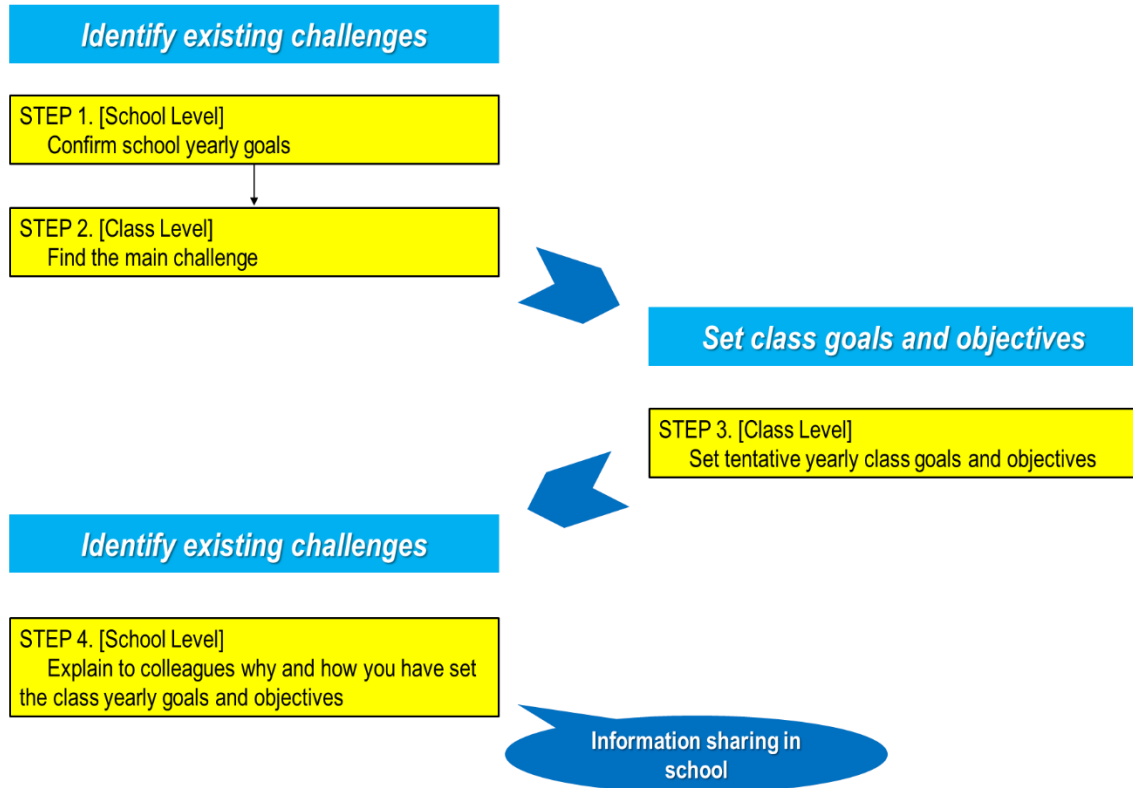
- PHYSICAL: Running against the group
- SCIENCE: Each group decides which vegetables to grow and grows them.

Step5. Cooperative activities in the pre-school

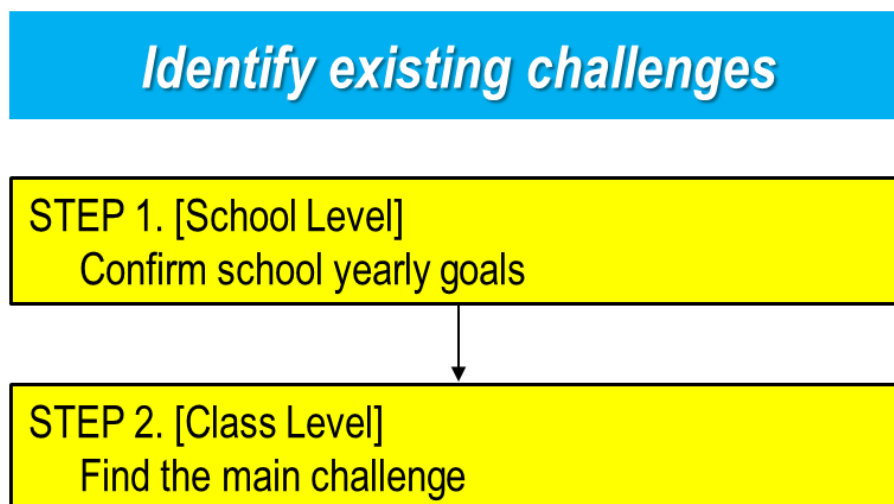
The activities should be organized according to the school yearly goals. Young children can do the same activities in a simple way. The opportunity to work with primary school children is also exciting for young children and they want to grow up quickly. And with the elder student as models, the children realise the need for discipline and try to emulate them.

03 PLANNING AND IMPLEMENTATION - PRIMARY SCHOOL

3.1. Planning



3.1.1. Identify existing challenges



STEP 1. [School Level] To confirm school yearly goals

Let's confirm school yearly goals prepared by the school management.

Work 1.

Write yearly goals of your school prepared by the school management.

School yearly goals:

Example A: "I can use what I have learnt in daily life."

Example B: "I can tell my own strong points and weak points."

Example C: "I can tell what I have learnt in the previous lesson."

Replace examples by typical" or "average" school goals in Malaysia.

STEP 2. [Class Level] To find the main challenge.

In Work 1, you have considered school yearly goals to stimulate the children to make their way to grow holistically, both cognitive and non-cognitive. What do you think the main problem of your class in current situation to reach these goals

Work 2 [Discussion]

Reflecting current situation of class, describe challenges that you think should be solved to reach the school yearly goals. And then **pick up the main challenge which you think difficult to solve only by existing learning/practices or can be improved through help of special activities**. Note that the main challenge should be concrete and supposed to be improved in a span of one year considering time restrictions and budget.

The main challenge in grade/class:

Example A: “There are some children who cannot control time in home.”
(problem on daily habits)

Example B: “There are some children too shy to express their feeling or opinions.” (problem on attitude or self-esteem.)

Example C: “There are some children weak at calculation of fractions.”
(problems on basic academic skills)

3.1.2. Set class goals and objectives

Set class goals and objectives

STEP 3. [Class Level]

Set tentative yearly class goals and objectives

STEP 3. [Class Level] To set a tentative yearly class goal.

The grade/class yearly goal should be positive words that express the situation that the central problem is solved.

Work 3 (for Teachers) [Discussion]

Describe tentative class the yearly goal.

The class yearly goal (tentative):

Example A: “Everyone can control time in home.”

Example B: “Everyone can express their feeling or opinions.”

Example C: “Everyone can make calculation of fractions.”

3.1.3. Review goals and objectives

Identify existing challenges

STEP 4. [School Level]

Explain to colleagues why and how you have set the class yearly goals and objectives

STEP 4. [School Level]

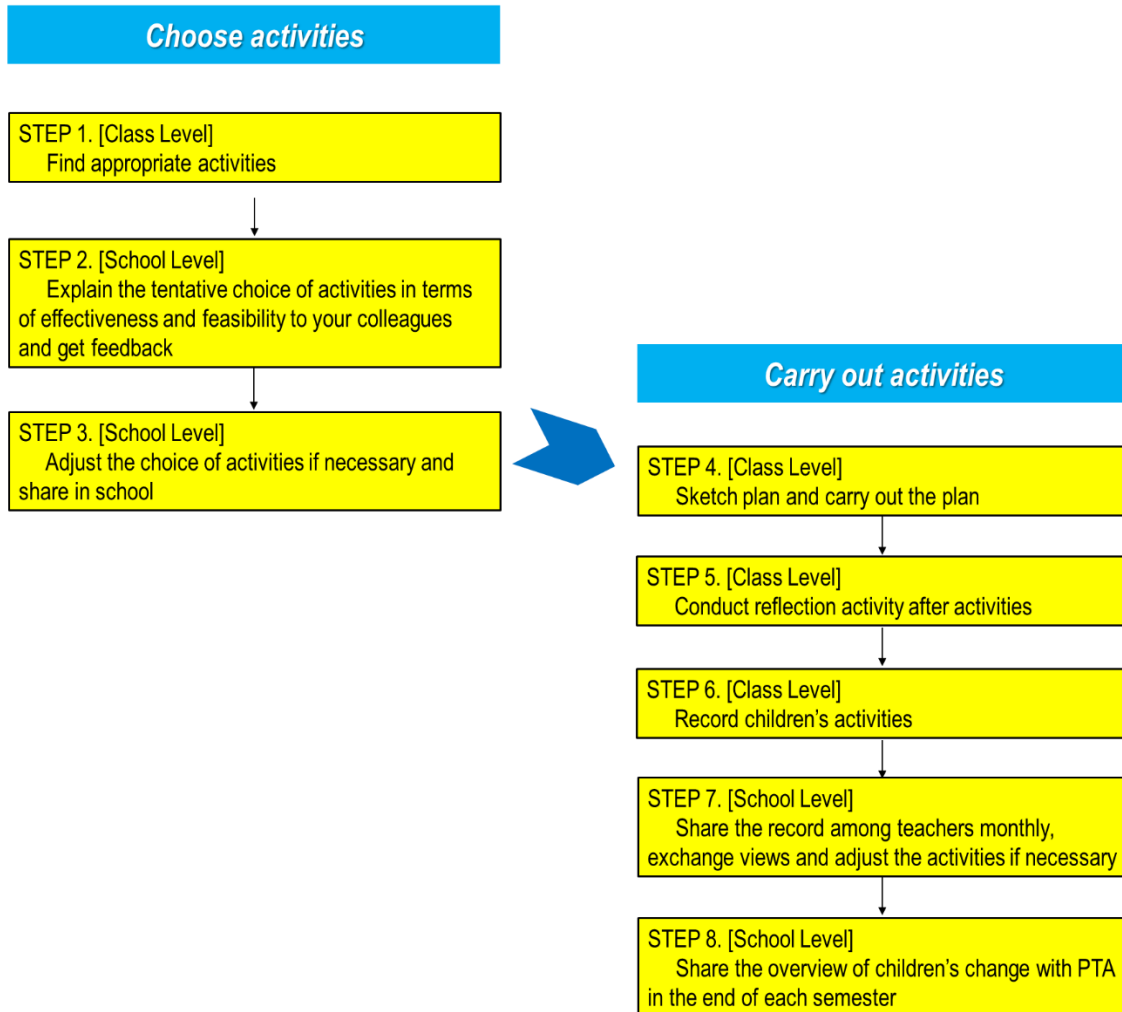
To explain in cooperation with MAKMur Coordinator to colleagues why and how you have set the class yearly goals and objectives.

Work 5 (for Teachers) [Short Presentation]

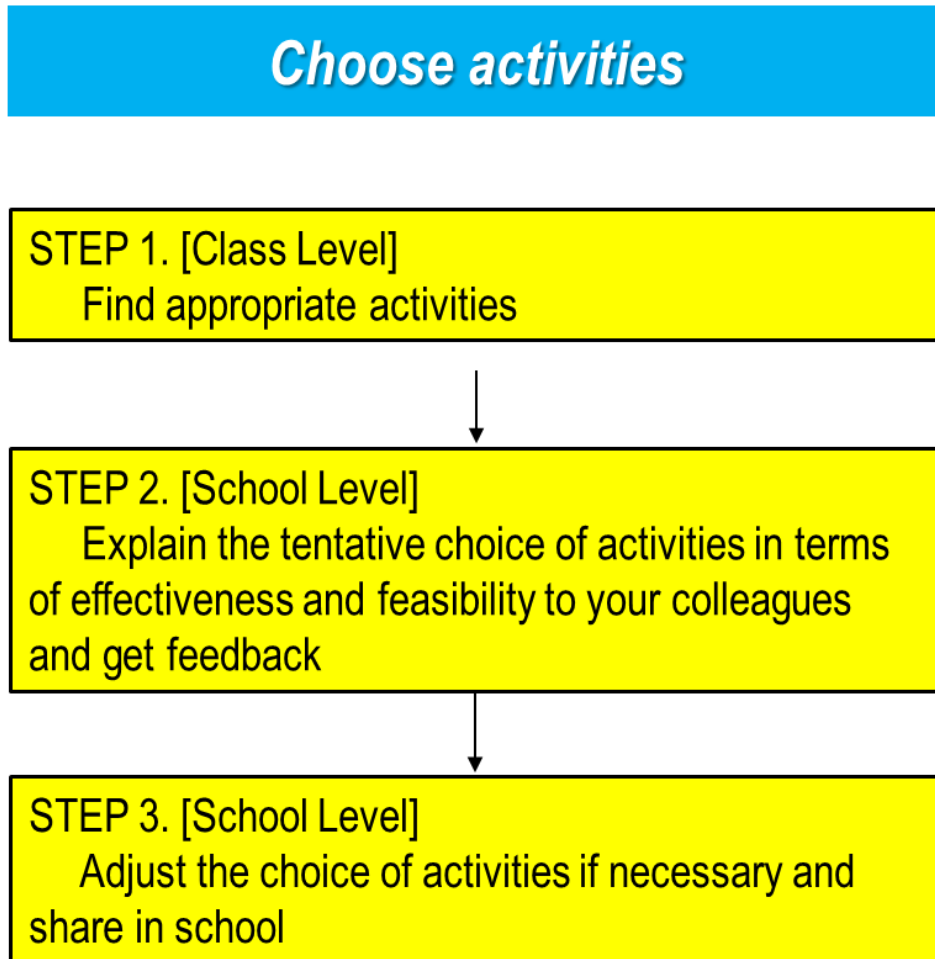
Make short presentation to colleagues.

3.2. Implementing MAKMur activities

Implementation should be handled in cooperation with MAKMur Coordinator.



3.2.1. Choose activities



STEP 1. [Class Level]

To find appropriate activities.

Work 2.1 (for Teachers)

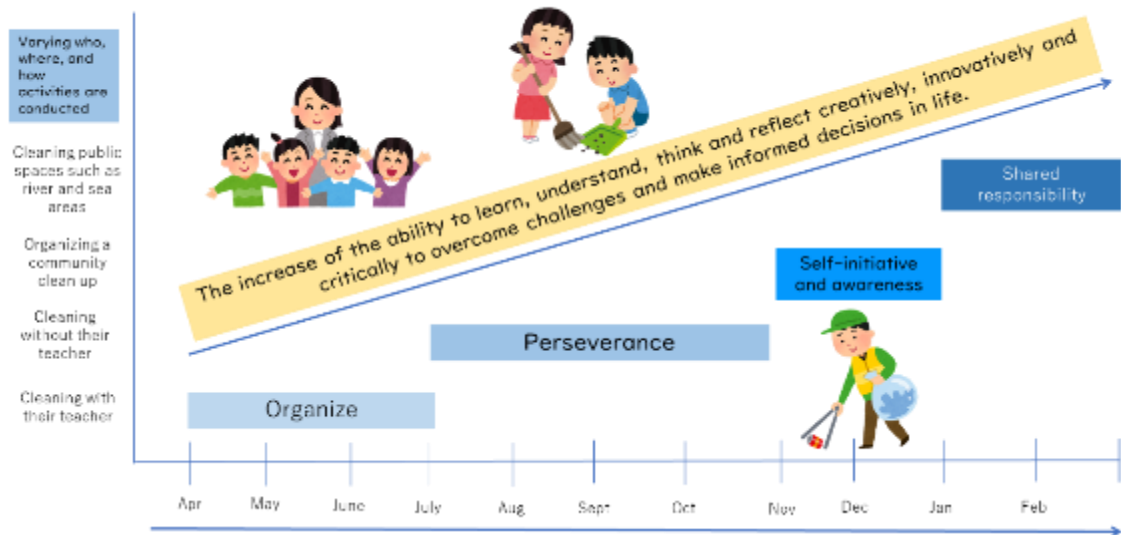
Consider which activity at school and home is appropriate referring 03 EXEMPLARS - PRIMARY SCHOOL taking into consideration of **restrictions of time and place** as well as **budget and other resources such as the number of teachers**.

Suitable activities:

HINT

For example, 'cleaning' can be varied in different ways to develop a variety of skills throughout the year. The image below shows how this could be planned. Thus, a variety of activities suitable to each school/class will be planned.

Example of cleaning activities



TIPS

for Preparing Class activities

To effectively plan, implement, and reflect on holistic learning activities, teachers can do the following:

- Set clear activity objectives.
- Plan and implement activities intentionally. (Always consider, "Why should we do this?")
- Consider the present qualities and abilities of the children and school environment.
- Design a variety of activities using different locations, materials, and methods to achieve set objectives.
- Propose activities with a long-term perspective.
- Take progressive approaches (small steps) to plan the activities.
- Consider activities that are feasible to implement.

STEP 2. [School Level]

To explain the tentative choice of activities in terms of effectiveness and feasibility to your colleagues and get feedback.

Work 2.3 (for Teachers) [Short Presentation]

Make short presentation of the tentative yearly plan including facilities/environment, budget, the number of teachers/PTA members necessary for activities/events, relations to school schedule, etc.

STEP 3. [School Level]

To adjust the choice of activities if necessary and share in school.

3.2.2. Carry out activities

MAKMur Coordinators are expected to facilitate activities.

Carry out activities

STEP 4. [Class Level]
Sketch plan and carry out the plan

STEP 5. [Class Level]
Conduct reflection activity after activities

STEP 6. [Class Level]
Record children's activities

STEP 7. [School Level]
Share the record among teachers monthly,
exchange views and adjust the activities if necessary

STEP 8. [School Level]
Share the overview of children's change with PTA
in the end of each semester

STEP 4. [Class Level]

To sketch plan and carry out the plan.

Sketch plan and include the plan into your usual lesson plan. Then carry out the plan.

STEP 5. [Class Level]

To conduct reflection activity after activities.

Conduct reflection activity after activities so that each child can notice meaning of the activities and improve their abilities/skills more., for example, using.

TIPS

“Reflection Card” on which each child writes their reflection, will be useful to gather information from the children in your

Sample of Reflection Card

Let's manage time at home!						
						Date: 27 Jun 2022
Grade: Class: Name:						
1. My previous objectives.						
<i>Time for game: within 30 minutes weekdays, 1 hour weekends.</i>						
2. Let's look back previous week. (Well-done! ☉ OK ○ No △)						
20 Jun	21 Jun	22 Jun	23 Jun	24 Jun	25 Jun	26 Jun
☉	☉	○	○	○	△	△
<i>I played congkak with my sister instead of game. It's fun.</i>						
3. What I learnt through today's class meeting.						
<i>Too much time for game is bad for sleeping health.</i>						
4. My new objectives.						
<i>Previous objective + To not play game 1 hour before sleeping.</i>						
5. From teacher						
(Teacher's comment)						

STEP 6. [Class Level]

To record children' s activities.

Memo on Reflection Cards

Use this Reflection Card when carrying out MAKMur activities to record your students' activities, positive outcomes and challenges as well as behavioural changes in your students. As these Reflection Cards allow the students to better understand how they are working or learning or playing and reflect upon their work, effort and learning, these Reflection Cards should be returned to students.

*During MAKMur project period, PDF/Photos of the cards of sample students (10% of students) are expected to be shared and uploaded to MAKMur Official Face Book Page.

Video record

Video record will be helpful when you share the activities with your colleagues.

*During MAKMur project period, videos of students enjoying MAKMur activities are expected to be shared and uploaded to MAKMur Official Face Book Page.

STEP 7. [School Level]

To share the record among teachers monthly, exchange views and adjust the activities if necessary.

STEP 8. [School Level]

To share the overview of children's change with PTA in the end of each semester.

EXEMPLARS - PRIMARY SCHOOL

In order to rear these abilities/skills, the series of activities should be conducted by student initiative gradually, and so your careful leading will be needed at the starting time and your continuous observation and guidance are always important.

Among these exemplars, **Class Meeting** is expected to be placed central but challenging. It is an activity for children themselves to find problems, to propose solutions or/and ideas, to discuss for better solutions and to practice the solutions. So, **Class Meeting** is suitable for Upper Primary and can be implemented after students get familiar with enjoying type of activities through student initiative.

Day Duty and Cleaning, which can be implemented for all grade without a big hurdle, are **recommendable** for you to implemented first.

GUIDE TO EXEMPLARS

Items included

① **Title of the activity**

Title is not fixed. Feel free to rename the activity whatever suitable for your case.

② **Context of the implementation of the activity**

There are four types of context to implement the MAKMur' s activities: class; school; home; and community. The activities can be implemented in one of the four types or in a combination of some of them.

③ **Overview of the activity**

Backgrounds, purposes, contents of the activity are briefly described.

④ **Main abilities/skills to be enhanced**

Abilities/skills expected to be enhanced by implementation of activities are selected from MAKMur' s 14 target abilities/skills.

Ability/Skill	Ability/Skill
A. Facilitation	B. Sense of self-esteem and self-worth
C. Tolerance and generosity	D. Flexibility
E. Cooperation	F. Communication
G. Proactive and challenging	H. Planning
I. Critical thinking	J. Creativity
K. Leadership	L. Participation
M. Reasoning	N. Motivation

⑤ **Methods of implementation in online or hybrid manner**

⑥ Time planning

Expected timing, duration and time allocation to implement the activity are explained.

⑦ Equipment needed

Tools and materials needed to implement the activity are listed.

⑧ Steps

Steps to implement the activity are explained.

⑨ Tips

Useful and important information to plan and implement the activity is given.

⑩ Advanced activities

Advanced ways of the activity are introduced. Please consider the current conditions of students, environment, etc., whether they are ready enough or not, before implementing the activity in the advanced ways.

⑪ Others

Points to note or visual materials are illustrated here.



OVERVIEW OF ACTIVITIES																	
<p>DAY DUTY is an activity which is assigned to ALL students. The major objectives of this activity are as follows.</p> <ul style="list-style-type: none"> To provide all students an opportunity to lead class members To have all students understand the importance of fulfilling a role in a group To provide all students an opportunity to contribute to operating classroom life smoothly To provide all students an opportunity to work cooperatively with peers 																	
<p>4 → MAIN ABILITIES/SKILLS TO BE ENHANCED</p> <table border="1"> <tr> <td>Facilitation</td> <td>Sense of self-esteem and self-worth</td> <td>Tolerance and generosity</td> </tr> <tr> <td>Flexibility</td> <td>Cooperation</td> <td>Communication</td> </tr> <tr> <td>Proactive and challenging</td> <td>Planning</td> <td>Critical thinking</td> </tr> <tr> <td>Creativity</td> <td>Leadership</td> <td>Participation</td> </tr> <tr> <td>Reasoning</td> <td>Motivation</td> <td></td> </tr> </table>			Facilitation	Sense of self-esteem and self-worth	Tolerance and generosity	Flexibility	Cooperation	Communication	Proactive and challenging	Planning	Critical thinking	Creativity	Leadership	Participation	Reasoning	Motivation	
Facilitation	Sense of self-esteem and self-worth	Tolerance and generosity															
Flexibility	Cooperation	Communication															
Proactive and challenging	Planning	Critical thinking															
Creativity	Leadership	Participation															
Reasoning	Motivation																
<p>5 → METHODS OF IMPLEMENTATION IN ONLINE OR HYBRID MANNER</p> <p>[Online] Arrange duties suitable for online.</p> <p>[Hybrid] Assign students who attend real classroom to DAY DUTY.</p>																	
<p>6 → TIME PLANNING</p> <p>Time planning of DAY DUTY depends on types of duties.</p>																	
<p>7 → EQUIPMENT NEEDED</p> <ul style="list-style-type: none"> Day Duty schedule Poster, check sheet, logbook 																	
<p>8 → STEPS</p> <p>[Step 1] Decide on duties and rules of Day Duty.</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><u>Examples of Duties</u></p> <ul style="list-style-type: none"> Morning greetings and greetings before going home Facilitation in assembly Assisting teachers in class Turning on and off the classroom lights </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><u>Examples of Rules</u></p> <ul style="list-style-type: none"> Students must work on every duty responsibly Every day, two students are assigned to Day Duty in turn </div>		<p>9 → TIPS</p> <p>A Tip for Step 1, (1) Can decide on duties in class meeting with students depending on their stage of development in order to have them responsibility.</p> <p>A Tip for Step 1, (2) The types of duties and total workload should be depending on the stage of capacity of students so that they can complete their duties.</p>															

[Step 2] Have students on duty on the day work on the duties, and check their work.

[Step 3] Recognise and thank the work of the students on duty on the day and confirm who will be on duty next time.

A Tip for Step 1, (3)

Assign multiple students a day to have them cooperate each other.

A Tip for Step 2, (1)

Take a measure to inform students what they must do as Day Duty (e.g., poster, check sheet, logbook).

A Tip for Step 2, (2)

Make sure that students do complete their duties by using poster, check sheet, logbook, etc.

A Tip for Step 3

Setting a time for Day Duty handover ceremony is an idea. Asking the students (especially, upper graders) on duty on the day to comment on the activities allow them to reflect on their work and to recognise what they have achieved. Then, class members can recognise and thank the work of the students with applause. In this way, the students on duty can feel self-esteem and self-worth. Also, the students on duty next time can increase the awareness of their work by appointment. Expected timing is at the end of the day before going home.

10



ADVANCED ACTIVITIES

None






OTHERS: Images of poster, check sheet and logbook

11

Poster


DAY DUTY






What to do on your duty day

-  **Morning greetings**
-  **Facilitation at assembly**
-  **Assisting teachers in class**
-  **Turning on/off the classroom lights**
-  **Greetings before going home**

Check Sheet

DAY DUTY Check Sheet

 Tick boxes after you work

-  **Morning greetings**
-  **Facilitation at assembly**
-  **Assisting teachers in class**
-  **Turning on/off the classroom lights**
-  **Greetings before going home**

Logbook


Date: *Tuesday, 12 April, 2022*
 Name: *AbcDefg, HijkLmn*
 Absentee: *OpqrStuv*






Today's Timetable

Period	Subject	Teacher	Contact
1	Mathematics	A	...
2	Malay	B
3	Arts	C
4	English	D
5	Religion/Moral Education	E
6	Sciences	F	...

Remarks:

DAY DUTY Checklist

 Tick boxes you worked on

-  **Morning greetings**
-  **Facilitation at assembly**
-  **Assisting teachers in class**
-  **Turning on/off the classroom lights**
-  **Greetings before going home**

Comments:

Comments from teacher:

Day Duty

OVERVIEW OF ACTIVITIES		
<p>DAY DUTY is an activity which is assigned to ALL students. The major objectives of this activity are as follows.</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ To provide all students an opportunity to lead class members ○ To have all students understand the importance of fulfilling a role in a group ○ To provide all students an opportunity to contribute to operating classroom life smoothly ○ To provide all students an opportunity to work cooperatively with peers 		
MAIN ABILITIES/SKILLS TO BE ENHANCED		
Facilitation	Sense of self-esteem and self-worth	Tolerance and generosity
Flexibility	Cooperation	Communication
Proactive and challenging	Planning	Critical thinking
Creativity	Leadership	Participation
Reasoning	Motivation	
METHODS OF IMPLEMENTATION IN ONLINE OR HYBRID MANNER		
<p>[Online] Arrange duties suitable for online.</p>		
<p>[Hybrid] Assign students who attend real classroom to DAY DUTY.</p>		
TIME PLANNING		
<p>Time planning of DAY DUTY depends on types of duties.</p>		
EQUIPMENT NEEDED		
<ul style="list-style-type: none"> • Day Duty schedule • Poster, check sheet, logbook 		
STEPS		TIPS
<p>[Step 1] Decide on duties and rules of Day Duty.</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><u>Examples of Duties</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Morning greetings and greetings before going home ▪ Facilitation in assembly ▪ Assisting teachers in class ▪ Turning on and off the classroom lights </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><u>Examples of Rules</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Students must work on every duty responsibly ▪ Every day, two students are assigned to Day Duty in turn </div>		<p>A Tip for Step 1, (1)</p> <p>Can decide on duties in class meeting with students depending on their stage of development in order to have them responsibility.</p> <p>A Tip for Step 1, (2)</p> <p>The types of duties and total workload should be depending on the stage of capacity of students so that they</p>






<p>[Step 2] Have students on duty on the day work on the duties, and check their work.</p> <p>[Step 3] Recognise and thank the work of the students on duty on the day and confirm who will be on duty next time.</p>	<p>can complete their duties.</p> <p>A Tip for Step 1, (3) Assign multiple students a day to have them cooperate each other.</p> <p>A Tip for Step 2, (1) Take a measure to inform students what they must do as Day Duty (e.g., poster, check sheet, logbook).</p> <p>A Tip for Step 2, (2) Make sure that students do complete their duties by using poster, check sheet, logbook, etc.</p> <p>A Tip for Step 3 Setting a time for Day Duty handover ceremony is an idea. Asking the students (especially, upper graders) on duty on the day to comment on the activities allow them to reflect on their work and to recognise what they have achieved. Then, class members can recognise and thank the work of the students with applause. In this way, the students on duty can feel self-esteem and self-worth. Also, the students on duty next time can increase the awareness of their work by appointment. Expected timing is at the end of the day before going home.</p>
<p>ADVANCED ACTIVITIES</p>	
<p>None</p>	

OTHERS: Images of poster, check sheet and logbook

Poster


DAY DUTY






What to do on your duty day

-  **Morning greetings**
-  **Facilitation at assembly**
-  **Assisting teachers in class**
-  **Turning on/off the classroom lights**
-  **Greetings before going home**

Check Sheet

DAY DUTY Check Sheet

 Tick boxes after you work

-  **Morning greetings**
-  **Facilitation at assembly**
-  **Assisting teachers in class**
-  **Turning on/off the classroom lights**
-  **Greetings before going home**

Logbook


Date: *Tuesday, 12 April, 2022*
 Name: *AbcDefg, HijkLmn*
 Absentee: *Opqr Stuv*






Today's Timetable

Period	Subject	Teacher	Contact
1	Mathematics	A	...
2	Malay	B
3	Arts	C
4	English	D
5	Religion/Moral Education	E
6	Sciences	F	...

Remarks:

DAY DUTY Checklist

 Tick boxes you worked on

-  **Morning greetings**
-  **Facilitation at assembly**
-  **Assisting teachers in class**
-  **Turning on/off the classroom lights**
-  **Greetings before going home**

Comments:

Comments from teacher:

EXEMPLAR 2 Cleaning

CLASS	HOME
SCHOOL	COMMUNITY

CLEANING

OVERVIEW OF ACTIVITIES		
<p>The existing practices on cleaning in schools involve limited areas i.e. the classrooms. Each class have their own duty roster for classroom cleaning and cleaning of the other school common areas like the assembly areas, toilets and school canteen are normally done by school supporting staff. Occasionally schools (under PTA) will organize <i>'gotong royong'</i> program which involve teachers, parents and students to do cleaning activities of school areas together in half a day event (school event).</p> <p>Thus, there are not enough opportunities for more students to take the leading roles and initiate the cleaning activities in the current practices.</p> <p>Major objectives:</p> <ul style="list-style-type: none"> ·Each student is excited and happy to do the classroom cleaning together (shared responsibility) ·Classrooms are clean and neat so it is ready for the next day / the next class ·The cleanliness of the school becomes shared responsibility of each student, teacher and community. ·Students ensure their schools are always clean and neat. 		
MAIN ABILITIES/SKILLS TO BE ENHANCED		
Facilitation	Sense of self-esteem and self-worth	Tolerance and generosity
Flexibility	Cooperation	Communication
Proactive and challenging	Planning	Critical thinking
Creativity	Leadership	Participation
Reasoning	Motivation	
METHODS OF IMPLEMENTATION IN ONLINE OR HYBRID MANNER		

[Online]	
[Hybrid]	
TIME PLANNING	
EQUIPMENT NEEDED	
Cleaning tools, List of grouping of students	
PROCEDURE	TIPS
<p>[Step 1]</p> <ul style="list-style-type: none"> • School may allocate specific time (around 20 minutes) for classroom cleaning activity sessions to teach and demonstrate the way to do the cleaning may be conducted so that students learn the efficient way to do the cleaning process. • School/Class prepare appropriate equipment and tools to conduct the cleaning and also storage for keeping the equipment. <p>[Step 2]</p> <ul style="list-style-type: none"> • Students conduct classroom meeting to decide following items (guided by teacher) <ul style="list-style-type: none"> ➤ Decide five–six areas in classroom where should be cleaned ➤ Divide the class members into five–six groups ➤ Assign the clearing are for each group 	<p>Tips for Step 2</p> <p>If possible, let upper primary students to divide the class members into five–six groups by themselves.</p>
<p>*Rotate the cleaning area every week</p>	

<p>[Step 3]</p> <ul style="list-style-type: none"> • Each group clean their designated place in classroom for one period (i.e. a week or a month). • Change their area in turn <p>[Step 4]</p> <ul style="list-style-type: none"> • Class teacher and students do their own reflections to improve their cleaning exercise • Teachers are to emphasize on the competencies and skills developed from the cleaning exercise 	<p>Tips for Step 4</p> <p>After the reflections, students can share the advices on cleaning designated area.</p>
<p>ADVANCED ACTIVITIES</p>	
<p>Common area cleaning</p> <ul style="list-style-type: none"> • Each common area in the school are to be assigned to class(es) as caretakers • Each class take turns as caretakers for each common area (weekly or monthly) • Cleaning of the common areas may be conducted regularly as school events • School prefects may take the role to monitor the process 	

OTHERS

[NOTE]

- Suggested time to clean the classroom is at the end of the school period with close monitoring by class teacher
- It is necessary to consider whether cleaning by groups can be conducted depending on the status of COVID-19.

Time Management

OVERVIEW OF ACTIVITIES		
<p><i>Time Management</i> is an activity which can be allocated to ALL children at primary school. Activities for time management will vary to level of children: for lower primary level, activities would be just a planning; for upper primary level, activities include setting of objectives that are thought to be achievable in a fixed period of time. The major objectives of this activity are as follows.</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ To provide all children with an opportunity to consider how to plan and prioritise their time ○ To provide all children with an opportunity to reflect if they can manage their time as planned ○ To provide all children at upper primary level with an opportunity to consider objectives that can be achieved in a fixed period of time 		
MAIN ABILITIES/SKILLS TO BE ENHANCED		
Facilitation	Sense of self-esteem and self-worth	Tolerance and generosity
Flexibility	Cooperation	Communication
Proactive and challenging	Planning	Critical thinking
Creativity	Leadership	Participation
Reasoning	Motivation	
METHODS OF IMPLEMENTATION IN HOMEWORK OR HYBRID MANNER / HOMEWORK		
[Homework] Follow-up by guardians needed.		
TIME PLANNING		
School holidays		
EQUIPMENT NEEDED		
Schedule, Diary: for lower primary		
Schedule, Diary, SMART Goal: for upper primary		
PROCEDURE FOR LOWER PRIMARY		TIPS

<p>[Step 1] A child discusses plan of days in school holidays with guardians.</p> <p>[Step 2] Make plan of days in school holidays with guardians.</p> <p>[Step 3] Reflect each day and write down shortly.</p> <ul style="list-style-type: none"> - date, day of the week, the weather - what you played, studied, where you have been to, who you met etc. - what did you feel? Excited, fun, etc. - if you achieve plan, put 😊 	<p>Tips for Step 1 For guardians: Please talk with your child about time of get-up, go-to-bed, study, meals.</p> <p>Tips for Step 2 For guardians: Please check if the plan is reasonable.</p> <p>Tips for Step 3 For guardians: Praise will encourage your child. Please praise your child if plan is achieved each day!</p>
<p>PROCEDURE FOR UPPER PRIMARY</p>	<p>TIPS</p>
<p>[Step 1] A child discusses plan of periods of school holidays with guardians.</p> <p>[Step 2] Make SMART Goal. SMART: Specific, Measurable, Achievable, Realistic, and Time-bound</p> <p>[Step 3] Reflect each day and write down shortly.</p> <ul style="list-style-type: none"> - date, day of the week, the weather - what you played, studied, where you have been to, who you met etc. 	<p>Tips for Step 1 For guardians: Please talk with your child what he/she wants to achieve during school holidays as well as time of get-up, go-to-bed, study, meals.</p> <p>Tips for Step 2 For guardians: Please check if SMART Goal is reasonable.</p> <p>Tips for Step 3 For guardians:</p>

<ul style="list-style-type: none"> - what did you feel? Excited, fun, etc. - if you achieve plan, put 😊 <p>[Step 4] Reflect in the end of school holidays.</p> <ul style="list-style-type: none"> - What is achieved? What is not achieved? 	<p>Praise will encourage your child. Please praise your child if plan is achieved each day!</p> <p>Tips for Step 3 For guardians: Please praise your child if goal is achieved!</p>
<p>ADVANCED ACTIVITIES</p>	
<p>None</p>	

OTHERS: Samples of Day Plan, Diary, SMART Goal

Day Plan

Let' s plan! How will you spend your time during school holidays?

AM

6:00

7:00

8:00

9:00

10:00

11:00

PM

12:00

1:00

2:00

3:00

4:00

5:00

6:00

7:00

8:00

9:00

10:00

Diary

Date	Day of Week	Weather	Plan	Reflection	Check!
1 Aug	Mon	Cloudy	Science homework, pp. 3	Difficult but done!	😊
2 Aug	Tue	Sunny	Visit uncle 's house	Played with cousins. Excited!	😊
3 Aug	Wed	Cloudy	Write essay	Wrote what I did at uncle' s house. It' s fun.	😊
4 Aug	Thu	Cloudy	Math homework, pp 4-5	Tried but couldn' t answer ex. 3, 5 and 8. I will	😐
5 Aug	Fri	Sunny	Drawing	Sketched my younger sister very well!	😊
6 Aug	Sat	Cloudy • Rainy	Math homework, pp 6-7	Couldn' t finish it. I will adjust the time for homework, as well as time for activities tomorrow.	😞
7 Aug	Sun	Cloudy	Bird-watching	Found hummingbirds. Beautiful!	😊

SMART (Specific, Measurable, Attainable, Realistic, Time) Goal

What do you want make it better? Study, Homework, Sports, Drawing, Writing essay, etc.?

Specific & Time-bound Let' s write down what you want to achieve, and what you must to do to achieve it during school holidays.

--

Achievable What do you think you can do to achieve it?

--

Measurable What do you have to do in each week to complete it?

Week 1
Week 2
Week 3
Week 4

Measurable What do you have to do each day to complete it?

--

Realistic Do you think you can do it?

--

SMART Goal Let' s consider above and write down your goal!

--

CLASS

CLASS MEETING

OVERVIEW OF ACTIVITIES

CLASS MEETING is an activity for children themselves to find problems related to yearly grade/class goals and objectives, to propose solutions or/and ideas, to discuss for better solutions and to practice the solutions. For example, “Too much time for game” is a problem to the goal “Everyone can control time in home.” Children are expected to discuss how to solve the problem. Through CLASS MEETING, children can develop **all abilities/skills A~N** and so this activity forms basis for all activities.
 (Image of activities)

The most important is student initiative

Problem Finding	Discussion and Confirmation	Practice	Reflection
-----------------	-----------------------------	----------	------------

New Challenge

MAIN ABILITIES/SKILLS TO BE ENHANCED

Facilitation	Sense of self-esteem and self-worth	Tolerance and generosity
Flexibility	Cooperation	Communication
Proactive and challenging	Planning	Critical thinking

Creativity	Leadership	Participation
Reasoning	Motivation	
METHODS OF IMPLEMENTATION IN ONLINE OR HYBRID MANNER		
[Online]		
[Hybrid]		
TIME PLANNING		
EQUIPMENT NEEDED		
[Face-to-face] Black board/White board, Chalk/Marker, Notebook to record		
[Online] Devices (PC/Smartphone/Tablet), Notebook to record		
PROCEDURE		TIPS
<p>[Step 1] The moderators will make plan for class meeting under supervision of teacher, notify to classmates on the topic and facilitate the meeting. The note-takers will record the discussion. It is preferable to make suitable rotation of the moderators and note-takers so that every student can act the roles at least once a year.</p> <p>[Step 2] By right, students themselves are to find the problems to be solved and set meeting topic. Initially it will be better for teacher to suggest topic of class meeting to the moderators.</p>		<p>Tips for Step 1 For lower primary classes, teacher could be the moderator at first then students will take over the role of moderator after a few times.</p>
<p>Tips for how to find the problems When the children come to be familiar with class meeting, 'CLASS POST' is a convenient tool to find problems. CLASS POST is like a mailbox with a key into which each child can post what they think a problem to be discussed during next class meeting.</p>		

<p>[Step 3] The moderators will make plan of class meeting under teacher advices. The following is a sample (show in below).</p> <p>[Step 4] This step is the same as STEP 2 of 3. Implement yearly plan.</p>	
ADVANCED ACTIVITIES	

OTHERS

[Sample of Class Meeting Plan]

The Fifth Class Meeting

Topic	Planning of Malaysian Sweets Potluck Party	
Why this topic chosen?	Introduce traditional Malaysian sweets to each other and plan a potluck party to enjoy.	
Time and Place	Date and Time: 11 May, 2:00~2:40PM, Place: Room 111	
Facilitators	(name)	(name)
Note taker	(name)	
Purpose of discussion	To plan the schedule of the party and to-do of each student	

Facilitators' objective	To confirm all classmates the schedule and necessary preparation for the party day.
-------------------------	---

Plan	Remark	
Greeting	To explain clearly.	
Introduction of facilitators and note taker		
Explain why this topic chosen.		
Confirm purpose of discussion		
Discussion		
1. What is the Malaysian sweets potluck party and how, when the party will be held (10 min) -Plan the Malaysian Sweets potluck party to introduce the traditional food and mingle each other -Divide into some group and decide who will bring wich Malaysian sweets		
2. Divide the class into some group (5 min)		
3. Discuss who will bring which Malaysian sweets in each group (10 min)		
4. Confirm the necessary preparation for the party day (5 min) -Schedule -Which Malaysian sweet to bring -Make sure to bring receipt/history of the sweet by interviewing the guardians or shopkeepers		To conclude clearly and confirm the schedule and necessary preparation for the party day.
Teacher' s comment		

EXEMPLAR 5 Helping the local farmers and growers

Helping the local farmers and growers

OVERVIEW OF ACTIVITIES		
<p>Students who come from farming families may have the opportunity to come into contact with agricultural products by helping farmers with their work. On the other hand, students who are not farmers or who do not have a farm or garden may not know much about agricultural products.</p> <p>By helping farmers and learning how the fruits and vegetables they eat every day are grown and harvested, they can learn how hard farm work is and have an opportunity to appreciate farmers and their produce. In addition to this, helping farmers with their work provides a good opportunity to communicate with people outside of their families and schools. Throughout the activities, they can learn the skills of Cooperation, Communication and Proactive and challenge.</p>		
MAIN ABILITIES/SKILLS TO BE ENHANCED		
Facilitation	Sense of self-esteem and self-worth	Tolerance and generosity
Flexibility	Cooperation	Communication
Proactive and challenging	Planning	Critical thinking
Creativity	Leadership	Participation
Reasoning	Motivation	
METHODS OF IMPLEMENTATION IN ONLINE OR HYBRID MANNER		
[Online]		
[Hybrid]		
TIME PLANNING		

EQUIPMENT NEEDED	
Suitable cloth for farming, glove for farming, reflection memo	
PROCEDURE	TIPS
<p>[Step 1] To choose one farmer from neighbourhood and ask to let them help Students ask the farmers from neighbourhood and ask to let them help. Once students are accepted to help farmers, consult the visiting schedule and main tasks as follows. Duration: (eg. From March to June) Timing: (eg. Twice in a month) Time: (eg. One hour/visit) Main tasks during duration: (eg. From planting seeds to harvesting of corn)</p> <p>[Step 2] To help farmers Students support farmers periodically as consulted above. After each visit, write a reflection memo show in below.</p> <p>[Step 3] To make presentation after all the visits After all the visits, students conclude the reflection memo and make a presentation of the experience.</p>	<p>Tips for Step 2 It is better to take some photos of their activities and crops. The photos can be used for the activity record.</p>
ADVANCED ACTIVITIES	

OTHERS

Reflection memo

Date and Time	11/ June/ 2022, 15:00–16:00
Topic	Plant seeds of corn
Farmer' s name	Ms. XXXXX
Place	YYYYY district Pasir-Mas
Today' s task	
What I learnt today	
What I will do next time	

***Complimenting someone every day
or write a thank you card for
someone in one day***

OVERVIEW OF ACTIVITIES		
<p>Expressing gratitude to the people close to ourselves such as family members or/and friends face-to-face may seem easy, but it is actually harder than it seems. In this activity, students will write "Thank You Card" in order to develop a sense of gratitude and consideration for their friends. By expressing gratitude indirectly through the cards, they will feel less embarrassed and will be able to say "thank you" more easily. By conveying the habit of expressing gratitude, various abilities such as Tolerance & Generosity, Communication, Sense of self-esteem and self-worth can be developed.</p>		
MAIN ABILITIES/SKILLS TO BE ENHANCED		
Facilitation	Sense of self-esteem and self-worth	Tolerance and generosity
Flexibility	Cooperation	Communication
Proactive and challenging	Planning	Critical thinking
Creativity	Leadership	Participation
Reasoning	Motivation	
METHODS OF IMPLEMENTATION IN ONLINE OR HYBRID MANNER		
[Online]		
Thank you card		
[Hybrid]		
Thank you card, imitation Post box (or, a box that others cannot see inside), small medal (or small gift)		
TIME PLANNING		

EQUIPMENT NEEDED	
PROCEDURE	TIPS
<p>[Step 1] To prepare Thank you card (blank), imitation Post box, small medal (or small gift) Teacher and representative students prepare above items. Set post box in the classroom.</p> <p>[Step 2] To write Thank you card and post it in the post box Write Thank you card about what made you happy or what you want to say thank you for, and post it. Writing gratitude on a card and putting it in the post box reduces the embarrassment of expressing thank you in person directly.</p> <p>[Step 3] To collect Thank you card Teacher or representative students collect Thank you card from Post Box.</p> <p>[Step 4] To introduce some cards in front of classmates Teacher or representative students introduce some cards after collecting cards from Post Box.</p> <p>[Step 5] To give small medal (or small gift) for those who posted Thank you card Teacher or representative students give small medal (or little gift) for those who posted Thank you card as a proof that he/she was able to show the gratitude to others.</p>	
ADVANCED ACTIVITIES	

*If all students agree, it is possible to display these Thank you cards on the classroom wall so that other students or guardians also see the activity.

*As an advanced activity, set up Post Box at schools so that students of all grades can write "Thank you card" to any student in the school.

THANK YOU CARD

Date	1/ Aug/ 2022
From	Grade, Class, Name
To	Grade, Class, Name
Thank you for	Thank you for showing me your textbook when I forgot it.

EXEMPLAR 7 Showing appreciation & saying thank you

CLASS

COMMUNITY

Showing appreciation & saying thank you to local community members and businesses especially during COVID-19 etc

OVERVIEW OF ACTIVITIES		
<p>Writing letter or making video message of thanks to the people who work or volunteer for community, especially strive to protect the community against Covid-19, for example, healthcare professionals, police officers, city hall officers, public transportation workers, supermarket workers, etc. In this activity, students will discuss to whom they will express their thanks and write a letter or make video message through group work.</p>		
MAIN ABILITIES/SKILLS TO BE ENHANCED		
Facilitation	Sense of self-esteem and self-worth	Tolerance and generosity
Flexibility	Cooperation	Communication
Proactive and challenging	Planning	Critical thinking
Creativity	Leadership	Participation
Reasoning	Motivation	
METHODS OF IMPLEMENTATION IN ONLINE OR HYBRID MANNER		
<p>[Online] Paper, pencil</p>		
<p>[Hybrid] Thick paper and paints (for letter), smart phone or tablet (for video)</p>		
TIME PLANNING		
EQUIPMENT NEEDED		
PROCEDURE	TIPS	
<p>[Step 1] To form group and discuss to whom they will express their thanks Teacher form groups of children (the number of children in each group: 3 or 4) and let them have a short discussion about to whom they will</p>	<p>Tips for Step 1 For example, students could express their thanks for;</p>	

<p>express their thanks. Teacher tell them when the letter or video message should be completed.</p> <p>[Step 2] To discuss contents and design Children consider what contents and design are suitable to the people through group discussion.</p> <p>[Step 3] To make contents Each student makes a message.</p> <p>[Step 4] To compile messages Children compile the messages of each member of their group and make a draft of letter or script of video message.</p> <p>[Step 5] To write letter or make video message of thanks Children write letter or make video message of thanks.</p> <p>[Step 6] To take photo of the letter or photo copy of the script, and then send the letter or video to the people</p> <p>[Step 7] To share the photo or the script among classmates</p>	<p>Staff of medical institutes like Doctor and Nurse Driver of public transportation Shopkeeper of grocery stores etc</p>
<p>ADVANCED ACTIVITIES</p>	
<p></p>	

CLASS
HOME

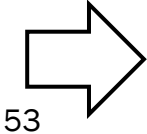
My Yearly Goals

OVERVIEW OF ACTIVITIES		
<p>This “Yearly Goal Card Sheet” is designed for students to write down their yearly goals of each situation at the year- start and furikaeri (reflection) them at the year-end. The purpose of the sheet is for students to record and feel their own growth, and for their teachers and guardians to comment on and follow students’ growth.</p>		
MAIN ABILITIES/SKILLS TO BE ENHANCED		
Facilitation	Sense of self-esteem and self-worth	Tolerance and generosity
Flexibility	Cooperation	Communication
Proactive and challenging	Planning	Critical thinking
Creativity	Leadership	Participation
Reasoning	Motivation	
METHODS OF IMPLEMENTATION IN ONLINE OR HYBRID MANNER		
[Online]		
[Hybrid]		
TIME PLANNING		
<p>The first month of the grade: Write “Year-start” part The last month of the grade: Write “Year-end” part</p>		
EQUIPMENT NEEDED		
<ul style="list-style-type: none"> Yearly Goal Sheet (format sample is shown in next page) A file to keep the sheet in 		
PROCEDURE		TIPS
Year-start		Tips for Step 1, (1) For lower primary students, it is

<p>[Step 1] Decide on yearly goals of each situation and write down on the sheet in the first month of the grade.</p> <p>[Step 2] Submit the sheet to the classroom teacher and the teacher comments on the sheet of year-start part.</p> <p>[Step 3] Submit the sheet to their guardian and the guardian comments on the sheet of year-start part.</p> <p>Year-end</p> <p>[Step 4] Make reflection (furikaeri) of the yearly goals of each situation and write own comments on the sheet in the last month of the grade.</p> <p>[Step 2] Submit the sheet to the classroom teacher and the teacher comments on the sheet of year-end part.</p> <p>[Step 3] Submit the sheet to their guardian and the guardian comments on the sheet of year-end part.</p>	<p>better to show some options of goals beforehand</p> <p>Tips for Step 1, (2)</p> <p>Tips for Step 2 Teacher will give the sheet back with a file to keep the sheet in</p>
<p>ADVANCED ACTIVITIES</p>	

My Yearly Goals Sheet

Class:
Name:



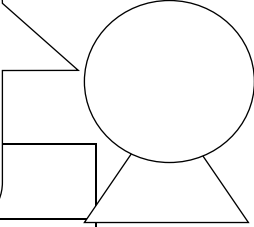
Year-start My Yearly Goals of each situation		Year-end Furikaeri (Reflection)		
Study	Study Goal	Achievement Level		
		Very well 😊	Sometime can 😐	Not so much 😞
	What will I do to achieve the goal?	My Furikaeri comments		
School Life	School Life Goal	Achievement Level		
		Very well 😊	Sometime can 😐	Not so much 😞
	What will I do to achieve the goal?	My Furikaeri comments		
Life at Home	Life at Home Goal	Achievement Level		
		Very well 😊	Sometime can 😐	Not so much 😞
	What will I do to achieve the goal?	My Furikaeri comments		

[Year-end]

What I enjoyed throughout the year

Message for next grade

Teacher		
Guardian		



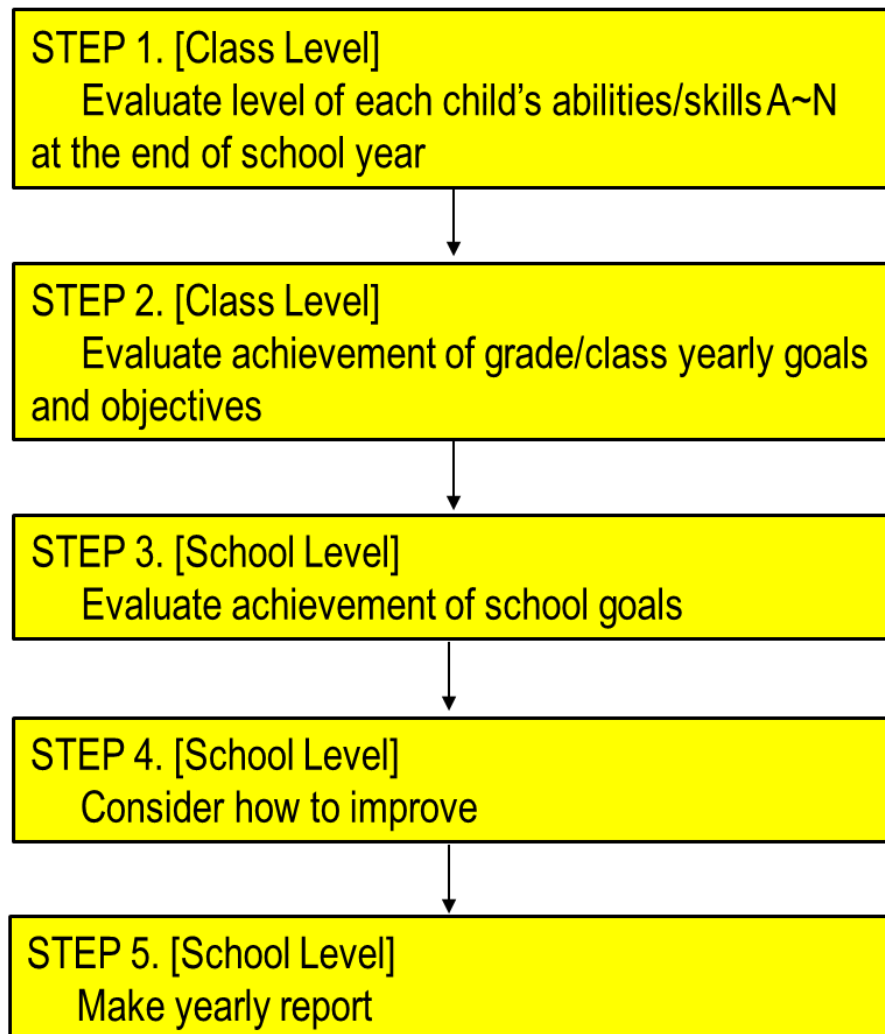
05 REFLECTIONS

Purposes:

- (1) To evaluate children's engagement and achievement in the various activities and to improve the toolkit.
- (2) To test the effectiveness of the activities by examining and comparing changes of children's cognitive and non-cognitive abilities.
- (3) To investigate relations between children's cognitive/non-cognitive abilities and their parents' attachment/attitude towards the children, which is useful to create material for awareness-building and promotional activities.

5.1. How to evaluate yearly outcomes.

Reflection



STEP 1. [Class Level]

To evaluate level of each child' s abilities/skills A~N at the end of school year.

STEP 2. [Class Level]

To evaluate achievement of grade/class yearly goals and objectives.

STEP 3. [School Level]

To evaluate achievement of school goals. [School Leaders]

STEP 4. [School Level]

To consider how to improve.

STEP 5. [School Level]

To make yearly report.

For next year' s improvement and planning.